
<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 高齢者の保健福祉について

(1) 介護保険のあり方について

問1 介護サービスを利用する人が増えたり、1人当たりのサービス利用額が増えたりすると、各市町において、3年ごとに定める介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえた上で、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

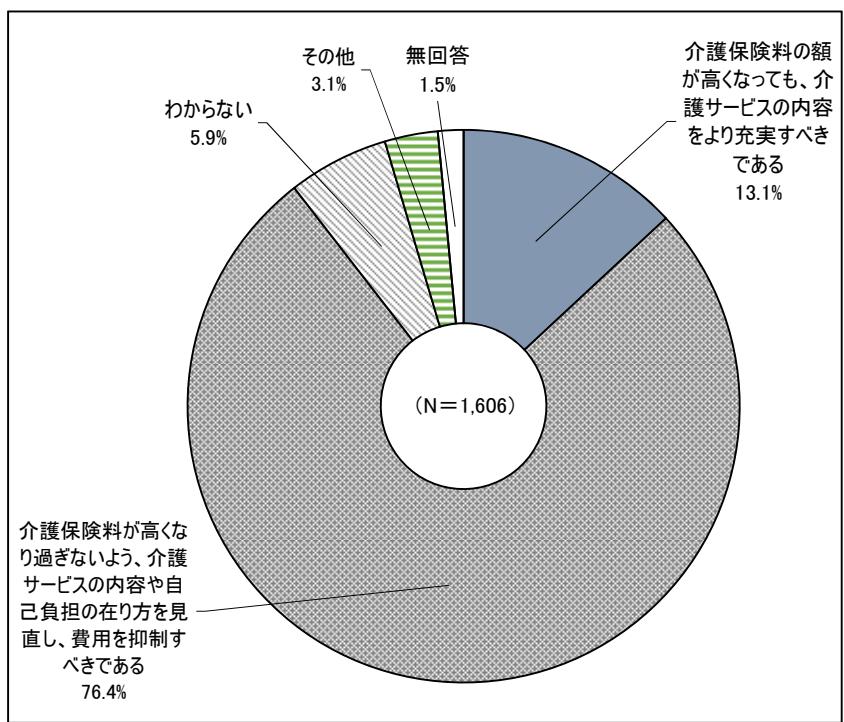
【回答者数=1,606】

1 介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである	13.1%(13.7%)
2 介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである	76.4%(75.0%)
3 わからない	5.9%(6.5%)
4 その他（具体的に：_____） （無回答）	3.1%(3.3%) 1.5%(1.4%)

介護保険のあり方について、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」76.4%が最も高く、次いで「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.1%、「わからない」5.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」75.0%が最も高く、次いで「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.7%、「わからない」6.5%などとなっている。

図表 1-(1)-1 介護保険のあり方について



介護保険のあり方について、性別にみると、男女とも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が最も高く、『男性』76.0%、『女性』77.0%で、これに男女とも「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が『男性』14.7%、『女性』12.0%と続いている。

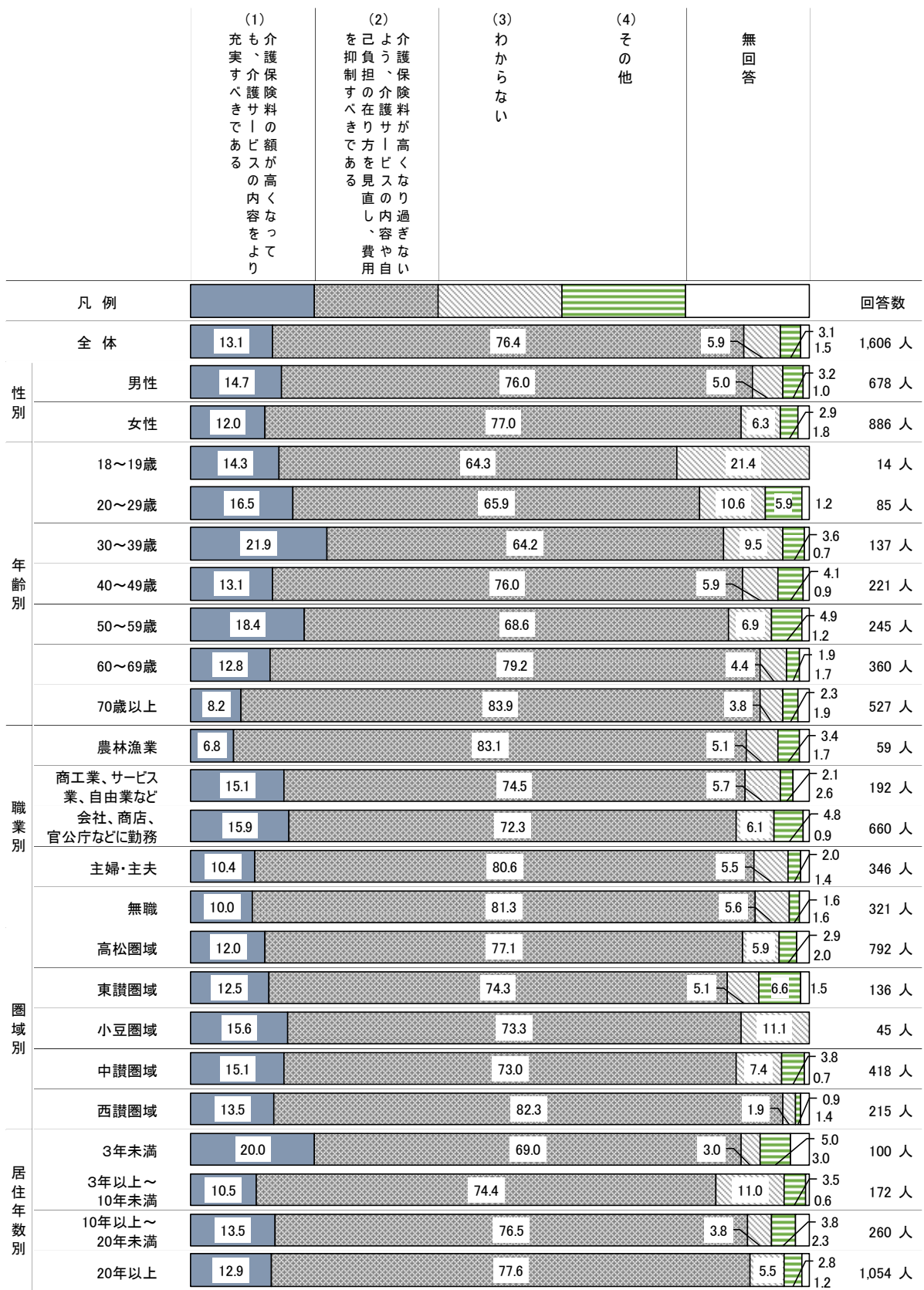
年齢別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～8割台と最も高く、『70歳以上』では83.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7～8割台と最も高く、『農林漁業』では83.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7～8割台と最も高く、『西讃圏域』では82.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～7割台と最も高く、『20年以上』では77.6%と最も高くなっている。

図表 1-(1)-2 介護保険のあり方について



グラフ単位：(%)

(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について

問2 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

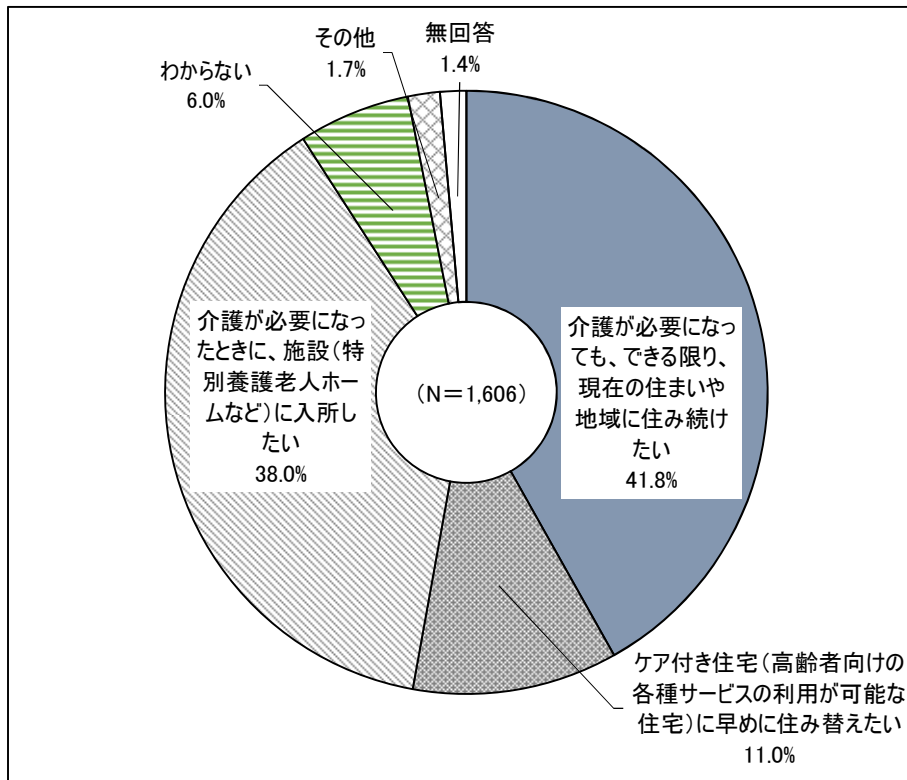
【回答者数=1,606】

1 介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい	41.8%(40.9%)
2 ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい	11.0%(12.1%)
3 介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	38.0%(37.4%)
4 わからない	6.0%(6.7%)
5 その他（具体的に：_____） （無回答）	1.7%(1.6%) 1.4%(1.3%)

将来の住まいと介護サービスの利用について、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」41.8%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」38.0%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」11.0%、「わからない」6.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」40.9%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」37.4%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」12.1%、「わからない」6.7%となっている。

図表 1-(2)-1 将来の住まいと介護サービスの利用について



将来の住まいと介護サービスの利用について、性別にみると、『男性』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」47.8%が最も高く、『女性』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」39.8%が最も高くなっている。これに『男性』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」36.1%、『女性』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」37.0%と続いている。

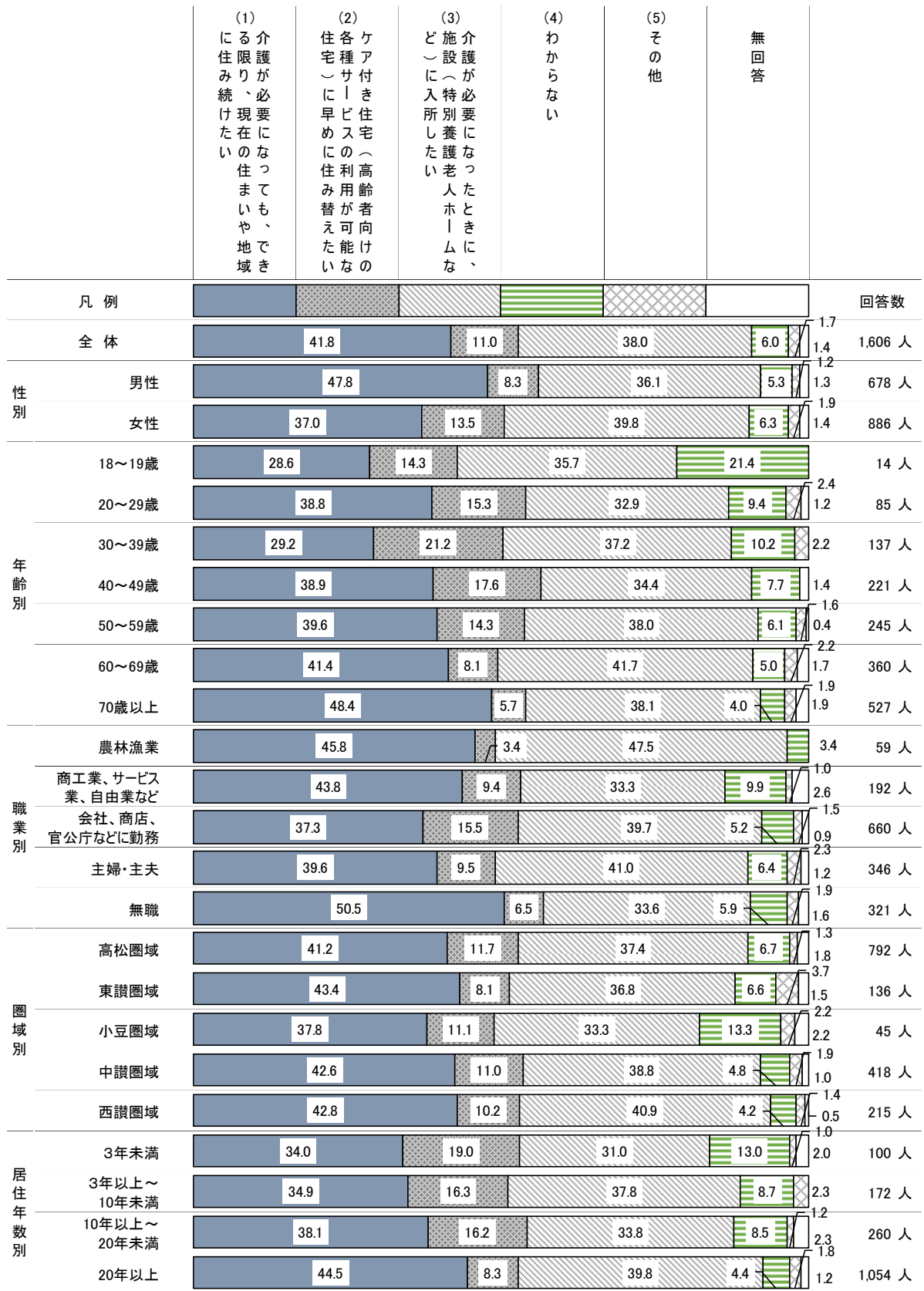
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』、『60～69歳』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が最も高く、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高く、『東讃圏域』では43.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」37.8%が最も高くなっている。

図表 1-(2)-2 【将来の住まいと介護サービスの利用について】



グラフ単位：(%)

(3)施設入所を希望される理由について

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

付問1 施設入所を希望される理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

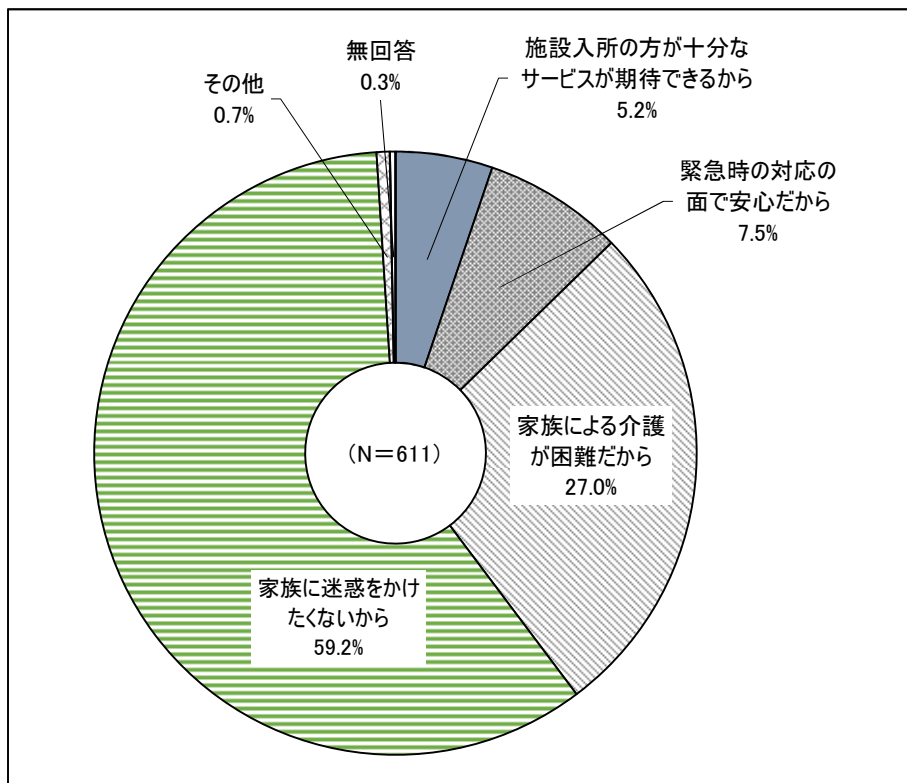
【回答者数=611】

1 施設入所の方が十分なサービスが期待できるから	5.2%(5.1%)
2 緊急時の対応の面で安心だから	7.5%(7.9%)
3 家族による介護が困難だから	27.0%(25.4%)
4 家族に迷惑をかけたくないから	59.2%(60.7%)
5 その他（具体的に：_____） （無回答）	0.7%(0.6%) 0.3%(0.3%)

施設入所を希望される理由について、「家族に迷惑をかけたくないから」59.2%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」27.0%、「緊急時の対応の面で安心だから」7.5%、「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」5.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家族に迷惑をかけたくないから」60.7%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」25.4%、「緊急時の対応の面で安心だから」7.9%、「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」5.1%などとなっている。

図表 1-(3)-1 施設入所を希望される理由について



施設入所を希望される理由について、性別にみると、男女とも「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高く、『男性』53.1%、『女性』62.9%で、これに男女とも「家族による介護が困難だから」が『男性』31.0%、『女性』24.9%と続いている。

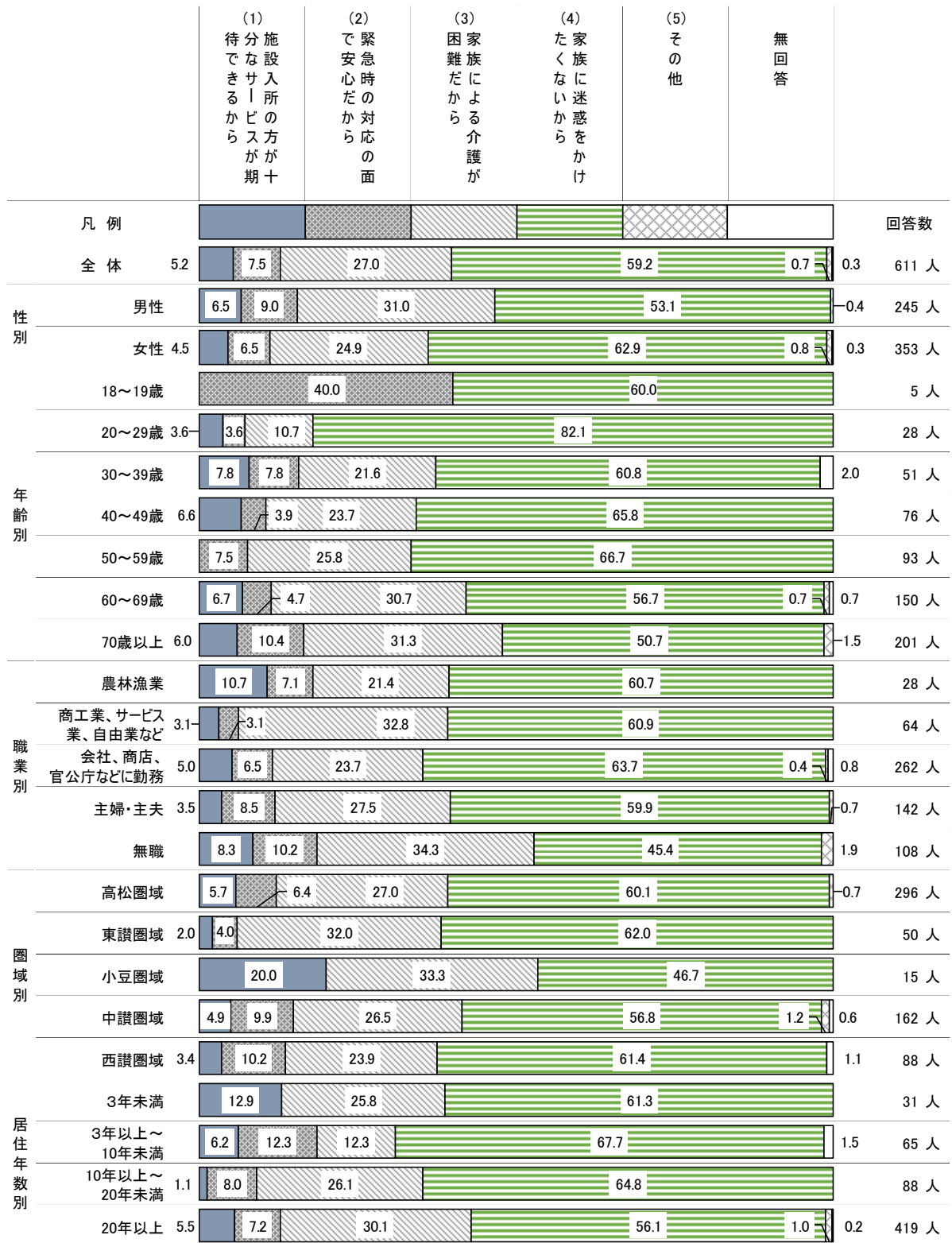
年齢別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5～8割台と最も高く、『20～29歳』では82.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4～6割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では63.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4～6割台と最も高く、『東讃圏域』では62.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5～6割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では67.7%と最も高くなっている。

図表 1-(3)-2 【施設入所を希望される理由について】



グラフ単位：(%)

(4) 日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて

問3 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

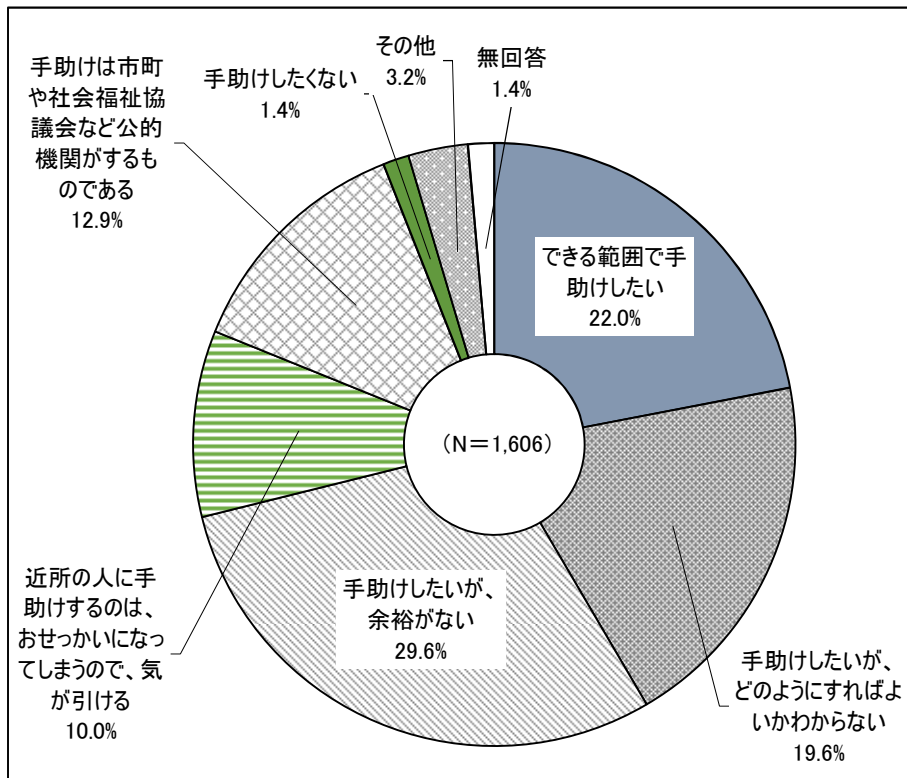
【回答者数=1,606】

1	できる範囲で手助けしたい	22.0%(20.4%)
2	手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない	19.6%(20.3%)
3	手助けしたいが、余裕がない	29.6%(30.7%)
4	近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける	10.0%(9.4%)
5	手助けは市町や社会福祉協議会など公的機関がするものである	12.9%(13.2%)
6	手助けしたくない	1.4%(1.5%)
7	その他（具体的に：_____）	3.2%(3.1%)
	（無回答）	1.4%(1.3%)

日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、「手助けしたいが、余裕がない」29.6%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」22.0%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」19.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「手助けしたいが、余裕がない」30.7%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」20.4%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」20.3%などとなっている。

図表 1-(4)-1 日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて



日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、性別にみると、男女とも「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『男性』30.1%、『女性』28.7%で、これに男女とも「できる範囲で手助けしたい」が『男性』21.4%、『女性』22.8%と続いている。

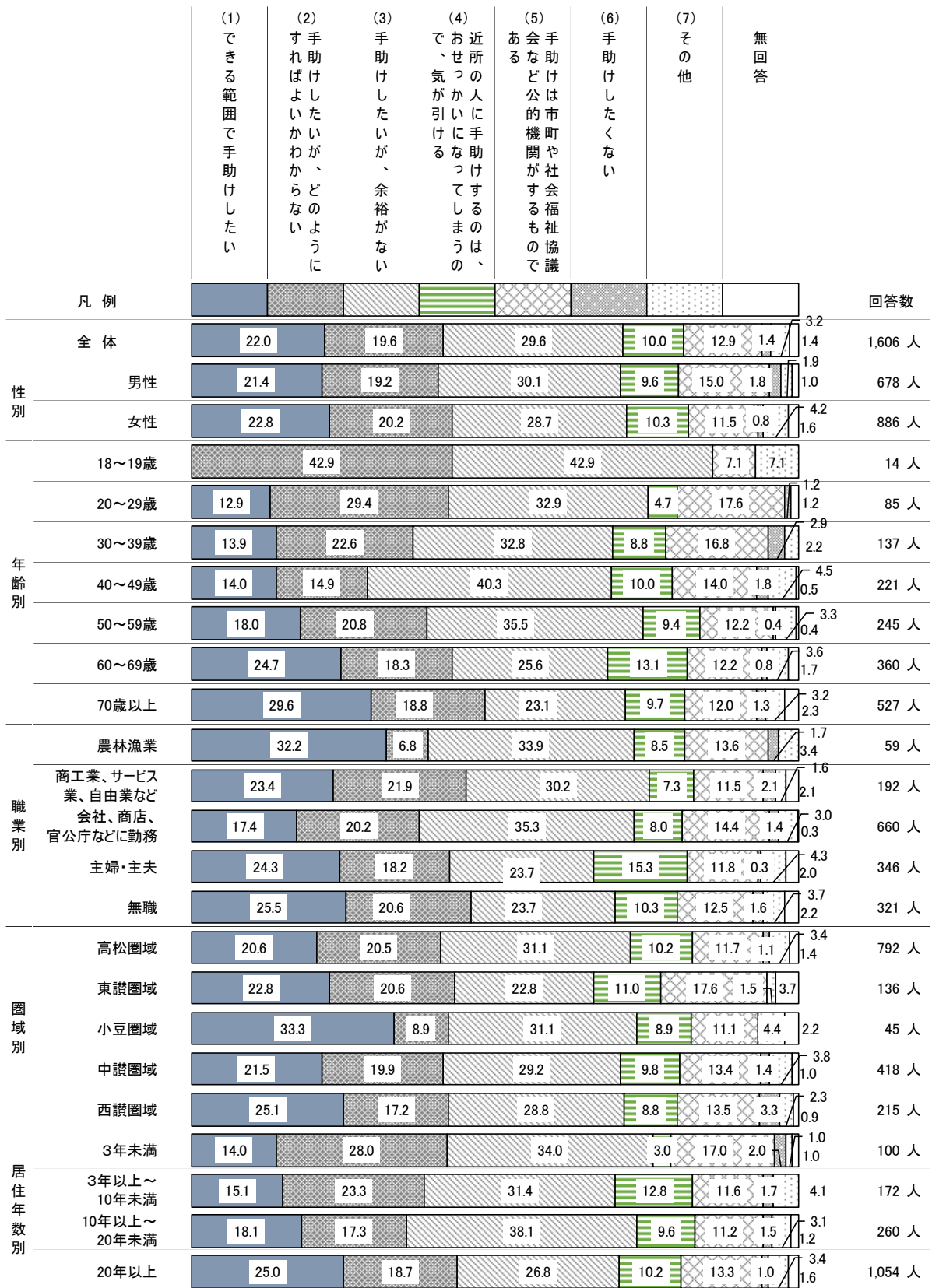
年齢別にみると、『18～19歳』では「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」、「手助けしたいが、余裕がない」が同率の42.9%で最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『70歳以上』では「できる範囲で手助けしたい」29.6%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『主婦・主夫』、『無職』では「できる範囲で手助けしたい」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『東讃圏域』では「できる範囲で手助けしたい」、「手助けしたいが、余裕がない」が同率の22.8%で最も高く、『小豆圏域』では「できる範囲で手助けしたい」33.3%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『10年以上～20年未満』では38.1%と最も高くなっている。

図表 1-(4)-2 【日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて】



グラフ単位：(%)

(5) 認知症施策で関心のあることについて

問4 認知症施策で関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	家族の身体的・精神的負担を減らす取組み	59.7%(60.5%)
2	認知症を治せる薬や治療法の開発	56.5%(56.6%)
3	認知症の人が利用できる介護施設の充実	49.3%(48.0%)
4	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み	48.0%(49.5%)
5	認知症の予防に向けた取組み	46.9%(47.5%)
6	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	44.1%(43.8%)
7	できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり	39.3%(38.4%)
8	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	36.0%(35.6%)
9	認知症の人を地域で見守る体制の充実	26.3%(26.1%)
10	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取組み	24.8%(24.5%)
11	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	17.6%(18.0%)
12	その他（具体的に：_____）	1.0%(1.0%)
	（無回答）	1.4%(1.4%)

認知症施策で関心のあることについて、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」59.7%が最も高く、次いで「認知症を治せる薬や治療法の開発」56.5%、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」49.3%、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」48.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」60.5%が最も高く、次いで「認知症を治せる薬や治療法の開発」56.6%、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」49.5%、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」48.0%などとなっている。

図表 1-(5)-1 認知症施策で関心のあることについて

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 家族の身体的・精神的負担を減らす取組み	59.7	958 人
(2) 認知症を治せる薬や治療法の開発	56.5	907 人
(3) 認知症の人が利用できる介護施設の充実	49.3	792 人
(4) 家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み	48.0	771 人
(5) 認知症の予防に向けた取組み	46.9	754 人
(6) 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	44.1	709 人
(7) できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり	39.3	631 人
(8) 認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	36.0	578 人
(9) 認知症の人を地域で見守る体制の充実	26.3	422 人
(10) 悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取組み	24.8	399 人
(11) 日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	17.6	283 人
(12) その他	1.0	16 人
無回答	1.4	23 人

グラフ単位：(%)

認知症施策で関心のあることについて、性別にみると、男女とも「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」が最も高く、『男性』57.4%、『女性』61.7%で、これに男女とも「認知症を治せる薬や治療法の開発」が『男性』57.1%、『女性』56.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「認知症の予防に向けた取組み」78.6%が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」が6～7割台と最も高く、『70歳以上』では「認知症を治せる薬や治療法の開発」52.9%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』では「認知症を治せる薬や治療法の開発」、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」が同率の56.4%で最も高く、『無職』では「認知症を治せる薬や治療法の開発」56.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」が6割台と最も高くなっている。『東讃圏域』では「認知症を治せる薬や治療法の開発」58.1%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」が最も高くなっており、『10年以上～20年未満』では「認知症を治せる薬や治療法の開発」61.5%が最も高くなっている。

図表 1-(5)-2 【認知症施策で関心のあることについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)					
		全体 (人)	家族の身体的・精神的負担を減らす取組み	認知症を治せる薬や治療法の開発	認知症の人が利用できる介護施設の充実	家族的負担を減らす取組み	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経	認知症の予防に向けた取組み	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	サポートを早い段階からの医療・介護などの	できるだけ早い段階からの医療・介護などの	報知症に関する正しい知識と理解の啓発・情	認知症の人を地域で見守る体制の充実	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止す	支援の充実	日常生活の中で必要となる財産管理などへの	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)																		
全体		1,606	59.7	56.5	49.3	48.0	46.9	44.1	39.3	36.0	26.3	24.8	17.6	1.0	1.4			
性別	男性	678	57.4	57.1	46.0	43.2	47.5	40.1	36.1	34.1	23.7	27.7	18.9	1.3	1.3			
	女性	886	61.7	56.3	52.7	51.7	47.4	47.4	42.2	37.6	28.4	22.6	16.4	0.7	1.2			
年齢別	18～19歳	14	35.7	71.4	7.1	21.4	78.6	28.6	42.9	21.4	14.3	21.4	7.1	7.1	-			
	20～29歳	85	69.4	47.1	35.3	56.5	45.9	40.0	23.5	34.1	23.5	20.0	21.2	-	2.4			
	30～39歳	137	70.8	59.1	48.9	63.5	51.1	48.2	39.4	36.5	29.2	23.4	19.7	0.7	0.7			
	40～49歳	221	69.7	62.4	48.9	67.4	52.5	43.4	39.4	31.7	29.4	29.0	25.3	0.9	0.5			
	50～59歳	245	64.1	59.6	48.6	52.2	45.3	43.7	41.2	33.9	23.3	26.5	19.2	1.2	0.4			
	60～69歳	360	62.5	57.2	50.8	46.9	49.4	46.1	43.9	34.2	27.2	27.8	17.8	0.8	1.7			
	70歳以上	527	48.4	52.9	52.8	34.7	43.3	43.3	38.1	41.0	26.2	22.0	12.9	1.1	1.9			
職業別	農林漁業	59	57.6	54.2	49.2	42.4	39.0	37.3	28.8	37.3	20.3	23.7	10.2	-	1.7			
	商工業、サービス業、自由業など	192	62.0	55.2	47.9	51.6	47.9	46.9	35.9	37.5	29.7	26.0	19.3	1.6	3.1			
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	67.0	58.2	47.6	58.6	48.6	45.0	37.6	32.6	26.7	26.7	20.3	1.2	0.8			
	主婦・主夫	346	55.8	56.4	56.4	42.8	42.8	43.6	42.5	39.6	26.0	20.5	15.6	0.9	1.2			
	無職	321	49.5	56.1	47.4	33.3	50.2	42.7	44.2	38.9	25.9	25.9	15.3	0.6	1.2			
圏域別	高松圏域	792	60.5	58.3	50.6	48.6	45.6	46.6	39.8	36.6	26.1	25.8	18.2	1.1	1.4			
	東讃圏域	136	50.7	58.1	38.2	39.0	44.9	40.4	35.3	39.0	25.7	19.9	14.7	0.7	2.9			
	小豆圏域	45	62.2	46.7	48.9	46.7	51.1	33.3	44.4	26.7	24.4	33.3	26.7	-	2.2			
	中讃圏域	418	60.3	55.3	49.5	50.2	48.6	44.3	39.7	35.9	28.7	26.1	19.6	1.4	1.2			
	西讃圏域	215	60.5	53.0	51.2	47.4	49.3	39.5	38.1	34.0	22.8	20.5	11.6	-	0.9			
居住年数別	3年未満	100	67.0	60.0	45.0	54.0	57.0	44.0	39.0	33.0	26.0	24.0	22.0	4.0	2.0			
	3年以上～10年未満	172	66.3	55.2	40.1	53.5	48.8	43.0	32.6	32.0	25.6	23.3	20.3	0.6	1.2			
	10年以上～20年未満	260	59.6	61.5	45.4	52.7	49.6	40.0	40.0	36.5	28.5	26.2	20.0	0.8	1.2			
	20年以上	1,054	58.3	55.3	52.6	45.9	45.8	45.4	40.6	36.9	26.2	25.1	16.2	0.9	1.3			

(6) 高齢化が進行していく社会において重要と思われる方策について

問5 高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策はどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	健康づくりや介護予防	53.7%(53.3%)
2	住宅や交通などの住環境の充実	49.7%(49.5%)
3	介護サービス施設などの量的充実	45.0%(44.6%)
4	介護サービスの質の向上	44.5%(44.0%)
5	地域医療の充実	40.8%(40.8%)
6	高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）	39.9%(40.4%)
7	地域で支え合う体制の充実	30.8%(30.9%)
8	認知症高齢者施策の推進	29.1%(28.5%)
9	災害時の援護体制の整備	28.1%(28.3%)
10	犯罪被害の防止	19.7%(20.2%)
11	交通安全の確保	19.5%(21.2%)
12	高齢者虐待の防止	17.3%(17.9%)
13	その他（具体的に：_____）	2.6%(2.9%)
	（無回答）	1.2%(1.1%)

高齢化が進行していく社会において重要と思われる方策について、「健康づくりや介護予防」53.7%が最も高く、次いで「住宅や交通などの住環境の充実」49.7%、「介護サービス施設などの量的充実」45.0%、「介護サービスの質の向上」44.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健康づくりや介護予防」53.3%が最も高く、次いで「住宅や交通などの住環境の充実」49.5%、「介護サービス施設などの量的充実」44.6%、「介護サービスの質の向上」44.0%などとなっている。

図表 1-(6)-1 高齢化が進行していく社会において重要と思われる方策について

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 健康づくりや介護予防	53.7	862 人
(2) 住宅や交通などの住環境の充実	49.7	798 人
(3) 介護サービス施設などの量的充実	45.0	723 人
(4) 介護サービスの質の向上	44.5	715 人
(5) 地域医療の充実	40.8	655 人
(6) 高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	39.9	640 人
(7) 地域で支え合う体制の充実	30.8	494 人
(8) 認知症高齢者施策の推進	29.1	468 人
(9) 災害時の援護体制の整備	28.1	451 人
(10) 犯罪被害の防止	19.7	316 人
(11) 交通安全の確保	19.5	313 人
(12) 高齢者虐待の防止	17.3	278 人
(13) その他	2.6	41 人
無回答	1.2	19 人

グラフ単位：(%)

高齢化が進行していく社会において重要と思われる方策について、性別にみると、男女とも「健康づくりや介護予防」が最も高く、『男性』51.3%、『女性』55.8%で、これに『男性』は「介護サービス施設などの量的充実」46.3%、『女性』は「住宅や交通などの住環境の充実」53.0%が続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』を除くすべての年齢で「健康づくりや介護予防」が4～5割台と最も高く、『50～59歳』では「住宅や交通などの住環境の充実」55.9%が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「健康づくりや介護予防」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「介護サービスの質の向上」47.4%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「健康づくりや介護予防」が5割台と最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「住宅や交通などの住環境の充実」が6割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「健康づくりや介護予防」が5割台と最も高く、『3年未満』では59.0%と最も高くなっている。

図表 1-(6)-2 【高齢化が進行していく社会において重要と思われる方策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		全体（人）	健康づくりや介護予防	住宅や交通などの住環境の充実	介護サービスの質の向上	地域医療の充実	高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）	地域で支え合う体制の充実	認知症高齢者施策の推進	災害時の援護体制の整備	犯罪被害の防止	交通安全の確保	高齢者虐待の防止	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)																
全体		1,606	53.7	49.7	45.0	44.5	40.8	39.9	30.8	29.1	28.1	19.7	19.5	17.3	2.6	1.2
性別	男性	678	51.3	45.6	46.3	37.9	40.9	36.9	28.5	29.4	26.0	20.6	20.6	15.9	3.1	1.2
	女性	886	55.8	53.0	44.4	49.9	41.3	42.7	33.2	28.8	29.8	18.7	18.2	18.4	2.0	1.0
年齢別	18～19歳	14	50.0	42.9	35.7	21.4	42.9	28.6	21.4	14.3	21.4	7.1	14.3	21.4	7.1	-
	20～29歳	85	47.1	44.7	35.3	37.6	36.5	40.0	31.8	21.2	31.8	24.7	36.5	21.2	3.5	1.2
	30～39歳	137	54.7	51.8	45.3	48.9	46.0	40.9	33.6	31.4	32.1	22.6	34.3	19.7	4.4	0.7
	40～49歳	221	56.1	52.5	48.9	46.2	41.2	52.5	34.4	25.3	29.4	25.8	21.7	19.0	4.1	0.5
	50～59歳	245	48.6	55.9	49.8	49.4	35.5	48.2	23.3	31.0	24.1	19.6	20.8	18.8	4.5	0.4
	60～69歳	360	54.7	52.2	45.3	48.1	41.1	38.6	30.3	29.2	28.6	18.1	14.2	13.6	1.4	1.7
	70歳以上	527	56.0	44.8	43.3	40.0	42.3	31.7	33.4	30.9	27.9	17.1	15.0	17.6	1.1	1.3
職業別	農林漁業	59	47.5	42.4	42.4	28.8	45.8	30.5	25.4	28.8	20.3	11.9	6.8	11.9	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	192	46.9	44.3	45.8	47.4	37.5	43.8	36.5	31.3	28.1	22.9	22.9	22.9	4.2	2.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	54.2	52.3	47.7	47.4	37.7	47.4	28.6	28.9	27.4	20.2	21.5	16.5	3.2	0.6
	主婦・主夫	346	56.6	53.2	43.6	49.1	41.9	34.1	32.9	28.0	31.2	18.5	16.5	17.1	1.7	0.9
	無職	321	56.1	47.0	42.4	35.8	46.7	30.2	32.1	29.6	28.0	20.2	18.7	17.8	1.9	1.2
圏域別	高松圏域	792	52.9	46.5	45.8	44.7	41.7	40.7	29.5	30.7	26.6	20.8	19.9	18.8	2.3	1.4
	東讃圏域	136	47.1	62.5	39.0	47.1	39.0	38.2	30.9	27.2	32.4	16.2	23.5	14.7	2.9	2.2
	小豆圏域	45	53.3	64.4	44.4	42.2	37.8	37.8	42.2	24.4	35.6	24.4	22.2	11.1	-	-
	中讃圏域	418	56.9	49.8	45.9	45.2	38.0	39.5	30.9	27.0	28.2	19.9	20.1	17.5	4.1	0.5
	西讃圏域	215	54.4	50.2	44.2	41.4	44.7	39.1	32.6	29.8	28.8	16.3	13.5	14.4	0.9	1.4
居住年数別	3年未満	100	59.0	54.0	45.0	47.0	44.0	42.0	31.0	25.0	31.0	27.0	31.0	22.0	3.0	1.0
	3年以上～10年未満	172	51.7	44.8	38.4	35.5	35.5	49.4	34.3	24.4	21.5	19.2	20.9	15.1	2.9	1.7
	10年以上～20年未満	260	57.3	52.3	44.2	46.2	38.5	43.1	27.7	27.3	32.3	20.0	22.3	18.5	3.8	1.2
	20年以上	1,054	53.0	49.8	46.6	45.7	42.1	37.3	31.4	30.8	28.1	19.1	17.4	17.3	2.2	0.9

2. 少子化対策について

(1)結婚や家庭について

問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。次の①～④の項目について、それぞれ1～5のうち該当する番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

(単位：%)

項目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
① 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい	29.7 (33.9)	29.3 (28.8)	18.1 (16.6)	17.1 (15.3)	4.4 (4.2)	1.4 (1.3)
② 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	25.3 (29.5)	26.6 (26.5)	19.3 (17.7)	21.4 (19.3)	5.5 (5.3)	1.9 (1.7)
③ 結婚していなくても、子どもを持つのは自由である	30.9 (33.2)	24.8 (24.7)	16.5 (16.1)	18.7 (17.6)	7.2 (6.8)	1.8 (1.6)
④ 子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ	15.9 (16.6)	26.6 (27.6)	20.2 (19.5)	24.5 (23.0)	11.0 (11.7)	1.7 (1.6)

【①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい】について、「そう思う」29.7%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」29.3%、「どちらかといえばそう思わない」18.1%などとなっている。

【②結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】について、「どちらかといえばそう思う」26.6%が最も高く、次いで「そう思う」25.3%、「そう思わない」21.4%などとなっている。

【③結婚していなくても、子どもを持つのは自由である】について、「そう思う」30.9%が最も高くなっており、次いで「どちらかといえばそう思う」24.8%、「そう思わない」18.7%などとなっている。

【④子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ】について、「どちらかといえばそう思う」26.6%が最も高く、次いで「そう思わない」24.5%、「どちらかといえばそう思わない」20.2%などとなっている。

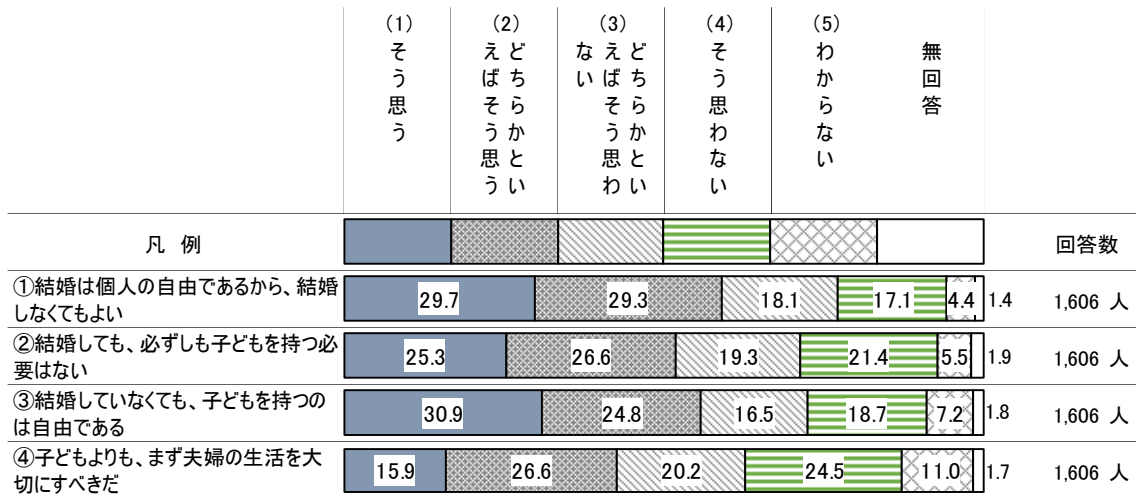
ウェイトバック集計した値をみると、【①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい】について、「そう思う」33.9%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」28.8%、「どちらかといえばそう思わない」16.6%などとなっている。

【②結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】について、「そう思う」29.5%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」26.5%、「そう思わない」19.3%などとなっている。

【③結婚していなくても、子どもを持つのは自由である】について、「そう思う」33.2%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」24.7%、「そう思わない」17.6%などとなっている。

【④子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ】について、「どちらかといえばそう思う」27.6%が最も高く、次いで「そう思わない」23.0%、「どちらかといえばそう思わない」19.5%などとなっている。

図表 2-(1)-1 結婚や家庭について



グラフ単位：(%)

【①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』54.5%、『女性』62.7%で、男女とも「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合を上回っている。

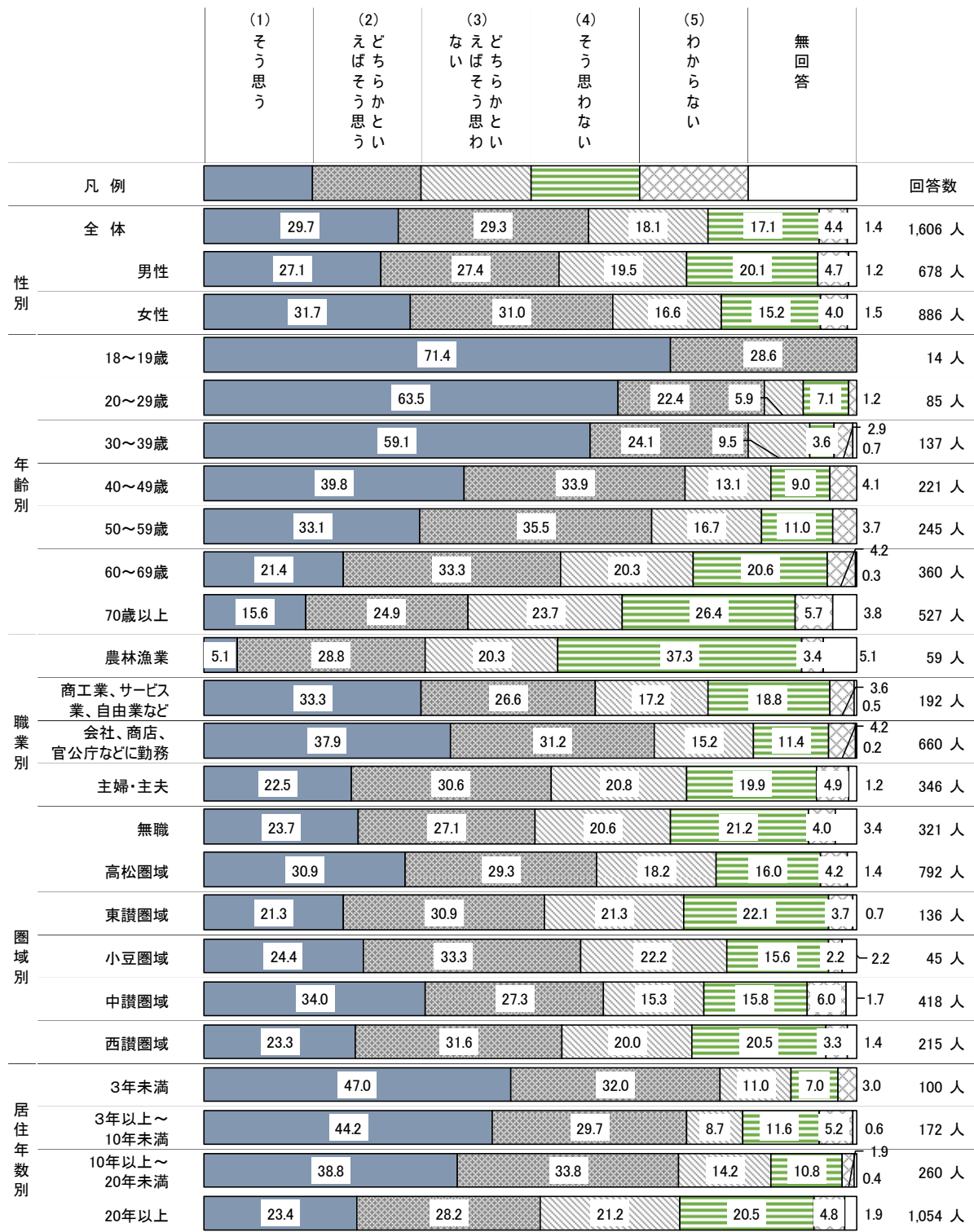
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で【そう思わない】の割合を上回っており、『18～19歳』では100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では69.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『中讃圏域』では61.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『3年未満』では79.0%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-2 【①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい】



グラフ単位：(%)

【②結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』46.9%、『女性』55.9%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』47.2%、『女性』35.6%となっており、『男性』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っており、『女性』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

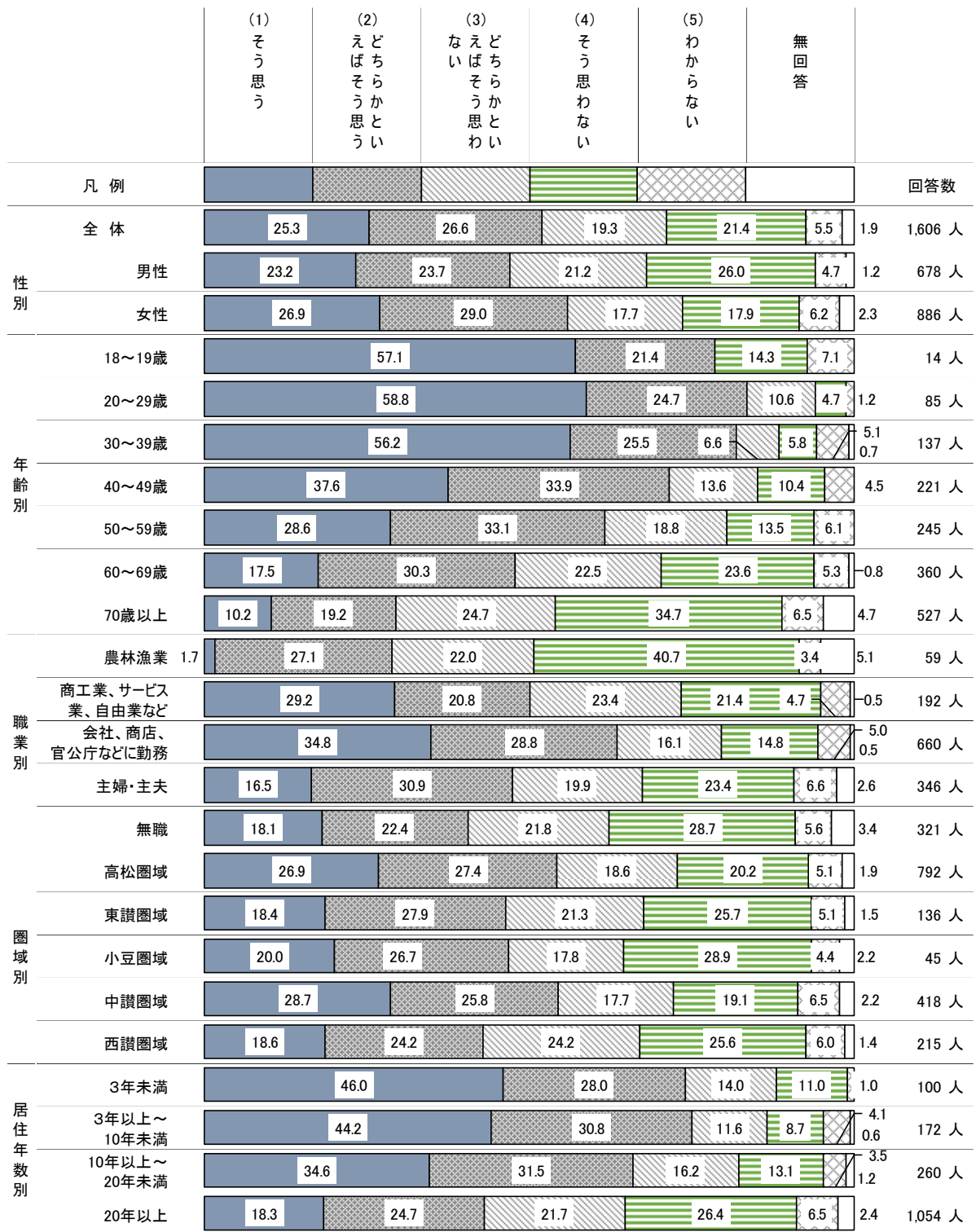
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で【そう思わない】の割合を上回っており、『20～29歳』では83.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、『農林漁業』、『無職』を除くすべての職業で【そう思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では63.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、『高松圏域』、『中讃圏域』では【そう思わない】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『西讃圏域』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。また、『小豆圏域』では【そう思う】、【そう思わない】が同率で46.7%となっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、『20年以上』を除くすべての居住年数で【そう思わない】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では75.0%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-3 【②結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない】



グラフ単位：(%)

【③結婚していなくても、子どもを持つのは自由である】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』55.6%、『女性』55.4%で、男女とも「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合を上回っている。

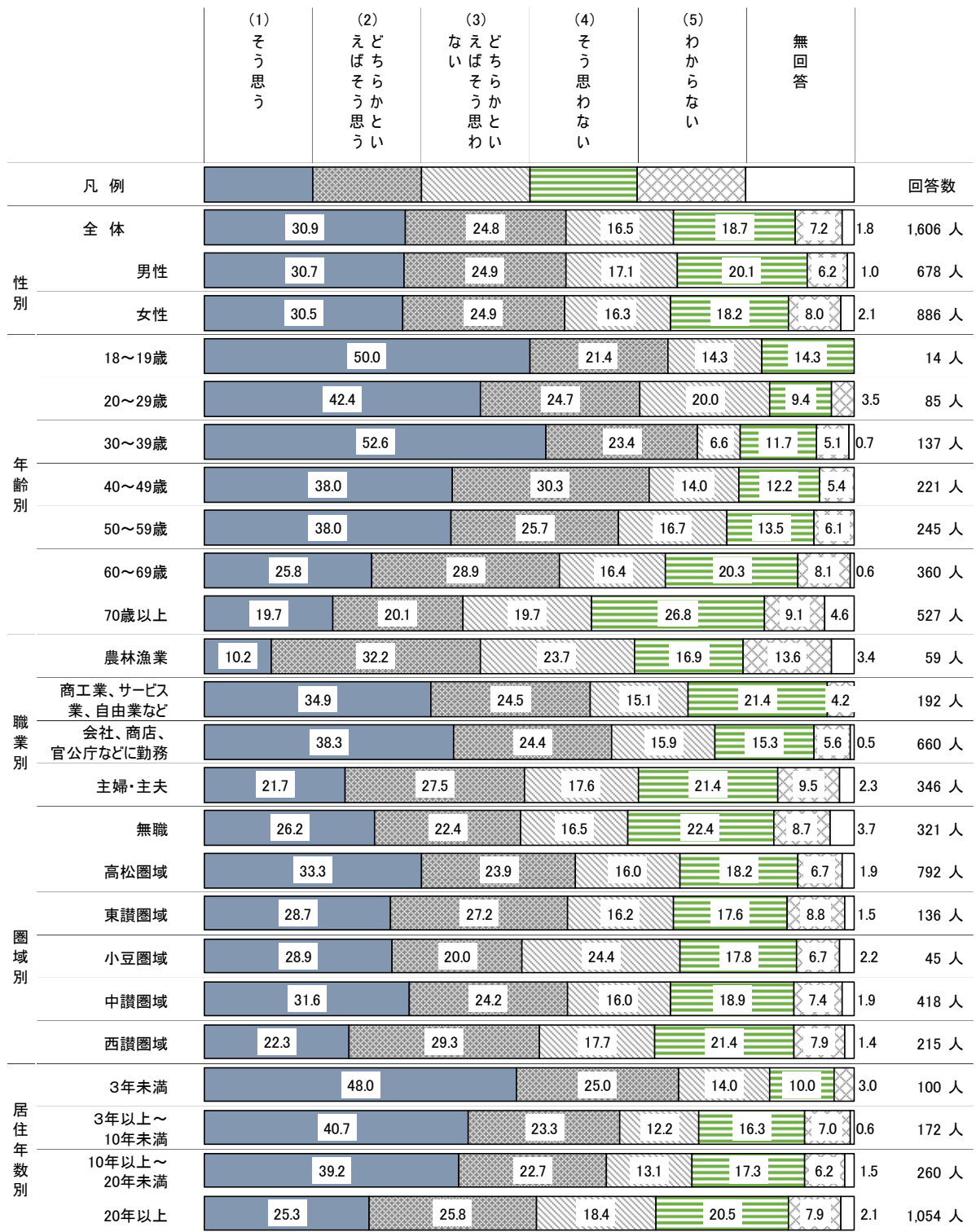
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で【そう思わない】の割合を上回っており、『30～39歳』では76.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では62.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『高松圏域』では57.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『3年未満』では73.0%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-4 【③結婚してなくても、子どもを持つのは自由である】



グラフ単位：(%)

【④子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』44.4%、『女性』40.6%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』43.5%、『女性』46.5%となっており、『男性』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っており、『女性』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

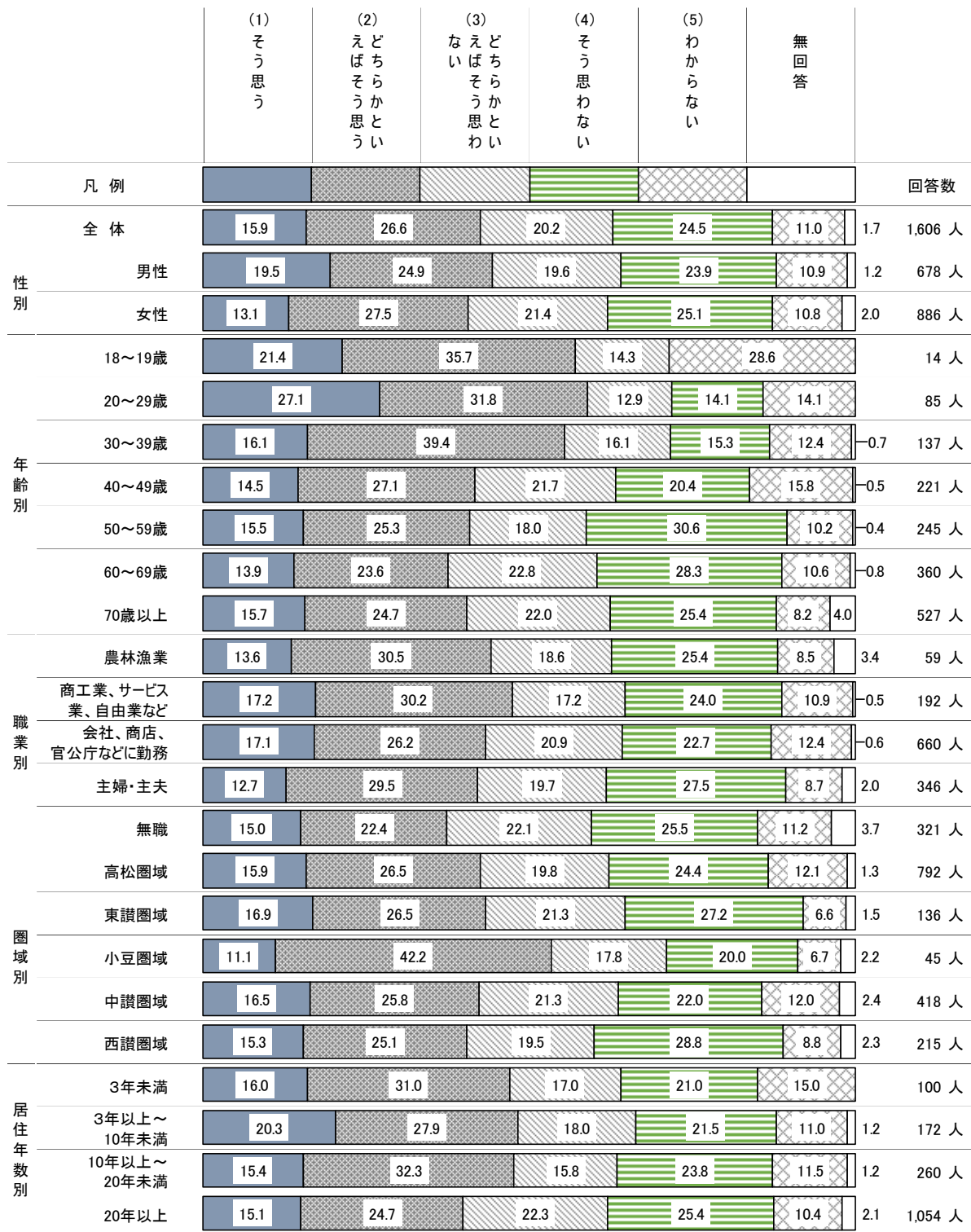
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』では【そう思わない】の割合を上回っており、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では【そう思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』、『無職』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【そう思う】の割合を上回っており、『東讃圏域』では48.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、『20年以上』を除くすべての居住年数で【そう思わない】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では48.2%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-5 【④子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ】



グラフ単位：(%)

(2) 出生率の低下の原因について

問7 長期間にわたり出生率が低下し、子どもの数が減っています。あなたは、出生率の低下の原因は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	61.3%(59.3%)
2	子育てのための経済的負担が大きいから	57.9%(59.2%)
3	保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから	40.8%(40.6%)
4	出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいから	33.1%(33.6%)
5	子育てより自分自身の生活を充実させたいから	32.1%(32.2%)
6	子どもの将来を不安に思うから	17.5%(18.1%)
7	子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	8.5%(7.8%)
8	子どもを生む必要性を感じなくなったから	7.3%(7.3%)
9	住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	5.2%(5.3%)
10	遊び場の不足など子どもを取り巻く生活環境が悪いから	3.6%(3.7%)
11	その他（具体的に：_____）	4.5%(4.6%)
12	わからない (無回答)	2.2%(2.2%) 0.9%(0.8%)

出生率の低下の原因について、「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」61.3%が最も高く、次いで「子育てのための経済的負担が大きいから」57.9%、「保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから」40.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」59.3%が最も高く、次いで「子育てのための経済的負担が大きいから」59.2%、「保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから」40.6%などとなっている。

図表 2-(2)-1 出生率の低下の原因について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	61.3	984 人
(2) 子育てのための経済的負担が大きいから	57.9	930 人
(3) 保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから	40.8	656 人
(4) 出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいから	33.1	532 人
(5) 子育てより自分自身の生活を充実させたいから	32.1	515 人
(6) 子どもの将来を不安に思うから	17.5	281 人
(7) 子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	8.5	137 人
(8) 子どもを生む必要性を感じなくなったから	7.3	118 人
(9) 住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	5.2	84 人
(10) 遊び場の不足など子どもを取り巻く生活環境が悪いから	3.6	58 人
(11) その他	4.5	72 人
(12) わからない	2.2	36 人
無回答	0.9	14 人

グラフ単位：(%)

出生率の低下の原因について、性別にみると、男女とも「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が最も高く、『男性』58.8%、『女性』63.2%で、これに男女とも「子育てのための経済的負担が大きいから」が『男性』58.6%、『女性』57.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」、「子育てのための経済的負担が大きいから」が同率の57.1%で最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「子育てのための経済的負担が大きいから」が6～7割台と最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が6～7割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「子育てのための経済的負担が大きいから」63.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』を除くすべての圏域で「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が6～7割台と最も高く、『高松圏域』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」、「子育てのための経済的負担が大きいから」が同率の58.5%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての圏域で「子育てのための経済的負担が大きいから」が5～6割台と最も高く、『20年以上』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」65.1%が最も高くなっている。

図表 2-(2)-2 【出生率の低下の原因について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)												
		全体 (人)	も 増 え て も に 初 婚 年 齢 が 高 く な り 、 未 婚	ら 子 育 て の た め の 経 済 的 負 担 が 大 き い か	い な い か ら	保 育 施 設 や 育 児 休 業 な ど の 子 育 て と 仕 事 を 両 立 さ せ る 社 会 的 仕 組 み が 整 っ て い な い か ら	担 が 大 き い か ら	出 産 や 育 児 の た め の 精 神 的 、 肉 体 的 負 担	た い か ら	子 育 て よ り 自 分 自 身 の 生 活 を 充 実 さ せ たい か ら	子 ど も の 将 来 を 不 安 に 思 う か ら	い か ら	子 ど も は 少 な く 生 ん で 、 大 事 に 育 て た い か ら	子 ど も を 生 む 必 要 性 を 感 じ な く な っ た か ら	事 情 が 悪 い か ら	住 ま い が 狭 い 、 居 住 費 が 高 い な ど 住 宅 が 悪 い か ら	活 び 場 の 不 足 な ど 子 ど も を 取 り 巻 く 生 活 環 境 が 悪 い か ら	遊 び 場 の 不 足 な ど 子 ど も を 取 り 巻 く 生 活 環 境 が 悪 い か ら	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答				
【表の見方】 単位＝比率(%)																									
全体		1,606	61.3	57.9	40.8	33.1	32.1	17.5	8.5	7.3	5.2	3.6	4.5	2.2	0.9										
性別	男性	678	58.8	58.6	35.7	30.8	35.1	18.0	7.1	9.7	7.2	5.0	5.3	2.9	0.7										
	女性	886	63.2	57.3	44.7	35.6	30.5	16.9	9.7	5.6	3.6	2.5	3.7	1.7	0.9										
年齢別	18～19歳	14	57.1	57.1	28.6	50.0	42.9	21.4	7.1	14.3	-	-	-	-	-										
	20～29歳	85	32.9	74.1	36.5	40.0	34.1	22.4	-	7.1	11.8	3.5	3.5	3.5	-										
	30～39歳	137	50.4	62.8	47.4	35.8	33.6	23.4	5.8	6.6	3.6	4.4	5.8	0.7	-										
	40～49歳	221	59.7	62.4	43.0	32.1	32.6	18.6	2.3	6.8	4.5	5.0	8.6	1.4	-										
	50～59歳	245	61.2	62.0	37.6	29.8	32.7	14.3	9.0	9.8	5.3	3.3	4.5	0.8	-										
	60～69歳	360	63.3	54.7	44.4	35.0	35.0	16.7	8.3	9.2	5.6	2.8	4.4	1.1	-										
	70歳以上	527	67.9	52.8	38.5	32.3	29.2	16.5	13.1	5.5	4.7	3.8	2.7	4.2	2.5										
職業別	農林漁業	59	72.9	55.9	33.9	30.5	39.0	8.5	8.5	10.2	1.7	6.8	5.1	1.7	3.4										
	商工業、サービス業、自由業など	192	62.0	57.8	38.5	35.4	31.3	16.7	6.3	5.2	5.2	5.7	5.2	2.6	0.5										
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	56.8	63.2	41.1	33.5	34.2	18.0	4.8	8.5	6.7	3.6	5.8	1.2	-										
	主婦・主夫	346	67.1	51.2	44.8	33.8	30.3	17.1	14.7	5.5	4.3	3.2	3.8	2.6	0.6										
無職	321	61.7	55.8	39.6	31.8	29.0	18.7	10.9	8.4	4.0	2.5	2.2	3.7	2.2											
圏域別	高松圏域	792	58.5	58.5	43.7	31.6	33.0	16.8	7.3	7.2	5.8	3.0	4.7	2.8	1.0										
	東讃圏域	136	66.2	55.1	34.6	34.6	34.6	22.1	8.8	8.8	3.7	2.9	2.9	1.5	0.7										
	小豆圏域	45	73.3	37.8	37.8	48.9	26.7	17.8	15.6	6.7	-	2.2	4.4	-	2.2										
	中讃圏域	418	61.7	59.6	38.3	32.5	30.9	17.9	9.6	7.7	6.2	5.5	5.3	1.7	0.2										
	西讃圏域	215	65.1	58.6	40.0	35.8	30.7	16.3	9.3	6.5	3.3	2.8	3.3	2.3	1.4										
居住年数別	3年未満	100	49.0	64.0	56.0	31.0	28.0	17.0	5.0	6.0	10.0	4.0	5.0	-	-										
	3年以上～10年未満	172	51.2	58.1	39.0	33.1	34.9	23.3	4.7	7.6	6.4	4.1	7.6	1.7	0.6										
	10年以上～20年未満	260	57.3	63.8	40.8	33.8	33.1	18.8	6.9	6.5	4.6	4.6	4.6	1.2	-										
	20年以上	1,054	65.1	56.0	39.9	33.4	31.9	16.3	9.9	7.8	4.8	3.3	3.8	2.8	1.1										

(3) 少子化対策・子育て支援施策について

[1] 最も重要だと思う施策

問8 以下の具体的な少子化対策・子育て支援施策について、あなたが、(1)最も重要だと思う施策を、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	43.0%(44.7%)
2	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	31.1%(32.8%)
3	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	27.6%(26.0%)
4	子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	25.9%(25.6%)
5	若者の社会的・経済的自立に向けた支援など次代の親の育成	22.6%(22.7%)
6	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	17.1%(16.8%)
7	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	16.7%(16.8%)
8	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	15.6%(15.9%)
9	地域における子ども・子育て支援の充実	13.8%(14.3%)
10	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	13.7%(13.2%)
11	子育て家庭への支援ネットワークの充実	11.4%(11.0%)
12	児童虐待防止対策の充実	9.2%(9.3%)
13	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	7.0%(7.2%)
14	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	5.6%(5.1%)
15	バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	2.9%(3.1%)
16	その他（具体的に：_____） （無回答）	1.9%(2.1%) 7.2%(6.5%)

少子化対策・子育て支援施策で最も重要だと思う施策について、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」43.0%が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」31.1%、「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」27.6%、「子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保」25.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」44.7%が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」32.8%、「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」26.0%、「子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保」25.6%などとなっている。

図表 2-(3)-1 最も重要だと思う施策

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	43.0	691 人
(2) 労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	31.1	500 人
(3) 結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	27.6	444 人
(4) 子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	25.9	416 人
(5) 若者の社会的・経済的自立に向けた支援など次代の親の育成	22.6	363 人
(6) 妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	17.1	275 人
(7) 妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	16.7	269 人
(8) 保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	15.6	250 人
(9) 地域における子ども・子育て支援の充実	13.8	222 人
(10) 確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	13.7	220 人
(11) 子育て家庭への支援ネットワークの充実	11.4	183 人
(12) 児童虐待防止対策の充実	9.2	147 人
(13) 子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	7.0	112 人
(14) 子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	5.6	90 人
(15) バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	2.9	46 人
(16) その他	1.9	30 人
無回答	7.2	115 人

グラフ単位：(%)

少子化対策・子育て支援施策で最も重要だと思う施策について、性別にみると、男女とも「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が最も高く、『男性』45.6%、『女性』41.5%で、これに『男性』は「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」29.6%、『女性』は「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」33.4%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」42.9%が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が4～6割台と最も高く、『70歳以上』では「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」36.1%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が3～4割台と最も高く、『農林漁業』では「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」42.4%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が3～4割台と最も高く、『中讃圏域』では44.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が3～5割台と最も高く、『3年未満』では55.0%と最も高くなっている。

図表 2-(3)-2 【最も重要だと思う施策】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)		
		全体 (人)	保育料や教育費などの軽減	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	子育て家庭のニーズを踏まえた保育	若者などの社会的・経済的自立に向けた支援	母子医療体制の充実	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	地域における子ども・子育て支援の充実	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	児童虐待防止対策の充実	子どもの健康やかに育てるための健康づくりの推進	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	子育て家庭への支援ネットワークの充実	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)																			
全体		1,606	43.0	31.1	27.6	25.9	22.6	17.1	16.7	15.6	13.8	13.7	11.4	9.2	7.0	5.6	2.9	1.9	7.2
性別	男性	678	45.6	27.7	29.6	26.5	23.9	17.6	17.0	14.7	11.5	13.7	13.4	7.4	6.3	5.9	2.7	1.9	7.2
	女性	886	41.5	33.4	26.3	25.8	22.0	16.8	16.5	16.0	15.7	13.9	10.0	10.4	7.6	5.6	3.0	1.8	6.5
年齢別	18～19歳	14	21.4	42.9	21.4	28.6	28.6	21.4	28.6	14.3	28.6	7.1	-	-	14.3	-	14.3	-	-
	20～29歳	85	60.0	43.5	16.5	28.2	28.2	11.8	17.6	12.9	17.6	8.2	8.2	10.6	7.1	1.2	3.5	3.5	1.2
	30～39歳	137	56.9	45.3	11.7	21.9	17.5	17.5	18.2	22.6	16.8	10.9	14.6	12.4	9.5	2.9	4.4	2.9	1.5
	40～49歳	221	57.5	38.5	23.1	27.6	24.9	15.4	13.6	21.7	12.2	12.7	7.7	10.4	5.0	4.5	3.6	4.1	2.3
	50～59歳	245	42.4	34.3	23.3	26.9	22.9	14.7	14.7	13.9	16.3	14.7	13.5	9.8	6.9	7.3	2.4	2.4	3.3
	60～69歳	360	40.8	29.2	30.6	32.2	23.9	17.8	17.8	15.8	12.8	13.6	13.3	9.4	5.3	6.9	2.8	0.8	4.2
	70歳以上	527	33.6	22.4	36.1	20.9	21.3	19.4	17.3	12.5	12.3	15.6	10.8	7.2	8.0	6.1	2.1	0.9	14.8
職業別	農林漁業	59	35.6	25.4	42.4	18.6	18.6	25.4	15.3	10.2	8.5	20.3	18.6	5.1	6.8	6.8	-	-	10.2
	商工業、サービス業、自由業など	192	41.1	28.6	24.5	26.6	24.5	19.8	18.2	15.1	12.0	15.1	10.9	8.3	9.4	5.2	3.1	3.1	5.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	48.8	36.8	23.5	28.8	24.4	16.8	17.1	18.6	14.2	12.6	11.8	10.2	5.5	4.4	3.5	2.3	2.1
	主婦・主夫	346	37.6	29.8	32.9	23.7	22.5	17.1	17.1	13.6	14.7	16.2	9.8	9.2	7.5	6.6	2.3	1.7	9.2
	無職	321	41.4	24.6	30.5	24.0	19.6	15.0	15.3	12.8	14.3	11.8	11.8	8.1	8.1	7.2	2.8	0.9	12.5
圏域別	高松圏域	792	43.1	29.0	25.5	29.2	21.0	18.4	18.1	16.4	13.6	13.8	11.1	10.4	6.9	5.4	2.5	1.4	6.8
	東讃圏域	136	43.4	30.1	26.5	19.9	19.1	18.4	14.0	16.2	14.7	14.0	11.8	8.8	6.6	8.8	6.6	1.5	8.8
	小豆圏域	45	44.4	40.0	35.6	31.1	31.1	15.6	8.9	15.6	8.9	8.9	4.4	4.4	-	2.2	-	2.2	8.9
	中讃圏域	418	44.5	32.8	26.8	23.9	25.4	14.6	15.6	14.8	12.2	16.7	12.9	7.9	9.3	5.0	2.9	3.3	6.2
	西讃圏域	215	39.5	34.4	36.3	20.5	23.7	16.7	17.7	13.5	18.1	8.4	10.7	8.4	4.2	6.0	2.3	0.9	8.8
居住年数別	3年未満	100	55.0	39.0	17.0	29.0	28.0	19.0	19.0	17.0	16.0	10.0	13.0	6.0	5.0	2.0	4.0	4.0	2.0
	3年以上～10年未満	172	49.4	45.3	19.8	28.5	20.3	16.9	11.6	18.0	21.5	11.0	9.3	8.7	7.0	2.9	3.5	2.9	3.5
	10年以上～20年未満	260	49.6	33.8	20.4	23.5	20.8	19.6	16.9	19.6	8.8	16.9	9.6	11.5	8.5	5.0	3.5	1.9	4.2
	20年以上	1,054	39.6	27.6	32.0	25.8	23.1	16.4	17.2	14.2	13.7	13.8	12.0	8.9	6.6	6.5	2.6	1.4	8.5

[2] 充実度に不満がある施策

問8 以下の具体的な少子化対策・子育て支援施策について、あなたが、(2) 充実度に不満がある施策を、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

1	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	28.8%(30.0%)
2	保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	28.7%(29.9%)
3	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	26.7%(27.1%)
4	児童虐待防止対策の充実	22.5%(22.4%)
5	若者の社会的・経済的自立に向けた支援など次代の親の育成	19.3%(19.1%)
6	子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	17.3%(17.5%)
7	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	13.3%(13.4%)
8	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	11.5%(11.0%)
9	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	11.1%(11.1%)
10	子育て家庭への支援ネットワークの充実	11.1%(10.5%)
11	地域における子ども・子育て支援の充実	10.9%(10.8%)
12	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	7.7%(7.5%)
13	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	6.4%(6.2%)
14	バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	5.7%(5.8%)
15	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	4.3%(4.3%)
16	その他(具体的に：_____)	2.4%(2.8%)
	(無回答)	16.3%(15.2%)

少子化対策・子育て支援施策で充実度に不満がある施策について、「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」28.8%が最も高く、次いで「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」28.7%、「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」26.7%、「児童虐待防止対策の充実」22.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」30.0%が最も高く、次いで「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」29.9%、「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」27.1%、「児童虐待防止対策の充実」22.4%などとなっている。

図表 2-(3)-1 充実度に不満がある施策

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	28.8	463 人
(2) 保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	28.7	461 人
(3) 保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	26.7	428 人
(4) 児童虐待防止対策の充実	22.5	361 人
(5) 若者の社会的・経済的自立に向けた支援など次代の親の育成	19.3	310 人
(6) 子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	17.3	278 人
(7) 確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	13.3	213 人
(8) 子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	11.5	184 人
(9) 結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	11.1	179 人
(10) 子育て家庭への支援ネットワークの充実	11.1	179 人
(11) 地域における子ども・子育て支援の充実	10.9	175 人
(12) 妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	7.7	124 人
(13) 妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	6.4	102 人
(14) バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	5.7	91 人
(15) 子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	4.3	69 人
(16) その他	2.4	39 人
無回答	16.3	261 人

グラフ単位：(%)

少子化対策・子育て支援施策で充実度に不満がある施策について、性別にみると、『男性』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」29.8%が最も高く、『女性』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」29.8%が最も高くなっている。これに『男性』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」28.0%、『女性』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」27.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」42.9%が最も高く、『20～29歳』、『70歳以上』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」が最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」39.0%が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「児童虐待防止対策の充実」27.6%が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」が最も高く、『無職』では「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」27.1%が最も高くなっている。

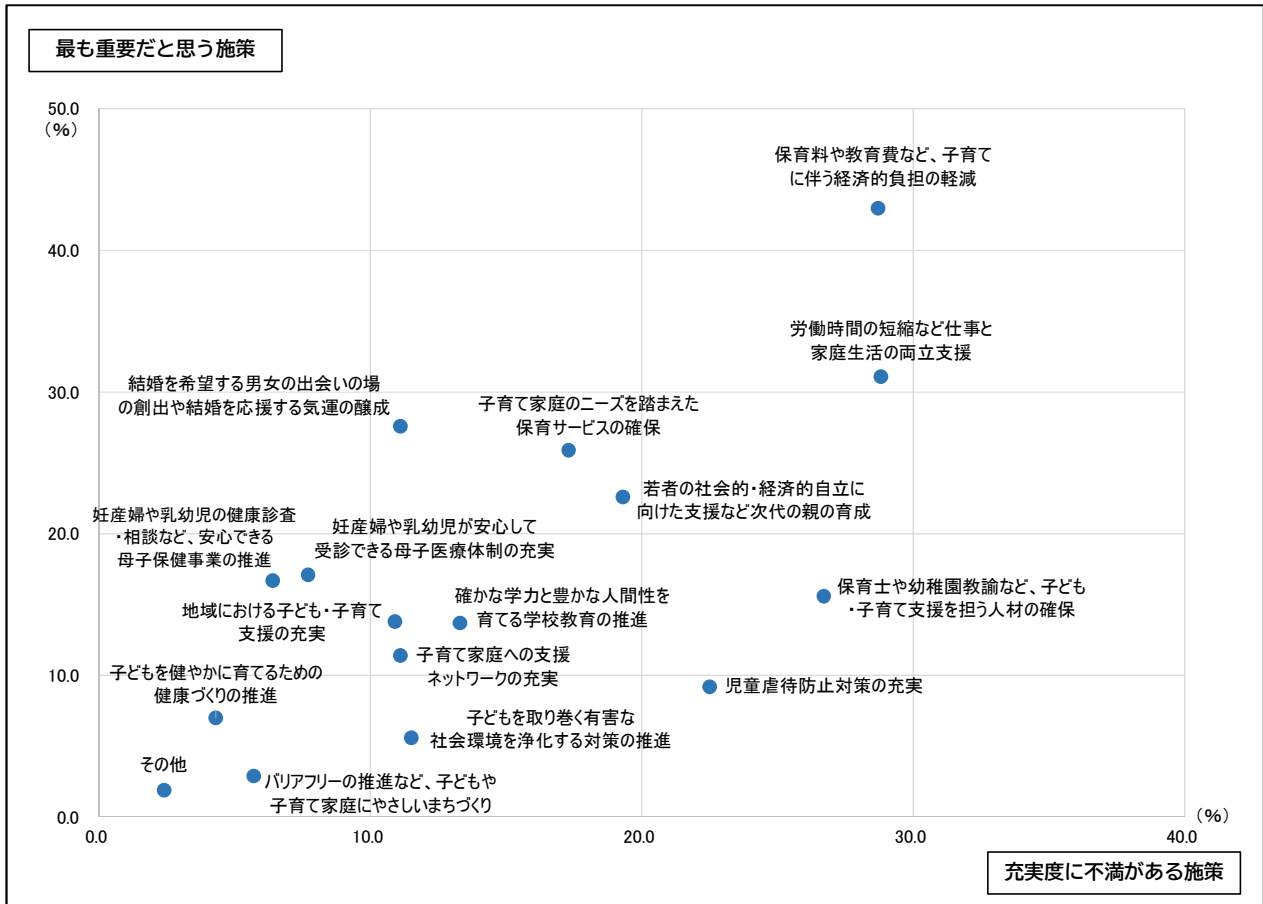
圏域別にみると、『高松圏域』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」31.8%が最も高く、『東讃圏域』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」、「児童虐待防止対策の充実」が同率の26.5%で最も高くなっている。『小豆圏域』では「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」31.1%が最も高く、『中讃圏域』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」、「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」が同率の29.2%で最も高く、『西讃圏域』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」26.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」48.0%が最も高く、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」が最も高く、『20年以上』では「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」26.5%が最も高くなっている。

図表 2-(3)-2 【充実度に不満がある施策】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)		
		全体 (人)	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	保育料や教育費などの軽減	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	児童虐待防止対策の充実	若者などの社会的・経済的自立に向けた支援	子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	子育て家庭への支援ネットワークの充実	地域における子ども・子育て支援の充実	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	育児にやさしいまちづくり	子どもの健康や子育ての推進	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)																			
全体		1,606	28.8	28.7	26.7	22.5	19.3	17.3	13.3	11.5	11.1	11.1	10.9	7.7	6.4	5.7	4.3	2.4	16.3
性別	男性	678	28.0	29.8	27.1	22.0	22.1	16.8	12.7	10.9	13.1	13.4	11.5	8.7	7.4	5.6	5.2	1.8	14.3
	女性	886	29.8	27.9	26.2	23.3	17.5	17.9	14.0	11.9	9.5	9.3	10.4	7.1	5.5	6.0	3.8	2.9	17.0
年齢別	18～19歳	14	28.6	28.6	42.9	14.3	7.1	21.4	14.3	14.3	28.6	-	7.1	7.1	14.3	7.1	-	-	-
	20～29歳	85	40.0	41.2	23.5	32.9	16.5	14.1	10.6	7.1	9.4	9.4	7.1	3.5	7.1	7.1	2.4	5.9	9.4
	30～39歳	137	40.1	39.4	31.4	19.0	19.7	20.4	13.9	8.8	11.7	11.7	11.7	6.6	5.8	5.8	5.1	4.4	5.8
	40～49歳	221	36.7	34.4	32.6	19.5	24.4	23.1	15.8	7.2	10.0	7.7	15.4	10.0	2.7	5.4	6.3	4.1	5.4
	50～59歳	245	28.6	26.9	24.9	22.0	18.8	20.4	14.3	11.0	11.4	7.8	9.0	4.9	4.1	8.2	7.8	2.9	12.7
	60～69歳	360	29.7	27.8	28.1	26.7	22.2	18.6	11.9	10.8	13.9	15.8	12.5	8.9	8.1	5.0	3.3	1.1	10.8
	70歳以上	527	20.5	23.5	23.0	20.5	16.3	12.5	13.1	15.4	9.1	11.6	9.7	8.3	7.8	4.9	2.8	1.5	29.2
職業別	農林漁業	59	16.9	39.0	16.9	22.0	25.4	13.6	11.9	6.8	18.6	10.2	16.9	8.5	6.8	-	3.4	1.7	18.6
	商工業、サービス業、自由業など	192	21.9	22.4	26.6	27.6	17.2	14.6	12.5	12.0	10.9	10.4	14.1	9.4	7.3	7.3	5.2	3.1	17.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	35.0	34.7	29.5	21.7	22.0	21.1	12.7	9.4	11.5	12.1	11.7	7.0	5.3	6.1	5.8	2.9	7.0
	主婦・主夫	346	26.6	25.4	23.4	22.3	16.8	17.9	15.0	13.6	9.5	8.4	9.8	7.8	7.2	6.4	3.2	2.6	22.3
	無職	321	26.2	24.0	27.1	21.8	17.4	12.5	14.0	14.3	11.2	13.4	8.1	8.4	6.9	4.4	2.5	1.2	23.4
圏域別	高松圏域	792	30.7	31.8	28.9	22.5	20.6	18.4	13.9	10.5	8.7	11.4	9.0	6.8	6.8	5.9	4.2	1.9	14.8
	東讃圏域	136	26.5	25.7	16.9	26.5	18.4	15.4	11.8	16.2	14.0	11.0	12.5	12.5	4.4	5.1	8.1	2.9	17.6
	小豆圏域	45	13.3	20.0	15.6	17.8	17.8	20.0	8.9	6.7	31.1	11.1	4.4	11.1	-	4.4	4.4	6.7	24.4
	中讃圏域	418	29.2	27.0	29.2	23.4	17.5	14.4	14.6	12.9	13.2	11.5	12.9	7.4	5.5	5.7	3.3	2.9	14.8
	西讃圏域	215	26.0	24.2	21.9	19.1	19.1	19.5	10.2	10.2	10.2	9.8	14.4	7.9	8.8	5.1	4.2	2.3	21.9
居住年数別	3年未満	100	39.0	48.0	22.0	22.0	24.0	23.0	10.0	7.0	10.0	14.0	12.0	12.0	8.0	6.0	2.0	4.0	6.0
	3年以上～10年未満	172	36.6	35.5	27.3	19.2	19.8	20.9	14.5	7.6	9.9	8.1	14.0	8.1	1.7	4.1	4.7	5.2	8.7
	10年以上～20年未満	260	30.0	29.2	28.1	21.5	16.9	21.5	15.4	10.8	9.6	6.9	11.9	6.5	5.0	6.2	5.8	3.5	13.1
	20年以上	1,054	26.4	25.9	26.5	23.4	19.5	15.4	13.0	12.8	11.9	12.5	10.1	7.5	7.4	5.8	4.2	1.6	18.7

図表 2-(3)-3 【少子化対策・子育て支援施策について】



(※無回答含まず)

(4) 現在の子育てを取り巻く環境や施策について

問9 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。次の①～⑦の項目について、それぞれ1～5のうち該当する番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

(単位：%)

項目	十分である	どちらかといえば十分である	どちらかといえば不十分である	不十分である	わからない	無回答
① 身近に子育て支援サービスがある	2.5 (3.0)	17.2 (17.9)	20.5 (20.3)	11.3 (10.9)	43.7 (43.5)	4.8 (4.4)
② 子育てについて困ったときに相談したり支えあったりする体制がある	2.1 (2.7)	14.4 (15.7)	23.8 (23.5)	14.1 (13.3)	40.5 (40.2)	5.1 (4.7)
③ 子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である	3.0 (3.8)	22.8 (23.3)	25.9 (25.3)	15.3 (15.5)	27.6 (27.1)	5.4 (5.0)
④ 働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる	1.9 (2.4)	13.8 (14.2)	26.0 (26.0)	21.0 (20.6)	32.4 (32.3)	4.8 (4.4)
⑤ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている	1.1 (1.3)	10.6 (11.1)	27.0 (27.0)	25.7 (25.6)	30.4 (30.2)	5.1 (4.7)
⑥ 子育てにかかる費用について社会的支援がなされている	2.7 (2.9)	16.7 (16.9)	24.0 (23.4)	24.3 (24.6)	27.3 (27.5)	5.1 (4.7)
⑦ 安心して出産・育児ができる医療環境である	5.9 (7.1)	25.5 (26.0)	21.7 (20.8)	16.4 (16.0)	25.3 (25.4)	5.0 (4.6)

【①身近に子育て支援サービスがある】について、「わからない」43.7%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」20.5%、「どちらかといえば十分である」17.2%、「不十分である」11.3%などとなっている。

【②子育てについて困ったときに相談したり支えあったりする体制がある】について、「わからない」40.5%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」23.8%、「どちらかといえば十分である」14.4%、「不十分である」14.1%などとなっている。

【③子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である】について、「わからない」27.6%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」25.9%、「どちらかといえば十分である」22.8%、「不十分である」15.3%などとなっている。

【④働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる】について、「わからない」32.4%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」26.0%、「不十分である」21.0%、「どちらかといえば十分である」13.8%などとなっている。

【⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている】について、「わからない」30.4%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」27.0%、「不十分である」25.7%、「どちらかといえば十分である」10.6%などとなっている。

【⑥子育てにかかる費用について社会的支援がなされている】について、「わからない」27.3%が最も高く、次いで「不十分である」24.3%、「どちらかといえば不十分である」24.0%、「どちらかといえば十分である」16.7%などとなっている。

【⑦安心して出産・育児ができる医療環境である】について、「どちらかといえば十分である」25.5%が最も高く、次いで「わからない」25.3%、「どちらかといえば不十分である」21.7%、「不十分である」16.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【①身近に子育て支援サービスがある】について、「わからない」43.5%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」20.3%、「どちらかといえば十分である」17.9%、「不十分である」10.9%などとなっている。

【②子育てについて困ったときに相談したり支えあったりする体制がある】について、「わからない」40.2%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」23.5%、「どちらかといえば十分である」15.7%、「不十分である」13.3%などとなっている。

【③子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である】について、「わからない」27.1%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」25.3%、「どちらかといえば十分である」23.3%、「不十分である」15.5%などとなっている。

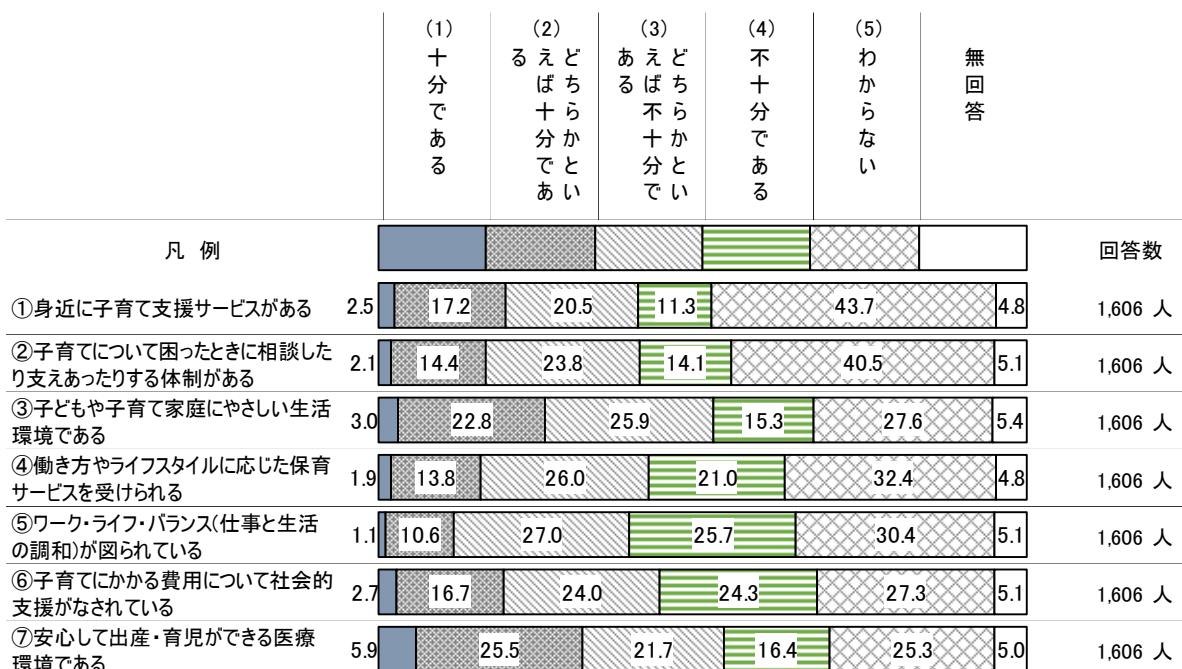
【④働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる】について、「わからない」32.3%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」26.0%、「不十分である」20.6%、「どちらかといえば十分である」14.2%などとなっている。

【⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている】について、「わからない」30.2%が最も高く、次いで「どちらかといえば不十分である」27.0%、「不十分である」25.6%、「どちらかといえば十分である」11.1%などとなっている。

【⑥子育てにかかる費用について社会的支援がなされている】について、「わからない」27.5%が最も高く、次いで「不十分である」24.6%、「どちらかといえば不十分である」23.4%、「どちらかといえば十分である」16.9%などとなっている。

【⑦安心して出産・育児ができる医療環境である】について、「どちらかといえば十分である」26.0%が最も高く、次いで「わからない」25.4%、「どちらかといえば不十分である」20.8%、「不十分である」16.0%などとなっている。

図表 2-(4)-1 現在の子育てを取り巻く環境や施策について



グラフ単位：(%)

【①身近に子育て支援サービスがある】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』33.7%、『女性』30.6%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

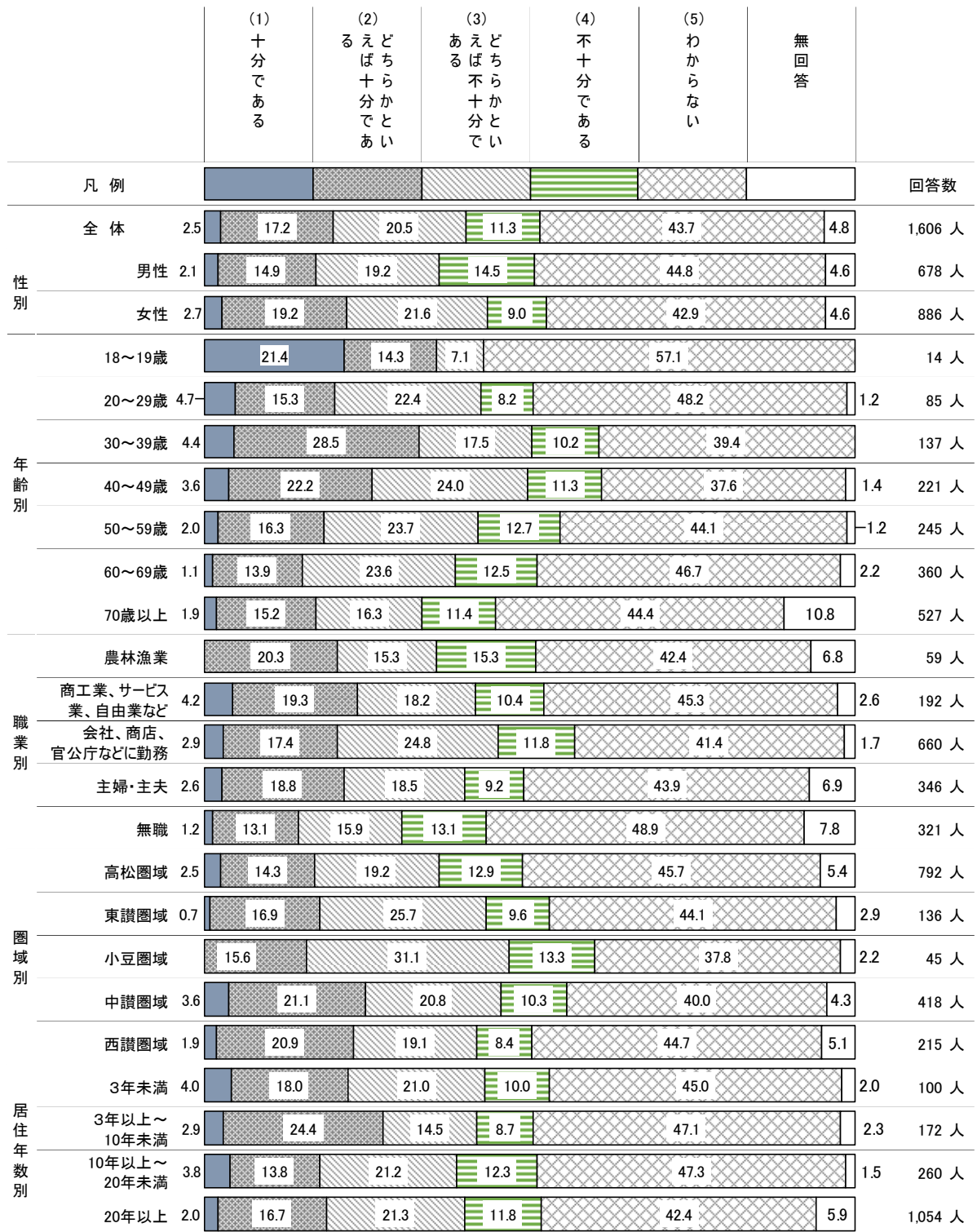
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っており、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。『3年以上～10年未満』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

図表 2-(4)-2 【①身近に子育て支援サービスがある】



グラフ単位：(%)

【②子育てについて困ったときに相談したり支えあったりする体制がある】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』40.7%、『女性』36.1%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っており、『18～19歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

図表 2-(4)-3 【②子育てについて困ったときに相談したり支えあったりする体制がある】

		(1) 十分である	(2) るえど ばち ら十 分か てあ い	(3) あえど るば ち十 分か てい	(4) 不 十 分 で あ る	(5) わ か ら な い	無 回 答	
凡 例								回答数
性別	全 体	2.1	14.4	23.8	14.1	40.5	5.1	1,606 人
	男性	1.5	10.9	23.9	16.8	42.3	4.6	678 人
	女性	2.4	17.2	23.9	12.2	39.4	5.0	886 人
年齢別	18～19歳		21.4	28.6	7.1	42.9		14 人
	20～29歳	4.7	14.1	24.7	8.2	45.9	2.4	85 人
	30～39歳	5.1	28.5	21.9	12.4	32.1		137 人
	40～49歳	3.6	22.6	26.2	10.0	37.1	0.5	221 人
	50～59歳	0.8	13.9	26.9	16.7	40.0	1.6	245 人
	60～69歳	1.1	10.8	26.1	16.4	43.3	2.2	360 人
	70歳以上	0.9	9.5	20.9	15.4	41.9	11.4	527 人
職業別	農林漁業		10.2	15.3	22.0	47.5	5.1	59 人
	商工業、サービス業、自由業など	3.6	16.1	24.5	10.4	42.7	2.6	192 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	3.0	15.5	26.8	15.3	37.9	1.5	660 人
	主婦・主夫	1.2	15.6	23.1	11.6	40.8	7.8	346 人
	無職	0.6	10.6	20.2	15.9	44.2	8.4	321 人
圏域別	高松圏域	2.3	12.1	23.1	14.8	41.9	5.8	792 人
	東讃圏域	0.7	11.0	22.8	16.9	45.6	2.9	136 人
	小豆圏域		17.8	20.0	11.1	48.9	2.2	45 人
	中讃圏域	2.4	19.4	23.9	13.6	36.1	4.5	418 人
	西讃圏域	1.9	14.4	27.4	11.6	39.1	5.6	215 人
居住年数別	3年未満	5.0	18.0	26.0	13.0	36.0	2.0	100 人
	3年以上～10年未満	5.2	16.9	25.0	9.3	42.4	1.2	172 人
	10年以上～20年未満	3.5	18.8	20.8	15.4	40.0	1.5	260 人
	20年以上	0.9	12.5	24.2	15.0	41.0	6.4	1,054 人

グラフ単位：(%)

【③子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である】について、性別にみると、「どちらかといえ
ば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』42.9%、『女
性』40.1%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえは十分である」を合わせた【十分であ
る】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【不十分である】の割合が【十分である】の
割合を上回っており、『18～19歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っ
ている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回ってい
る。

図表 2-(4)-4 【③子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である】

	(1) 十分である	(2) るえど ばち ら 分 か と い	(3) あえど る ば ち ら 分 か と い	(4) 不 十 分 で あ る	(5) わ か ら な い	無 回 答	回答数
凡 例							
全 体	3.0	22.8	25.9	15.3	27.6	5.4	1,606 人
性別							
男性	2.8	19.9	26.4	16.5	29.5	4.9	678 人
女性	3.0	25.2	25.7	14.4	26.2	5.4	886 人
年齢別							
18～19歳		35.7	21.4	14.3	28.6		14 人
20～29歳	5.9	22.4	22.4	18.8	27.1	3.5	85 人
30～39歳	5.1	29.2	25.5	18.2	21.9		137 人
40～49歳	5.0	29.0	28.1	13.1	23.5	1.4	221 人
50～59歳	2.4	22.4	29.4	18.4	25.3	2.0	245 人
60～69歳	2.2	21.1	28.3	14.7	30.8	2.8	360 人
70歳以上	1.1	20.1	23.3	14.2	29.8	11.4	527 人
職業別							
農林漁業	3.4	27.1	25.4	11.9	27.1	5.1	59 人
商工業、サービス業、自由業など	3.6	26.6	24.0	14.6	28.6	2.6	192 人
会社、商店、官公庁などに勤務	3.3	23.8	28.3	17.4	24.7	2.4	660 人
主婦・主夫	2.9	22.3	22.5	13.9	31.2	7.2	346 人
無職	1.9	19.0	26.8	14.3	29.0	9.0	321 人
圏域別							
高松圏域	3.0	21.2	24.5	16.9	28.4	5.9	792 人
東讃圏域	0.7	22.8	34.6	12.5	25.7	3.7	136 人
小豆圏域	4.4	22.2	22.2	11.1	37.8	2.2	45 人
中讃圏域	3.8	23.7	26.1	15.1	26.1	5.3	418 人
西讃圏域	2.3	27.0	26.0	12.1	27.0	5.6	215 人
居住年数別							
3年未満	7.0	21.0	25.0	22.0	22.0	3.0	100 人
3年以上～10年未満	4.1	24.4	23.3	18.6	27.3	2.3	172 人
10年以上～20年未満	5.8	21.9	21.9	19.2	29.6	1.5	260 人
20年以上	1.7	23.0	27.5	13.4	27.9	6.5	1,054 人

グラフ単位：(%)

【④働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』47.5%、『女性』47.1%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っており、『18～19歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

図表 2-(4)-5 【④働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる】

		(1) 十分 である	(2) る えど ばち ら 分 か と あ い	(3) あ えど る ばち ら 分 か と い	(4) 不 十 分 で あ る	(5) わ か ら な い	無 回 答	
凡 例								回答数
性別	全 体	1.9	13.8	26.0	21.0	32.4	4.8	1,606 人
	男性	1.6	13.1	23.5	24.0	33.3	4.4	678 人
	女性	2.0	14.4	27.9	19.2	31.8	4.6	886 人
年齢別	18～19歳		21.4	21.4	28.6	28.6		14 人
	20～29歳	4.7	12.9	22.4	18.8	38.8	2.4	85 人
	30～39歳	3.6	21.2	26.3	19.7	29.2		137 人
	40～49歳	0.9	18.1	30.3	22.6	27.1	0.9	221 人
	50～59歳	2.4	8.6	29.0	24.1	34.7	1.2	245 人
	60～69歳	0.6	15.0	28.6	22.2	31.7	1.9	360 人
	70歳以上	1.7	12.0	21.4	20.1	34.0	10.8	527 人
職業別	農林漁業	1.7	16.9	28.8	16.9	30.5	5.1	59 人
	商工業、サービス業、自由業など	3.1	16.1	22.4	20.3	35.4	2.6	192 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	2.0	14.7	30.9	23.0	28.0	1.4	660 人
	主婦・主夫	1.7	13.9	24.6	17.1	35.5	7.2	346 人
	無職	1.6	10.6	19.6	23.7	36.4	8.1	321 人
圏域別	高松圏域	2.0	11.0	25.9	22.6	33.2	5.3	792 人
	東讃圏域		15.4	27.2	21.3	33.1	2.9	136 人
	小豆圏域	4.4	11.1	26.7	22.2	33.3	2.2	45 人
	中讃圏域	2.6	17.9	23.9	20.3	31.1	4.1	418 人
	西讃圏域	0.9	15.8	29.8	16.3	31.2	6.0	215 人
居住年数別	3年未満	6.0	13.0	26.0	20.0	32.0	3.0	100 人
	3年以上～10年未満	2.3	14.5	23.3	20.9	37.2	1.7	172 人
	10年以上～20年未満	2.7	14.2	26.2	23.1	32.3	1.5	260 人
	20年以上	1.3	13.9	26.2	21.1	31.8	5.8	1,054 人

グラフ単位：(%)

【⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』53.8%、『女性』52.3%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

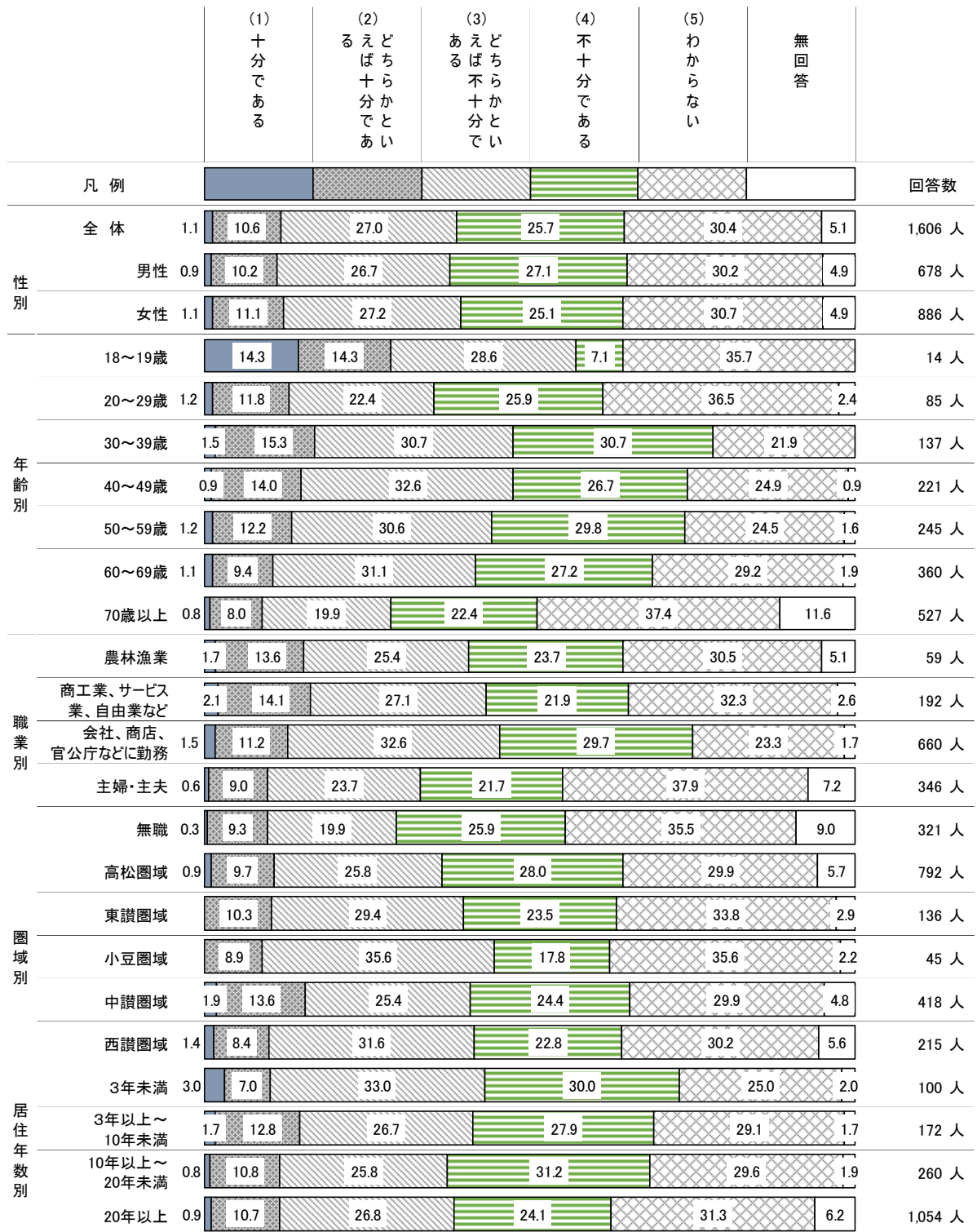
年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

図表 2-(4)-6 【⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている】



グラフ単位：(%)

【⑥子育てにかかる費用について社会的支援がなされている】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』53.1%、『女性』44.7%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っており、『18～19歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

図表 2-(4)-7 【⑥子育てにかかる費用について社会的支援がなされている】

	(1) 十分である	(2) るえど ばち らか と 分 か て あ い	(3) あえど るば ち ら か と 分 か て あ い	(4) 不 十 分 で あ る	(5) わ か ら な い	無 回 答	
凡 例							回答数
全 体	2.7	16.7	24.0	24.3	27.3	5.1	1,606 人
性別							
男性	1.9	14.0	25.1	28.0	26.5	4.4	678 人
女性	3.2	19.1	23.0	21.7	27.9	5.2	886 人
年齢別							
18～19歳	14.3	35.7	21.4	7.1	21.4		14 人
20～29歳	2.4	16.5	15.3	23.5	40.0	2.4	85 人
30～39歳	3.6	17.5	22.6	31.4	24.8		137 人
40～49歳	2.7	17.6	28.1	29.9	20.8	0.9	221 人
50～59歳	4.1	17.6	23.3	30.2	23.3	1.6	245 人
60～69歳	2.8	18.1	28.1	23.3	25.8	1.9	360 人
70歳以上	1.5	14.6	21.6	19.2	31.5	11.6	527 人
職業別							
農林漁業	3.4	13.6	25.4	22.0	30.5	5.1	59 人
商工業、サービス業、自由業など	2.6	20.8	17.2	22.9	32.8	3.6	192 人
会社、商店、官公庁などに勤務	3.5	16.8	28.0	27.9	22.1	1.7	660 人
主婦・主夫	2.3	17.6	22.0	19.9	30.9	7.2	346 人
無職	1.6	14.0	21.8	24.0	30.2	8.4	321 人
圏域別							
高松圏域	2.4	16.4	23.5	25.6	26.9	5.2	792 人
東讃圏域	1.5	13.2	25.0	30.1	27.2	2.9	136 人
小豆圏域	4.4	13.3	24.4	22.2	33.3	2.2	45 人
中讃圏域	3.8	17.7	22.0	23.2	28.0	5.3	418 人
西讃圏域	1.9	18.6	28.8	18.1	26.0	6.5	215 人
居住年数別							
3年未満	4.0	17.0	20.0	34.0	23.0	2.0	100 人
3年以上～10年未満	2.9	19.8	22.7	25.6	27.3	1.7	172 人
10年以上～20年未満	2.3	16.9	24.2	30.8	24.2	1.5	260 人
20年以上	2.7	16.1	24.5	21.9	28.6	6.3	1,054 人

グラフ単位：(%)

【⑦安心して出産・育児ができる医療環境である】について、性別にみると、「どちらかといえば不十分である」と「不十分である」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』39.1%、『女性』37.8%で、男女とも「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っており、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っており、『3年未満』では【十分である】の割合、【不十分である】の割合が同率の38.0%となっている。

図表 2-(4)-8 【⑦安心して出産・育児ができる医療環境である】

	(1) 十分である	(2) るえど ばち ら 分 か と あ い	(3) あえど る ば ち ら 分 か と あ い	(4) 不 十 分 で あ る	(5) わ か ら な い	無 回 答		
凡 例							回答数	
全 体	5.9	25.5	21.7	16.4	25.3	5.0	1,606 人	
性別								
男性	5.5	24.2	23.0	16.1	26.5	4.7	678 人	
女性	6.3	26.6	21.2	16.6	24.5	4.7	886 人	
年齢別								
18～19歳		42.9		21.4	7.1	7.1	21.4	14 人
20～29歳	10.6	24.7	16.5	9.4	36.5	2.4	85 人	
30～39歳	10.9	28.5	18.2	20.4		21.9	137 人	
40～49歳	8.6	33.9	21.7	14.9	19.9	0.9	221 人	
50～59歳	6.5	30.2	24.5	15.5	22.0	1.2	245 人	
60～69歳	3.1	23.6	28.3	18.1	24.7	2.2	360 人	
70歳以上	3.6	21.1	18.2	17.1	28.8	11.2	527 人	
職業別								
農林漁業	3.4	32.2	18.6	18.6	22.0	5.1	59 人	
商工業、サービス業、自由業など	6.3	28.1	17.2	15.6	30.2	2.6	192 人	
会社、商店、官公庁などに勤務	6.8	27.9	25.5	18.2	20.0	1.7	660 人	
主婦・主夫	4.9	27.5	19.1	14.5	27.2	6.9	346 人	
無職	5.6	17.4	20.2	15.6	32.4	8.7	321 人	
圏域別								
高松圏域	6.2	26.9	21.7	14.6	25.0	5.6	792 人	
東讃圏域	3.7	13.2	22.8	32.4	25.0	2.9	136 人	
小豆圏域	2.2	11.1	33.3	20.0	31.1	2.2	45 人	
中讃圏域	6.9	26.6	19.4	16.3	26.3	4.5	418 人	
西讃圏域	5.1	29.3	23.3	12.6	23.7	6.0	215 人	
居住年数別								
3年未満	11.0	27.0	21.0	17.0	22.0	2.0	100 人	
3年以上～10年未満	4.7	31.4	19.2	18.0	25.0	1.7	172 人	
10年以上～20年未満	9.6	22.7	25.8	15.0	25.4	1.5	260 人	
20年以上	4.8	25.4	21.3	16.7	25.7	6.1	1,054 人	

グラフ単位：(%)

(5) 子育て・子育てを支える社会を目指していくための活動について

[1] 地域での充実を期待すること

問10 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、(1) 地域での充実を期待することを、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	51.6%(52.2%)
2	いじめを見たら注意したり、通報したりすること	37.6%(38.3%)
3	子育てに関する相談にのること	36.8%(36.9%)
4	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	33.7%(33.4%)
5	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して 交通ルール・マナー等を守ること	23.5%(25.1%)
6	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をするこ	20.6%(20.1%)
7	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	19.8%(19.3%)
8	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること	15.9%(16.2%)
9	その他（具体的に：_____）	1.0%(1.0%)
10	わからない (無回答)	3.5%(3.5%) 8.9%(8.1%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくための活動で地域での充実を期待することについて、「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」51.6%が最も高く、次いで「いじめを見たら注意したり、通報したりすること」37.6%、「子育てに関する相談にのること」36.8%、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」33.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」52.2%が最も高く、次いで「いじめを見たら注意したり、通報したりすること」38.3%、「子育てに関する相談にのること」36.9%、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」33.4%などとなっている。

図表 2-(5)-1 地域での充実を期待すること

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	51.6	829 人
(2) いじめを見たら注意したり、通報したりすること	37.6	604 人
(3) 子育てに関する相談にのること	36.8	591 人
(4) 子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	33.7	542 人
(5) 子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	23.5	378 人
(6) 保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	20.6	331 人
(7) 子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	19.8	318 人
(8) 不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること	15.9	255 人
(9) その他	1.0	16 人
(10) わからない	3.5	56 人
無回答	8.9	143 人

グラフ単位：(%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくための活動で地域での充実を期待することについて、性別にみると、男女とも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高く、『男性』51.3%、『女性』52.5%で、これに『男性』は「いじめを見たら注意したり、通報したりすること」38.3%、『女性』は「子育てに関する相談にのること」37.5%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が4～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が4～5割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が4～6割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が5割台と最も高くなっている。

図表 2-(5)-2 【地域での充実を期待すること】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		全体 (人)	に親 預など に急用 がある ときに、 子どもを 一時的	こい じめ を見たら 注意したり、 通報したり する	子育 てに関 する相 談にの ること	子ど もが危 険なこ とやいた ずらをし たら注 意	しど もや妊 婦・乳 幼児を 連れた 保護者 に配慮	参加 や協 力をす ること	す るこ と	出 し たり す るこ と	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)													
全体		1,606	51.6	37.6	36.8	33.7	23.5	20.6	19.8	15.9	1.0	3.5	8.9
性別	男性	678	51.3	38.3	36.4	33.3	24.3	20.5	20.8	14.3	0.9	4.6	9.0
	女性	886	52.5	37.4	37.5	34.5	22.8	21.1	19.2	17.3	1.1	2.5	8.0
年齢別	18～19歳	14	50.0	42.9	35.7	35.7	14.3	21.4	28.6	14.3	-	7.1	-
	20～29歳	85	56.5	37.6	48.2	18.8	42.4	10.6	16.5	24.7	-	2.4	4.7
	30～39歳	137	50.4	46.0	32.8	39.4	33.6	21.2	17.5	16.8	2.2	3.6	1.5
	40～49歳	221	62.4	42.5	34.8	36.7	28.1	19.0	14.5	16.3	0.9	3.6	2.3
	50～59歳	245	58.8	42.0	35.5	32.2	23.7	22.0	18.0	12.2	1.6	4.9	3.7
	60～69歳	360	53.1	36.9	40.0	33.3	19.2	20.6	22.8	18.1	0.3	3.3	6.4
	70歳以上	527	42.9	31.5	36.1	34.7	19.5	22.4	21.4	14.4	1.1	3.0	17.6
職業別	農林漁業	59	59.3	37.3	37.3	30.5	10.2	27.1	25.4	10.2	-	8.5	6.8
	商工業、サービス業、自由業など	192	46.4	41.7	30.2	39.6	25.5	19.8	20.8	13.5	1.6	3.1	8.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	58.3	41.2	37.9	33.3	27.0	20.9	18.5	16.4	1.4	3.2	3.8
	主婦・主夫	346	45.7	32.4	39.9	33.5	22.3	21.1	22.3	16.8	0.9	2.6	11.6
	無職	321	47.7	33.3	36.8	32.4	19.9	19.3	18.7	16.5	0.3	4.7	14.6
圏域別	高松圏域	792	50.6	38.5	38.8	34.7	24.0	19.8	19.1	15.2	0.9	3.3	8.0
	東讃圏域	136	45.6	39.7	33.1	31.6	24.3	22.8	22.8	17.6	-	4.4	8.8
	小豆圏域	45	60.0	33.3	24.4	35.6	17.8	20.0	20.0	20.0	-	2.2	11.1
	中讃圏域	418	55.0	36.6	34.9	34.4	24.9	20.3	19.9	15.3	1.4	3.8	9.3
	西讃圏域	215	50.7	35.8	38.1	29.8	20.0	22.8	20.5	17.7	1.4	3.3	11.2
居住年数別	3年未満	100	53.0	33.0	32.0	29.0	39.0	16.0	20.0	24.0	3.0	3.0	4.0
	3年以上～10年未満	172	56.4	43.0	39.0	34.3	27.3	18.0	14.5	17.4	-	3.5	4.7
	10年以上～20年未満	260	53.5	41.2	36.2	38.5	27.7	19.6	19.2	12.7	0.4	5.0	5.0
	20年以上	1,054	50.4	36.3	37.4	33.1	20.6	21.9	20.5	15.7	1.1	3.2	10.5

[2] あなたがしてみたい(している)こと

問10 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、(2) あなたがしてみたい(している)ことを、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	38.6%(37.6%)
2	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	37.3%(37.4%)
3	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること	31.3%(32.0%)
4	いじめを見たら注意したり、通報したりすること	27.9%(27.0%)
5	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をする事	21.0%(21.1%)
6	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	16.7%(16.4%)
7	子育てに関する相談にのること	12.5%(12.3%)
8	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	12.1%(12.6%)
9	その他(具体的に: _____)	1.6%(1.6%)
10	わからない (無回答)	10.0%(10.6%) 13.8%(13.1%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくための活動であなたがしてみたい(している)ことについて、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」38.6%が最も高く、次いで「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.3%、「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること」31.3%、「いじめを見たら注意したり、通報したりすること」27.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」37.6%が最も高く、次いで「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.4%、「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること」32.0%、「いじめを見たら注意したり、通報したりすること」27.0%などとなっている。

図表 2-(5)-1 あなたがしてみたい(している)こと

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	38.6	620 人
(2) 子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	37.3	599 人
(3) 不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出ししたりすること	31.3	502 人
(4) いじめを見たら注意したり、通報したりすること	27.9	448 人
(5) 保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をする	21.0	338 人
(6) 親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	16.7	269 人
(7) 子育てに関する相談にのること	12.5	200 人
(8) 子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	12.1	194 人
(9) その他	1.6	25 人
(10) わからない	10.0	161 人
無回答	13.8	222 人

グラフ単位：(%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくための活動であながしてみたい(している)ことについて、性別にみると、『男性』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」42.3%が最も高く、『女性』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.5%が最も高くなっている。これに『男性』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.0%、『女性』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」36.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること」57.1%が最も高くなっており、『20～29歳』、『30～39歳』、『60～69歳』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が4割台と最も高く、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が3～4割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が3～4割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が3割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.8%が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が3～4割台と最も高く、『西讃圏域』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」、「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が同率の41.4%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」37.0%が最も高く、『3年以上～10年未満』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」、「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が同率の40.1%で最も高く、『10年以上～20年未満』では「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出したりすること」38.8%が最も高く、『20年以上』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」40.0%が最も高くなっている。

図表 2-(5)-2 【あなたがしてみたい(している)こと】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		子どもが危険なことやいたずらをしたら注意	子どもや妊婦・乳幼児を連れた保護者に配慮	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し	ことじめを見たら注意したり、通報したりする	参加や協力をすること	保育園、幼稚園や学校の保育・教育活動への	に親などに急用があるときに、子どもを一時的	子育てに関する相談にのること	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導を	その他	わからない	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)													
全体		1,606	38.6	37.3	31.3	27.9	21.0	16.7	12.5	12.1	1.6	10.0	13.8
性別	男性	678	42.3	37.0	26.5	32.6	20.5	13.6	10.0	18.0	1.6	10.9	12.7
	女性	886	36.3	37.5	35.1	24.4	21.6	19.5	14.4	8.0	1.5	9.3	14.1
年齢別	18～19歳	14	21.4	35.7	57.1	7.1	14.3	28.6	-	21.4	7.1	21.4	-
	20～29歳	85	24.7	40.0	34.1	23.5	20.0	11.8	5.9	21.2	1.2	11.8	10.6
	30～39歳	137	34.3	43.8	32.1	20.4	31.4	14.6	15.3	10.9	0.7	11.7	8.0
	40～49歳	221	43.0	38.5	38.9	28.1	23.1	15.4	16.3	12.7	0.9	12.2	4.1
	50～59歳	245	35.9	31.0	35.5	27.8	16.7	13.9	17.1	13.5	2.0	14.3	9.4
	60～69歳	360	41.1	41.9	33.6	30.8	27.2	18.6	11.4	11.1	1.7	7.8	8.6
	70歳以上	527	40.2	34.9	23.3	29.0	15.4	18.6	10.2	10.8	1.7	8.0	25.0
職業別	農林漁業	59	40.7	32.2	20.3	25.4	18.6	10.2	6.8	8.5	3.4	22.0	16.9
	商工業、サービス業、自由業など	192	39.6	34.4	33.3	31.3	19.8	13.0	15.6	15.6	2.6	9.4	12.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	38.5	39.4	35.2	26.5	23.9	17.1	13.5	13.8	1.8	10.8	7.7
	主婦・主夫	346	41.3	37.6	31.2	25.4	21.1	20.2	13.3	7.5	0.3	7.2	17.9
	無職	321	36.1	37.1	24.6	32.4	15.6	15.9	9.0	12.8	1.6	10.3	19.9
圏域別	高松圏域	792	37.6	37.8	31.3	27.5	20.2	15.5	11.1	13.3	1.4	10.7	13.8
	東讃圏域	136	36.8	30.9	32.4	22.8	16.2	20.6	11.8	11.8	2.2	13.2	17.6
	小豆圏域	45	40.0	33.3	17.8	22.2	20.0	20.0	20.0	13.3	-	17.8	11.1
	中讃圏域	418	39.5	36.8	32.8	29.9	23.9	15.8	14.4	10.5	1.0	8.9	13.2
	西讃圏域	215	41.4	41.4	30.2	29.8	21.9	20.0	12.6	10.7	3.3	6.0	13.5
居住年数別	3年未満	100	26.0	37.0	27.0	23.0	31.0	17.0	10.0	16.0	2.0	12.0	10.0
	3年以上～10年未満	172	40.1	40.1	34.9	23.3	23.8	9.9	11.6	14.5	0.6	12.2	10.5
	10年以上～20年未満	260	36.5	38.1	38.8	31.5	16.2	13.1	16.2	11.5	0.8	15.4	8.1
	20年以上	1,054	40.0	36.8	29.2	28.2	20.6	18.9	12.0	11.7	1.9	8.3	15.7

(6) 育児をしながら働き続けるために必要な条件や制度について

問11 あなたは、育児をしながら働き続けるためには、どのような条件や制度が必要と思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	43.3%(43.6%)
2	延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供	39.5%(38.3%)
3	育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	32.6%(34.2%)
4	医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	27.4%(28.6%)
5	事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	21.5%(21.3%)
6	職業訓練の実施、就職に関する相談や情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援	19.5%(19.0%)
7	保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	19.2%(19.5%)
8	育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	16.1%(16.0%)
9	事業所内託児施設の設置	15.1%(14.0%)
10	職場優先の企業風土の是正	14.8%(15.3%)
11	テレワークなどの柔軟な働き方の導入	14.3%(15.2%)
12	ファミリー・サポート・センターの設置	4.9%(4.5%)
13	その他（具体的に：_____） （無回答）	1.2%(1.2%) 6.4%(5.9%)

育児をしながら働き続けるために必要な条件や制度について、「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」43.3%が最も高く、次いで「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」39.5%、「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」32.6%、「医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実」27.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」43.6%が最も高く、次いで「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」38.3%、「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」34.2%、「医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実」28.6%などとなっている。

図表 2-(6)-1 育児をしながら働き続けるために必要な条件や制度について

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	43.3	696 人
(2) 延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供	39.5	635 人
(3) 育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	32.6	524 人
(4) 医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	27.4	440 人
(5) 事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	21.5	346 人
(6) 職業訓練の実施、就職に関する相談や情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援	19.5	313 人
(7) 保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	19.2	308 人
(8) 育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	16.1	259 人
(9) 事業所内託児施設の設置	15.1	242 人
(10) 職場優先の企業風土の是正	14.8	238 人
(11) テレワークなどの柔軟な働き方の導入	14.3	229 人
(12) ファミリー・サポート・センターの設置	4.9	78 人
(13) その他	1.2	19 人
無回答	6.4	103 人

グラフ単位：(%)

育児をしながら働き続けるために必要な条件や制度について、性別にみると、男女とも「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が最も高く、『男性』41.0%、『女性』45.7%で、これに『男性』は「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」38.6%、『女性』は「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」45.4%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が3～5割台と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』では「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」が5割台と最も高く、『50～59歳』では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」43.7%が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業で「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が3～4割台と最も高く、『主婦・主夫』では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」44.8%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が4割台と最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が4割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が4～5割台と最も高くなっている。

図表 2-(6)-2 【育児をしながら働き続けるために必要な条件や制度について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)				
		全体 (人)	形態の導入	短時間勤務制度、フレックスタイム制、弾力的な勤務	延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供	育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援	支援助、職業訓練の実施、就職に関する相談や情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職	の軽減措置	保育料など、各種制度利用に対する費用負担	実 育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	事業所内託児施設の設置	職場優先の企業風土の是正	テレワークなどの柔軟な働き方の導入	ファミリー・サポート・センターの設置	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)																		
全体		1,606	43.3	39.5	32.6	27.4	21.5	19.5	19.2	16.1	15.1	14.8	14.3	4.9	1.2	6.4		
性別	男性	678	41.0	32.3	38.6	31.4	20.6	18.6	21.7	16.2	12.5	17.8	15.5	4.0	0.9	6.2		
	女性	886	45.7	45.4	28.1	24.9	22.9	20.1	17.2	15.9	17.2	12.6	13.4	5.8	1.4	5.9		
年齢別	18～19歳	14	57.1	14.3	42.9	35.7	14.3	21.4	14.3	21.4	-	21.4	28.6	-	-	-		
	20～29歳	85	42.4	32.9	56.5	29.4	12.9	16.5	21.2	17.6	5.9	12.9	28.2	2.4	-	2.4		
	30～39歳	137	46.0	31.4	50.4	36.5	21.9	12.4	25.5	17.5	10.2	19.7	16.1	1.5	1.5	0.7		
	40～49歳	221	49.3	41.6	26.2	34.8	26.2	18.6	19.9	10.9	11.8	23.1	14.0	4.1	2.3	2.3		
	50～59歳	245	42.4	43.7	30.2	26.9	26.1	15.9	18.4	11.4	15.5	16.3	20.0	7.8	0.8	2.9		
	60～69歳	360	47.8	45.8	33.6	21.1	21.1	20.6	18.6	16.9	16.7	15.6	13.3	5.0	1.4	3.9		
	70歳以上	527	37.6	37.0	27.3	26.4	19.9	23.5	17.8	19.0	18.6	9.1	9.3	5.3	0.9	12.7		
職業別	農林漁業	59	39.0	35.6	32.2	23.7	18.6	20.3	25.4	16.9	10.2	18.6	15.3	5.1	-	8.5		
	商工業、サービス業、自由業など	192	40.6	38.5	31.8	29.2	17.7	19.3	24.0	12.0	14.6	15.6	15.1	5.2	1.6	6.3		
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	46.1	41.5	36.2	29.7	24.8	16.7	19.8	15.2	12.6	17.9	15.8	4.7	1.4	2.4		
	主婦・主夫	346	41.6	44.8	28.9	24.6	19.9	23.1	17.3	16.5	21.1	11.3	11.3	6.6	1.2	7.5		
	無職	321	42.7	32.1	31.8	26.5	19.6	22.1	16.2	19.9	15.3	12.1	14.0	3.4	0.9	10.3		
圏域別	高松圏域	792	42.0	38.0	31.3	27.4	22.5	19.2	21.6	15.9	16.3	13.8	15.3	6.2	1.0	5.7		
	東讃圏域	136	40.4	41.9	34.6	27.2	19.1	20.6	17.6	20.6	12.5	16.9	13.2	2.9	1.5	5.1		
	小豆圏域	45	46.7	48.9	33.3	26.7	20.0	20.0	13.3	15.6	6.7	20.0	6.7	11.1	2.2	4.4		
	中讃圏域	418	46.4	38.3	34.2	28.5	21.5	20.8	16.3	14.4	13.6	15.8	16.5	3.6	1.0	6.7		
	西讃圏域	215	43.3	44.2	33.0	25.6	20.0	17.2	18.1	17.7	16.7	14.4	8.4	2.3	1.9	9.8		
居住年数別	3年未満	100	50.0	30.0	48.0	35.0	21.0	11.0	26.0	20.0	13.0	12.0	18.0	5.0	1.0	3.0		
	3年以上～10年未満	172	47.1	40.7	30.2	32.6	23.3	14.0	18.6	14.5	12.2	22.7	19.8	2.9	1.2	2.9		
	10年以上～20年未満	260	45.8	40.8	27.3	31.9	21.5	20.0	17.3	13.8	12.3	19.6	15.4	6.2	1.5	4.2		
	20年以上	1,054	41.7	40.2	33.0	24.9	21.7	21.3	19.2	16.3	16.6	12.7	12.8	4.9	1.1	7.3		

3. 消費生活について

(1)消費者問題への関心の有無について

問12 消費者問題に関心がありますか。次に中から1つだけ選んでください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

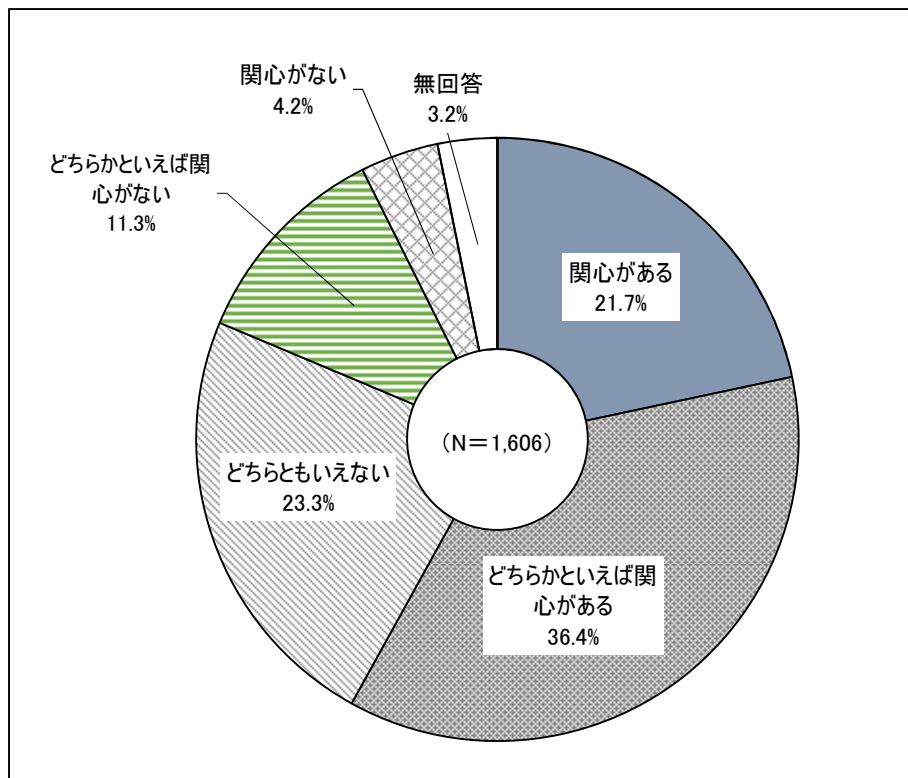
【回答者数=1,606】

1 関心がある	21.7% (21.0%)	} ⇒ 付問2にお進みください
2 どちらかといえば関心がある	36.4% (35.3%)	
3 どちらともいえない	23.3% (24.0%)	
4 どちらかといえば関心がない	11.3% (11.6%)	
5 関心がない	4.2% (5.1%)	
(無回答)	3.2% (3.0%)	

消費者問題への関心の有無について、「どちらかといえば関心がある」36.4%が最も高く、次いで「どちらともいえない」23.3%、「関心がある」21.7%、「どちらかといえば関心がない」11.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば関心がある」35.3%が最も高く、次いで「どちらともいえない」24.0%、「関心がある」21.0%、「どちらかといえば関心がない」11.6%などとなっている。

図表 3-(1)-1 消費者問題への関心の有無について



消費者問題への関心の有無について、性別にみると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある】の割合は『男性』57.9%、『女性』59.1%で、男女とも「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた【関心がない】の割合を上回っている。

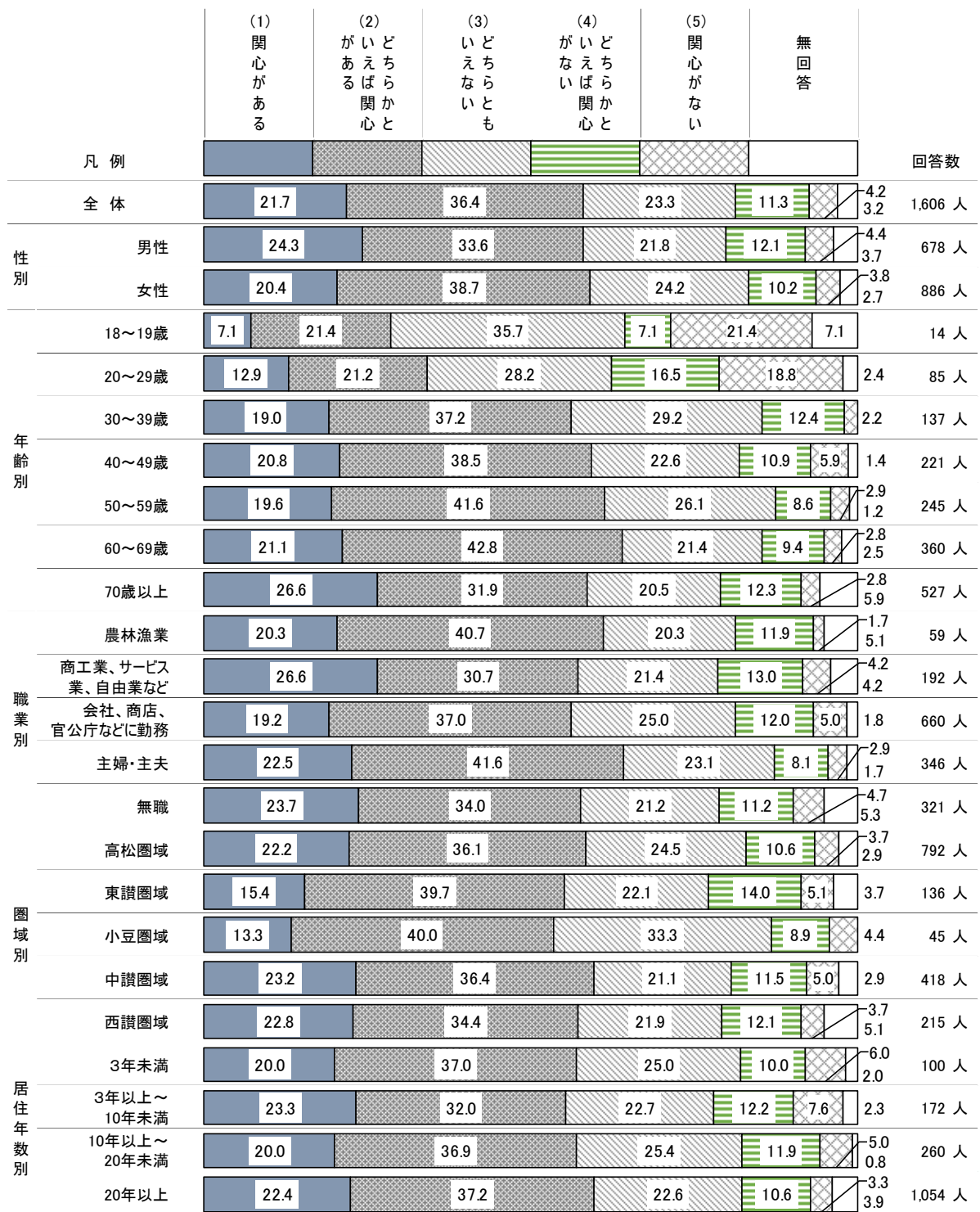
年齢別にみると、『18～19歳』では【関心がある】の割合、【関心がない】の割合が同率の28.5%となっており、『20～29歳』では【関心がない】の割合が【関心がある】の割合を上回っており、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【関心がある】の割合が【関心がない】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【関心がある】の割合が【関心がない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【関心がある】の割合が【関心がない】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【関心がある】の割合が【関心がない】の割合を上回っている。

図表 3-(1)-2 【消費者問題への関心の有無について】



グラフ単位：(%)

(2) 関心がある消費者問題について

【問12で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問2 関心がある消費者問題は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=933】※回答数の多い順に並び替え

1	食品の安全性	74.6%(73.5%)	6	製品事故	22.9%(23.6%)
2	悪質商法	55.6%(54.6%)	7	金融	22.7%(23.8%)
3	詐欺	45.4%(45.6%)	8	多重債務	8.4%(8.8%)
4	資源・エネルギー	43.6%(42.3%)	9	その他	1.0%(1.0%)
5	環境	37.6%(36.9%)		(無回答)	0.5%(0.6%)

関心がある消費者問題について、「食品の安全性」74.6%が最も高く、次いで「悪質商法」55.6%、「詐欺」45.4%、「資源・エネルギー」43.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「食品の安全性」73.5%が最も高く、次いで「悪質商法」54.6%、「詐欺」45.6%、「資源・エネルギー」42.3%などとなっている。

図表 3-(2)-1 関心がある消費者問題について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	933 人
(1) 食品の安全性	74.6	696 人
(2) 悪質商法	55.6	519 人
(3) 詐欺	45.4	424 人
(4) 資源・エネルギー	43.6	407 人
(5) 環境	37.6	351 人
(6) 製品事故	22.9	214 人
(7) 金融	22.7	212 人
(8) 多重債務	8.4	78 人
(9) その他	1.0	9 人
無回答	0.5	5 人

グラフ単位: (%)

関心がある消費者問題について、性別にみると、男女とも「食品の安全性」が最も高く、『男性』67.4%、『女性』80.0%で、これに男女とも「悪質商法」が『男性』59.0%、『女性』52.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「食品の安全性」が6～7割台と最も高く、『18～19歳』では「詐欺」75.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「食品の安全性」が6～8割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「食品の安全性」が6～7割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「食品の安全性」が6～7割台と最も高くなっている。

図表 3-(2)-2 【関心がある消費者問題について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	食品 の 安全 性	悪 質 商 法	詐 欺	資 源 ・ エ ネ ル ギ ー	環 境	製 品 事 故	金 融	多 重 債 務	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体		933	74.6	55.6	45.4	43.6	37.6	22.9	22.7	8.4	1.0	0.5
性別	男性	393	67.4	59.0	48.3	43.8	32.3	25.4	24.2	9.7	0.8	0.8
	女性	524	80.0	52.5	42.7	43.3	41.0	20.8	21.4	7.3	1.1	0.4
年齢別	18～19歳	4	50.0	25.0	75.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	20～29歳	29	62.1	41.4	37.9	37.9	34.5	17.2	37.9	20.7	-	-
	30～39歳	77	72.7	42.9	40.3	33.8	36.4	27.3	29.9	3.9	-	1.3
	40～49歳	131	68.7	55.0	51.9	43.5	35.9	26.7	29.0	16.0	1.5	-
	50～59歳	150	71.3	57.3	52.0	40.7	42.0	22.0	29.3	8.0	2.0	-
	60～69歳	230	78.3	53.9	44.3	50.9	41.7	18.3	19.1	7.8	-	-
	70歳以上	308	77.9	61.0	42.2	43.5	34.1	24.0	16.9	5.8	1.3	1.3
職業別	農林漁業	36	66.7	47.2	44.4	55.6	30.6	16.7	22.2	2.8	2.8	-
	商工業、サービス業、自由業など	110	70.9	55.5	44.5	40.9	40.0	20.0	20.0	6.4	-	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	371	70.6	55.8	51.5	40.7	39.1	23.5	28.3	11.6	1.3	0.3
	主婦・主夫	222	83.8	52.3	38.7	51.8	39.2	23.0	20.3	5.4	0.9	0.9
	無職	185	75.1	61.1	42.7	40.0	32.4	24.9	16.8	7.6	0.5	1.1
圏域別	高松圏域	462	74.9	55.6	42.0	43.7	40.5	20.3	24.0	8.9	0.2	0.4
	東讃圏域	75	69.3	56.0	49.3	46.7	30.7	20.0	20.0	6.7	4.0	-
	小豆圏域	24	75.0	54.2	54.2	37.5	33.3	25.0	20.8	12.5	-	-
	中讃圏域	249	73.1	59.4	52.6	45.4	37.8	24.1	18.1	8.0	1.2	0.8
	西讃圏域	123	79.7	48.0	39.8	39.0	31.7	31.7	29.3	7.3	1.6	0.8
居住年数別	3年未満	57	66.7	43.9	35.1	47.4	52.6	17.5	26.3	1.8	-	-
	3年以上～10年未満	95	76.8	48.4	40.0	40.0	42.1	27.4	26.3	12.6	-	1.1
	10年以上～20年未満	148	75.7	54.7	46.6	41.9	37.8	20.3	27.7	8.8	0.7	-
	20年以上	628	74.7	57.8	47.1	44.4	35.5	23.2	20.9	8.3	1.3	0.6

(3) 消費者トラブルにあった際の相談先について

問13 消費者トラブルにあった際の相談先はどこですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1	商品・サービスの提供元の メーカーのお客様相談窓口	54.9%(55.3%)	
2	県や市町の消費生活センター等の 行政機関の相談窓口	50.9%(48.9%)	
3	家族・知人・同僚など身近な人	38.0%(39.2%)	
4	商品・サービスの勧誘や販売を行う 販売店や代理店など	36.3%(37.1%)	
5	警察	32.9%(32.5%)	
6	国民生活センター	31.3%(30.0%)	
7	消費者団体	12.1%(12.2%)	
8	弁護士や司法書士	8.8%(9.1%)	
9	その他（具体的に：_____）	0.6%(0.7%)	
10	相談しない (無回答)	3.0%(3.2%)	⇒ 付問3にお進みください 5.4%(5.3%)

消費者トラブルにあった際の相談先について、「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」54.9%が最も高く、次いで「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」50.9%、「家族・知人・同僚など身近な人」38.0%、「商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など」36.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」55.3%が最も高く、次いで「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」48.9%、「家族・知人・同僚など身近な人」39.2%、「商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など」37.1%などとなっている。

図表 3-(3)-1 消費者トラブルにあった際の相談先について

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口	54.9	882 人
(2) 県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口	50.9	817 人
(3) 家族・知人・同僚など身近な人	38.0	610 人
(4) 商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など	36.3	583 人
(5) 警察	32.9	529 人
(6) 国民生活センター	31.3	502 人
(7) 消費者団体	12.1	195 人
(8) 弁護士や司法書士	8.8	142 人
(9) その他	0.6	10 人
(10) 相談しない	3.0	48 人
無回答	5.4	87 人

グラフ単位：(%)

消費者トラブルにあった際の相談先について、性別にみると、男女とも「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」が最も高く、『男性』55.8%、『女性』54.9%で、これに男女とも「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」が『男性』49.4%、『女性』52.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「家族・知人・同僚など身近な人」50.0%が最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」が5～6割台と最も高く、『70歳以上』では「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」57.1%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」、「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」が同率の52.6%で最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」が5割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」が5割台と最も高く、『小豆圏域』では「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」、「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」が同率の44.4%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」が5～6割台と最も高く、『3年未満』では65.0%と最も高くなっている。

図表 3-(3)-2 【消費者トラブルにあった際の相談先について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)			
		全体 (人)	の商品・サービスのお客さま相談窓口	政 府 機 関 の 相 談 窓 口	県 市 町 の 消 費 生 活 セ ン ター 等 の 行	家 族 ・ 知 人 ・ 同 僚 な ど 身 近 な 人	販 売 店 ・ サ ー ビ ス の 勧 誘 や 販 売 を 行 う	警 察	国 民 生 活 セ ン ター	消 費 者 団 体	弁 護 士 や 司 法 書 士	そ の 他	相 談 し な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,606	54.9	50.9	38.0	36.3	32.9	31.3	12.1	8.8	0.6	3.0	5.4	
性別	男性	678	55.8	49.4	29.8	40.1	37.3	33.5	12.4	11.8	1.0	4.1	4.9	
	女性	886	54.9	52.5	44.5	34.0	29.8	29.8	11.7	6.8	0.3	2.1	5.2	
年齢別	18～19歳	14	35.7	21.4	50.0	28.6	28.6	7.1	21.4	7.1	-	-	14.3	
	20～29歳	85	58.8	31.8	47.1	36.5	31.8	17.6	10.6	10.6	2.4	8.2	3.5	
	30～39歳	137	62.8	38.7	39.4	51.8	31.4	24.1	9.5	10.2	0.7	2.9	2.9	
	40～49歳	221	62.9	48.9	44.8	39.8	31.7	33.5	11.8	10.4	0.5	3.2	2.7	
	50～59歳	245	57.6	53.1	40.0	42.0	35.1	38.0	11.8	10.6	0.4	0.8	3.3	
	60～69歳	360	58.6	52.8	32.2	35.3	36.4	33.6	10.3	7.5	-	2.5	4.4	
	70歳以上	527	46.7	57.1	36.6	29.6	31.1	30.7	14.6	7.6	0.9	3.4	7.8	
職業別	農林漁業	59	45.8	47.5	30.5	33.9	25.4	28.8	11.9	6.8	-	5.1	8.5	
	商工業、サービス業、自由業など	192	52.6	52.6	29.7	35.4	37.5	37.0	13.0	19.3	3.1	2.6	2.6	
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	58.3	48.5	41.5	39.8	32.9	31.5	12.4	7.7	0.3	3.0	3.8	
	主婦・主夫	346	56.9	55.8	44.2	33.8	30.1	29.5	10.1	5.2	-	2.0	5.2	
	無職	321	50.8	51.4	32.1	34.0	35.5	31.2	14.0	9.7	0.6	3.7	7.5	
圏域別	高松圏域	792	55.8	52.3	36.6	35.7	30.9	33.5	13.0	10.4	0.9	3.3	5.1	
	東讃圏域	136	56.6	54.4	36.8	31.6	30.1	27.9	8.1	6.6	-	0.7	7.4	
	小豆圏域	45	44.4	44.4	28.9	35.6	26.7	22.2	13.3	4.4	-	2.2	8.9	
	中讃圏域	418	53.3	48.3	40.2	40.7	34.4	29.7	12.2	6.7	-	3.3	4.8	
	西讃圏域	215	55.8	49.8	41.4	33.0	40.5	30.2	11.2	9.8	1.4	2.8	6.0	
居住年数別	3年未満	100	65.0	43.0	37.0	55.0	26.0	27.0	8.0	10.0	-	4.0	4.0	
	3年以上～10年未満	172	59.9	46.5	34.3	40.7	32.6	30.2	14.5	11.6	-	2.9	3.5	
	10年以上～20年未満	260	57.3	51.9	39.6	34.6	34.6	28.8	9.6	8.8	0.4	4.2	4.6	
	20年以上	1,054	53.1	52.6	38.5	34.5	33.5	32.7	12.9	8.3	0.9	2.6	5.5	

(4) 相談しなかった理由について

【問13で「10」と答えた方にお聞きします】

付問3 相談しなかった理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

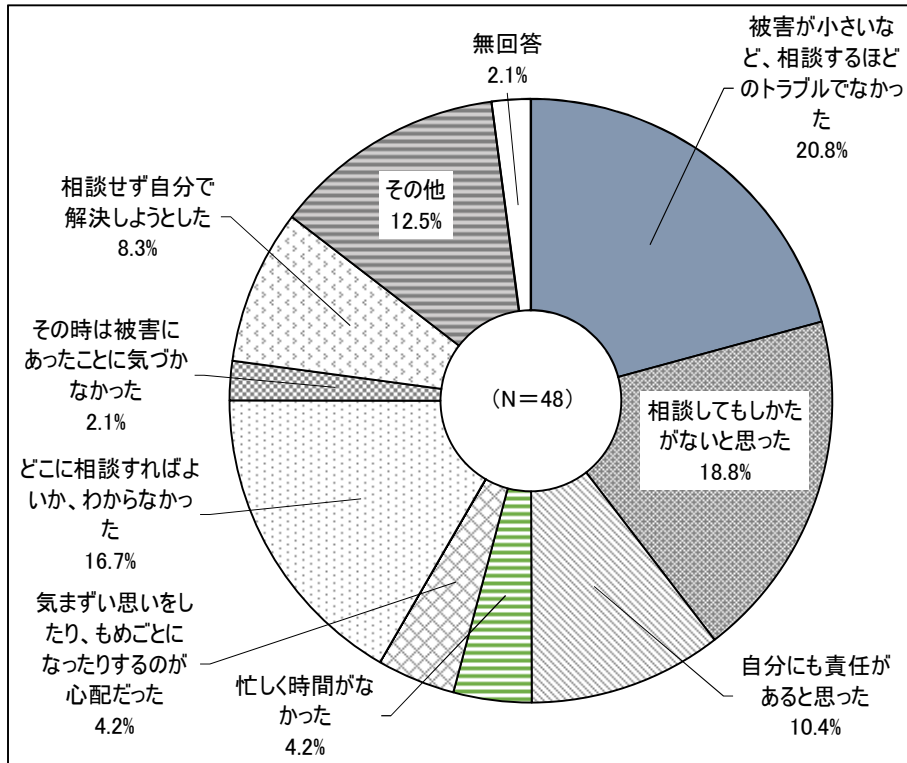
【回答者数=48】

1	被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった	20.8%(18.9%)
2	相談してもしかたがないと思った	18.8%(18.6%)
3	自分にも責任があると思った	10.4%(9.0%)
4	忙しく時間がなかった	4.2%(5.0%)
5	気まずい思いをしたり、もめごとになったりするのが心配だった	4.2%(3.7%)
6	恥ずかしいので、誰にも言えなかった	0.0%(0.0%)
7	どこに相談すればよいか、わからなかった	16.7%(19.6%)
8	その時は被害にあったことに気づかなかった	2.1%(1.8%)
9	相談せず自分で解決しようとした	8.3%(7.3%)
10	その他(具体的に: _____)	12.5%(14.3%)
	(無回答)	2.1%(1.8%)

相談しなかった理由について、「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」20.8%が最も高く、次いで「相談してもしかたがないと思った」18.8%、「どこに相談すればよいか、わからなかった」16.7%、「自分にも責任があると思った」10.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どこに相談すればよいか、わからなかった」19.6%が最も高く、次いで「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」18.9%、「相談してもしかたがないと思った」18.6%、「自分にも責任があると思った」9.0%などとなっている。

図表 3-(4)-1 相談しなかった理由について



相談しなかった理由について、性別にみると、『男性』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」21.4%が最も高く、『女性』では「どこに相談すればよいか、わからなかった」26.3%が最も高くなっている。これに『男性』では「相談してもしかたがないと思った」17.9%と続き、『女性』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」、「相談してもしかたがないと思った」が同率の21.1%と続いている。

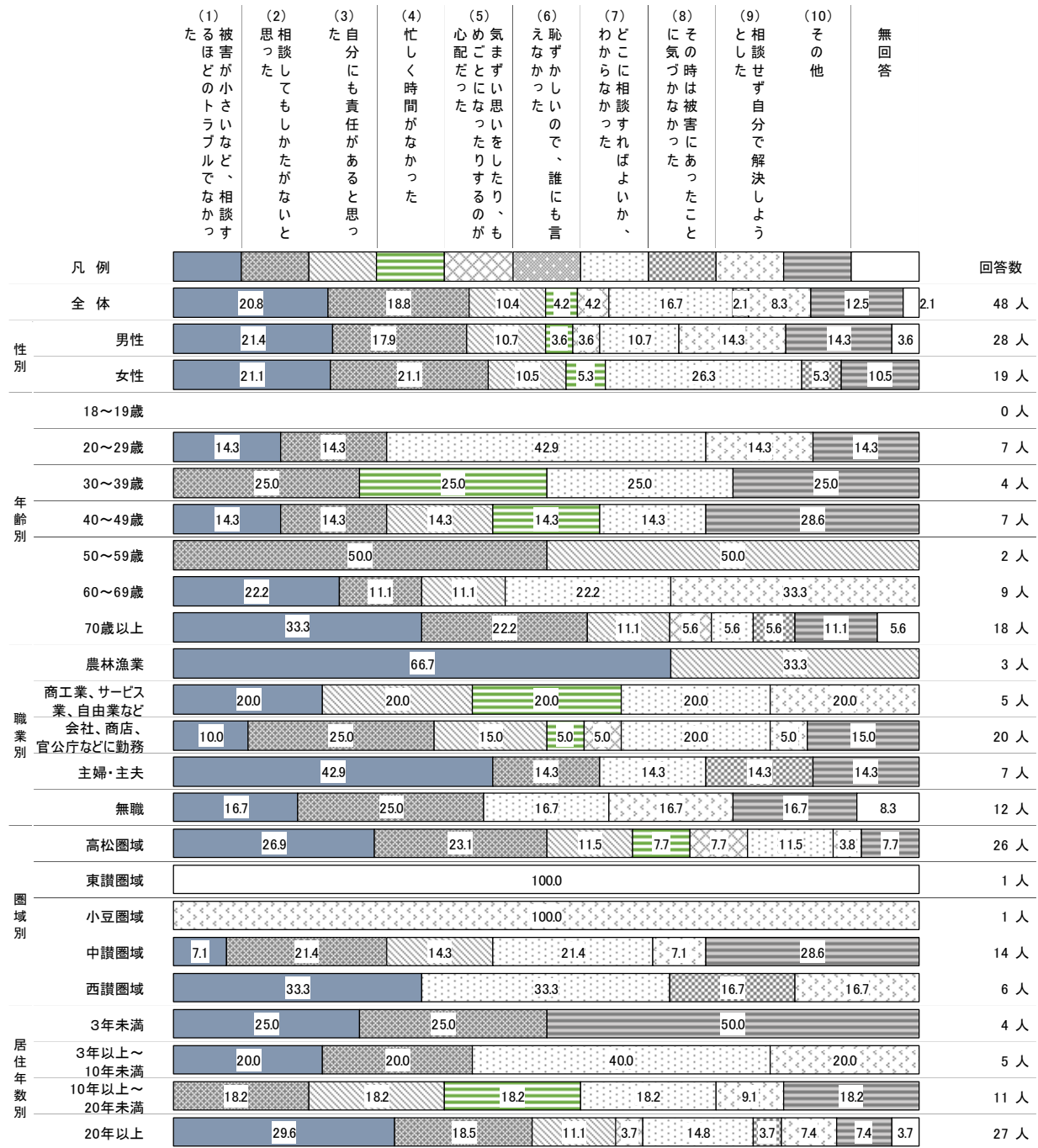
年齢別にみると、『20～29歳』では「どこに相談すればよいか、わからなかった」42.9%が最も高く、『30～39歳』では「相談してもしかたがないと思った」、「忙しく時間がなかった」、「どこに相談すればよいか、わからなかった」が同率の25.0%で最も高く、『50～59歳』では「相談してもしかたがないと思った」、「自分にも責任があると思った」が同率の50.0%で最も高く、『60～69歳』では「相談せず自分で解決しようとした」33.3%が最も高く、『70歳以上』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」33.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」が4～6割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」、「自分にも責任があると思った」、「忙しく時間がなかった」、「どこに相談すればよいか、わからなかった」、「相談せず自分で解決しようとした」が同率の20.0%で最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「相談してもしかたがないと思った」が25.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」26.9%が最も高く、『小豆圏域』では「相談せず自分で解決しようとした」100.0%が最も高く、『西讃圏域』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」、「どこに相談すればよいか、わからなかった」が同率の33.3%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「どこに相談すればよいか、わからなかった」40.0%が最も高く、『10年以上～20年未満』では「相談してもしかたがないと思った」、「自分にも責任があると思った」、「忙しく時間がなかった」、「どこに相談すればよいか、わからなかった」が同率の18.2%で最も高く、『20年以上』では「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」29.6%が最も高くなっている。

図表 3-(4)-2 【相談しなかった理由について】



グラフ単位：(%)

(5)消費者教育を受けた経験の有無について

問14 消費者教育（学校の授業、各種講座や出前講座等）を受けた経験がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

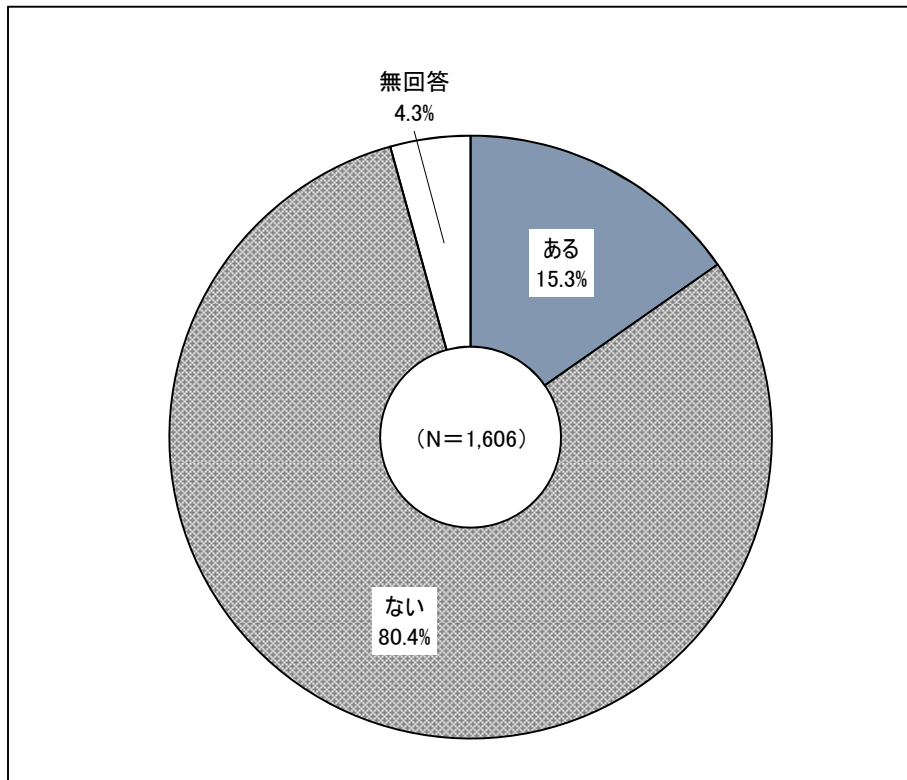
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

1 ある	15.3%(17.2%)	⇒ 付問4にお進みください
2 ない	80.4%(78.5%)	
(無回答)	4.3%(4.3%)	

消費者教育を受けた経験の有無について、「ない」80.4%、「ある」15.3%となっている。
ウェイトバック集計した値をみると、「ない」78.5%、「ある」17.2%となっている。

図表 3-(5)-1 消費者教育を受けた経験の有無について



消費者教育を受けた経験の有無について、性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、『男性』86.4%、『女性』76.3%で、ともに7割を超えている。

年齢別にみると、いずれも「ない」が5～8割台と最も高く、『50～59歳』では86.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『無職』では82.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『中讃圏域』では83.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ない」が7～8割台と最も高く、『20年以上』では82.2%と最も高くなっている。

図表 3-(5)-2 【消費者教育を受けた経験の有無について】

		(1) あ る	(2) な い	無 回 答		
凡 例					回答数	
全 体		15.3	80.4		4.3	1,606 人
性 別	男 性	10.0	86.4		3.5	678 人
	女 性	19.3	76.3		4.4	886 人
年 齢 別	18～19歳	35.7	50.0	14.3		14 人
	20～29歳	34.1	62.4		3.5	85 人
	30～39歳	27.0	70.8		2.2	137 人
	40～49歳	19.5	79.2		1.4	221 人
	50～59歳	11.4	86.5		2.0	245 人
	60～69歳	10.6	86.4		3.1	360 人
	70歳以上	12.1	80.6	7.2		527 人
職 業 別	農林漁業	6.8	81.4	11.9		59 人
	商工業、サービス業、自由業など	14.6	81.3		4.2	192 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	15.9	82.1		2.0	660 人
	主婦・主夫	19.4	76.0		4.6	346 人
	無職	11.8	82.9		5.3	321 人
圏 域 別	高松圏域	16.0	79.8		4.2	792 人
	東讃圏域	15.4	77.2	7.4		136 人
	小豆圏域	24.4	73.3		2.2	45 人
	中讃圏域	12.9	83.7		3.3	418 人
	西讃圏域	14.9	80.0		5.1	215 人
居 住 年 数 別	3年未満	27.0	71.0		2.0	100 人
	3年以上～10年未満	18.0	80.2		1.7	172 人
	10年以上～20年未満	18.8	78.1		3.1	260 人
	20年以上	13.0	82.2		4.8	1,054 人

グラフ単位：(%)

(6) 受けた消費者教育の内容について

【問 14 で「1」と答えた方にお聞きします】

付問 4 あなたは、どのような消費者教育を受けましたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

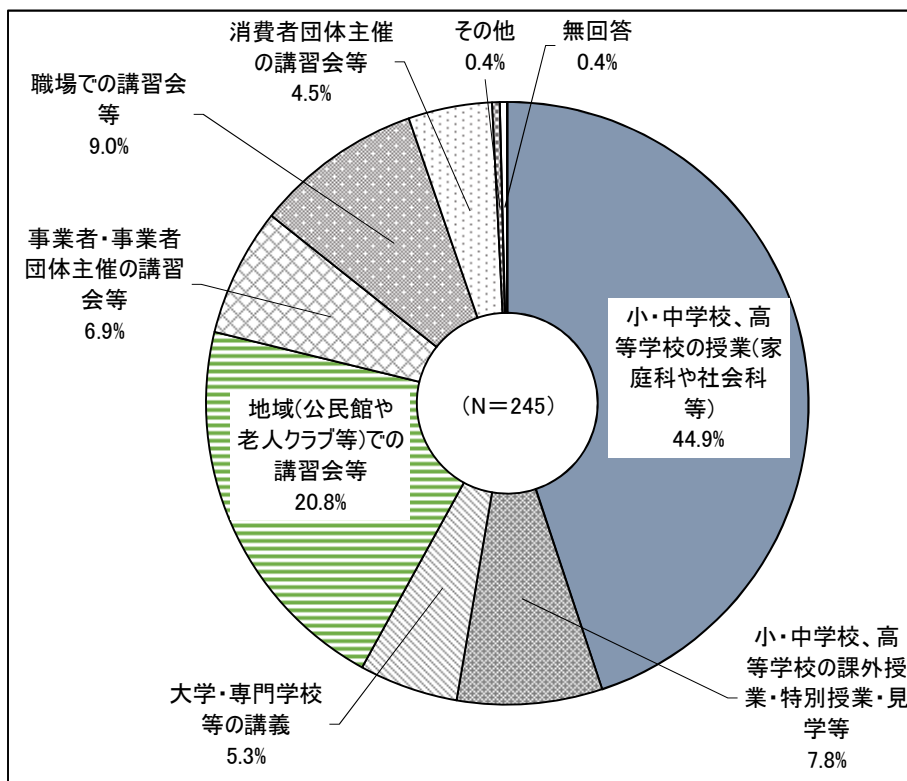
【回答者数=245】

1	小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)	44.9%(49.7%)
2	小・中学校、高等学校の課外授業・特別授業・見学等	7.8%(10.2%)
3	大学・専門学校等の講義	5.3%(6.3%)
4	地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等	20.8%(16.3%)
5	事業者・事業者団体主催の講習会等	6.9%(5.9%)
6	職場での講習会等	9.0%(7.4%)
7	消費者団体主催の講習会等	4.5%(3.5%)
8	その他(具体的に：_____)	0.4%(0.3%)
	(無回答)	0.4%(0.3%)

受けた消費者教育の内容について、「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」44.9%が最も高く、次いで「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」20.8%、「職場での講習会等」9.0%、「小・中学校、高等学校の課外授業・特別授業・見学等」7.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」49.7%が最も高く、次いで「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」16.3%、「小・中学校、高等学校の課外授業・特別授業・見学等」10.2%、「職場での講習会等」7.4%などとなっている。

図表 3-(6)-1 受けた消費者教育の内容について



受けた消費者教育の内容について、性別にみると、男女とも「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」が最も高く、『男性』41.2%、『女性』45.6%で、これに男女とも「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」が『男性』17.6%、『女性』22.8%と続いている。

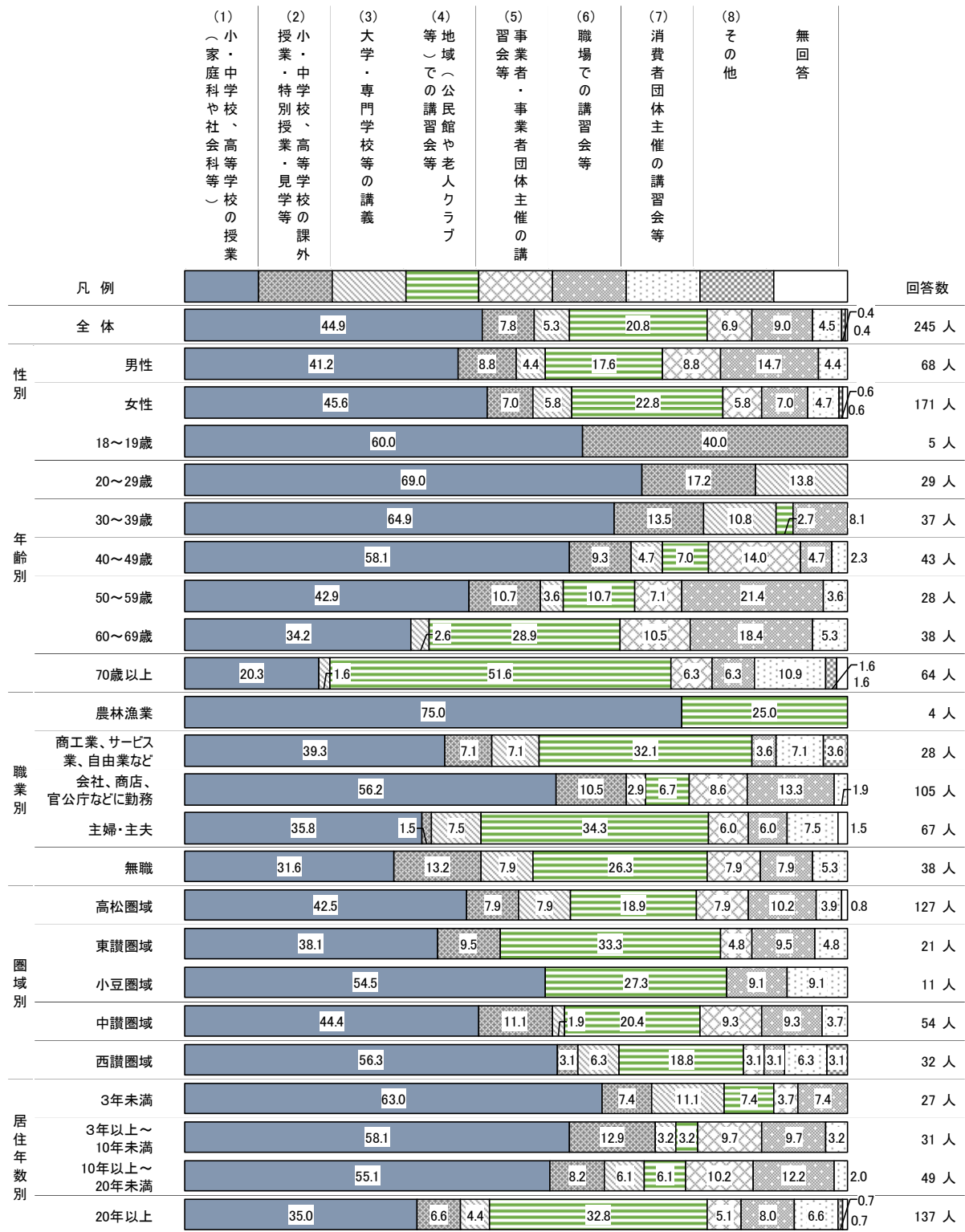
年齢別にみると、『70歳以上』を除くすべての年齢で「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」が3～6割台と最も高く、『70歳以上』では「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」51.6%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」が3～7割台と最も高く、『農林漁業』では75.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」が3～5割台と最も高く、『西讃圏域』では56.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」が3～6割台と最も高く、『3年未満』では63.0%と最も高くなっている。

図表 3-(6)-2 【受けた消費者教育の内容について】



グラフ単位：(%)

4. 健康診断の受診について

(1) 健康診断受診の有無について

問15 あなたは令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）に健康診断を受けましたか。
次の中から1つだけ選んでください。

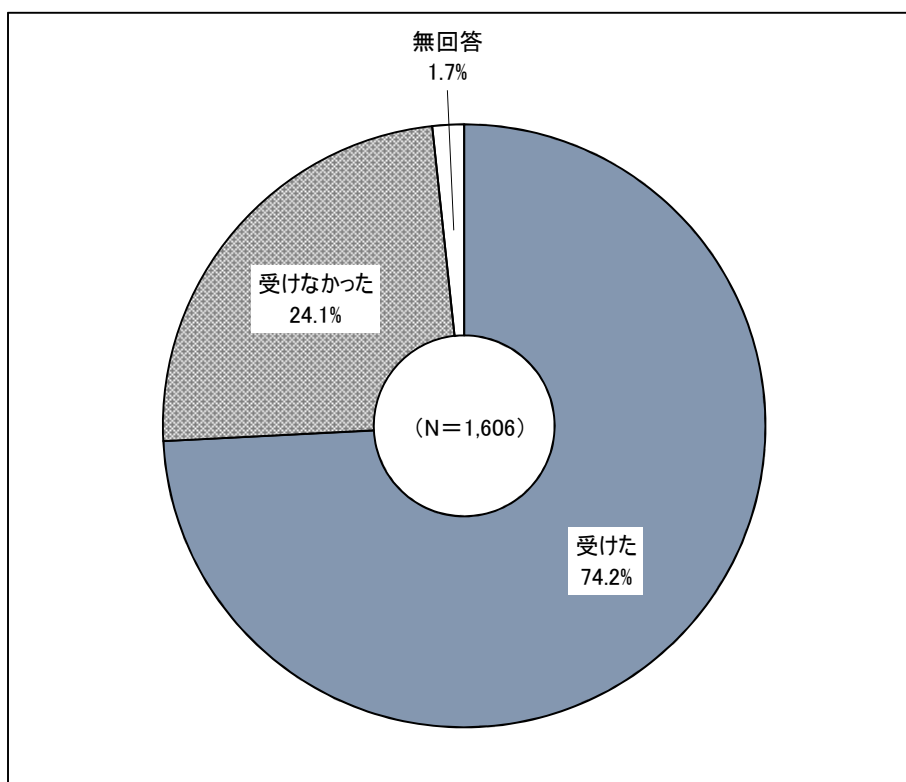
() 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

1 受けた	74.2%(74.3%)	⇒ 付問5にお進みください
2 受けなかった (無回答)	24.1%(24.2%)	⇒ 付問12にお進みください
	1.7%(1.5%)	

健康診断受診の有無について、「受けた」74.2%、「受けなかった」24.1%となっている。
ウェイトバック集計した値をみると、「受けた」74.3%、「受けなかった」24.2%となっている。

図表 4-(1)-1 健康診断受診の有無について



健康診断受診の有無について、性別にみると、男女とも「受けた」が高く、『男性』75.1%、『女性』73.5%で、「受けなかった」が『男性』24.2%、『女性』24.3%となっている。

年齢別にみると、いずれも「受けた」が5～7割台と高く、『20～29歳』では78.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「受けた」が5～8割台と高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では86.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「受けた」が7～8割台と高く、『小豆圏域』では84.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「受けた」が7割台と高く、『3年以上～10年未満』では75.0%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-2 【健康診断受診の有無について】

		(1) 受けた	(2) た受けなかつた	無回答		
凡例					回答数	
全体		74.2	24.1		1.7	1,606人
性別	男性	75.1	24.2		0.7	678人
	女性	73.5	24.3		2.3	886人
年齢別	18～19歳	57.1	42.9			14人
	20～29歳	78.8	21.2			85人
	30～39歳	75.9	24.1			137人
	40～49歳	77.8	21.7		0.5	221人
	50～59歳	75.9	23.3		0.8	245人
	60～69歳	76.7	21.9		1.4	360人
	70歳以上	70.2	26.6		3.2	527人
職業別	農林漁業	52.5	45.8		1.7	59人
	商工業、サービス業、自由業など	63.0	37.0			192人
	会社、商店、官公庁などに勤務	86.2	12.9		0.9	660人
	主婦・主夫	67.9	28.9		3.2	346人
	無職	68.5	29.9		1.6	321人
圏域別	高松圏域	74.2	24.4		1.4	792人
	東讃圏域	72.1	26.5		1.5	136人
	小豆圏域	84.4	13.3		2.2	45人
	中讃圏域	73.9	25.1		1.0	418人
	西讃圏域	74.0	21.9		4.2	215人
居住年数別	3年未満	74.0	25.0		1.0	100人
	3年以上～10年未満	75.0	24.4		0.6	172人
	10年以上～20年未満	73.8	26.2			260人
	20年以上	74.7	23.1		2.2	1,054人

グラフ単位：(%)

(2)「健康診断受診の案内」の内容の理解度について

【問 15 で「1」と答えた方にお聞きします】

付問 5 「健康診断受診の案内」の内容はわかりやすいものでしたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

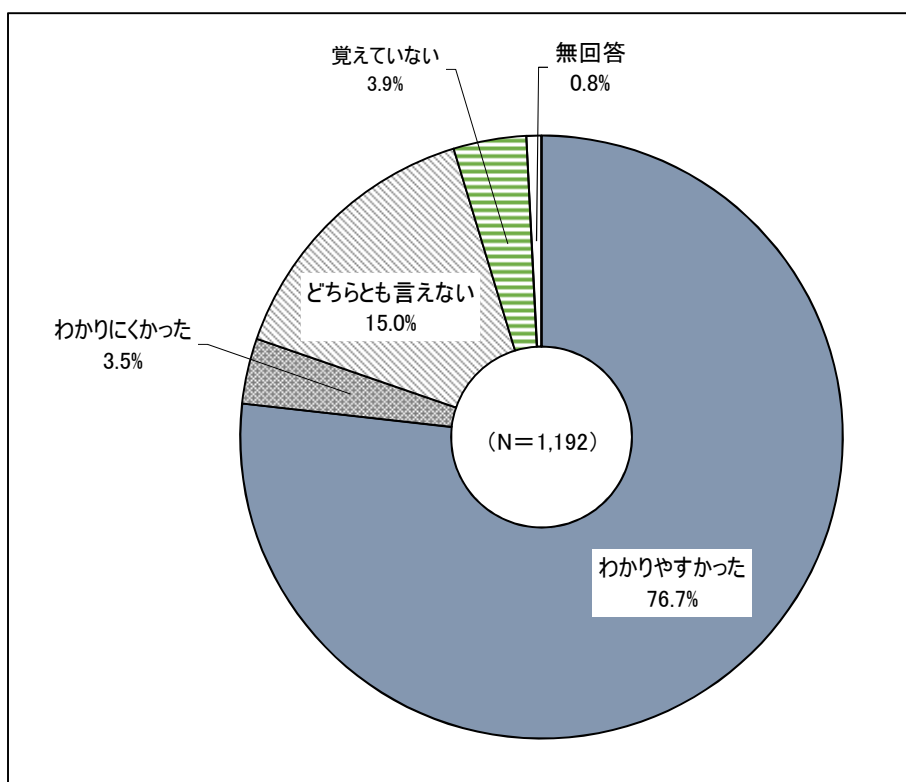
【回答者数=1,192】

1 わかりやすかった	76.7%(75.2%)
2 わかりにくかった	3.5%(3.4%)
3 どちらとも言えない	15.0%(15.1%)
4 覚えていない	3.9%(5.5%)
(無回答)	0.8%(0.8%)

「健康診断受診の案内」の内容の理解度について、「わかりやすかった」76.7%が最も高く、次いで「どちらとも言えない」15.0%、「わかりにくかった」3.5%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「わかりやすかった」75.2%が最も高く、次いで「どちらとも言えない」15.1%、「わかりにくかった」3.4%となっている。

図表 4-(2)-1 「健康診断受診の案内」の内容の理解度について



「健康診断受診の案内」の内容の理解度について、性別にみると、男女とも「わかりやすかった」が最も高く、『男性』75.2%、『女性』78.6%で、これに男女とも「どちらとも言えない」が『男性』15.9%、『女性』14.1%と続いている。

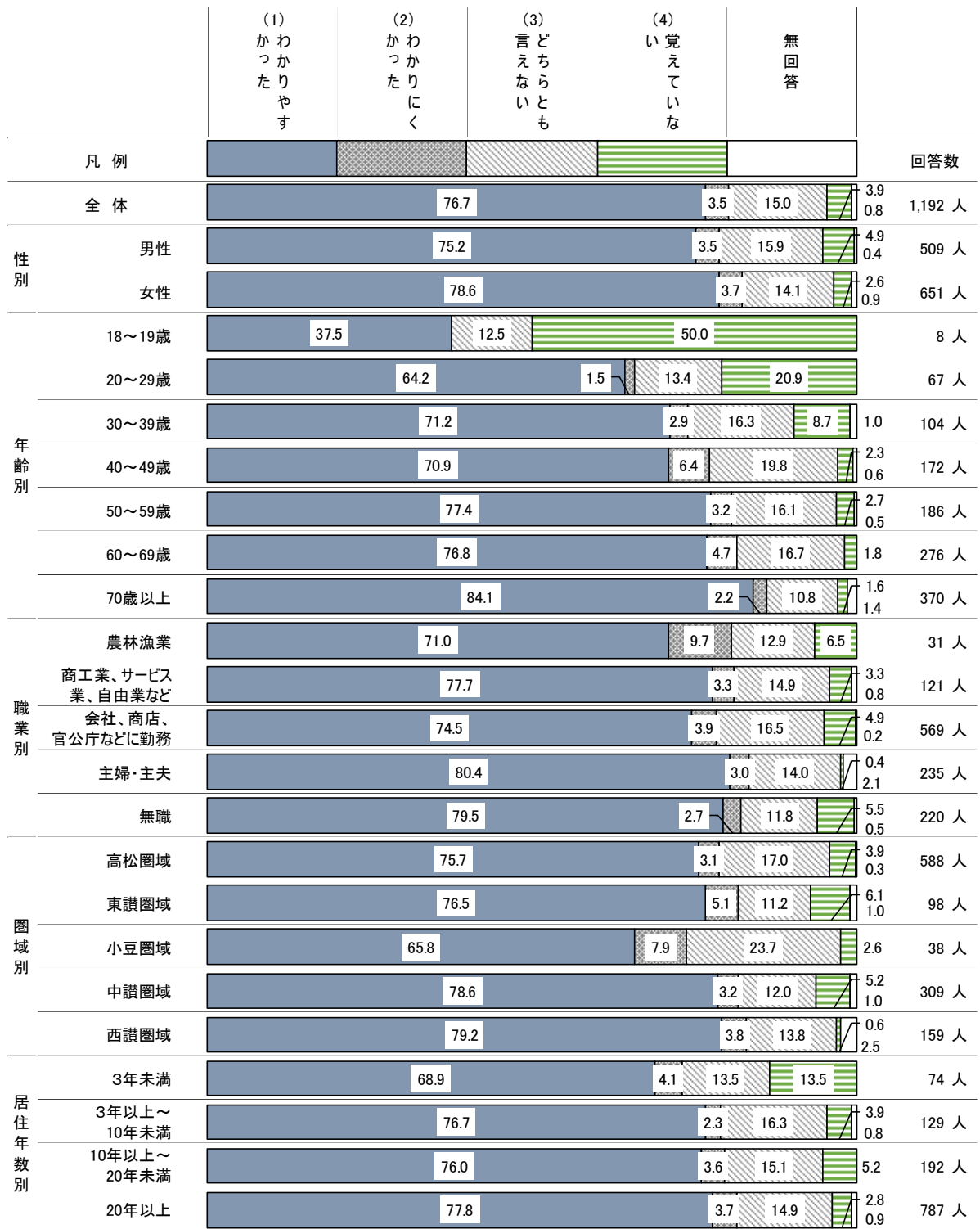
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「わかりやすかった」が6～8割台と最も高く、『18～19歳』では「わかりやすかった」が37.5%であった。

職業別にみると、いずれも「わかりやすかった」が7～8割台と最も高く、『主婦・主夫』では80.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「わかりやすかった」が6～7割台と最も高く、『西讃圏域』では79.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「わかりやすかった」が6～7割台と最も高く、『20年以上』では77.8%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-2 【「健康診断受診の案内」の内容の理解度について】



グラフ単位：(%)

(3)健康診断受診の予約手続きについて

付問6 健康診断の受診の予約手続きはご自分で行いましたか。また、手続きは簡単でしたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

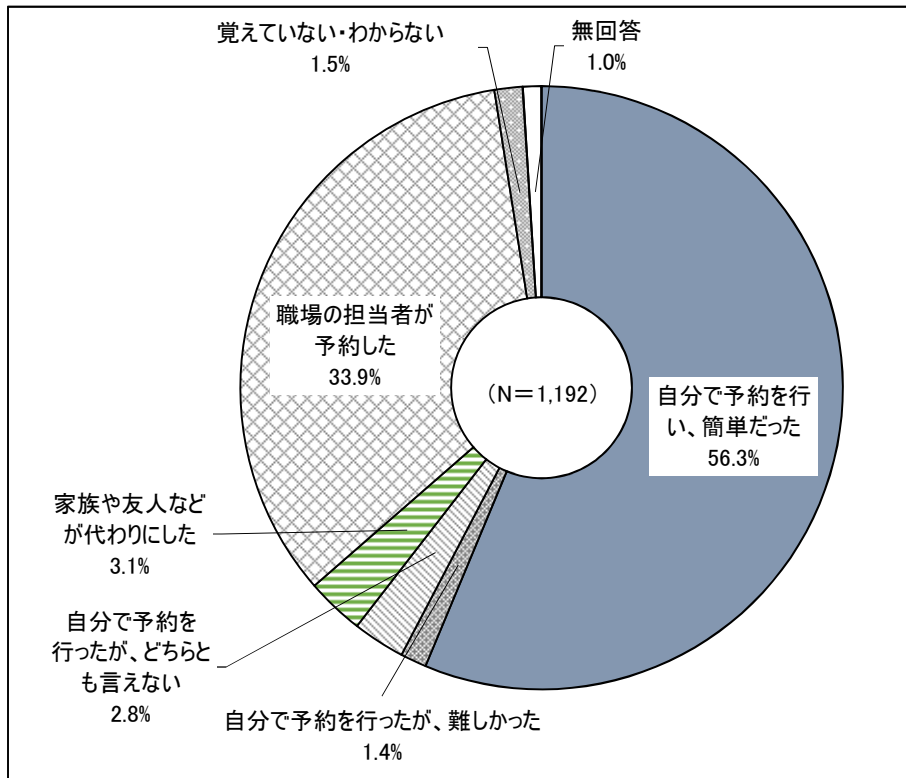
【回答者数=1,192】

1	自分で予約を行い、簡単だった	56.3%(51.9%)	⇒ 付問8にお進みください
2	自分で予約を行ったが、難しかった	1.4%(1.3%)	
3	自分で予約を行ったが、 どちらも言えない	2.8%(2.6%)	⇒ 付問7にお進みください
4	家族や友人などが代わりにした	3.1%(3.0%)	
5	職場の担当者が予約した	33.9%(37.9%)	⇒ 付問8にお進みください
6	覚えていない・わからない (無回答)	1.5%(2.2%) 1.0%(1.1%)	

健康診断受診の予約手続きについて、「自分で予約を行い、簡単だった」56.3%が最も高く、次いで「職場の担当者が予約した」33.9%、「家族や友人などが代わりにした」3.1%、「自分で予約を行ったが、どちらも言えない」2.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分で予約を行い、簡単だった」51.9%が最も高く、次いで「職場の担当者が予約した」37.9%、「家族や友人などが代わりにした」3.0%、「自分で予約を行ったが、どちらも言えない」2.6%などとなっている。

図表 4-(3)-1 健康診断受診の予約手続きについて



健康診断受診の予約手続きについて、性別にみると、男女とも「自分で予約を行い、簡単だった」が最も高く、『男性』51.7%、『女性』60.4%で、これに男女とも「職場の担当者が予約した」が『男性』39.5%、『女性』29.2%と続いている。

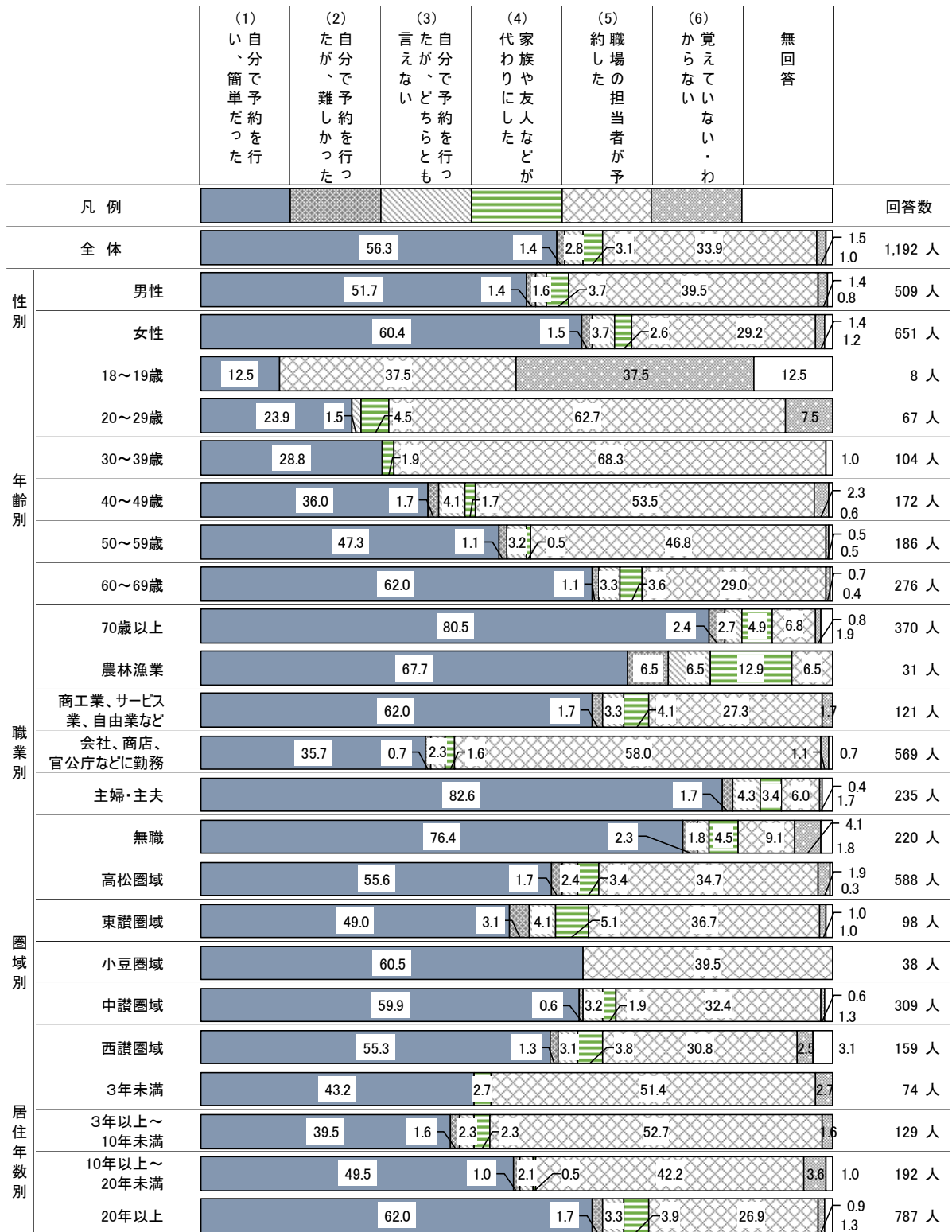
年齢別にみると、『18～19歳』では「職場の担当者が予約した」、「覚えていない・わからない」が同率の37.5%で最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「職場の担当者が予約した」が5～6割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「自分で予約を行い、簡単だった」が4～8割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で、「自分で予約を行い、簡単だった」が6～8割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「職場の担当者が予約した」58.0%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「自分で予約を行い、簡単だった」が4～6割台と最も高く、『小豆圏域』では60.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「職場の担当者が予約した」が5割台と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「自分で予約を行い、簡単だった」が4～6割台と最も高くなっている。

図表 4-(3)-2 【健康診断受診の予約手続きについて】



グラフ単位：(%)

(4)健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由について

【付問6で「2」、「3」、「4」と答えた方にお聞きします】

付問7 健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由、あるいは家族や友人などが代わりに手続きをした理由について、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

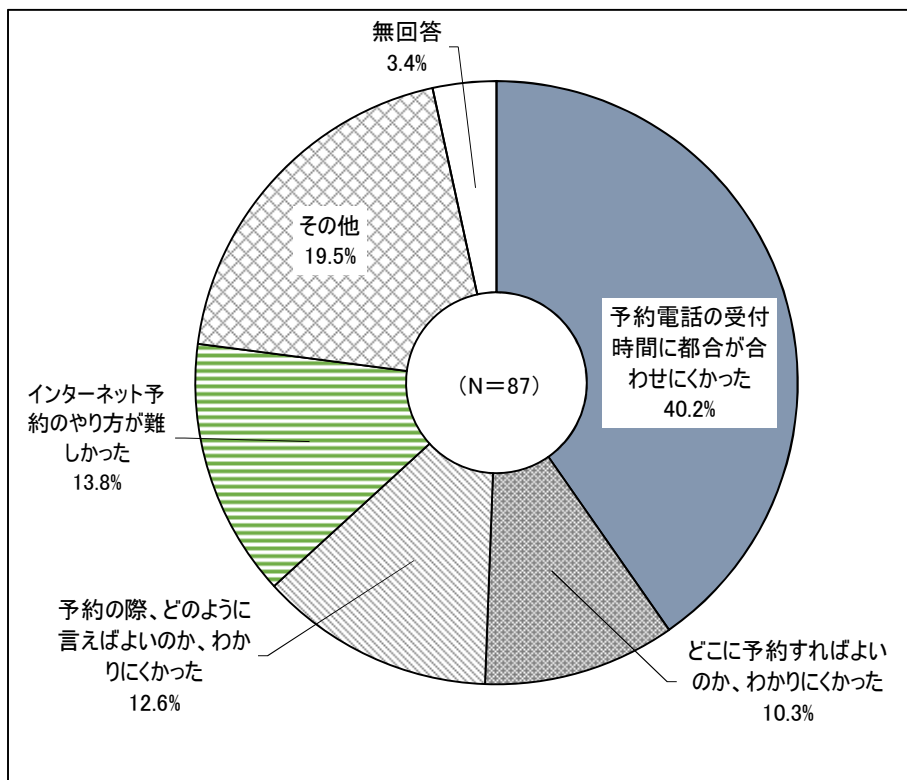
【回答者数=87】

1 予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった	40.2%(41.9%)
2 どこに予約すればよいのか、わかりにくかった	10.3%(9.7%)
3 予約の際、どのように言えばよいのか、わかりにくかった	12.6%(13.3%)
4 インターネット予約のやり方が難しかった	13.8%(12.4%)
5 その他（具体的に：_____）	19.5%(18.9%)
（無回答）	3.4%(3.7%)

健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由について、「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」40.2%が最も高く、次いで「インターネット予約のやり方が難しかった」13.8%、「予約の際、どのように言えばよいのか、わかりにくかった」12.6%、「どこに予約すればよいのか、わかりにくかった」10.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」41.9%が最も高く、次いで「予約の際、どのように言えばよいのか、わかりにくかった」13.3%、「インターネット予約のやり方が難しかった」12.4%、「どこに予約すればよいのか、わかりにくかった」9.7%などとなっている。

図表 4-(4)-1 健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由について



健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由について、男女とも「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」が最も高く、『男性』38.2%、『女性』41.2%で、これに『男性』は「予約の際、どのように言えばよいのか、わかりにくかった」17.6%、『女性』は「インターネット予約のやり方が難しかった」15.7%が続いている。

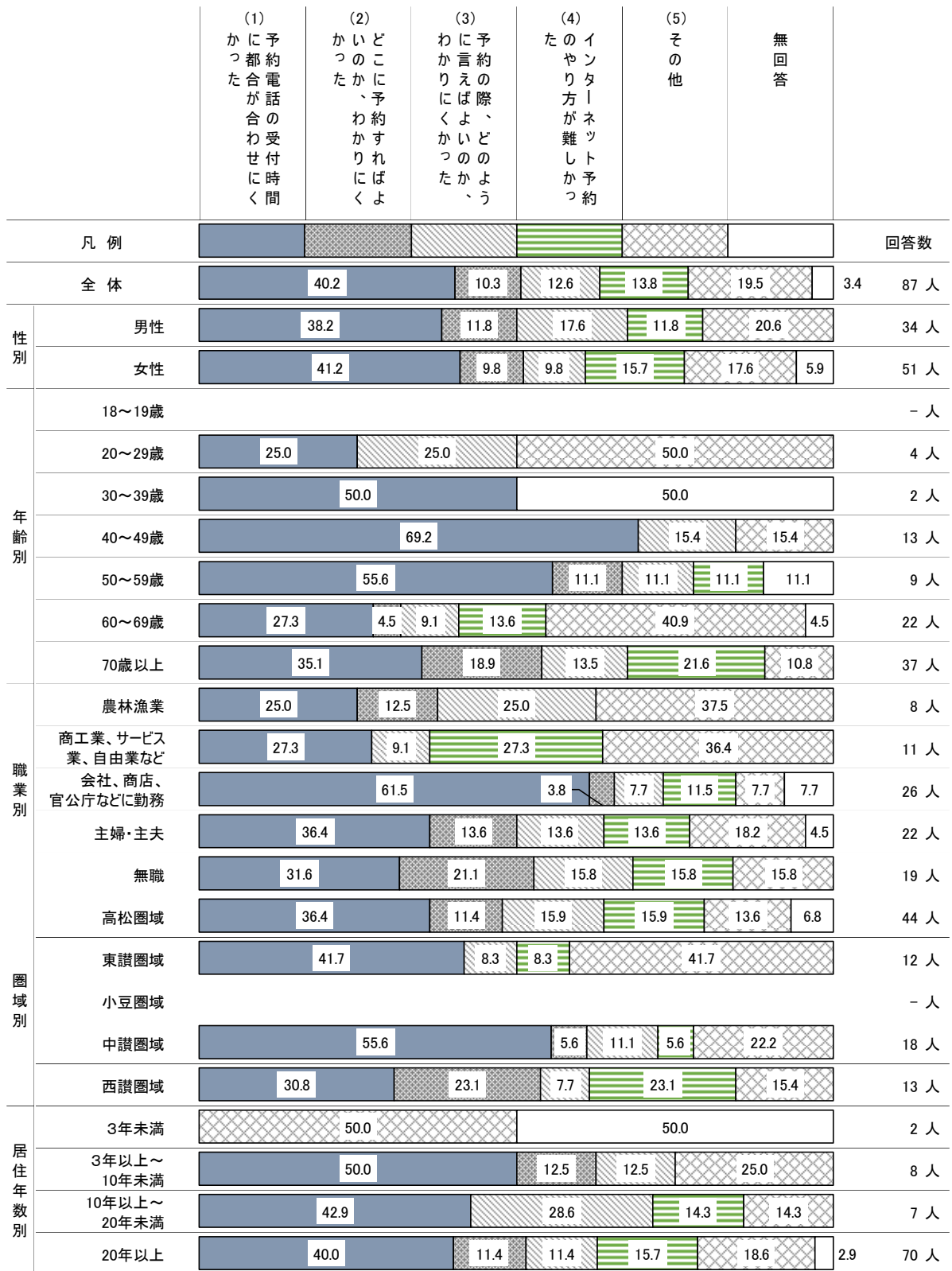
年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」が3～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』、『無職』では「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」が3～6割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」が3～5割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「予約電話の受付時間に都合が合わせにくかった」が4～5割台と最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【健康診断の受診の予約手続きが簡単ではなかった理由について】



グラフ単位：(%)

(5) 健康診断の受診結果の確認の有無について

付問8 健康診断の受診結果を確認しましたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

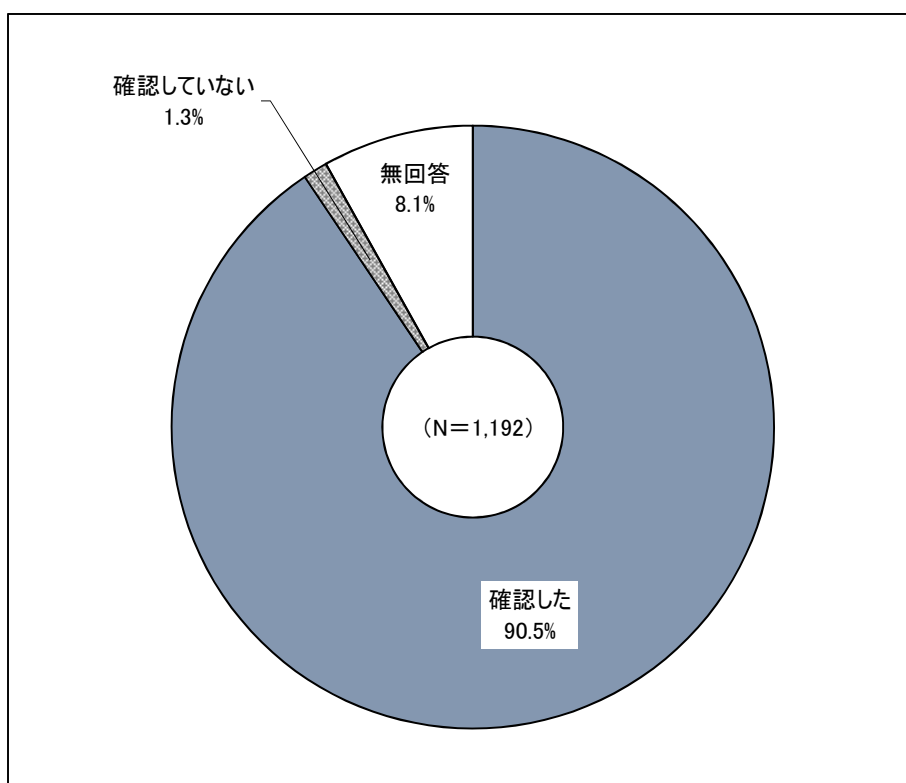
【回答者数=1,192】

1 確認した	90.5%(90.1%) ⇒ 付問9にお進みください
2 確認していない	1.3%(1.7%) ⇒ 付問11にお進みください
(無回答)	8.1%(8.2%)

健康診断の受診結果の確認の有無について、「確認した」90.5%、「確認していない」1.3%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「確認した」90.1%、「確認していない」1.7%となっている。

図表 4-(5)-1 健康診断の受診結果の確認の有無について



健康診断の受診結果の確認の有無について、性別にみると、男女とも「確認した」が高く、『男性』91.2%、『女性』89.9%で、「確認していない」が『男性』1.0%、『女性』1.5%となっている。

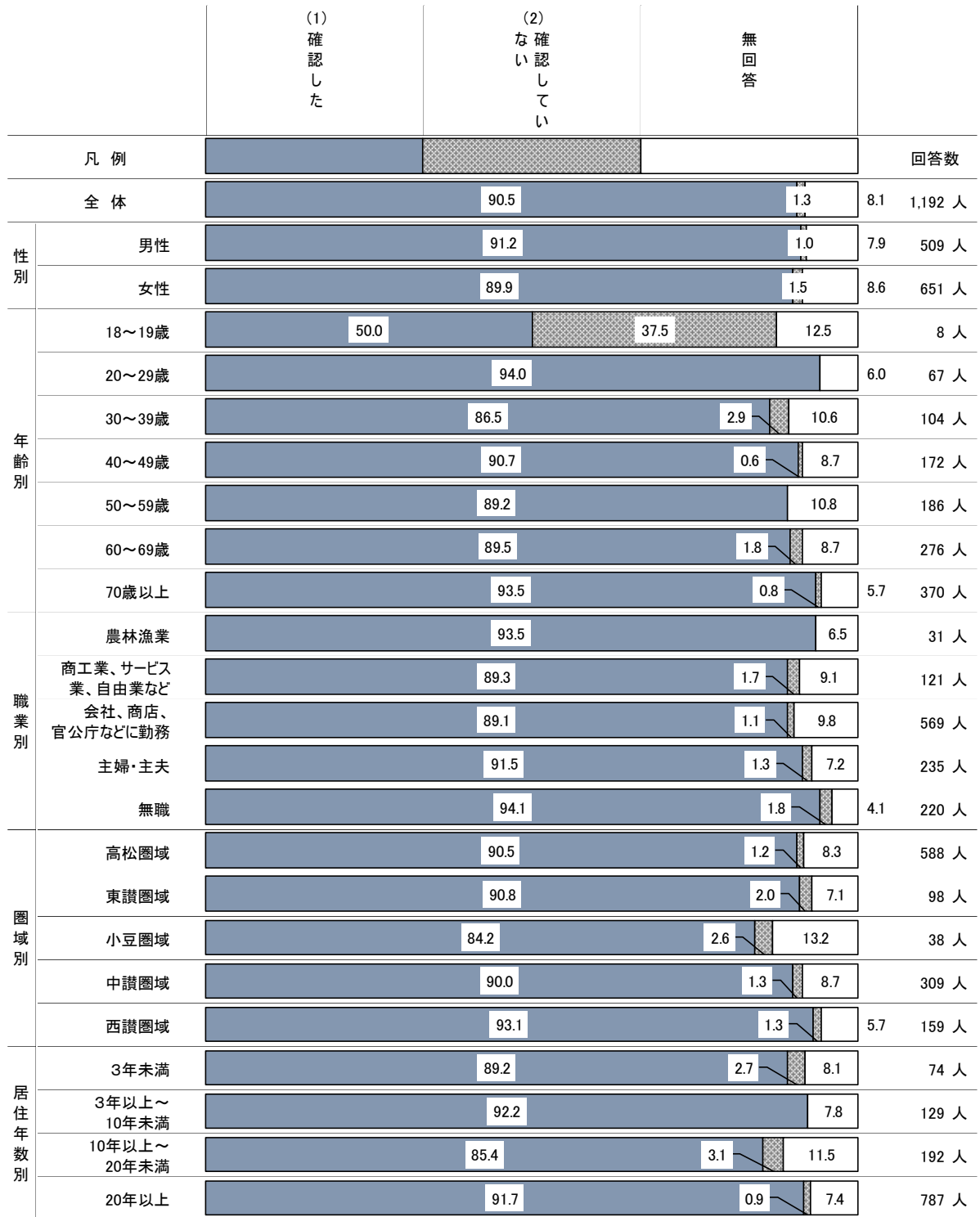
年齢別にみると、いずれも「確認した」が5～9割台と高く、『20～29歳』では94.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「確認した」が8～9割台と高く、『無職』では94.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「確認した」が8～9割台と高く、『西讃圏域』では93.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「確認した」が8～9割台と高く、『3年以上～10年未満』では92.2%と最も高くなっている。

図表 4-(5)-2 健康診断の受診結果の確認の有無について



グラフ単位：(%)

(6) 健診結果を確認した後の自身の生活について

付問9 健診結果を確認した後のあなたの生活について、最も近いものを次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

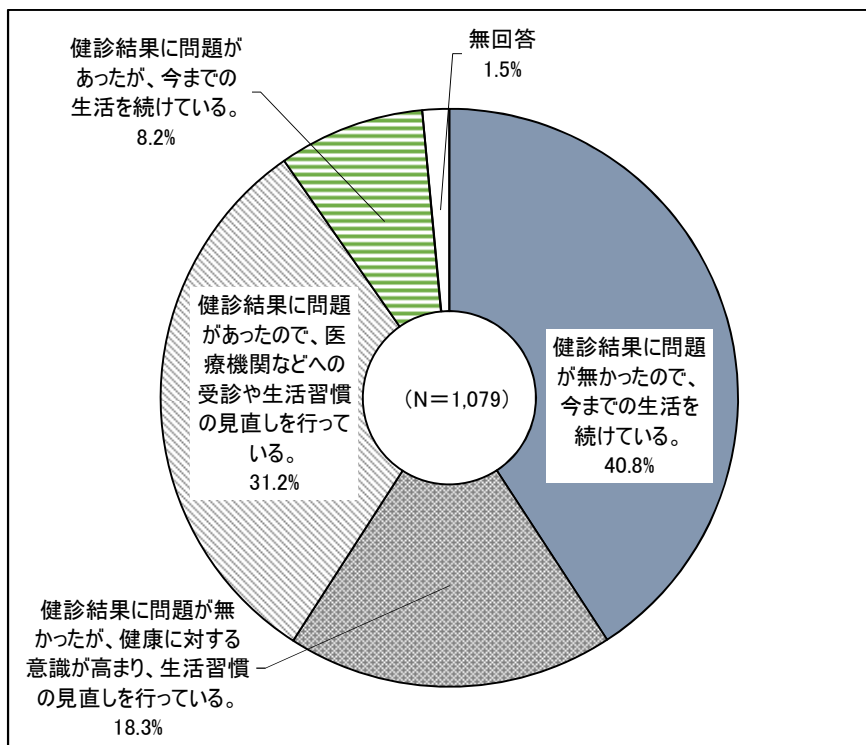
【回答者数=1,079】

- 1 健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている。 40.8%(43.1%) ⇒ 問16にお進みください
- 2 健診結果に問題が無かったが、健康に対する意識が高まり、生活習慣の見直しを行っている。 18.3%(18.3%) ⇒ 問16にお進みください
- 3 健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている。 31.2%(29.1%) ⇒ 問16にお進みください
- 4 健診結果に問題があったが、今までの生活を続けている。 8.2%(8.0%) ⇒ 付問10にお進みください
- (無回答) 1.5%(1.6%)

健診結果を確認した後の自身の生活について、「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている。」40.8%が最も高く、次いで「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている。」31.2%、「健診結果に問題が無かったが、健康に対する意識が高まり、生活習慣の見直しを行っている。」18.3%、「健診結果に問題があったが、今までの生活を続けている。」8.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている。」43.1%が最も高く、次いで「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている。」29.1%、「健診結果に問題が無かったが、健康に対する意識が高まり、生活習慣の見直しを行っている。」18.3%、「健診結果に問題があったが、今までの生活を続けている。」8.0%となっている。

図表 4-(6)-1 健診結果を確認した後の自身の生活について



健診結果を確認した後の自身の生活について、性別にみると、『男性』では「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている」37.1%が最も高く、これに「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」33.2%と続いている。『女性』では「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」45.6%が最も高く、これに「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている」27.0%と続いている。

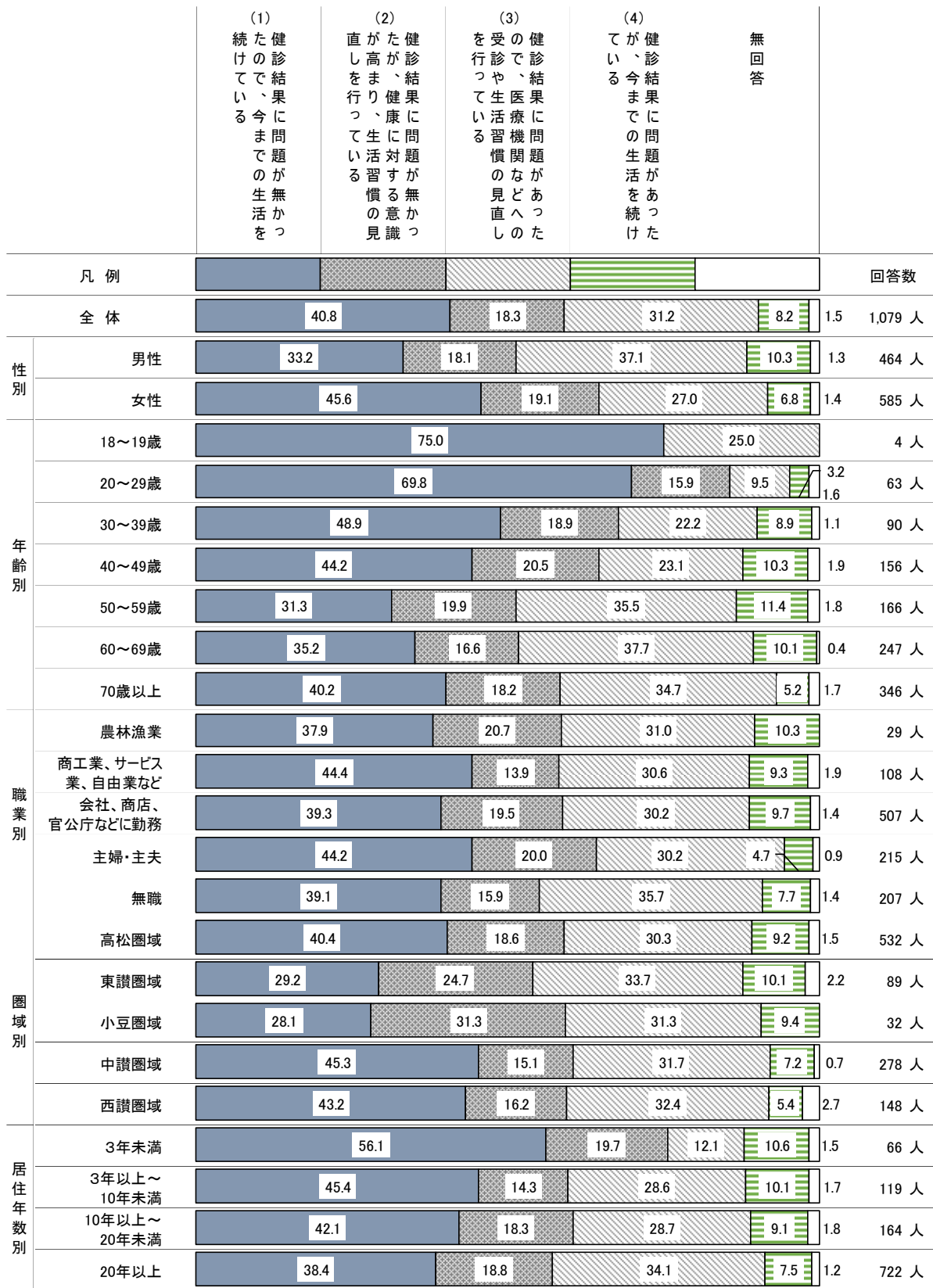
年齢別にみると、『50～59歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢で「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」が4～7割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』では「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている」が3割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」が3～4割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では44.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」が4割台と最も高く、『東讃圏域』では「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている」が33.7%と最も高く、『小豆圏域』では「健診結果に問題が無かったが、健康に対する意識が高まり、生活習慣の見直しを行っている」、「健診結果に問題があったので、医療機関などへの受診や生活習慣の見直しを行っている」が同率の31.3%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「健診結果に問題が無かったので、今までの生活を続けている」が3～5割台と最も高く、『3年未満』では56.1%と最も高くなっている。

図表 4-(6)-2 【健診結果を確認した後の自身の生活について】



グラフ単位：(%)

(7) 健診結果に問題があったが、今の生活を続けている理由について

【付問9で「4」と答えた方にお聞きします】

付問10 健診結果に問題があったが、今までの生活を続けている理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=89】※回答数の多い順に並び替え

- 1 健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから 34.8%(36.6%)
- 2 健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから 28.1%(31.8%)
- 3 生活習慣の改善が面倒だから 28.1%(26.9%)
- 4 医療機関に行くのが面倒だから 24.7%(24.7%)
- 5 健診結果の内容自体がよく分からなかったから 3.4%(3.2%)
- 6 その他（具体的に：_____） 16.9%(15.5%)
(無回答) 3.4%(3.8%)

⇒ 問16にお進みください

健診結果に問題があったが、今の生活を続けている理由について、「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」34.8%が最も高く、次いで「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」、「生活習慣の改善が面倒だから」が同率で28.1%、「医療機関に行くのが面倒だから」24.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」36.6%が最も高く、次いで「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」31.8%、「生活習慣の改善が面倒だから」26.9%、「医療機関に行くのが面倒だから」24.7%などとなっている。

図表 4-(7)-1 健診結果に問題があったが、今の生活を続けている理由について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	89人
(1) 健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから	34.8	31人
(2) 健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから	28.1	25人
(3) 生活習慣の改善が面倒だから	28.1	25人
(4) 医療機関に行くのが面倒だから	24.7	22人
(5) 健診結果の内容自体がよく分からなかったから	3.4	3人
(6) その他	16.9	15人
無回答	3.4	3人

グラフ単位：(%)

健診結果に問題があったが、今の生活を続けている理由について、性別にみると、『男性』では「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」45.8%が最も高く、これに「生活習慣の改善が面倒だから」29.2%と続いている。『女性』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」32.5%が最も高く、これに「医療機関に行くのが面倒だから」、「生活習慣の改善が面倒だから」が同率の27.5%で続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」、「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」が同率の50.0%で最も高く、『30～39歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」が3～6割台と最も高く、『40～49歳』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」56.3%が最も高く、『60～69歳』では「生活習慣の改善が面倒だから」36.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」が4～6割台と最も高く、『主婦・主夫』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」40.0%が最も高く、『無職』では「生活習慣の改善が面倒だから」43.8%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」38.8%が最も高く、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」が5～6割台と最も高くなっている。『小豆圏域』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」、「医療機関に行くのが面倒だから」が同率の33.3%で最も高く、『中讃圏域』では「生活習慣の改善が面倒だから」45.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』では「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」が3～4割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「健診結果の内容から、具体的にどうすればよいか、わからなかったから」、「健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だと思っているから」が同率の41.7%で最も高く、『10年以上～20年未満』では「医療機関に行くのが面倒だから」46.7%が最も高くなっている。

図表 4-(7)-2 【健診結果に問題があったが、今の生活を続けている理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
		全体 (人)	と健診結果が悪かったが、自分はまだ大丈夫だ と思っ ているから	い か、 健診 結果 の 内 容 か ら な か っ た か ら	生 活 習 慣 の 改 善 が 面 倒 だ か ら	医 療 機 関 に 行 く の が 面 倒 だ か ら	ら 健 診 結 果 の 内 容 自 体 が よ く 分 か ら な か っ た か	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)									
全体		89	34.8	28.1	28.1	24.7	3.4	16.9	3.4
性別	男性	48	45.8	25.0	29.2	22.9	4.2	14.6	2.1
	女性	40	22.5	32.5	27.5	27.5	2.5	17.5	5.0
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	30～39歳	8	62.5	37.5	25.0	37.5	-	-	-
	40～49歳	16	31.3	56.3	31.3	25.0	6.3	18.8	12.5
	50～59歳	19	36.8	31.6	21.1	31.6	-	15.8	-
	60～69歳	25	28.0	8.0	36.0	28.0	4.0	24.0	-
	70歳以上	18	33.3	22.2	27.8	11.1	5.6	11.1	5.6
職業別	農林漁業	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	10	50.0	20.0	40.0	40.0	10.0	10.0	10.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	49	40.8	30.6	24.5	32.7	2.0	14.3	2.0
	主婦・主夫	10	10.0	40.0	20.0	20.0	-	40.0	-
	無職	16	18.8	18.8	43.8	-	6.3	12.5	6.3
圏域別	高松圏域	49	38.8	20.4	22.4	24.5	6.1	22.4	6.1
	東讃圏域	9	33.3	55.6	33.3	33.3	-	-	-
	小豆圏域	3	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-
	中讃圏域	20	25.0	20.0	45.0	20.0	-	15.0	-
	西讃圏域	8	50.0	62.5	25.0	25.0	-	-	-
居住年数別	3年未満	7	42.9	14.3	14.3	28.6	-	42.9	-
	3年以上～10年未満	12	41.7	41.7	16.7	33.3	-	16.7	8.3
	10年以上～20年未満	15	33.3	40.0	40.0	46.7	-	-	6.7
	20年以上	54	33.3	24.1	29.6	16.7	5.6	16.7	1.9

(8)健康診断の受診結果を確認していない理由について

【付問8で「2」と答えた方にお聞きします】

付問11 健康診断の受診結果を確認していない理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=16】※回答数の多い順に並び替え

- 1 健診結果が来たのかどうか、わからない 25.0%(31.5%)
- 2 健診結果を見るのが面倒だったから 12.5%(25.0%)
- 3 健診結果を見ても、よくわからないだろうから 6.3%(4.6%)
- 4 健診結果を見るのが恐かったから 0.0%(0.0%)
- 5 その他（具体的に：_____） 56.3%(39.0%)

⇒ 問 16 にお進みください

健康診断の受診結果を確認していない理由について、「健診結果が来たのかどうか、わからない」25.0%が最も高く、次いで「健診結果を見るのが面倒だったから」12.5%、「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」6.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健診結果が来たのかどうか、わからない」31.5%が最も高く、次いで「健診結果を見るのが面倒だったから」25.0%、「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」4.6%などとなっている。

図表 4-(8)-1 健康診断の受診結果を確認していない理由について

		回答数
全 体	100.0	16 人
(1) 健診結果が来たのかどうか、わからない	25.0	4 人
(2) 健診結果を見るのが面倒だったから	12.5	2 人
(3) 健診結果を見ても、よくわからないだろうから	6.3	1 人
(4) 健診結果を見るのが恐かったから	0.0	- 人
(5) その他	56.3	9 人

グラフ単位：(%)

健康診断の受診結果を確認していない理由について、性別にみると『男性』では「健診結果を見るのが面倒だったから」、「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」、「健診結果が来たのかどうか、わからない」が同率の20.0%で最も高く、『女性』では「健診結果が来たのかどうか、わからない」20.0%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「健診結果を見るのが面倒だったから」66.7%が最も高く、『30～39歳』では「健診結果が来たのかどうか、わからない」66.7%が最も高く、『70歳以上』では「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」33.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「健診結果が来たのかどうか、わからない」33.3%が最も高く、『無職』では「健診結果を見るのが面倒だったから」50.0%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』では「健診結果が来たのかどうか、わからない」が4割台～10割と最も高く、『東讃圏域』では「健診結果を見るのが面倒だったから」50.0%が最も高く、『西讃圏域』では「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」50.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「健診結果が来たのかどうか、わからない」100.0%が最も高く、『10年以上～20年未満』では「健診結果を見るのが面倒だったから」33.3%が最も高く、『20年以上』では「健診結果を見ても、よくわからないだろうから」、「健診結果が来たのかどうか、わからない」が同率の14.3%で最も高くなっている。

図表 4-(8)-2 【健康診断の受診結果を確認していない理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		全体 (人)	健 診 結 果 が 来 た の か ど う か 、 わ か ら な い	健 診 結 果 を 見 る の が 面 倒 だ っ た か ら	ら 健 診 結 果 を 見 て も 、 よ く わ か ら な い だ ろ う か	健 診 結 果 を 見 る の が 恐 か っ た か ら	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)								
全体		16	25.0	12.5	6.3	-	56.3	-
性別	男性	5	20.0	20.0	20.0	-	40.0	-
	女性	10	20.0	10.0	-	-	70.0	-
年齢別	18～19歳	3	33.3	66.7	-	-	-	-
	20～29歳	-	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	3	66.7	-	-	-	33.3	-
	40～49歳	1	-	-	-	-	100.0	-
	50～59歳	-	-	-	-	-	-	-
	60～69歳	5	-	-	-	-	100.0	-
	70歳以上	3	-	-	33.3	-	66.7	-
職業別	農林漁業	-	-	-	-	-	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	2	-	-	-	-	100.0	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	6	33.3	-	-	-	66.7	-
	主婦・主夫	3	-	-	-	-	100.0	-
	無職	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-
圏域別	高松圏域	7	42.9	14.3	-	-	42.9	-
	東讃圏域	2	-	50.0	-	-	50.0	-
	小豆圏域	1	100.0	-	-	-	-	-
	中讃圏域	4	-	-	-	-	100.0	-
	西讃圏域	2	-	-	50.0	-	50.0	-
居住年数別	3年未満	2	100.0	-	-	-	-	-
	3年以上～10年未満	-	-	-	-	-	-	-
	10年以上～20年未満	6	-	33.3	-	-	66.7	-
	20年以上	7	14.3	-	14.3	-	71.4	-

(9)「健康診断受診の案内」を見たかどうかについて

【問15で「2」と答えた方にお聞きします】

付問12 「健康診断受診の案内」を見ましたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

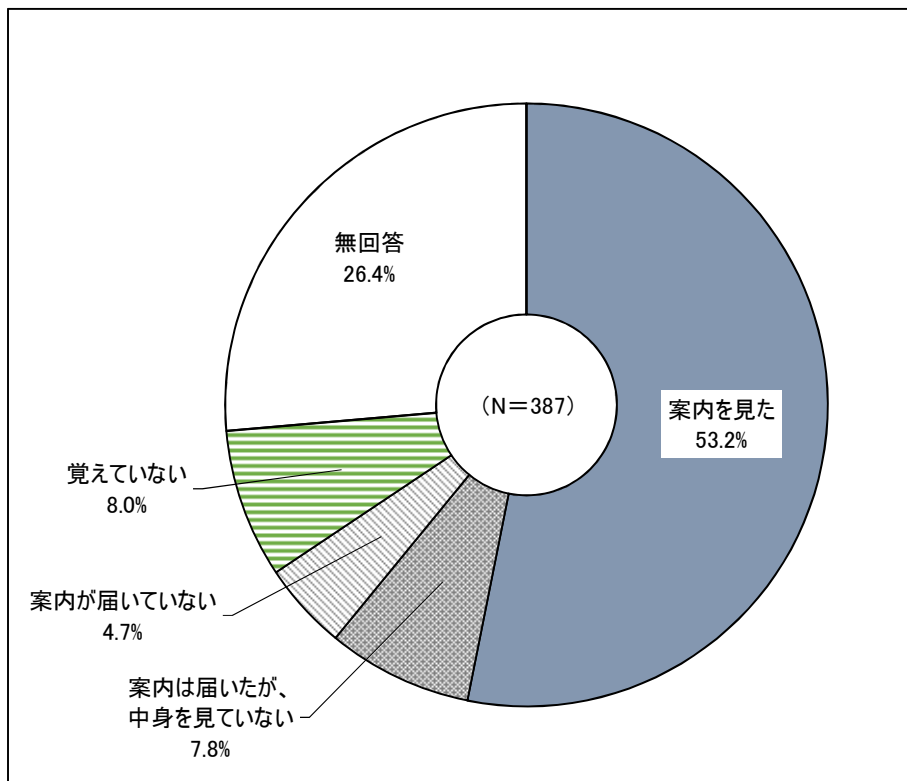
【回答者数=387】

1 案内を見た	53.2%(50.0%)	⇒ 付問14にお進みください
2 案内は届いたが、中身を見ていない	7.8%(7.0%)	⇒ 付問13にお進みください
3 案内が届いていない	4.7%(6.7%)	} ⇒ 付問14にお進みください
4 覚えていない	8.0%(10.9%)	
(無回答)	26.4%(25.5%)	

「健康診断受診の案内」を見たかどうかについて、「案内を見た」53.2%が最も高く、「案内は届いたが、中身を見ていない」が7.8%、「案内が届いていない」が4.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「案内を見た」50.0%が最も高く、「案内は届いたが、中身を見ていない」が7.0%、「案内が届いていない」が6.7%などとなっている。

図表 4-(9)-1 「健康診断受診の案内」を見たかどうかについて



「健康診断受診の案内」を見たかどうかについて、性別にみると、男女とも「案内を見た」が最も高く、『男性』48.8%、『女性』56.7%で、「案内は届いたが、中身を見ていない」が『男性』13.4%、『女性』3.7%となっている。

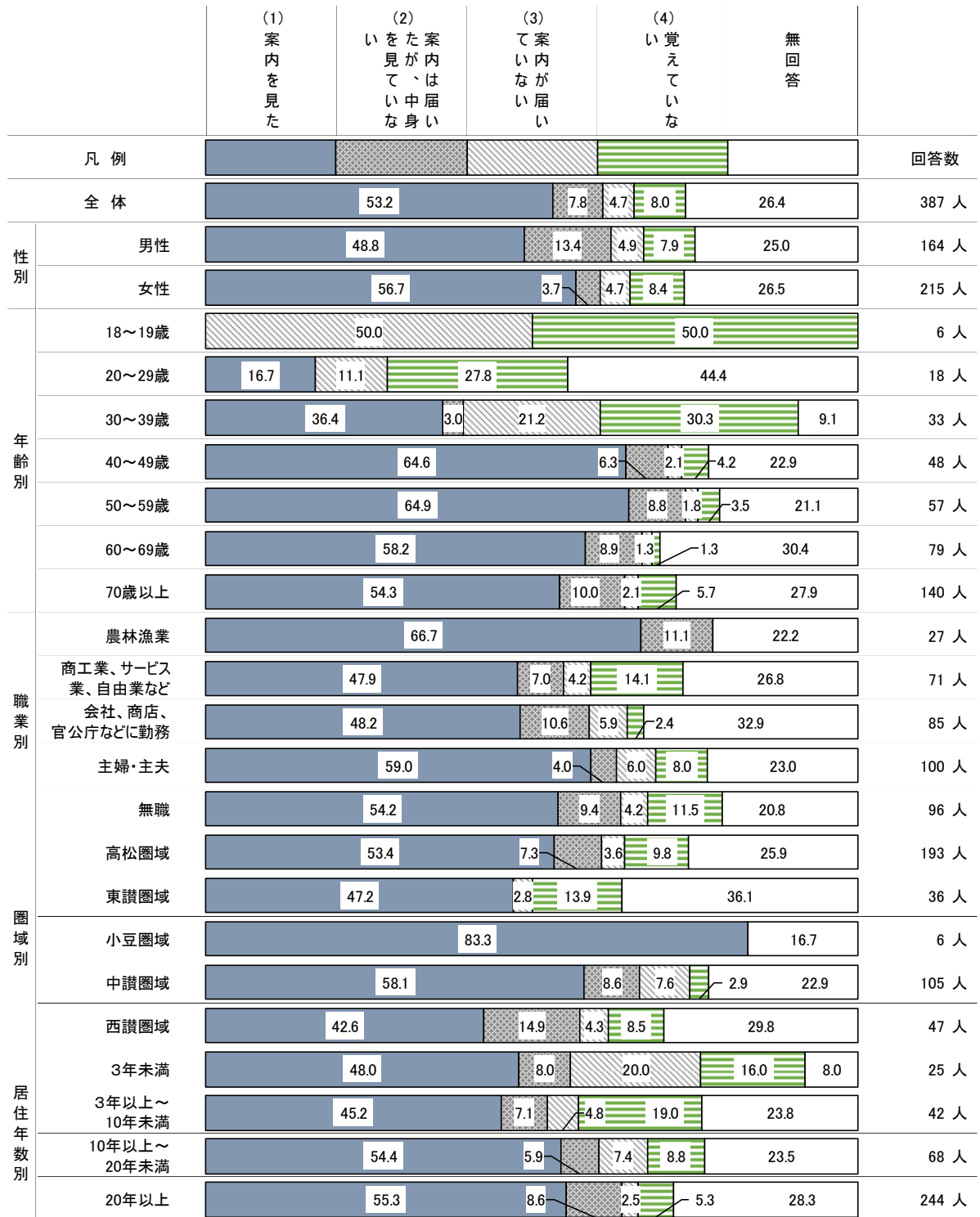
年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』を除くすべての年齢で「案内を見た」が3～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「案内を見た」が4～6割台と最も高く、『農林漁業』では66.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「案内を見た」が4～8割台と最も高く、『小豆圏域』では83.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「案内を見た」が4～5割台と最も高く、『20年以上』では55.3%と最も高くなっている。

図表 4-(9)-2 【「健康診断受診の案内」を見たかどうかについて】



グラフ単位：(%)

(10)健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について

【付問12で「2」と答えた方にお聞きします】

付問13 健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=30】※回答数の多い順に並び替え

- 1 受診するつもりが無いから 66.7%(66.4%)
- 2 封筒やハガキが開けにくかったから 10.0%(11.8%)
- 3 封筒やハガキが重要そうに見えなかったから 3.3%(5.1%)
- 4 その他 23.3%(21.6%)
- (無回答) 3.3%(3.5%)

⇒ 付問14にお進みください

健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について、「受診するつもりが無いから」66.7%が最も高く、次いで「封筒やハガキが開けにくかったから」10.0%、「封筒やハガキが重要そうに見えなかったから」3.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「受診するつもりが無いから」66.4%が最も高く、次いで「封筒やハガキが開けにくかったから」11.8%、「封筒やハガキが重要そうに見えなかったから」5.1%などとなっている。

図表 4-(10)-1 健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について

		回答数
全体	100.0	30人
(1) 受診するつもりが無いから	66.7	20人
(2) 封筒やハガキが開けにくかったから	10.0	3人
(3) 封筒やハガキが重要そうに見えなかったから	3.3	1人
(4) その他	23.3	7人
無回答	3.3	1人

グラフ単位：(%)

健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について、性別にみると、男女とも「受診するつもりが無いから」が最も高く、『男性』59.1%、『女性』87.5%で、これに『男性』は「封筒やハガキが開けにくかったから」13.6%が続いている。

年齢別にみると、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「受診するつもりが無いから」が5割台～10割と最も高く、『30～39歳』では「封筒やハガキが開けにくかったから」、「封筒やハガキが重要そうに見えなかったから」が同率の100.0%で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「受診するつもりが無いから」が5割台～10割と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「受診するつもりが無いから」が4割台～10割と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「受診するつもりが無いから」が5割台～10割と最も高く、『3年以上～10年未満』では「封筒やハガキが開けにくかったから」66.7%が最も高くなっている。

図表 4-(10)-2 【健康診断受診の案内は届いたが、中身を見ていない理由について】

			(1)	(2)	(3)	(4)	
		全体 (人)	受診するつもりが無いから	封筒やハガキが開けにくかったから	封筒やハガキが重要そうに見えなかったから	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)							
全体		30	66.7	10.0	3.3	23.3	3.3
性別	男性	22	59.1	13.6	4.5	27.3	4.5
	女性	8	87.5	-	-	12.5	-
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	1	-	100.0	100.0	-	-
	40～49歳	3	100.0	-	-	-	-
	50～59歳	5	80.0	-	-	-	20.0
	60～69歳	7	71.4	-	-	28.6	-
	70歳以上	14	57.1	14.3	-	35.7	-
職業別	農林漁業	3	66.7	-	-	66.7	-
	商工業、サービス業、自由業など	5	60.0	-	-	20.0	20.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	9	66.7	11.1	11.1	22.2	-
	主婦・主夫	4	100.0	-	-	-	-
	無職	9	55.6	22.2	-	22.2	-
圏域別	高松圏域	14	64.3	14.3	-	28.6	-
	東讃圏域	-	-	-	-	-	-
	小豆圏域	-	-	-	-	-	-
	中讃圏域	9	44.4	11.1	11.1	33.3	11.1
	西讃圏域	7	100.0	-	-	-	-
居住年数別	3年未満	2	100.0	-	-	-	-
	3年以上～10年未満	3	33.3	66.7	33.3	-	-
	10年以上～20年未満	4	50.0	25.0	-	25.0	-
	20年以上	21	71.4	-	-	28.6	4.8

(11)健康診断受診の案内の有無以外で、自身が健康診断を受診しなかった理由について

付問14 健康診断受診の案内の有無以外で、あなたが健康診断を受診しなかった理由について、あてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=387】※回答数の多い順に並び替え

- 1 通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから 27.4%(23.6%)
- 2 自覚症状もなく、健康に自信があるから 20.2%(19.9%)
- 3 いろいろな手続きなどが面倒だから 18.9%(19.2%)
- 4 健康診断の時間に都合が合わないから 15.5%(17.1%)
- 5 健康診断受診の料金が高いから 7.5%(8.5%)
- 6 健康診断の実施場所への移動が不便だから 6.2%(6.4%)
- 7 健康診断の時期に、「妊娠中」、「長期入院中」、「施設等に入所中」のいずれかであったから 3.6%(4.2%)
- 8 案内の内容がよくわからなかったから 2.6%(3.4%)
- 9 その他（具体的に：_____） 11.1%(11.4%)
- （無回答） 15.0%(15.3%)

⇒ 「6」、「4」、「5」、「1」を選んだ方は、それぞれ付問15、16、17、18にもお答えください(複数可)

健康診断受診の案内の有無以外で、自身が健康診断を受診しなかった理由について、「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」27.4%が最も高く、次いで「自覚症状もなく、健康に自信があるから」20.2%、「いろいろな手続きなどが面倒だから」18.9%、「健康診断の時間に都合が合わないから」15.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」23.6%が最も高く、次いで「自覚症状もなく、健康に自信があるから」19.9%、「いろいろな手続きなどが面倒だから」19.2%、「健康診断の時間に都合が合わないから」17.1%などとなっている。

図表 5-(11)-1 健康診断受診の案内の有無以外で、自身が健康診断を受診しなかった理由について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	387 人
(1) 通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから	27.4	106 人
(2) 自覚症状もなく、健康に自信があるから	20.2	78 人
(3) いろいろな手続きなどが面倒だから	18.9	73 人
(4) 健康診断の時間に都合が合わないから	15.5	60 人
(5) 健康診断受診の料金が高いから	7.5	29 人
(6) 健康診断の実施場所への移動が不便だから	6.2	24 人
(7) 健康診断の時期に、「妊娠中」、「長期入院中」、「施設等に入所中」のいずれかであったから	3.6	14 人
(8) 案内の内容がよくわからなかったから	2.6	10 人
(9) その他	11.1	43 人
無回答	15.0	58 人

グラフ単位：(%)

健康診断受診の案内の有無以外で、自身が健康診断を受診しなかった理由について、性別にみると、『男性』では「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」34.1%が最も高く、これに「自覚症状もなく、健康に自信があるから」25.0%と続いている。『女性』では「いろいろな手続きなどが面倒だから」22.3%が最も高く、これに「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」21.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「健康診断の時間に都合が合わないから」が3割台と最も高く、『20～29歳』では「自覚症状もなく、健康に自信があるから」22.2%が最も高く、『30～39歳』では「いろいろな手続きなどが面倒だから」30.3%が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」が3～4割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「自覚症状もなく、健康に自信があるから」29.6%が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「健康診断の時間に都合が合わないから」24.7%が最も高く、『主婦・主夫』では「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」、「いろいろな手続きなどが面倒だから」が同率の26.0%で最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」が2～3割台と最も高く、『西讃圏域』では「いろいろな手続きなどが面倒だから」27.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「いろいろな手続きなどが面倒だから」が2～3割台と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから」が2～3割台と最も高くなっている。

図表 5-(11)-2 【健康診断受診の案内の有無以外で、自身が健康診断を受診しなかった理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	通院中の医療機関で定期的に検査を行っているから	自覚症状もなく、健康に自信があるから	いろいろな手続きなどが面倒だから	健康診断の時間に都合が合わないから	健康診断受診の料金が高いから	健康診断の実施場所への移動が不便だから	健康診断の時期に、「妊娠中」、「長期入院中」、「施設等に入所中」のいずれかであったから	案内の内容がよくわからなかったから	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		387	27.4	20.2	18.9	15.5	7.5	6.2	3.6	2.6	11.1	15.0
性別	男性	164	34.1	25.0	15.2	11.0	6.7	3.0	2.4	1.8	10.4	13.4
	女性	215	21.9	17.2	22.3	19.1	8.4	8.8	4.2	3.3	12.1	15.3
年齢別	18～19歳	6	-	16.7	16.7	33.3	-	-	-	16.7	16.7	16.7
	20～29歳	18	-	22.2	11.1	16.7	16.7	11.1	5.6	11.1	22.2	22.2
	30～39歳	33	6.1	15.2	30.3	15.2	21.2	6.1	15.2	9.1	9.1	15.2
	40～49歳	48	4.2	18.8	29.2	35.4	12.5	8.3	6.3	-	6.3	12.5
	50～59歳	57	15.8	17.5	26.3	31.6	8.8	8.8	5.3	-	19.3	10.5
	60～69歳	79	32.9	19.0	21.5	8.9	5.1	5.1	2.5	3.8	12.7	13.9
	70歳以上	140	46.4	24.3	10.0	5.7	2.9	5.0	-	0.7	7.9	15.0
職業別	農林漁業	27	51.9	14.8	11.1	14.8	7.4	-	3.7	-	3.7	18.5
	商工業、サービス業、自由業など	71	16.9	29.6	25.4	19.7	7.0	5.6	1.4	4.2	14.1	9.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	85	12.9	22.4	16.5	24.7	12.9	3.5	3.5	2.4	12.9	16.5
	主婦・主夫	100	26.0	14.0	26.0	14.0	7.0	11.0	6.0	4.0	13.0	13.0
	無職	96	40.6	19.8	11.5	6.3	4.2	5.2	3.1	1.0	8.3	16.7
圏域別	高松圏域	193	24.9	20.7	21.8	18.1	8.3	5.2	3.1	3.6	12.4	10.9
	東讃圏域	36	38.9	16.7	8.3	11.1	2.8	8.3	5.6	5.6	13.9	13.9
	小豆圏域	6	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-	-	16.7	33.3
	中讃圏域	105	31.4	19.0	14.3	13.3	8.6	9.5	4.8	-	8.6	20.0
	西讃圏域	47	19.1	23.4	27.7	12.8	6.4	2.1	2.1	2.1	8.5	19.1
居住年数別	3年未満	25	8.0	16.0	20.0	16.0	16.0	12.0	16.0	12.0	20.0	8.0
	3年以上～10年未満	42	7.1	11.9	38.1	26.2	11.9	9.5	7.1	4.8	14.3	9.5
	10年以上～20年未満	68	23.5	16.2	22.1	19.1	11.8	10.3	1.5	2.9	8.8	20.6
	20年以上	244	34.0	23.8	14.8	13.1	4.9	4.1	2.5	1.2	10.7	13.5

(12) 最寄りの施設で健康診断が受けられたら受診するかどうかについて

【付問14で「6」を答えた方にお聞きします】

付問15 最寄りの施設（ショッピングセンターや商店街など）で健康診断が受けられたら、受診しようと思いませんか。次の中から1つだけ選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=24】

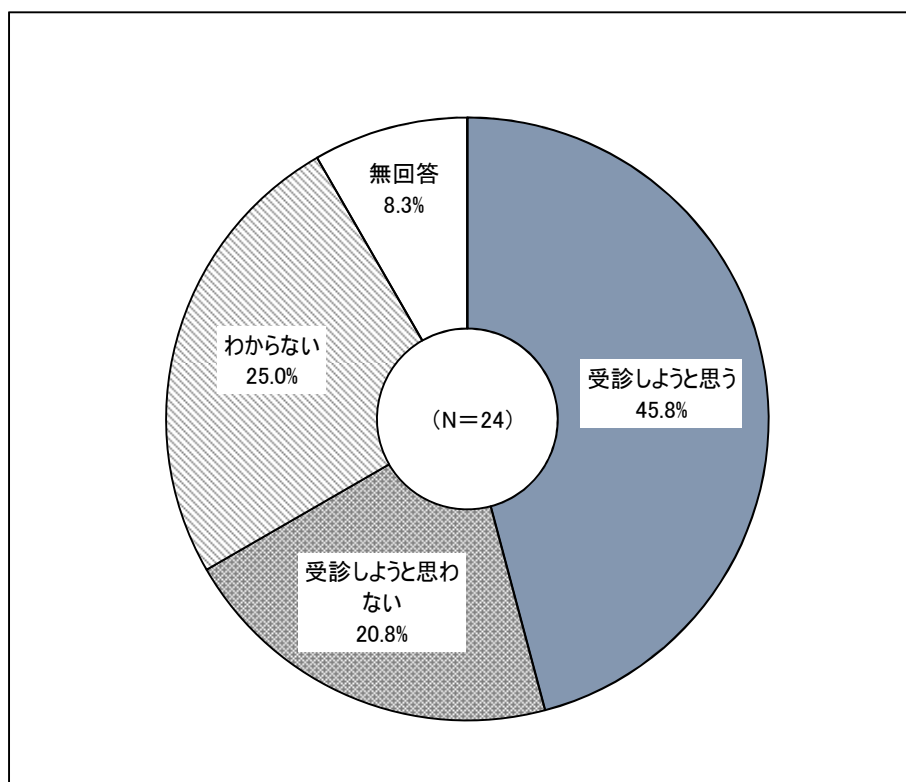
1 受診しようと思う	45.8%(49.9%)
2 受診しようと思わない	20.8%(18.8%)
3 わからない	25.0%(24.9%)
(無回答)	8.3%(6.3%)

⇒ 付問14で「4」、「5」、「1」を選んでいなければ 問16にお進みください

最寄りの施設で健康診断が受けられたら受診するかどうかについて、「受診しようと思う」45.8%が最も高く、「受診しようと思わない」が20.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「受診しようと思う」49.9%が最も高く、「受診しようと思わない」が18.8%となっている。

図表 5-(12)-1 最寄りの施設で健康診断が受けられたら受診するかどうかについて



最寄りの施設で健康診断が受けられたら受診するかどうかについて、性別にみると、男女とも「受診しようと思う」が最も高く、『男性』40.0%、『女性』47.4%で、「受診しようと思わない」が『男性』20.0%、『女性』21.1%となっている。

年齢別にみると、『70歳以上』を除くすべての年齢で「受診しようと思う」が5割台～10割と最も高く、『20～29歳』では100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「受診しようと思う」、「受診しようと思わない」が同率の50.0%で最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「受診しようと思う」が4～6割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「受診しようと思わない」40.0%が最も高く、『東讃圏域』では「受診しようと思う」が33.3%で、『中讃圏域』では「受診しようと思う」70.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』では「受診しようと思う」が5割台～10割と最も高く、『3年以上～10年未満』では「受診しようと思う」が25.0%で、『10年以上～20年未満』では「受診しようと思う」が28.6%となっている。

図表 5-(12)-2 【最寄りの施設で健康診断が受けられたら受診するかについて】

	(1) と受診し よう	(2) と受診し わない	(3) わから ない	無 回 答	回答数
凡 例					
全 体	45.8	20.8	25.0	8.3	24 人
性別					
男性	40.0	20.0	40.0		5 人
女性	47.4	21.1	31.6		19 人
年齢別					
18～19歳					- 人
20～29歳	100.0				2 人
30～39歳	50.0		50.0		2 人
40～49歳	50.0	25.0	25.0		4 人
50～59歳	60.0	40.0			5 人
60～69歳	50.0	25.0	25.0		4 人
70歳以上	14.3	14.3	57.1	14.3	7 人
職業別					
農林漁業					- 人
商工業、サービス業、自由業など	50.0	50.0			4 人
会社、商店、官公庁などに勤務	66.7		33.3		3 人
主婦・主夫	45.5	27.3	27.3		11 人
無職	20.0	40.0	40.0		5 人
圏域別					
高松圏域	30.0	40.0	20.0	10.0	10 人
東讃圏域	33.3	33.3	33.3		3 人
小豆圏域					- 人
中讃圏域	70.0	10.0	20.0		10 人
西讃圏域			100.0		1 人
居住年数別					
3年未満			100.0		3 人
3年以上～10年未満	25.0	25.0	25.0	25.0	4 人
10年以上～20年未満	28.6	28.6	42.9		7 人
20年以上	50.0	20.0	20.0	10.0	10 人

グラフ単位：(%)

(13) 平日夜間や休日に健診を受けられたら、受診しようと思うかについて

【付問 14 で「4」を答えた方にお聞きします】

付問16 平日の夜間や土曜日・日曜日の午前・午後・夜間に健康診断が受けられたら、受診しようと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

また、「1 受診しようと思う」を選んだ方は、最も受診可能な曜日・時間帯を表の中から1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=60】

1 受診しようと思う 56.7%(53.7%)

⇒ 下表から、最も受診可能な時間帯に1つだけ○をつけてください。

	平日	土曜日	日曜日
午前 (9時～12時)		11.8% (8.3%)	20.6% (21.4%)
午後 (13時～17時)		14.7% (14.5%)	2.9% (2.7%)
夜間 (18時～21時)	32.4% (35.3%)	5.9% (5.2%)	0.0% (0.0%)
(無回答)	11.8% (12.6%)		

2 受診しようと思わない 10.0%(10.8%)

3 わからない 13.3%(15.3%)

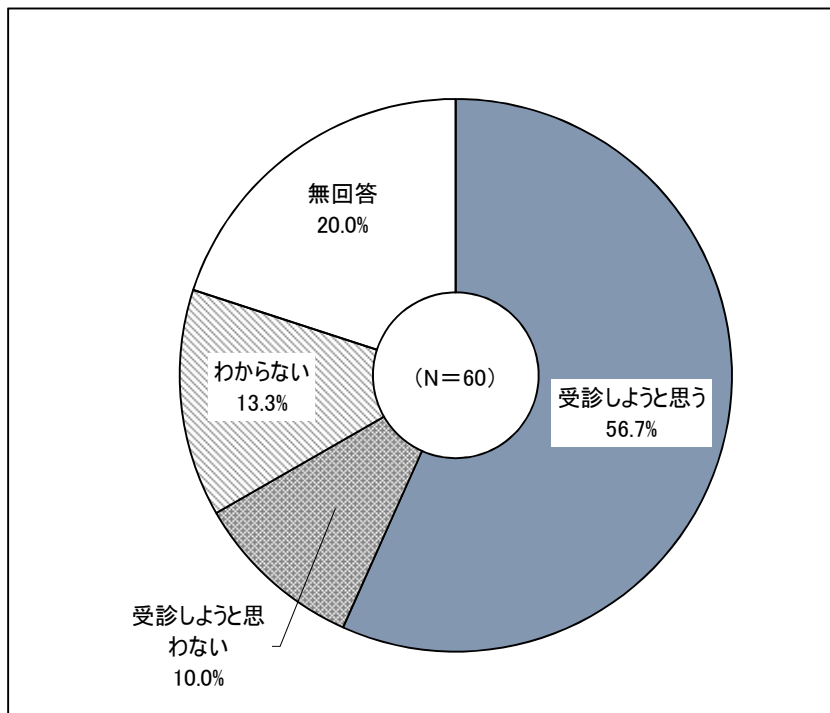
(無回答) 20.0%(20.2%)

⇒ 付問 14 で「5」、「1」を選んでいなければ 問 16 にお進みください

平日夜間や休日に健診を受けられたら、受診しようと思うかについて、「受診しようと思う」56.7%が最も高く、「受診しようと思わない」が10.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「受診しようと思う」53.7%が最も高く、「受診しようと思わない」が10.8%となっている。

図表 5-(13)-1 平日夜間や休日に健診を受けられたら、受診しようと思うかについて



平日夜間や休日に健診を受けられたら、受診しようと思うかについて、性別にみると、男女とも「受診しようと思う」が最も高く、『男性』50.0%、『女性』58.5%となっている。

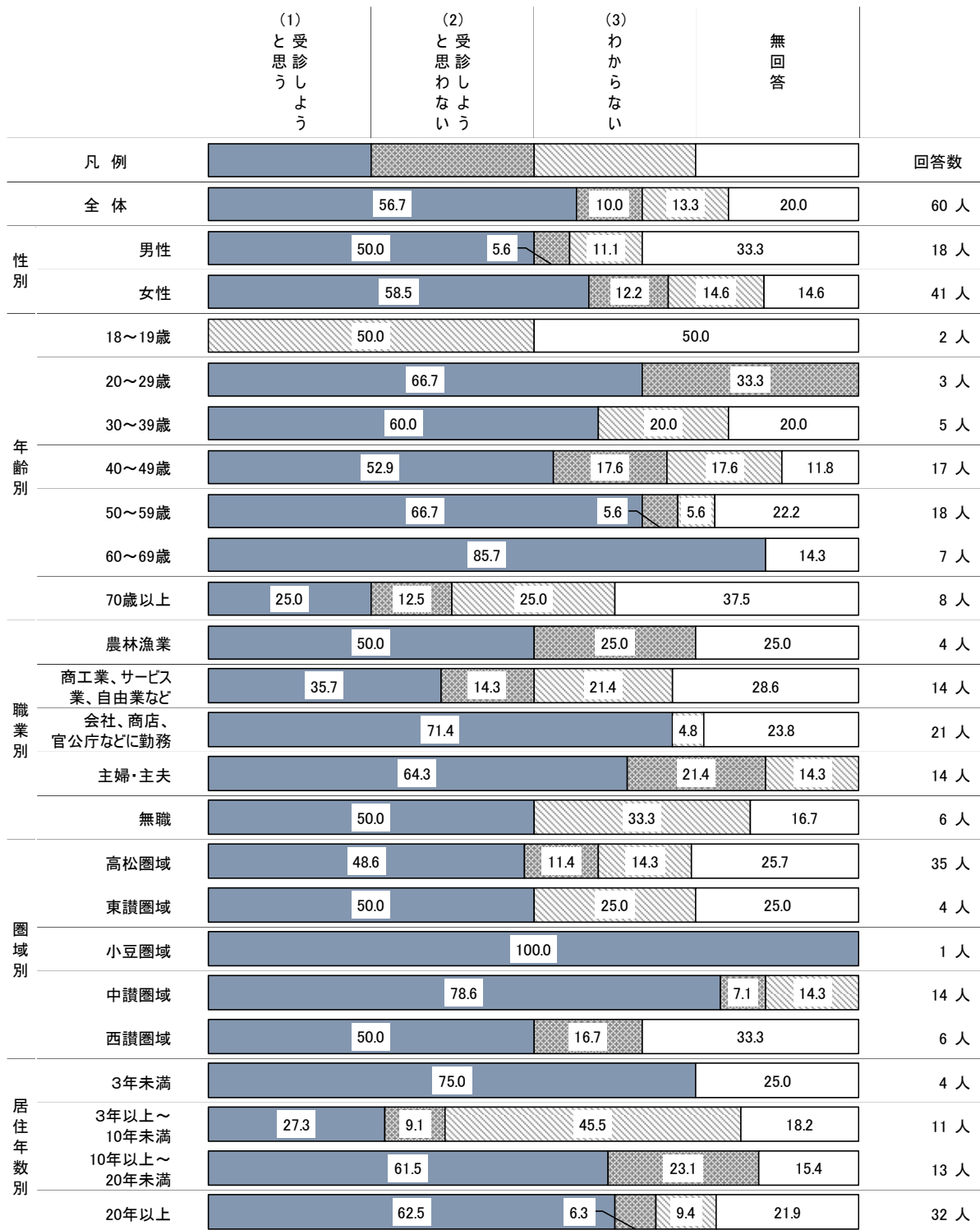
年齢別に見ると、『18～19歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「受診しようと思う」が5～8割台と最も高く、『70歳以上』では「受診しようと思う」が25.0%となっている。

職業別に見ると、いずれも「受診しようと思う」が3～7割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では71.4%と最も高くなっている。

圏域別に見ると、いずれも「受診しようと思う」が4割台～10割と最も高くなっている。

居住年数別に見ると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「受診しようと思う」が6～7割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「受診しようと思う」が27.3%となっている。

図表 5-(3)-1 平日夜間や休日に健診を受けられたら、受診しようと思うかについて

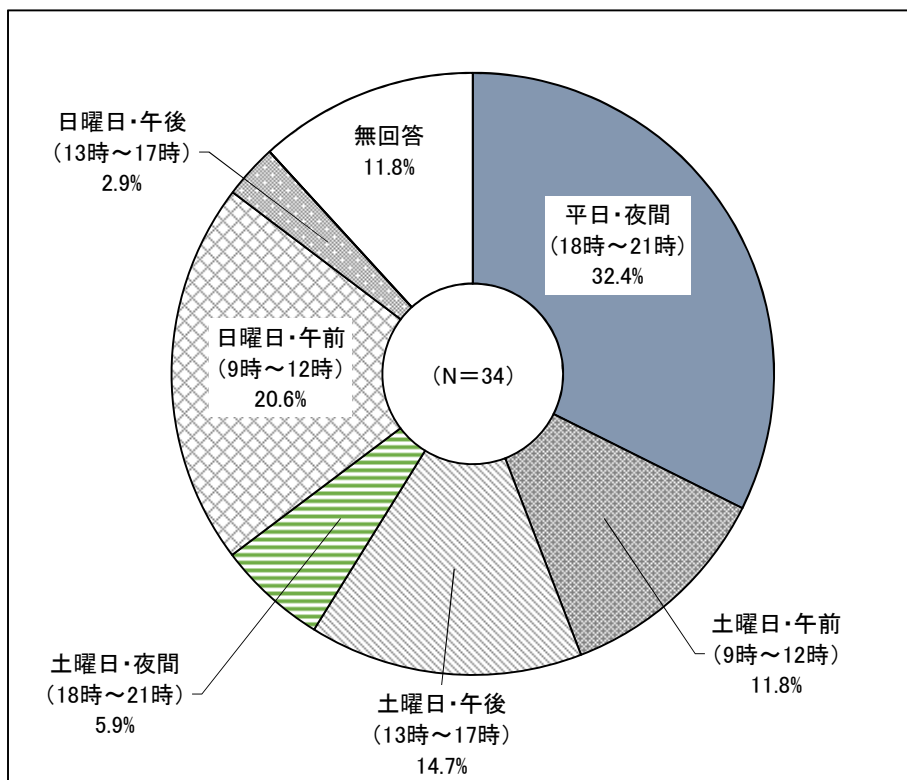


グラフ単位：(%)

最も受診可能な曜日・時間帯について、「平日・夜間（18時～21時）」32.4%が最も高く、次いで「日曜日・午前（9時～12時）」20.6%、「土曜日・午後（13時～17時）」14.7%、「土曜日・午前（9時～12時）」11.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「平日・夜間（18時～21時）」35.3%が最も高く、次いで「日曜日・午前（9時～12時）」21.4%、「土曜日・午後（13時～17時）」14.5%、「土曜日・午前（9時～12時）」8.3%などとなっている。

図表 5-(13)-3 最も受診可能な曜日・時間帯について



最も受診可能な曜日・時間帯について、性別にみると、男女とも「平日・夜間（18時～21時）」が最も高く、『男性』33.3%、『女性』33.3%で、これに『男性』は「土曜日・午前（9時～12時）」22.2%、『女性』は「日曜日・午前（9時～12時）」25.0%が続いている。

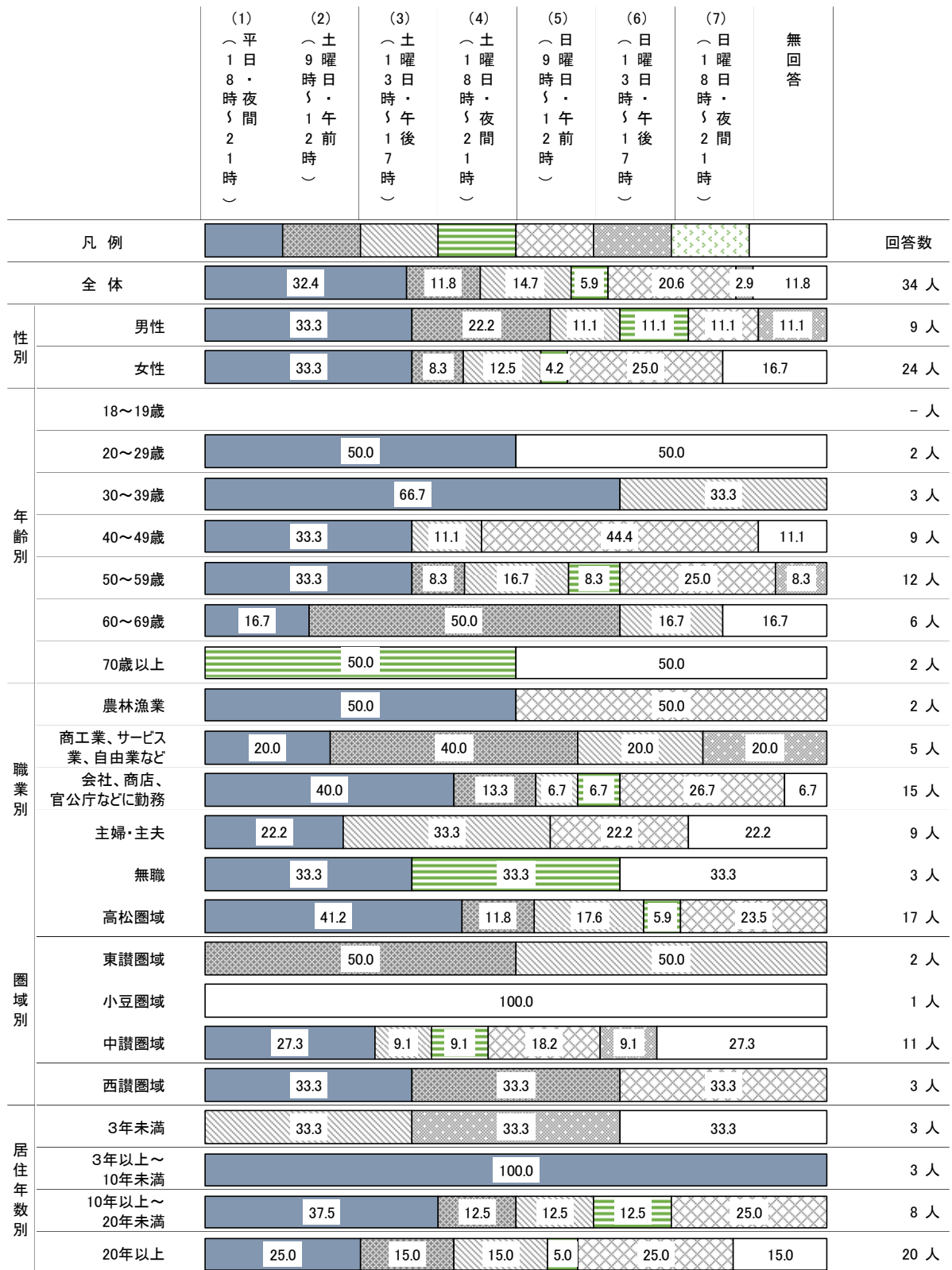
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』では「平日・夜間（18時～21時）」が3～6割台と最も高く、『40～49歳』では「日曜日・午前（9時～12時）」44.4%が最も高く、『60～69歳』では「土曜日・午前（9時～12時）」50.0%が最も高く、『70歳以上』では「土曜日・夜間（18時～21時）」50.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「平日・夜間（18時～21時）」、「日曜日・午前（9時～12時）」が同率の50.0%で最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「土曜日・午前（9時～12時）」40.0%が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「平日・夜間（18時～21時）」40.0%が最も高く、『主婦・主夫』では「土曜日・午後（13時～17時）」33.3%が最も高く、『無職』では「平日・夜間（18時～21時）」、「土曜日・夜間（18時～21時）」が同率の33.3%で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「平日・夜間（18時～21時）」が2～4割台と最も高く、『東讃圏域』では「土曜日・午前（9時～12時）」、「土曜日・午後（13時～17時）」が同率の50.0%で最も高く、『西讃圏域』では「平日・夜間（18時～21時）」、「土曜日・午前（9時～12時）」、「日曜日・午前（9時～12時）」が同率の33.3%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「平日・夜間（18時～21時）」が3割台～10割と最も高く、『3年未満』では「土曜日・午後（13時～17時）」、「日曜日・午後（13時～17時）」が同率の33.3%で最も高く、『20年以上』では「平日・夜間（18時～21時）」、「日曜日・午前（9時～12時）」が同率の25.0%で最も高くなっている。

図表 5-(13)-4 【最も受診可能な曜日・時間帯について】



グラフ単位：(%)

(14)健康診断受診の料金として妥当と思われる金額について

【付問 14 で「5」を答えた方にお聞きします】

付問17 あなたにとって、健康診断受診の料金として妥当と思われる金額はいくらぐらいですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=29】

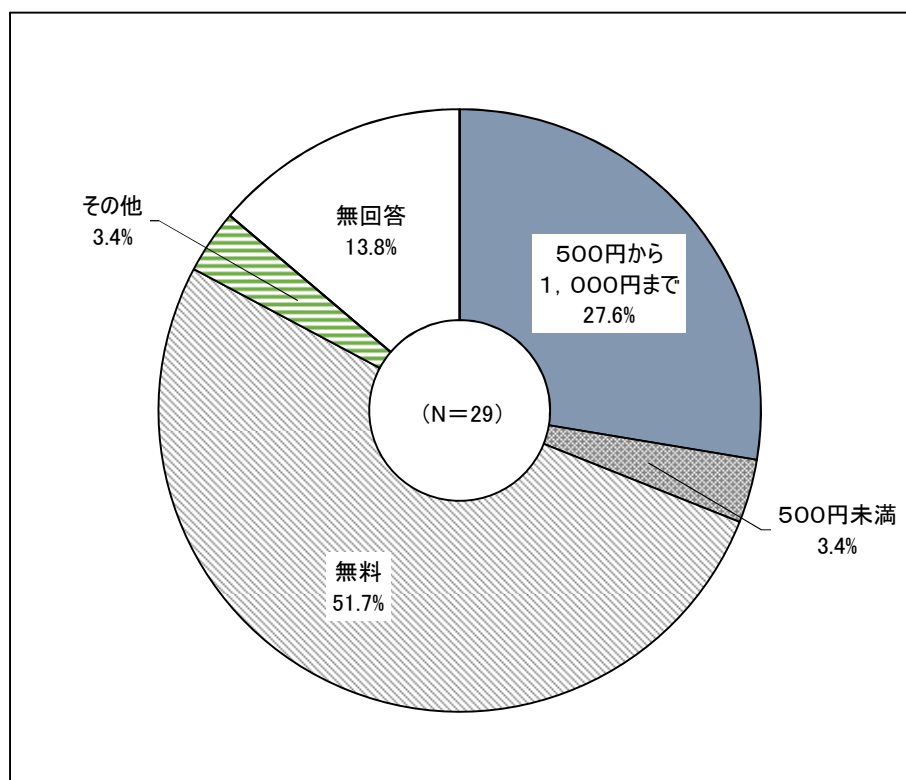
1	500円から1,000円まで	27.6%(28.3%)
2	500円未満	3.4%(3.6%)
3	無料	51.7%(50.5%)
4	その他(具体的に: _____円)	3.4%(4.2%)
5	料金に関わらず受診しない (無回答)	0.0%(0.0%) 13.8%(13.4%)

⇒ 付問 14 で「1」を選んでいなければ 16 ページにお進みください

健康診断受診の料金として妥当と思われる金額について、「無料」51.7%が最も高く、次いで「500円から1,000円まで」27.6%、「500円未満」3.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「無料」50.5%が最も高く、次いで「500円から1,000円まで」28.3%、「500円未満」3.6%などとなっている。

図表 5-(14)-1 健康診断受診の料金として妥当と思われる金額について



健康診断受診の料金として妥当と思われる金額について、性別にみると、男女とも「無料」が最も高く、『男性』63.6%、『女性』44.4%で、これに男女とも「500円から1,000円まで」が『男性』18.2%、『女性』33.3%と続いている。

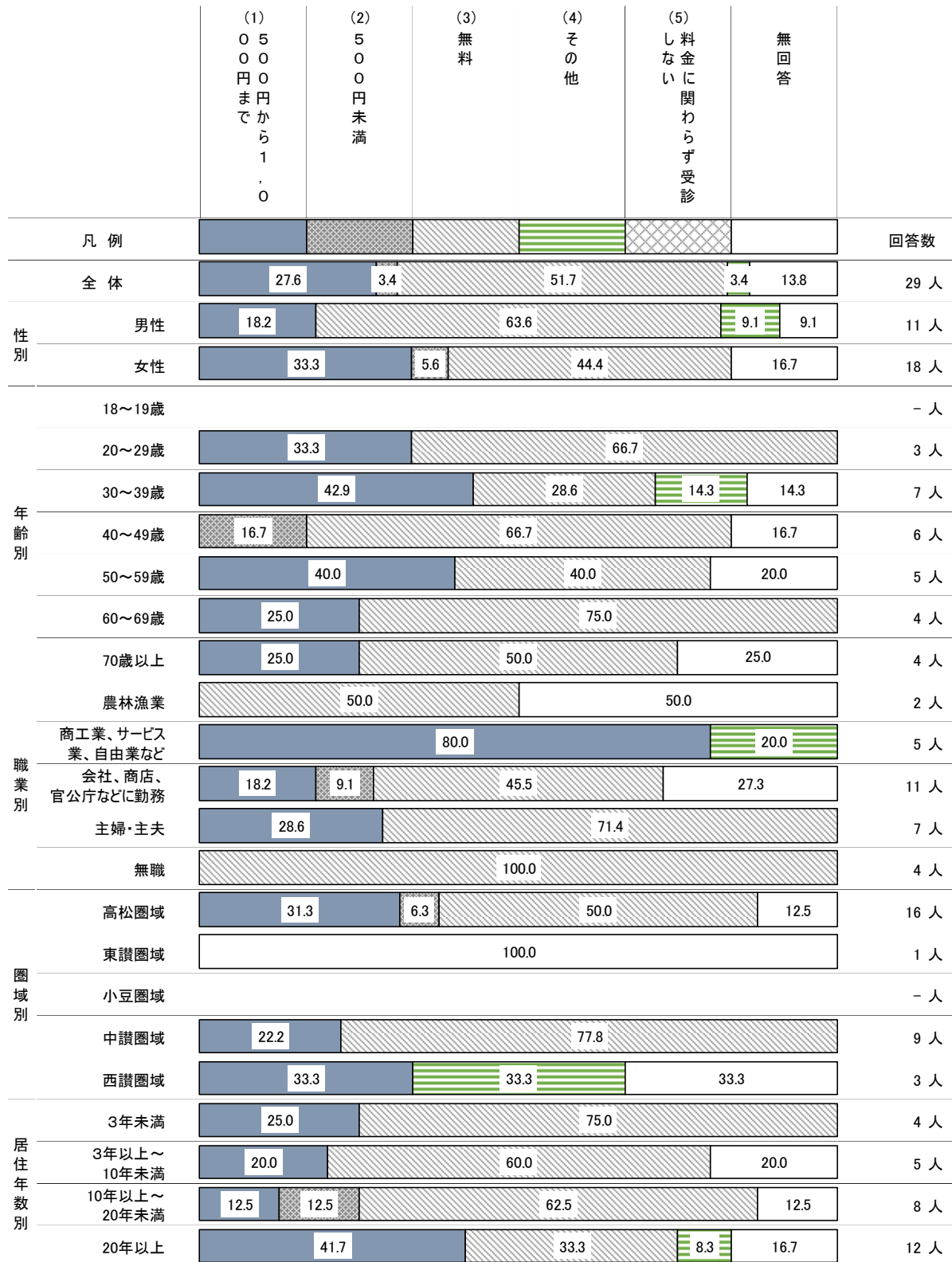
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「無料」が5～7割台と最も高く、『30～39歳』では「500円から1,000円まで」42.9%が最も高く、『50～59歳』では「500円から1,000円まで」、「無料」が同率の40.0%で最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「無料」が4割台～10割と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「500円から1,000円まで」80.0%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「無料」が5～7割台と最も高く、『西讃圏域』では「500円から1,000円まで」33.3%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「無料」が6～7割台が最も高く、『20年以上』では「500円から1,000円まで」41.7%が最も高くなっている。

図表 5-(14)-2 【健康診断受診の料金として妥当と思われる金額について】



グラフ単位：(%)

(15)通院中でも健診受診で他の病気や生活習慣病対策となることの認知度について

【付問 14 で「1」を答えた方にお聞きします】

付問18 通院中であっても、健康診断を受けることで総合的な検査ができ、他の病気や生活習慣病対策になることをご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

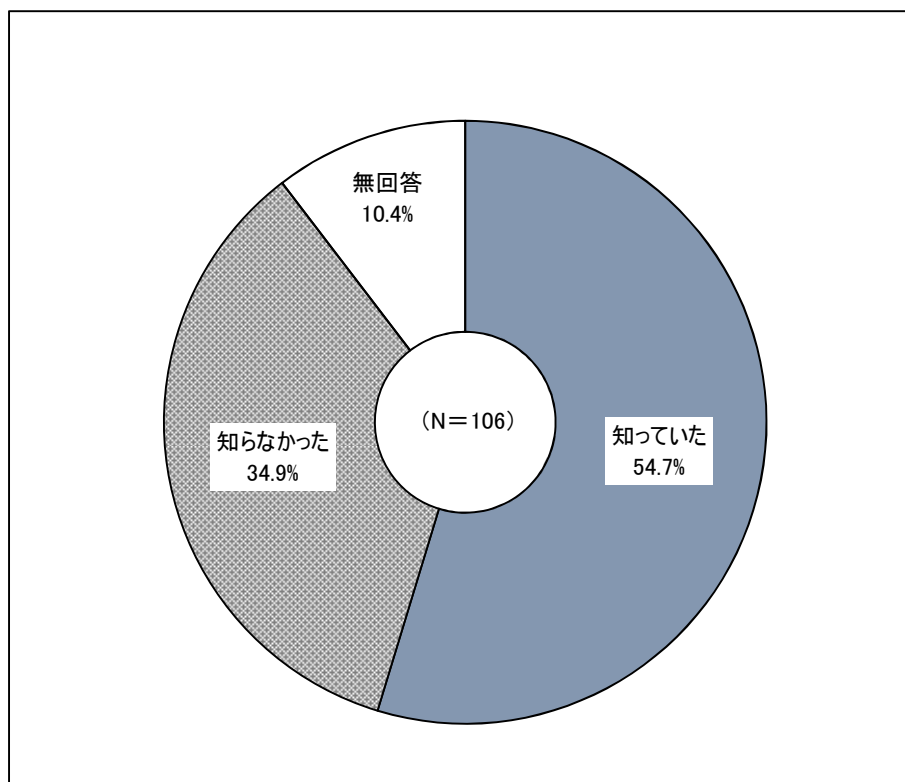
【回答者数=106】

1 知っていた	54.7%(53.6%)
2 知らなかった	34.9%(35.7%)
(無回答)	10.4%(10.7%)

通院中에서도健診受診で他の病気や生活習慣病対策となることの認知度について、「知っていた」54.7%、「知らなかった」34.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知っていた」53.6%、「知らなかった」35.7%となっている。

図表 5-(15)-1 通院中에서도健診受診で他の病気や生活習慣病対策となることの認知度について



通院中でも健診受診で他の病気や生活習慣病対策となることの認知度について、性別にみると、男女とも「知っていた」が『男性』58.9%、『女性』51.1%と高くなっている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『50～59歳』では「知らなかった」が5割台と高く、『40～49歳』では「知っていた」、「知らなかった」が同率の50.0%で、『60～69歳』、『70歳以上』では「知っていた」が5～6割台と高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知っていた」が4～6割台と高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では63.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「知っていた」が4～6割台と高く、『小豆圏域』では「知らなかった」が50.0%と高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知っていた」が5～6割台と高くなっている。

図表 5-(15)-2 【通院中でも健診受診で他の病気や生活習慣病対策となることの認知度について】

	(1) 知 っ て い た	(2) た 知 ら な か っ	無 回 答	回答数
凡 例				
全 体	54.7	34.9	10.4	106 人
性別				
男性	58.9	28.6	12.5	56 人
女性	51.1	42.6	6.4	47 人
年齢別				
18～19歳				- 人
20～29歳				- 人
30～39歳	50.0	50.0		2 人
40～49歳	50.0	50.0		2 人
50～59歳	44.4	55.6		9 人
60～69歳	61.5	26.9	11.5	26 人
70歳以上	55.4	35.4	9.2	65 人
職業別				
農林漁業	57.1	35.7	7.1	14 人
商工業、サービス業、自由業など	58.3	33.3	8.3	12 人
会社、商店、官公庁などに勤務	63.6	27.3	9.1	11 人
主婦・主夫	46.2	42.3	11.5	26 人
無職	56.4	33.3	10.3	39 人
圏域別				
高松圏域	54.2	35.4	10.4	48 人
東讃圏域	50.0	35.7	14.3	14 人
小豆圏域	50.0	50.0		2 人
中讃圏域	63.6	33.3	3.0	33 人
西讃圏域	44.4	33.3	22.2	9 人
居住年数別				
3年未満	50.0	50.0		2 人
3年以上～10年未満	66.7	33.3		3 人
10年以上～20年未満	50.0	43.8	6.3	16 人
20年以上	55.4	36.1	8.4	83 人

グラフ単位：(%)

5. 県政の重要度と満足度について

県では、令和3年度からの新たな香川づくりの指針として、『「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画』※を策定し、「安全と安心を築く香川」、「新しい流れをつくる香川」、「誰もが輝く香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で示している26の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていく上でどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価するとともに、不満と思っている項目については、その具体的な内容についてもお答えください。

※「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の確かな創造」を基本目標に掲げ、「安全と安心を築く香川」、「新しい流れをつくる香川」、「誰もが輝く香川」の3つの基本方針のもと、喫緊の重要課題である新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、災害に強い香川づくりや人口減少問題の克服・地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(【香川県ホームページ】「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画について)

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/zikisougouplan/kfvn.html>

(1)安全と安心を築く香川(重要度)

問16 「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「安全と安心を築く香川」についておたずねします。

「安全と安心を築く香川」の実現に向けて展開している[1]～[8]の分野について、あなたのご重要度を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

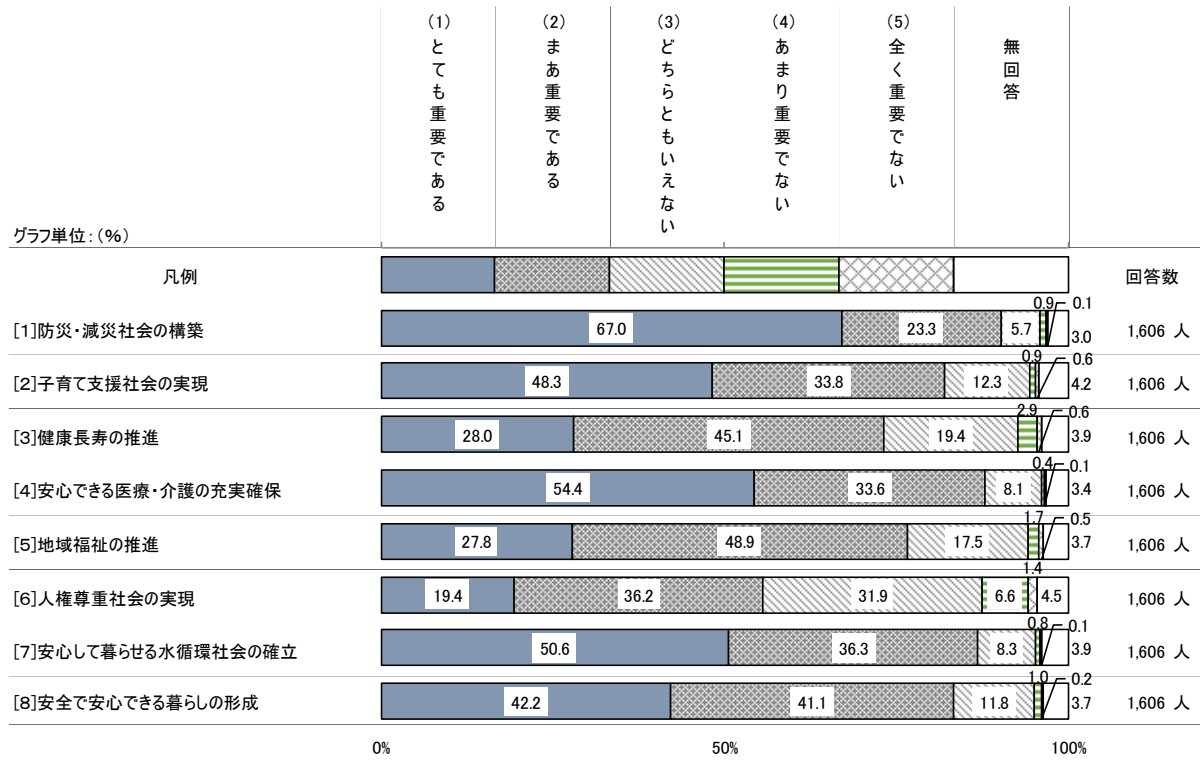
(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[1] 防災・減災社会の構築	67.0 (68.1)	23.3 (22.4)	5.7 (5.5)	0.9 (1.0)	0.1 (0.1)	3.0 (2.9)
[2] 子育て支援社会の実現	48.3 (50.5)	33.8 (32.1)	12.3 (11.8)	0.9 (0.8)	0.6 (0.8)	4.2 (4.0)
[3] 健康長寿の推進	28.0 (28.7)	45.1 (44.5)	19.4 (19.3)	2.9 (3.1)	0.6 (0.8)	3.9 (3.7)
[4] 安心できる医療・介護の充実確保	54.4 (54.4)	33.6 (33.4)	8.1 (8.2)	0.4 (0.6)	0.1 (0.2)	3.4 (3.2)
[5] 地域福祉の推進	27.8 (28.3)	48.9 (47.8)	17.5 (17.8)	1.7 (1.9)	0.5 (0.8)	3.7 (3.5)
[6] 人権尊重社会の実現	19.4 (20.3)	36.2 (35.7)	31.9 (31.1)	6.6 (6.9)	1.4 (1.7)	4.5 (4.3)
[7] 安心して暮らせる水循環社会の確立	50.6 (51.2)	36.3 (35.8)	8.3 (8.3)	0.8 (0.9)	0.1 (0.1)	3.9 (3.8)
[8] 安全で安心できる暮らしの形成	42.2 (43.3)	41.1 (40.2)	11.8 (11.5)	1.0 (1.1)	0.2 (0.4)	3.7 (3.5)

「安全と安心を築く香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「防災・減災社会の構築」90.3%が最も高く、次いで「安心できる医療・介護の充実確保」88.0%、「安心して暮らせる水循環社会の確立」86.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「防災・減災社会の構築」90.5%が最も高く、次いで「安心できる医療・介護の充実確保」87.8%、「安心して暮らせる水循環社会の確立」87.0%などとなっている。

図表 5-(1) 安全と安心を築く香川(重要度)



P284～P291 数表参照

(2)安全と安心を築く香川(満足度)

問16 「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「安全と安心を築く香川」についておたずねします。

「安全と安心を築く香川」の実現に向けて展開している[1]～[8]の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

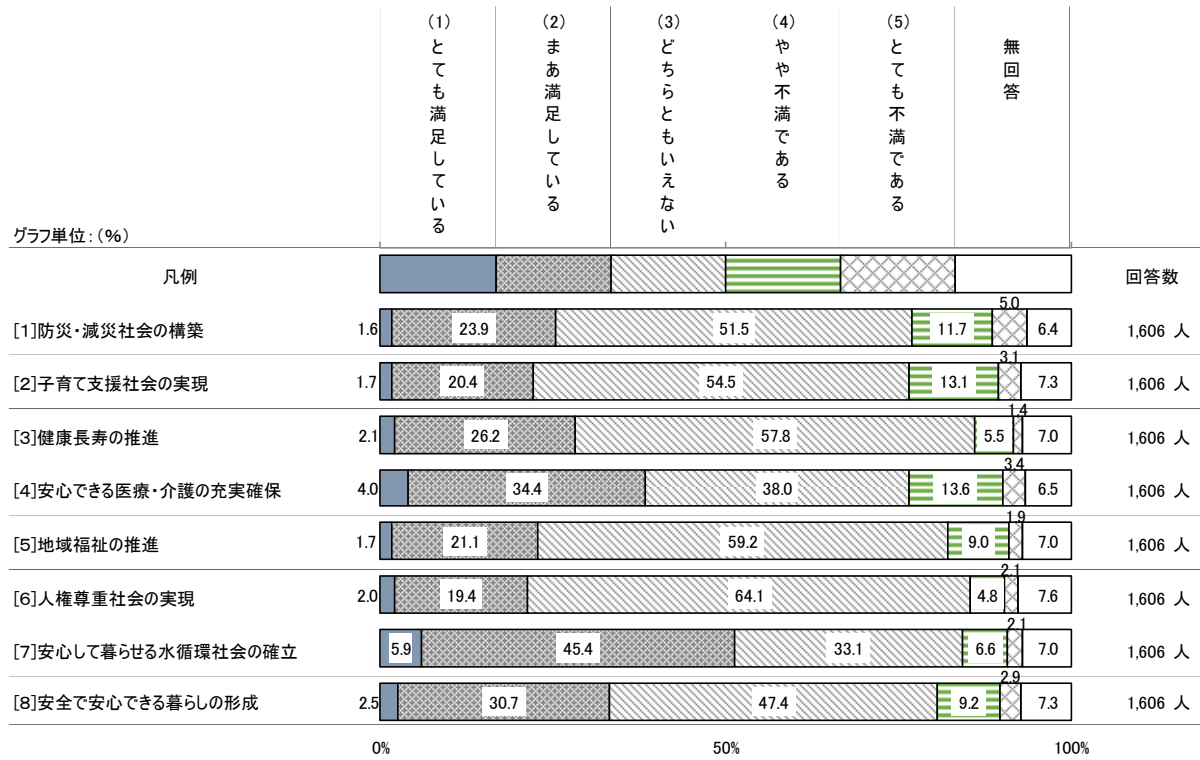
(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 防災・減災社会の構築	1.6 (1.5)	23.9 (23.6)	51.5 (52.1)	11.7 (11.6)	5.0 (5.1)	6.4 (6.1)
[2] 子育て支援社会の実現	1.7 (1.9)	20.4 (20.1)	54.5 (54.0)	13.1 (13.5)	3.1 (3.5)	7.3 (6.9)
[3] 健康長寿の推進	2.1 (2.2)	26.2 (26.0)	57.8 (58.3)	5.5 (5.3)	1.4 (1.4)	7.0 (6.8)
[4] 安心できる医療・介護の充実確保	4.0 (4.2)	34.4 (33.8)	38.0 (38.6)	13.6 (13.5)	3.4 (3.6)	6.5 (6.3)
[5] 地域福祉の推進	1.7 (1.9)	21.1 (20.6)	59.2 (59.7)	9.0 (9.1)	1.9 (1.9)	7.0 (6.8)
[6] 人権尊重社会の実現	2.0 (2.3)	19.4 (19.7)	64.1 (63.8)	4.8 (4.5)	2.1 (2.3)	7.6 (7.4)
[7] 安心して暮らせる水循環社会の確立	5.9 (6.5)	45.4 (44.1)	33.1 (33.3)	6.6 (7.0)	2.1 (2.4)	7.0 (6.8)
[8] 安全で安心できる暮らしの形成	2.5 (2.7)	30.7 (30.4)	47.4 (46.9)	9.2 (9.8)	2.9 (3.1)	7.3 (7.1)

「安心と安全を築く香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「安心して暮らせる水循環社会の確立」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(2) 安全と安心を築く香川(満足度)



P284~P291 数表参照

(3)新しい流れをつくる香川(重要度)

問17 「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「新しい流れをつくる香川」についておたずねします。

「新しい流れをつくる香川」の実現に向けて展開している[9]～[17]の分野について、あなたのご重要度を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

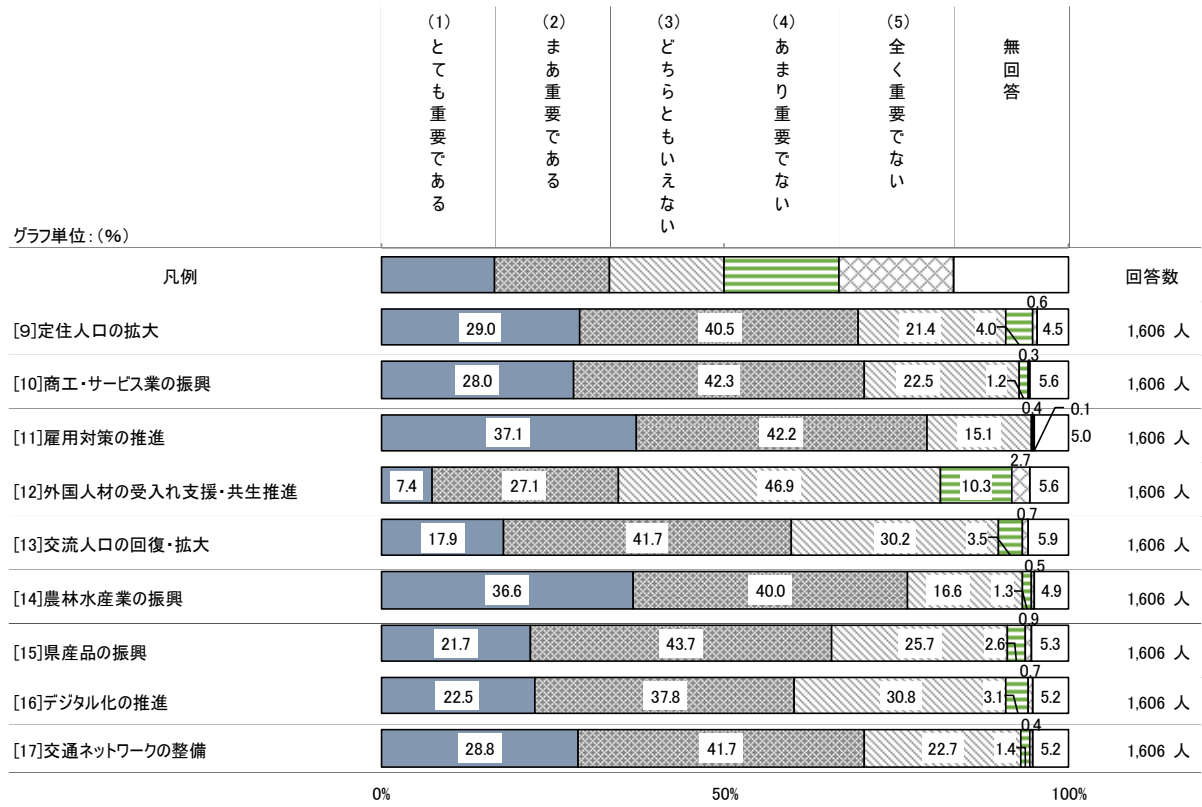
(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[9] 定住人口の拡大	29.0 (28.9)	40.5 (40.2)	21.4 (21.6)	4.0 (4.4)	0.6 (0.7)	4.5 (4.2)
[10] 商工・サービス業の振興	28.0 (28.4)	42.3 (42.1)	22.5 (22.5)	1.2 (1.3)	0.3 (0.4)	5.6 (5.3)
[11] 雇用対策の推進	37.1 (37.9)	42.2 (42.2)	15.1 (14.4)	0.4 (0.4)	0.1 (0.3)	5.0 (4.8)
[12] 外国人材の受入れ支援・共生推進	7.4 (8.0)	27.1 (27.3)	46.9 (45.6)	10.3 (10.8)	2.7 (3.0)	5.6 (5.3)
[13] 交流人口の回復・拡大	17.9 (18.2)	41.7 (41.4)	30.2 (30.4)	3.5 (3.6)	0.7 (1.0)	5.9 (5.5)
[14] 農林水産業の振興	36.6 (36.1)	40.0 (40.5)	16.6 (16.6)	1.3 (1.5)	0.5 (0.6)	4.9 (4.7)
[15] 県産品の振興	21.7 (21.8)	43.7 (43.7)	25.7 (25.6)	2.6 (2.6)	0.9 (1.3)	5.3 (5.0)
[16] デジタル化の推進	22.5 (23.8)	37.8 (37.2)	30.8 (30.3)	3.1 (3.1)	0.7 (0.8)	5.2 (4.9)
[17] 交通ネットワークの整備	28.8 (29.1)	41.7 (41.6)	22.7 (22.5)	1.4 (1.5)	0.4 (0.5)	5.2 (4.9)

「新しい流れをつくる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」79.3%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.6%、「交通ネットワークの整備」70.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」80.1%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.6%、「交通ネットワークの整備」70.7%などとなっている。

図表 5-(3) 新しい流れをつくる香川(重要度)



P292～P300 数表参照

(4)新しい流れをつくる香川(満足度)

問17 「みんなで作るせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「新しい流れをつくる香川」についておたずねします。

「新しい流れをつくる香川」の実現に向けて展開している[9]～[17]の分野について、あなたの〈満足度〉を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

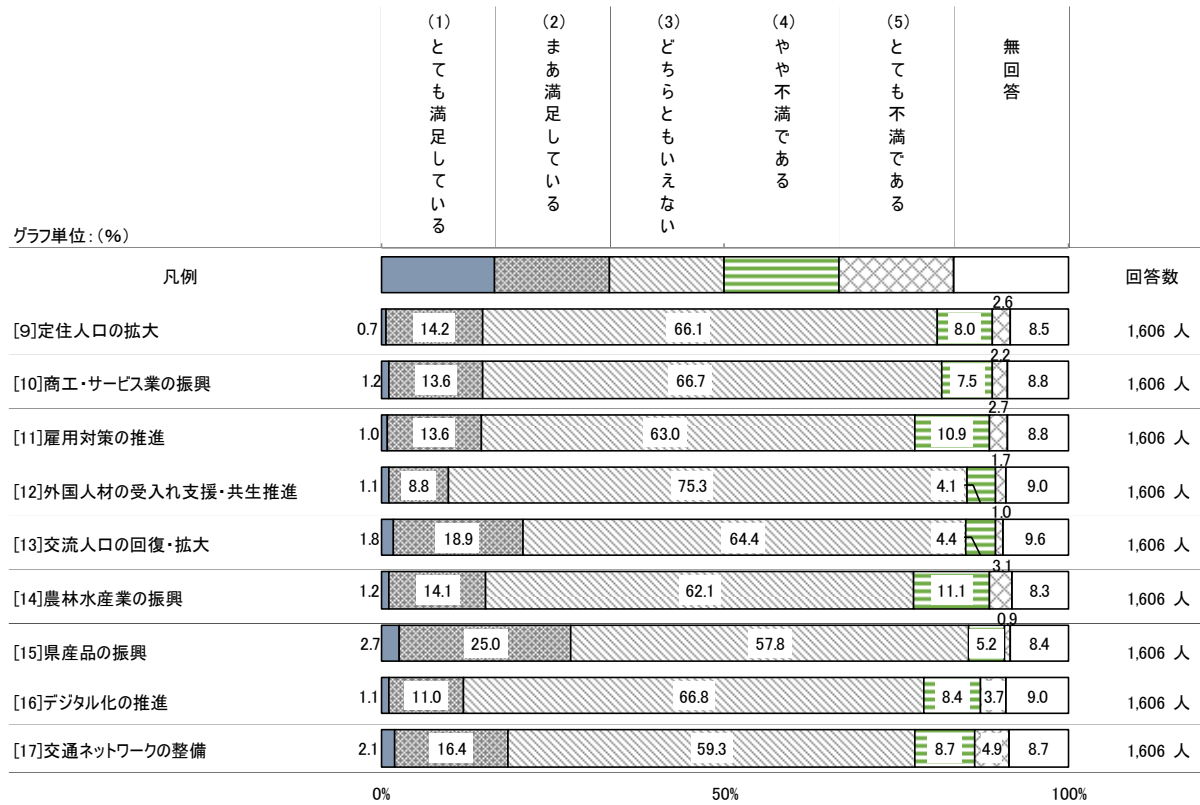
(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[9] 定住人口の拡大	0.7 (0.8)	14.2 (15.0)	66.1 (65.4)	8.0 (7.8)	2.6 (2.8)	8.5 (8.2)
[10] 商工・サービス業の振興	1.2 (1.4)	13.6 (14.0)	66.7 (66.2)	7.5 (7.6)	2.2 (2.2)	8.8 (8.6)
[11] 雇用対策の推進	1.0 (1.3)	13.6 (13.8)	63.0 (62.2)	10.9 (11.3)	2.7 (3.1)	8.8 (8.4)
[12] 外国人材の受入れ支援・共生推進	1.1 (1.3)	8.8 (9.6)	75.3 (74.7)	4.1 (4.0)	1.7 (1.8)	9.0 (8.6)
[13] 交流人口の回復・拡大	1.8 (2.2)	18.9 (19.4)	64.4 (64.1)	4.4 (4.4)	1.0 (1.0)	9.6 (9.1)
[14] 農林水産業の振興	1.2 (1.4)	14.1 (14.8)	62.1 (62.1)	11.1 (10.7)	3.1 (3.1)	8.3 (8.0)
[15] 県産品の振興	2.7 (3.3)	25.0 (25.4)	57.8 (57.1)	5.2 (5.2)	0.9 (0.9)	8.4 (8.0)
[16] デジタル化の推進	1.1 (1.2)	11.0 (11.5)	66.8 (66.2)	8.4 (8.4)	3.7 (4.1)	9.0 (8.7)
[17] 交通ネットワークの整備	2.1 (2.4)	16.4 (17.0)	59.3 (59.0)	8.7 (8.4)	4.9 (4.9)	8.7 (8.3)

「新しい流れをつくる香川」の満足度について、「デジタル化の推進」を除くすべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足である】が「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、「デジタル化の推進」では、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率の12.1%となっている。

ウェイトバック集計した値においては、すべての分野で【満足である】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5-(4) 新しい流れをつくる香川(満足度)



P292～P300 数表参照

(5) 誰もが輝く香川(重要度)

問18 「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「誰もが輝く香川」についておたずねします。

「誰もが輝く香川」の実現に向けて展開している[18]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

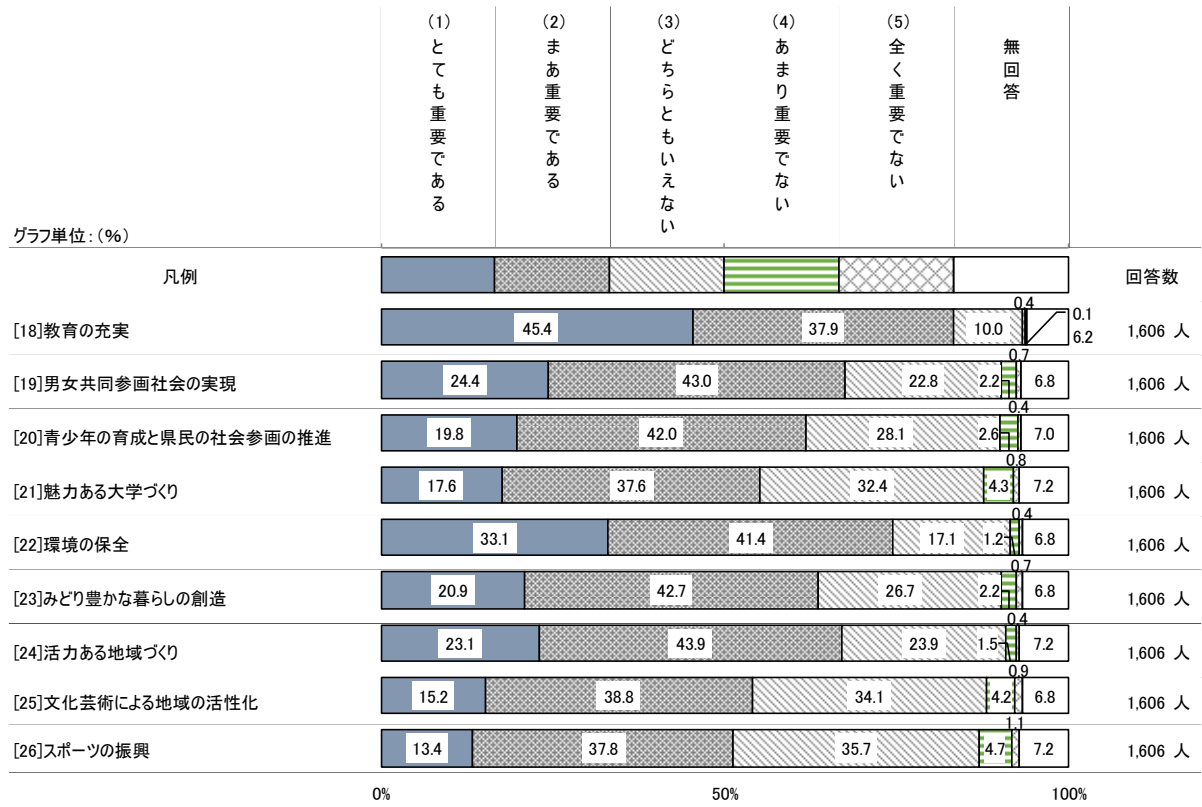
(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[18] 教育の充実	45.4 (46.3)	37.9 (37.1)	10.0 (9.9)	0.4 (0.4)	0.1 (0.2)	6.2 (5.9)
[19] 男女共同参画社会の実現	24.4 (25.4)	43.0 (42.4)	22.8 (22.1)	2.2 (2.6)	0.7 (1.0)	6.8 (6.5)
[20] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	19.8 (20.4)	42.0 (40.8)	28.1 (28.3)	2.6 (3.1)	0.4 (0.7)	7.0 (6.7)
[21] 魅力ある大学づくり	17.6 (18.2)	37.6 (37.2)	32.4 (31.9)	4.3 (4.6)	0.8 (1.1)	7.2 (6.9)
[22] 環境の保全	33.1 (34.0)	41.4 (40.4)	17.1 (17.2)	1.2 (1.3)	0.4 (0.5)	6.8 (6.6)
[23] みどり豊かな暮らしの創造	20.9 (21.5)	42.7 (42.1)	26.7 (26.5)	2.2 (2.4)	0.7 (1.0)	6.8 (6.5)
[24] 活力ある地域づくり	23.1 (23.5)	43.9 (43.3)	23.9 (24.0)	1.5 (1.7)	0.4 (0.7)	7.2 (6.8)
[25] 文化芸術による地域の活性化	15.2 (15.7)	38.8 (38.1)	34.1 (34.0)	4.2 (4.5)	0.9 (1.2)	6.8 (6.5)
[26] スポーツの振興	13.4 (14.0)	37.8 (37.2)	35.7 (35.3)	4.7 (5.2)	1.1 (1.5)	7.2 (6.9)

「誰もが輝く香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」83.3%が最も高く、次いで「環境の保全」74.5%、「男女共同参画社会の実現」67.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値を見ると、【重要である】の割合は、「教育の充実」83.4%が最も高く、次いで「環境の保全」74.4%、「男女共同参画社会の実現」67.8%などとなっている。

図表 5-(5) 誰もが輝く香川(重要度)



P301～P309 数表参照

(6) 誰もが輝く香川(満足度)

問18 「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「誰もが輝く香川」についておたずねします。

「誰もが輝く香川」の実現に向けて展開している[18]～[26]の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】

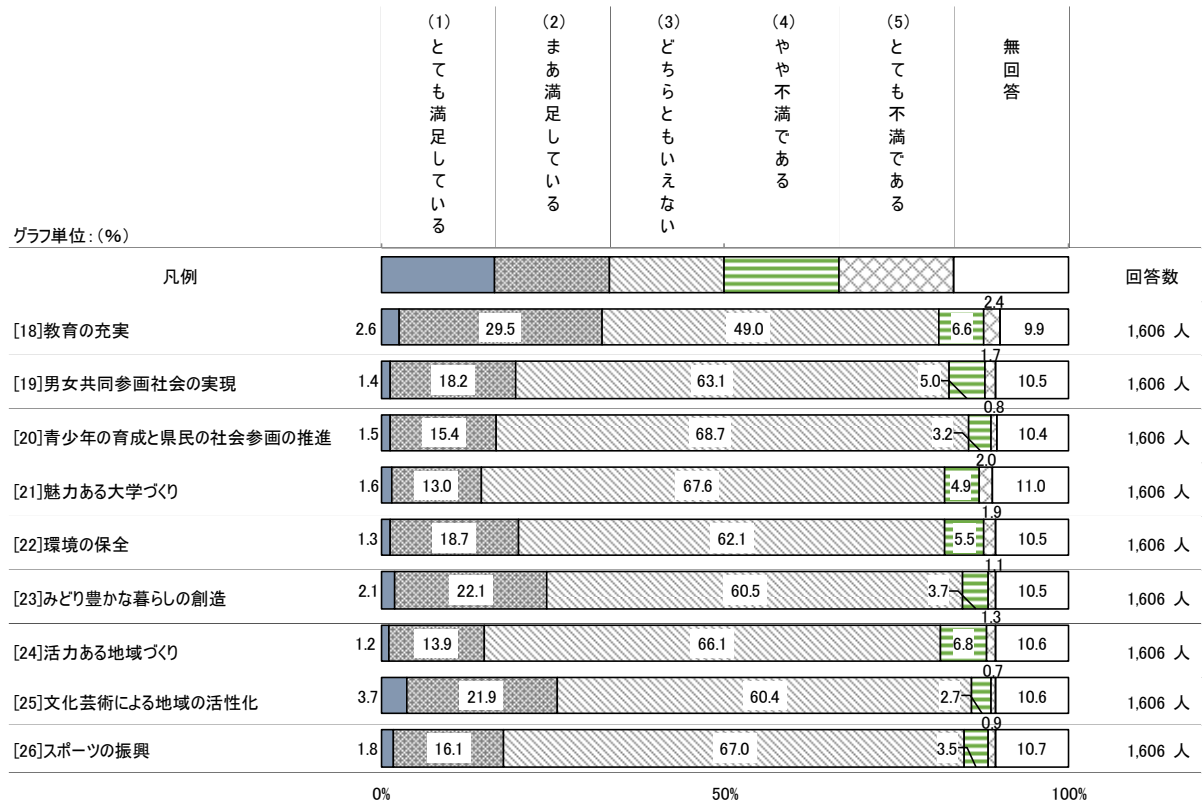
(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[18] 教育の充実	2.6 (2.9)	29.5 (29.2)	49.0 (48.8)	6.6 (6.8)	2.4 (2.7)	9.9 (9.6)
[19] 男女共同参画社会の実現	1.4 (1.9)	18.2 (18.7)	63.1 (62.4)	5.0 (5.1)	1.7 (2.0)	10.5 (10.0)
[20] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.5 (1.8)	15.4 (16.0)	68.7 (68.3)	3.2 (3.0)	0.8 (1.0)	10.4 (10.0)
[21] 魅力ある大学づくり	1.6 (1.7)	13.0 (13.3)	67.6 (67.2)	4.9 (5.1)	2.0 (2.2)	11.0 (10.4)
[22] 環境の保全	1.3 (1.4)	18.7 (19.4)	62.1 (61.5)	5.5 (5.5)	1.9 (2.1)	10.5 (10.1)
[23] みどり豊かな暮らしの創造	2.1 (2.5)	22.1 (22.7)	60.5 (60.1)	3.7 (3.4)	1.1 (1.2)	10.5 (10.1)
[24] 活力ある地域づくり	1.2 (1.5)	13.9 (14.8)	66.1 (65.3)	6.8 (6.8)	1.3 (1.4)	10.6 (10.2)
[25] 文化芸術による地域の活性化	3.7 (4.4)	21.9 (22.7)	60.4 (59.4)	2.7 (2.5)	0.7 (0.8)	10.6 (10.2)
[26] スポーツの振興	1.8 (2.1)	16.1 (16.4)	67.0 (66.6)	3.5 (3.5)	0.9 (1.1)	10.7 (10.3)

「誰もが輝く香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「教育の充実」、「文化芸術による地域の活性化」、「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(6) 誰もが輝く香川(満足度)



P301～P309 数表参照

防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』89.9%、『女性』91.7%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『50～59歳』において95.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において93.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも9割を超え、『東讚圏域』において91.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも9割を超え、『3年未満』において94.0%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.6%、『女性』25.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』18.2%、『女性』15.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

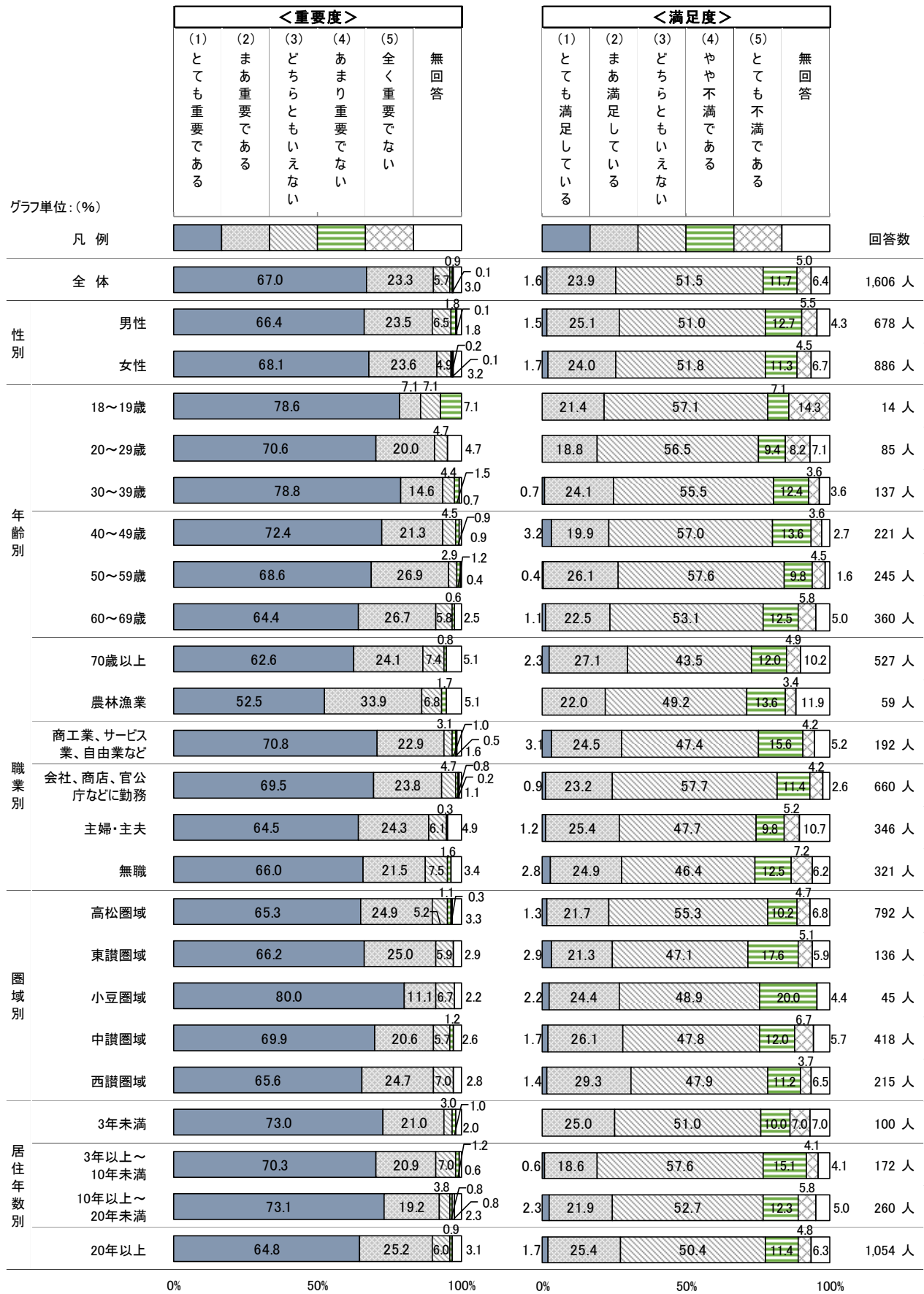
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の21.4%で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の19.2%で、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(1)【防災・減災社会の構築】



子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』82.2%、『女性』83.5%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において92.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において86.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『小豆圏域』において84.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において84.3%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.1%、『女性』23.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.7%、『女性』15.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

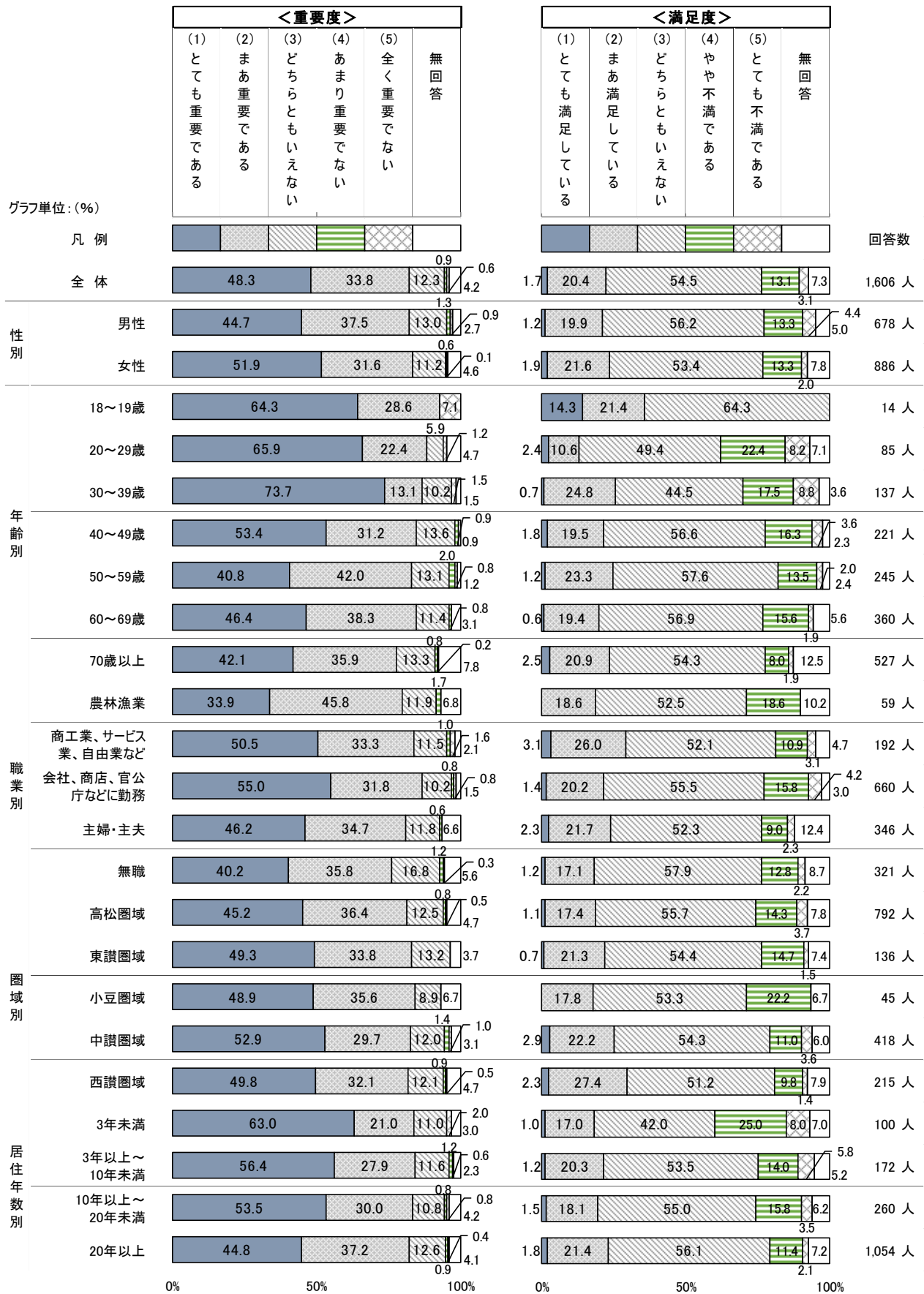
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の18.6%で、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合22.2%が【満足している】の割合17.8%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』では【不満である】の割合33.0%が【満足している】の割合18.0%を上回っている。

図表 6-(2)【子育て支援社会の実現】



健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.8%、『女性』77.4%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20～29歳』において76.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において74.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において80.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20年以上』において74.1%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』28.6%、『女性』28.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.9%、『女性』6.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

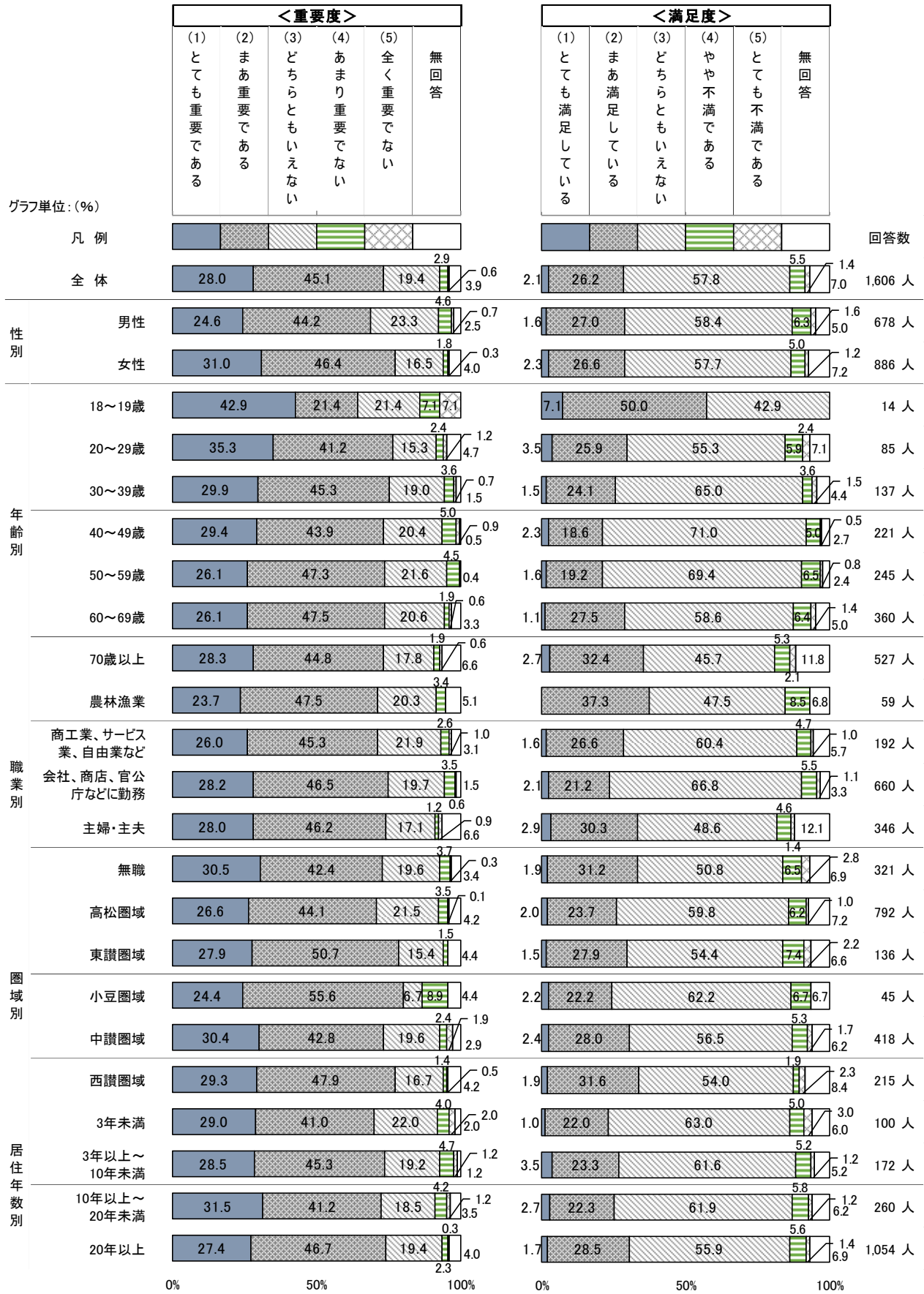
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(3)【健康長寿の推進】



安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』88.6%、『女性』88.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において92.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『無職』において89.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讃圏域』において91.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『20年以上』において88.8%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』41.2%、『女性』37.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』18.3%、『女性』16.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

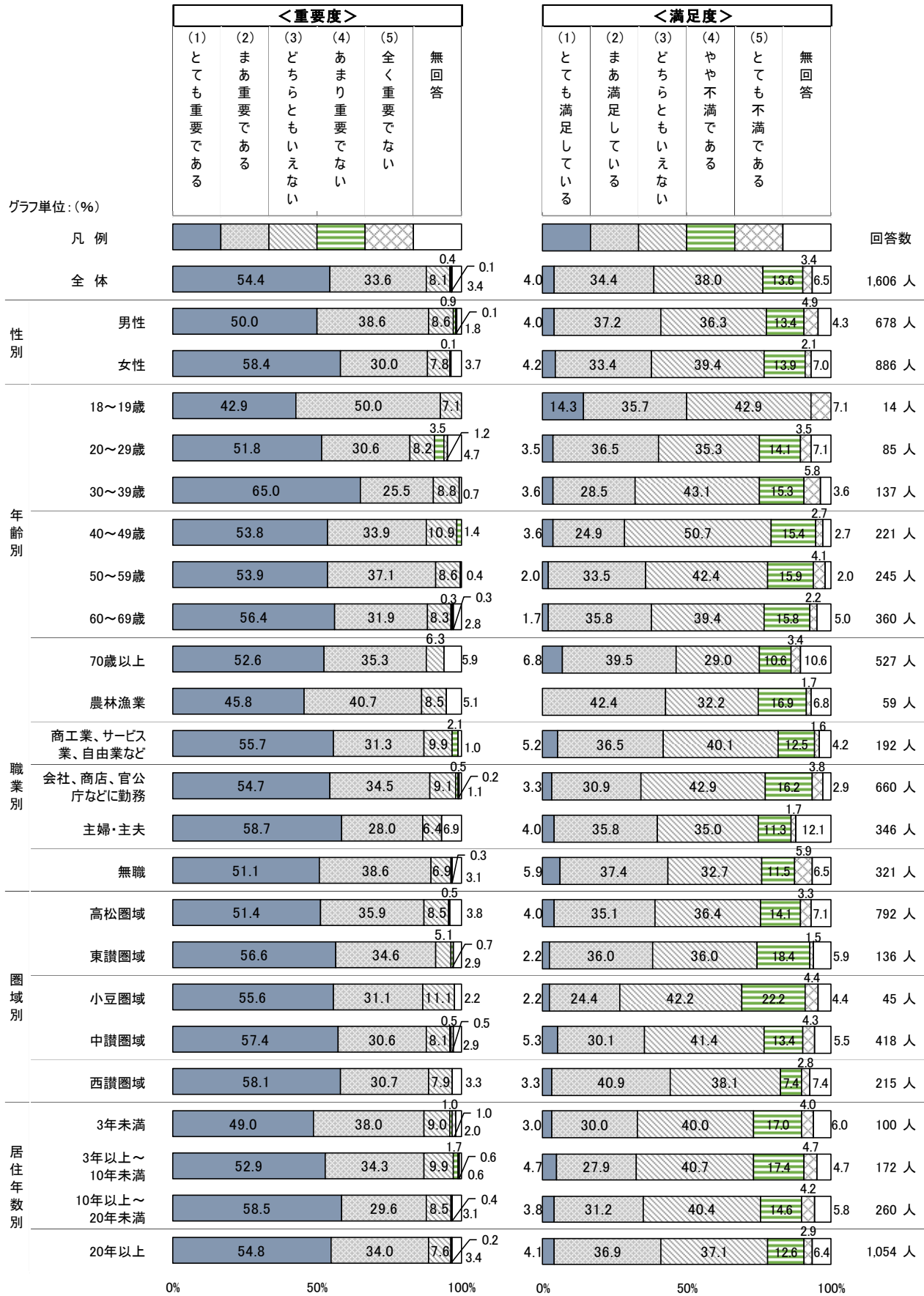
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の26.6%となっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(4)【安心できる医療・介護の充実確保】



地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.8%、『女性』80.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『70歳以上』において79.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において80.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讚圏域』において83.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20年以上』において78.9%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.7%、『女性』24.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』11.5%、『女性』10.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

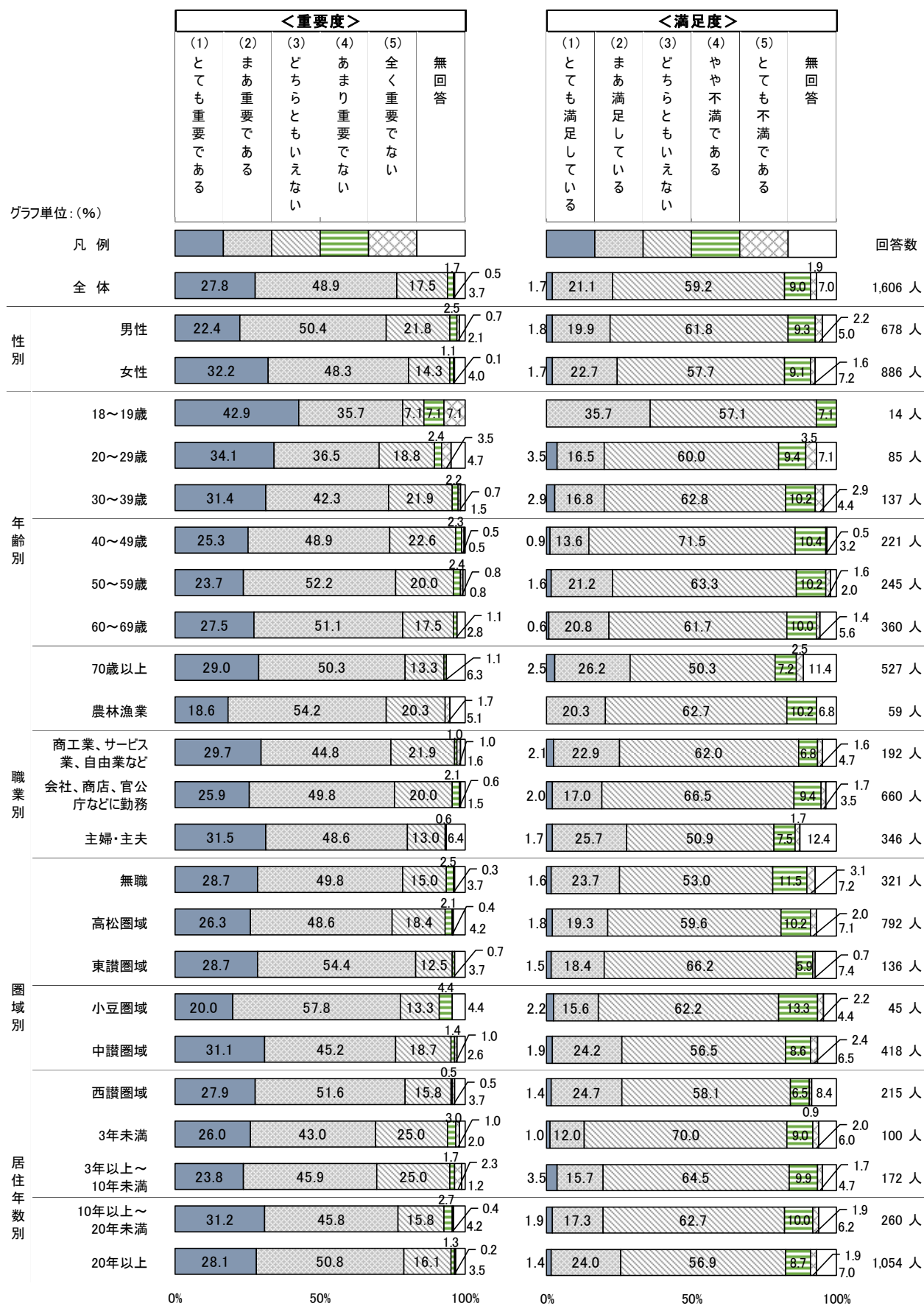
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(5)【地域福祉の推進】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』52.2%、『女性』58.9%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において64.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『無職』において61.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において64.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において60.0%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.8%、『女性』22.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.8%、『女性』5.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

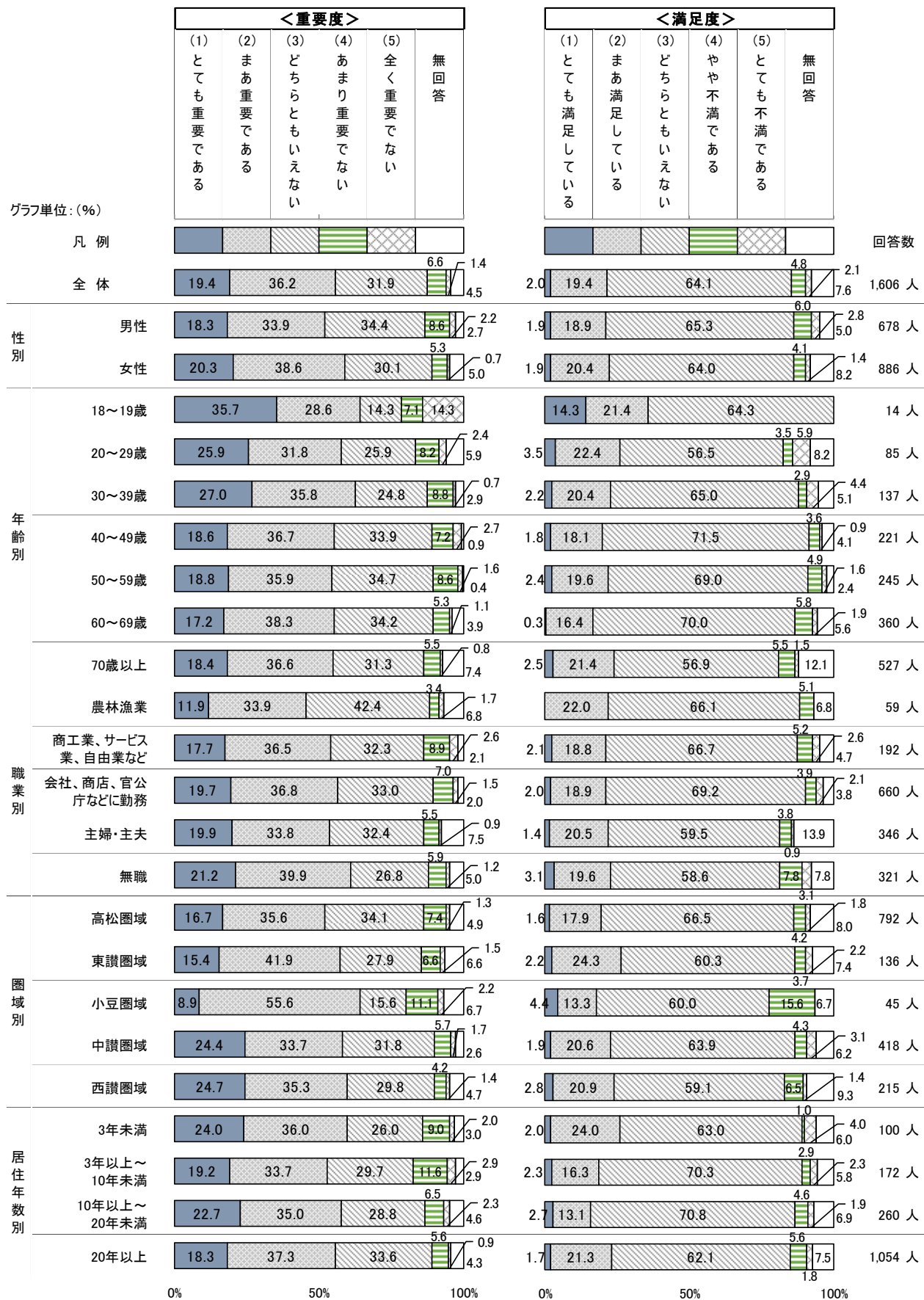
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(6)【人権尊重社会の実現】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』87.8%、『女性』87.2%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『18～19歳』において92.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において90.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『小豆圏域』において91.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』、『3年以上～10年未満』において89.0%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』51.5%、『女性』52.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.6%、『女性』7.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

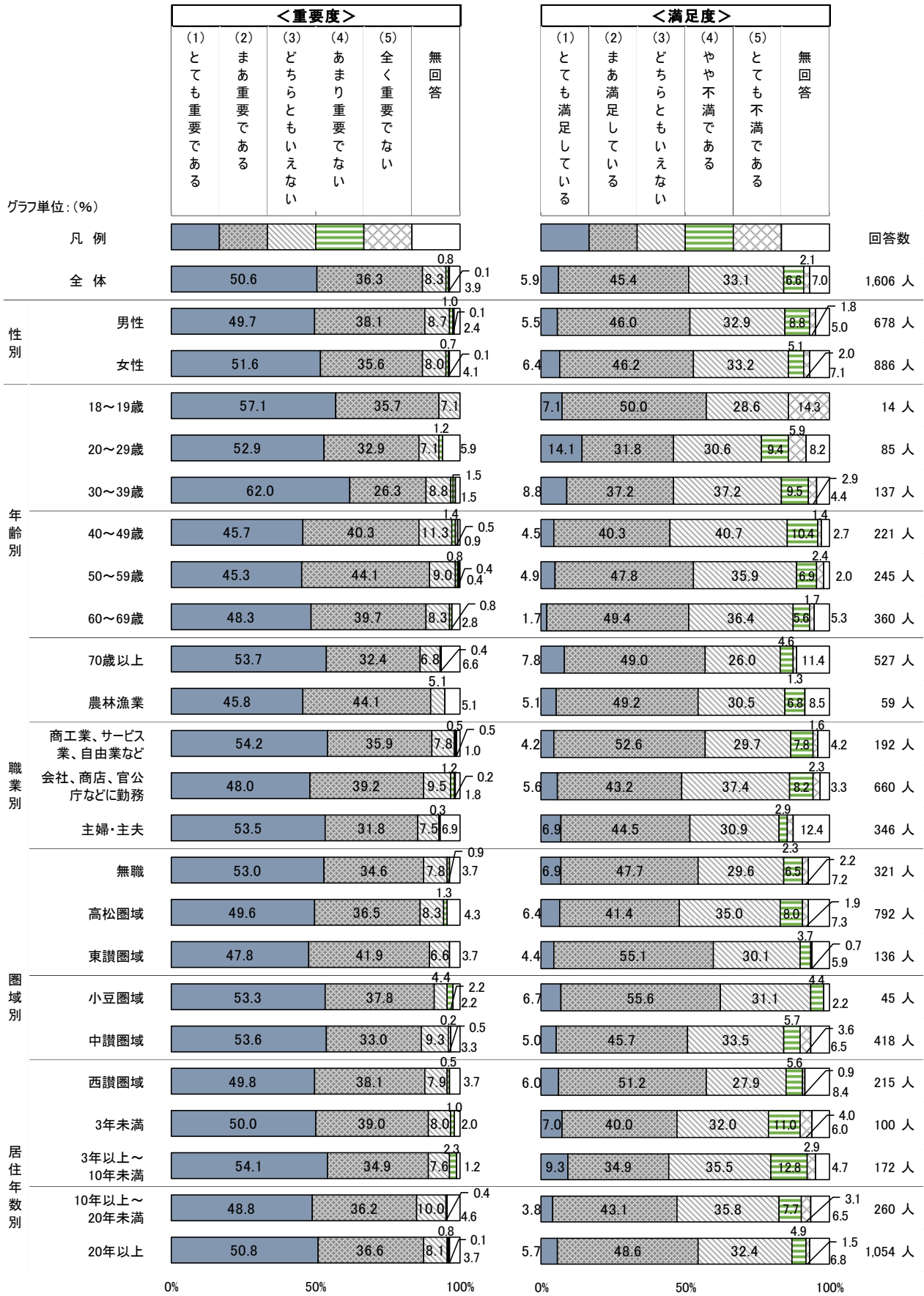
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(7)【安心して暮らせる水循環社会の確立】



安全で安心できる暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.3%、『女性』83.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『30～39歳』において90.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において87.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において87.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において85.0%と最も高くなっている。

安全で安心できる暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.8%、『女性』32.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.0%、『女性』10.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

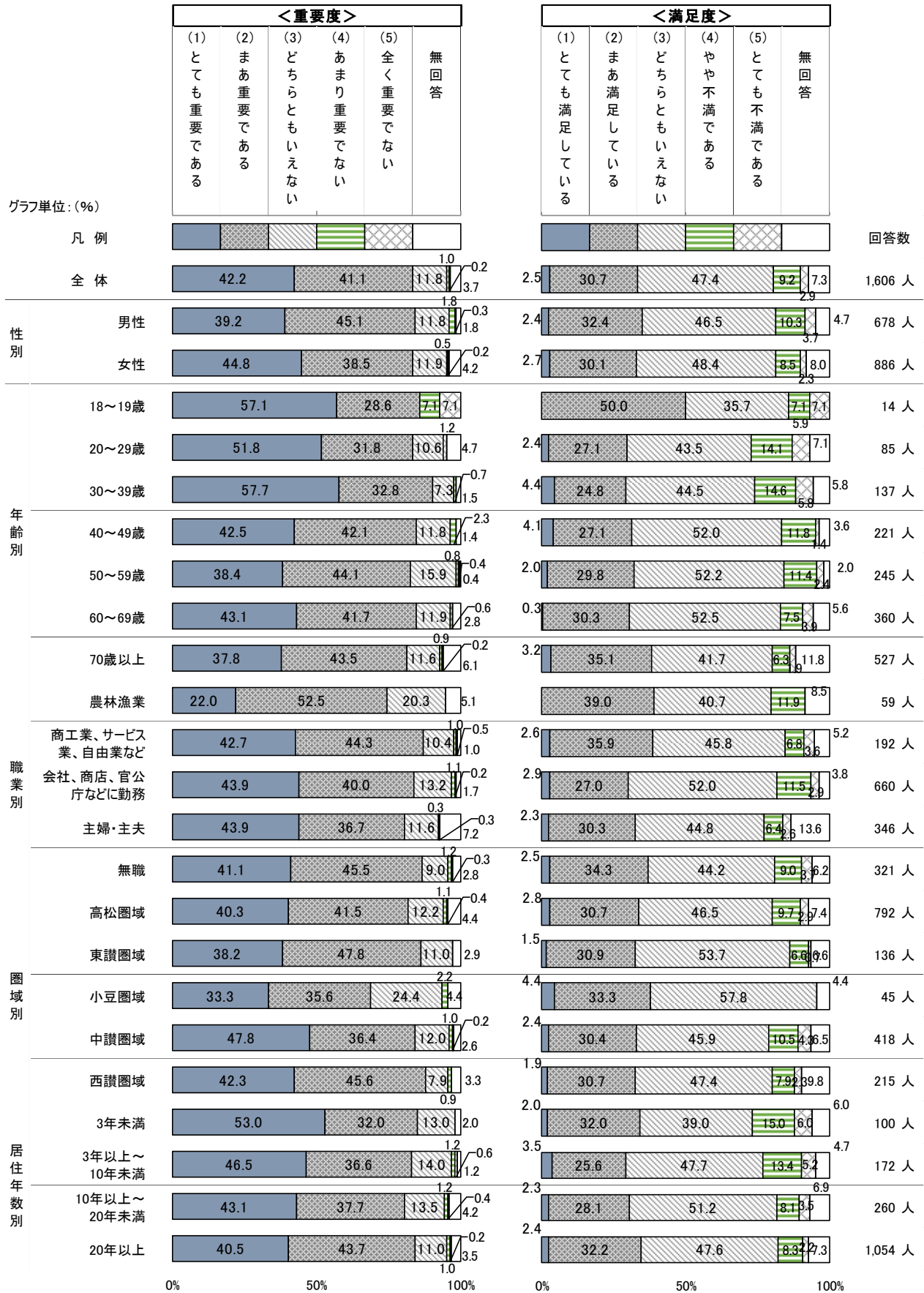
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(8)【安全で安心できる暮らしの形成】



定住人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.3%、『女性』70.0%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において92.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において74.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において77.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において71.0%と最も高くなっている。

定住人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』12.6%、『女性』17.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.7%、『女性』8.3%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

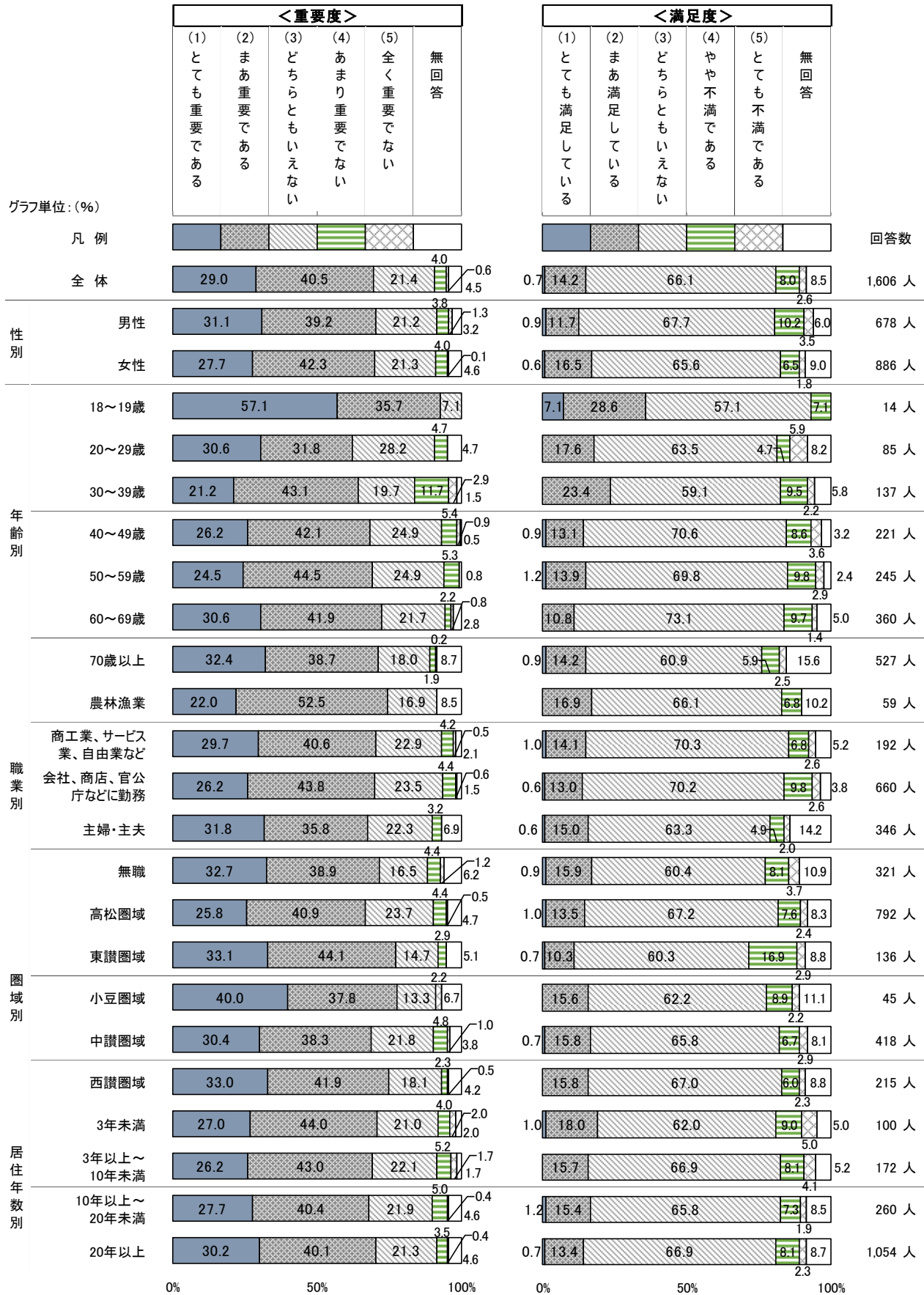
年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【不満である】の割合19.8%が【満足している】の割合11.0%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(9)【定住人口の拡大】



商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.1%、『女性』69.1%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『40～49歳』において74.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において77.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において73.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において71.2%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.2%、『女性』14.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.8%、『女性』7.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

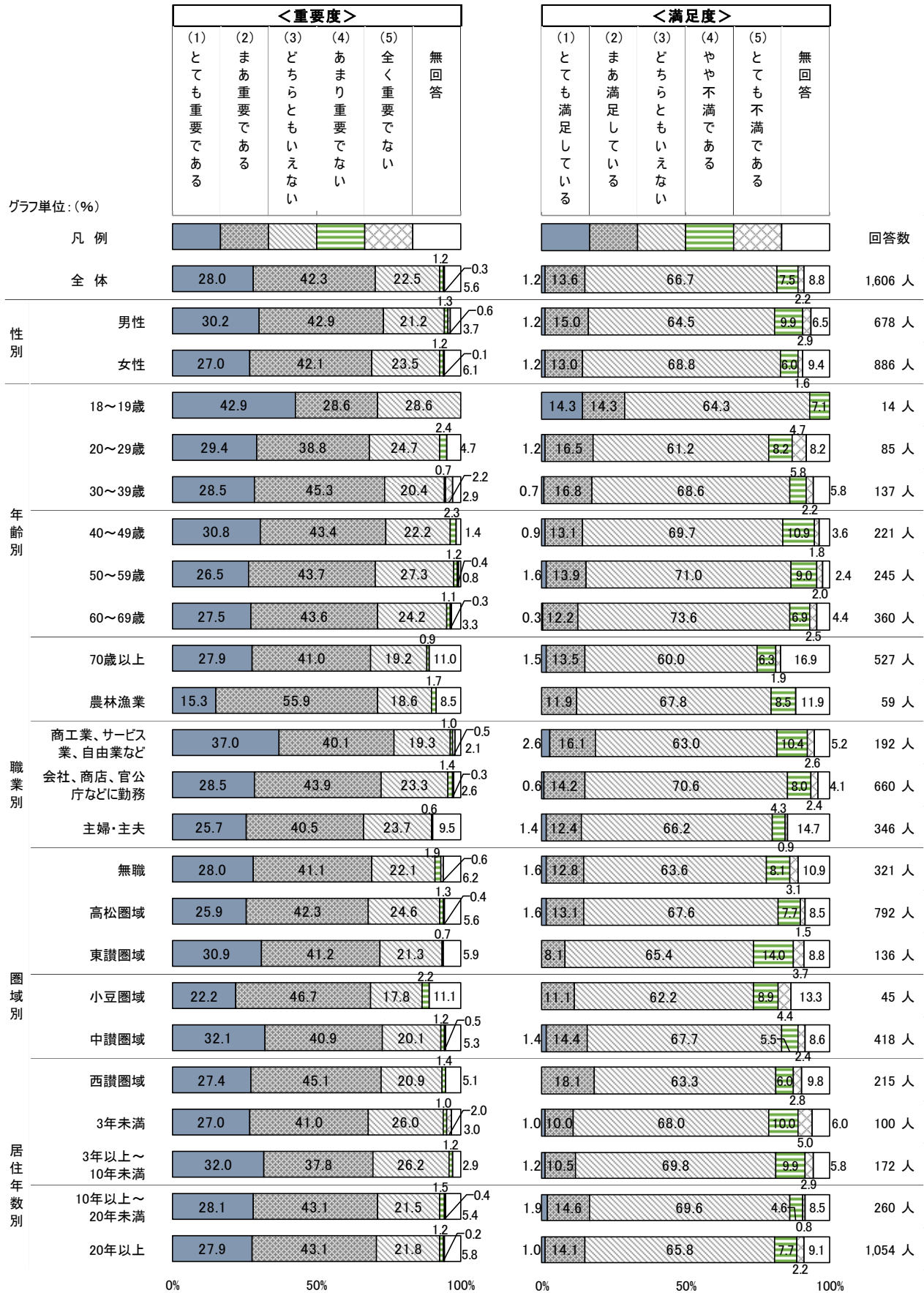
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(10)【商工・サービス業の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.4%、『女性』79.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『40～49歳』において88.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において83.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において81.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において83.0%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.5%、『女性』14.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.6%、『女性』14.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

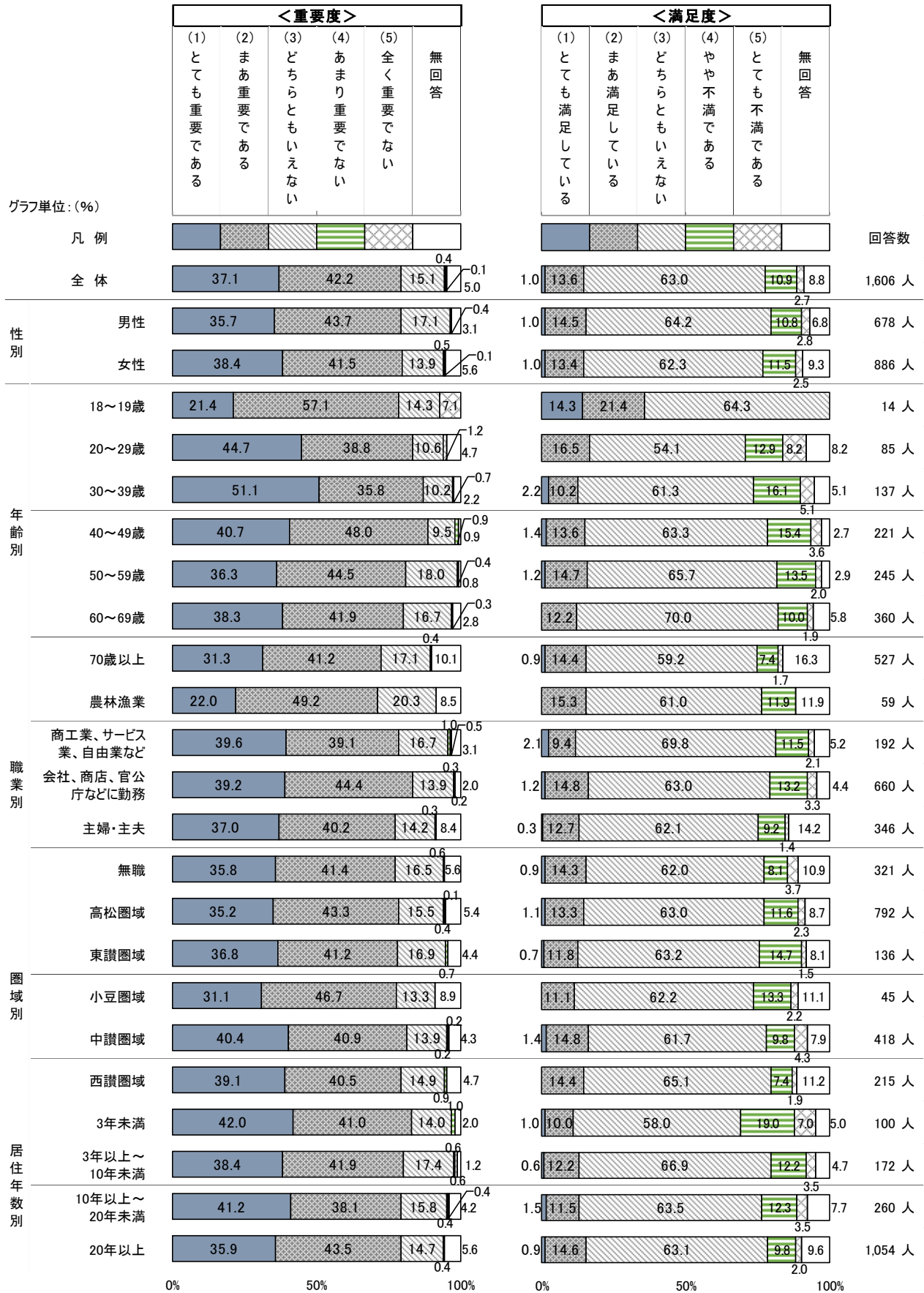
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『20年以上』では【満足している】の割合15.5%が【不満である】の割合11.8%を上回っている。

図表 6-(11)【雇用対策の推進】



外国人材の受入れ支援・共生推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』35.7%、『女性』34.1%と、いずれも3割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも2割を超え、『18～19歳』において42.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『無職』において37.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも2割を超え、『中讃圏域』において37.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『3年未満』において42.0%と最も高くなっている。

外国人材の受入れ支援・共生推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』9.6%、『女性』10.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.4%、『女性』4.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

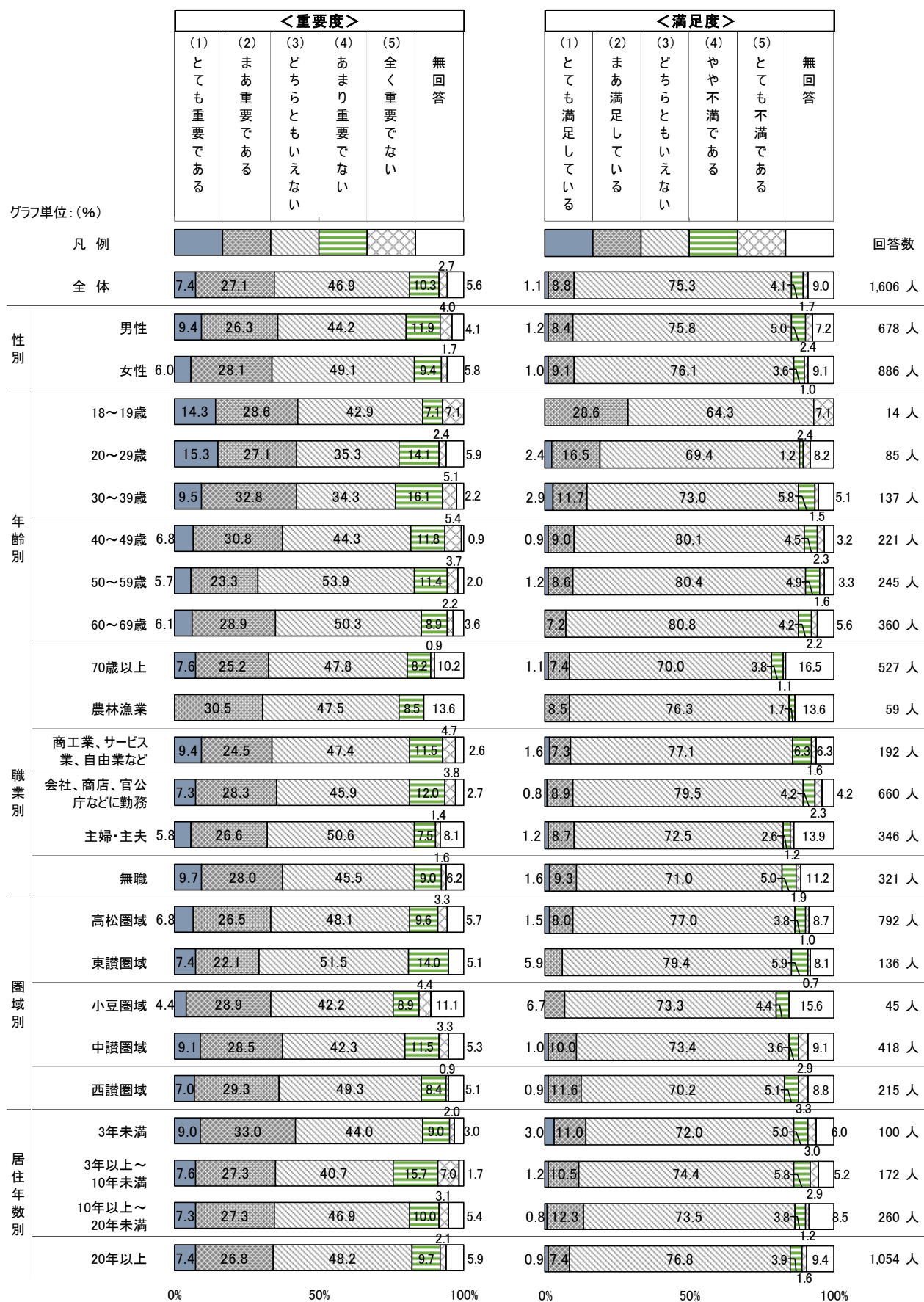
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。『東讃圏域』では【不満である】の割合6.6%が【満足している】の割合5.9%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(12)【外国人材の受入れ支援・共生推進】



交流人口の回復・拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』59.5%、『女性』61.1%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『30～39歳』において66.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において64.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『西讃圏域』において64.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年以上～10年未満』において65.7%と最も高くなっている。

交流人口の回復・拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.4%、『女性』21.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.5%、『女性』4.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

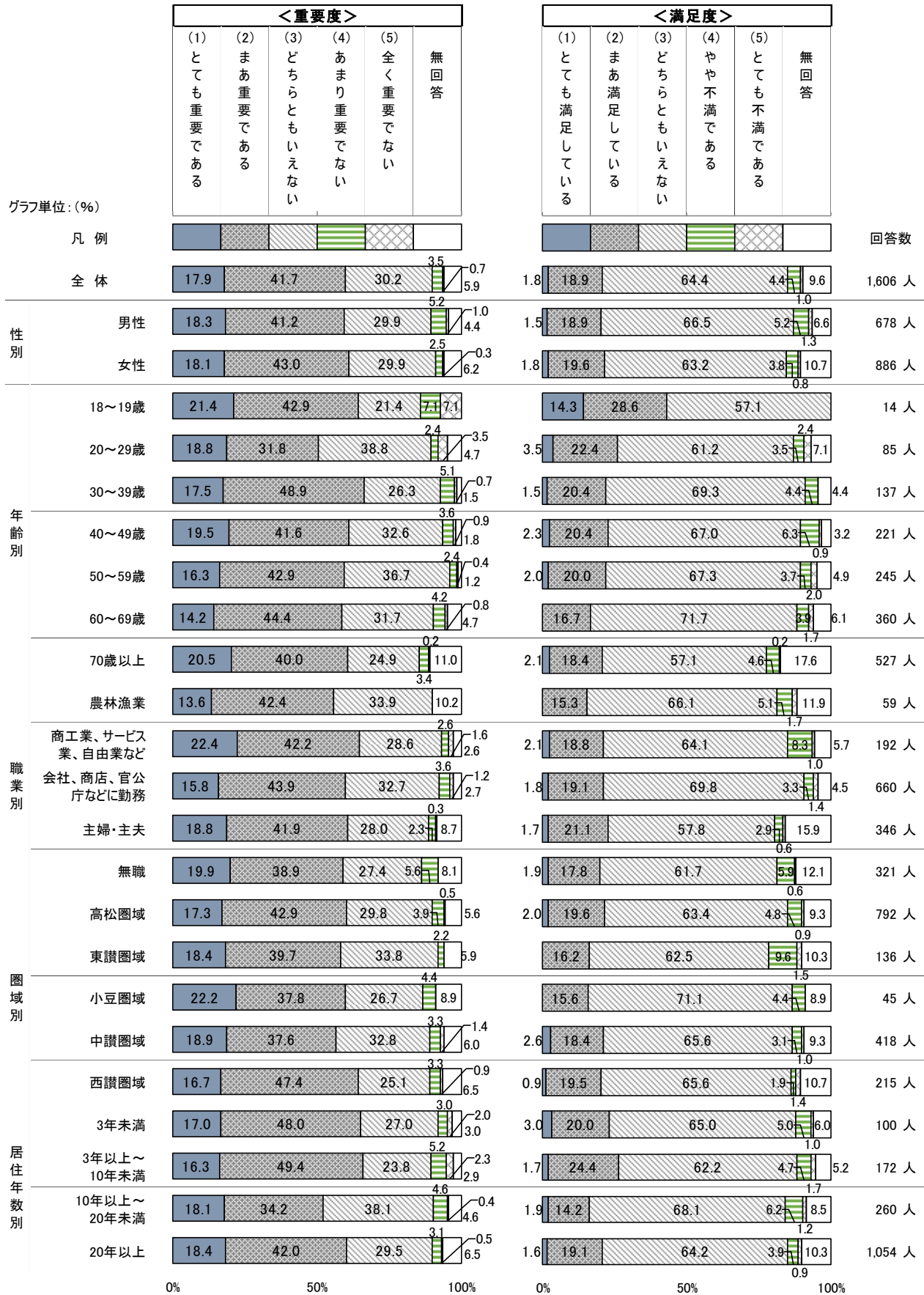
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(13)【交流人口の回復・拡大】



農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』77.1%、『女性』77.3%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『30～39歳』において81.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において88.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において80.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において79.1%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.2%、『女性』15.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.6%、『女性』13.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

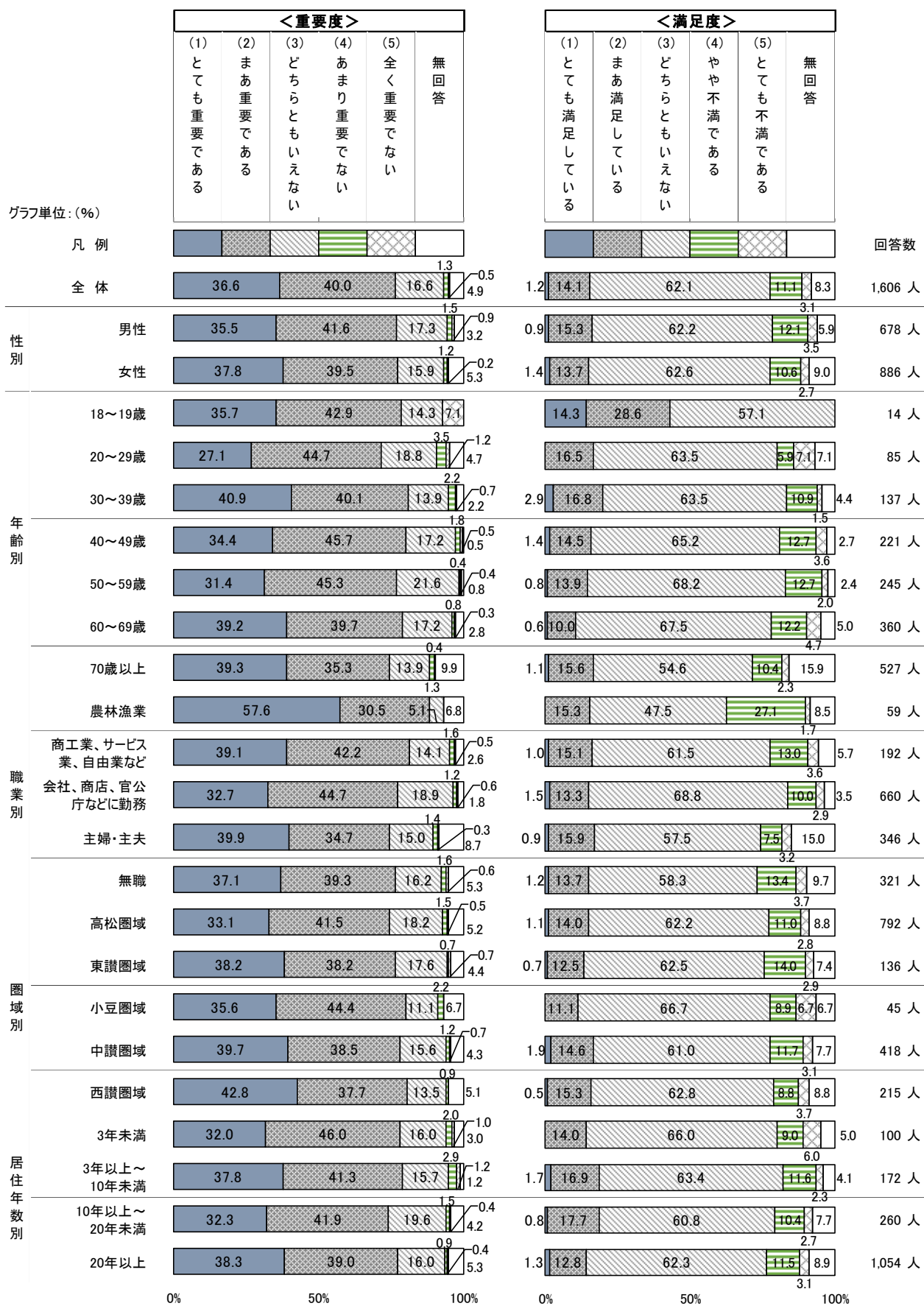
年齢別にみると、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『50～59歳』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の14.7%となっており、『40～49歳』、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『20年以上』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年未満』、『20年以上』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 6-(14)【農林水産業の振興】



県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』65.8%、『女性』66.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において78.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において74.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において71.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において68.0%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.8%、『女性』28.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.4%、『女性』5.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

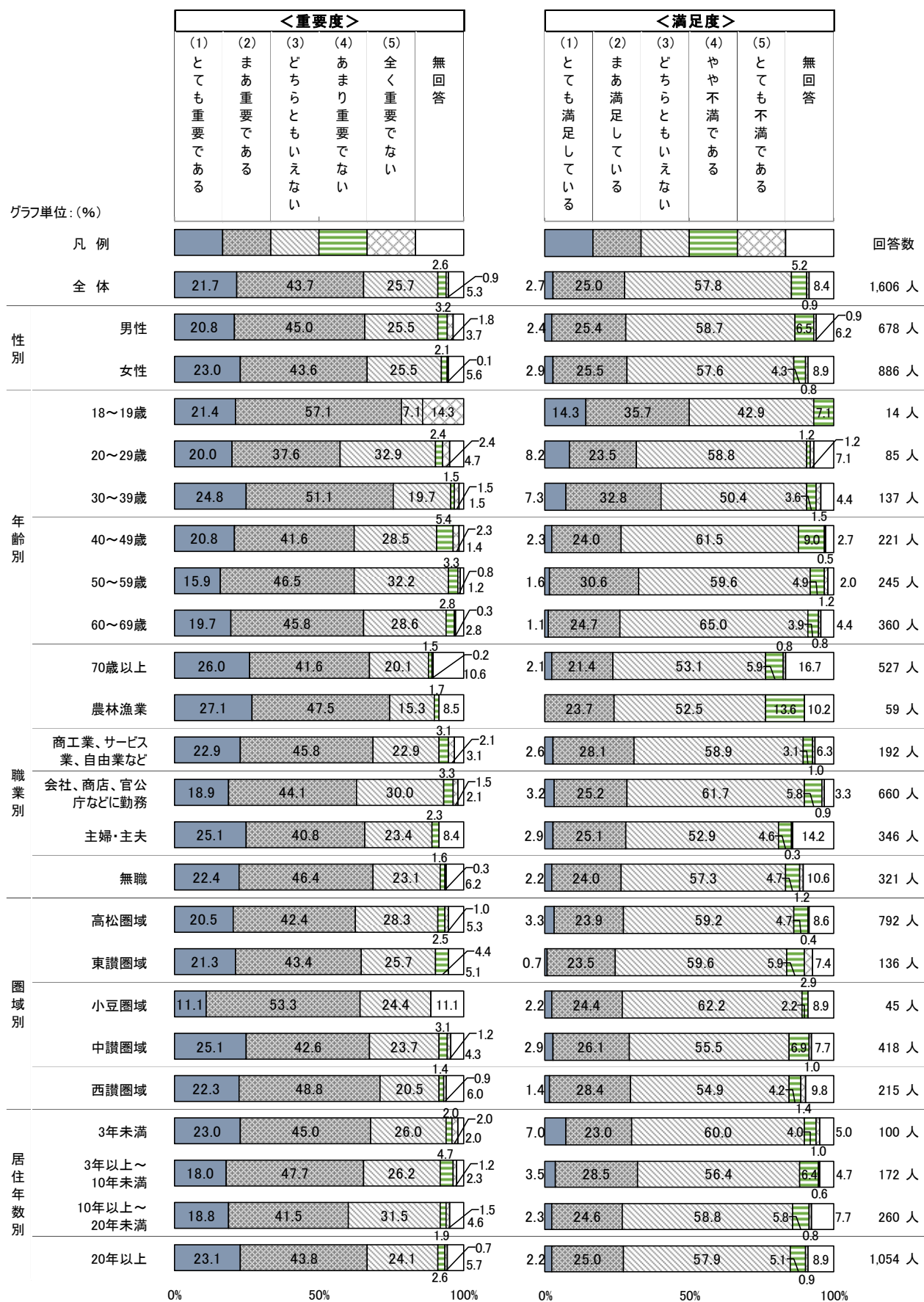
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(15)【県産品の振興】



デジタル化の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.8%、『女性』59.3%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において63.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において63.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において69.0%と最も高くなっている。

デジタル化の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』12.0%、『女性』12.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.8%、『女性』10.2%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

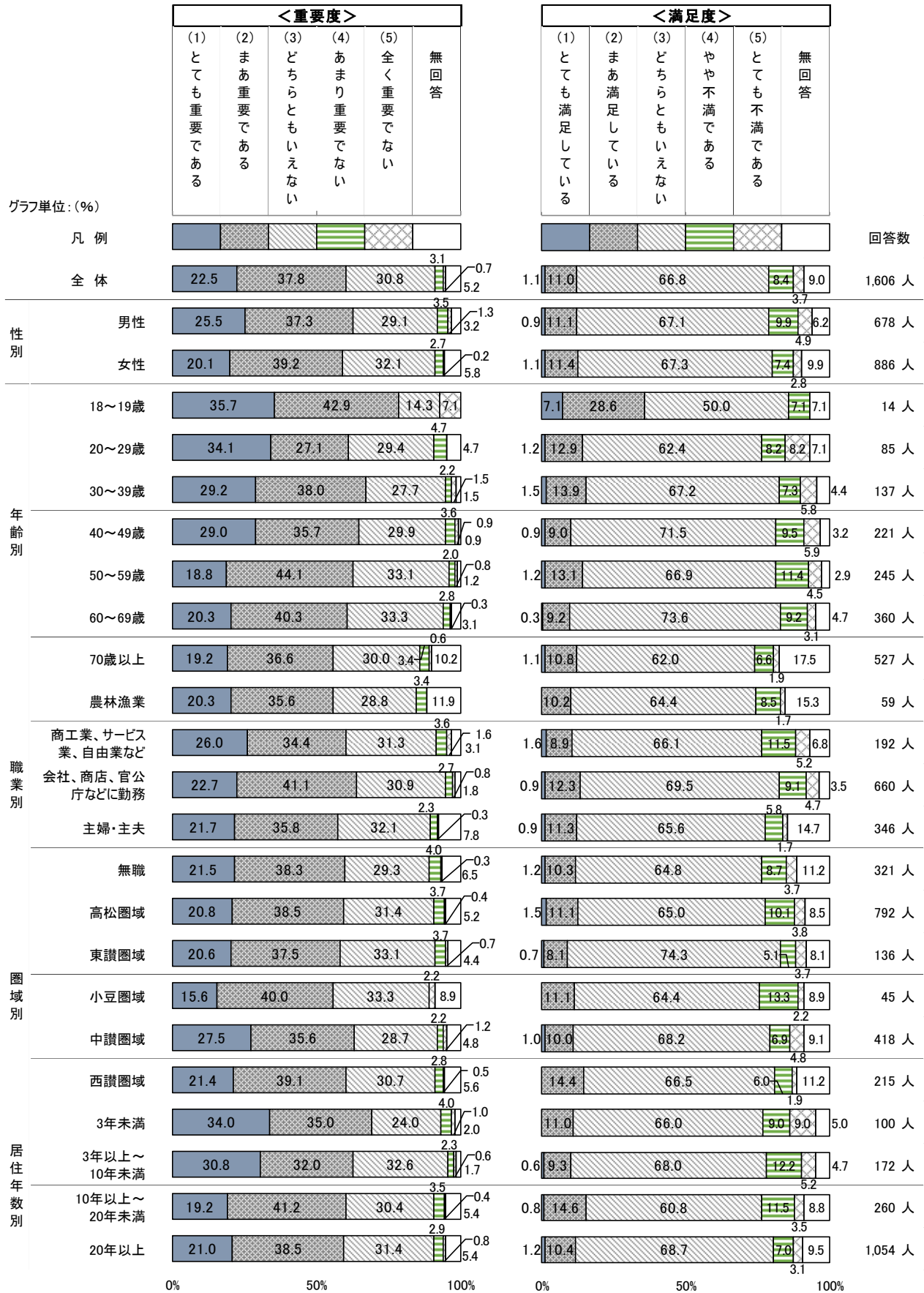
年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の10.2%で、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『主婦・主夫』では【満足している】の割合12.2%が【不満である】の割合7.5%を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の8.8%で、『西讃圏域』では【満足している】の割合14.4%が【不満である】の割合7.9%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(16)【デジタル化の推進】



交通ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.1%、『女性』72.0%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において85.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において72.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において73.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において73.0%と最も高くなっている。

交通ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.1%、『女性』17.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.2%、『女性』14.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

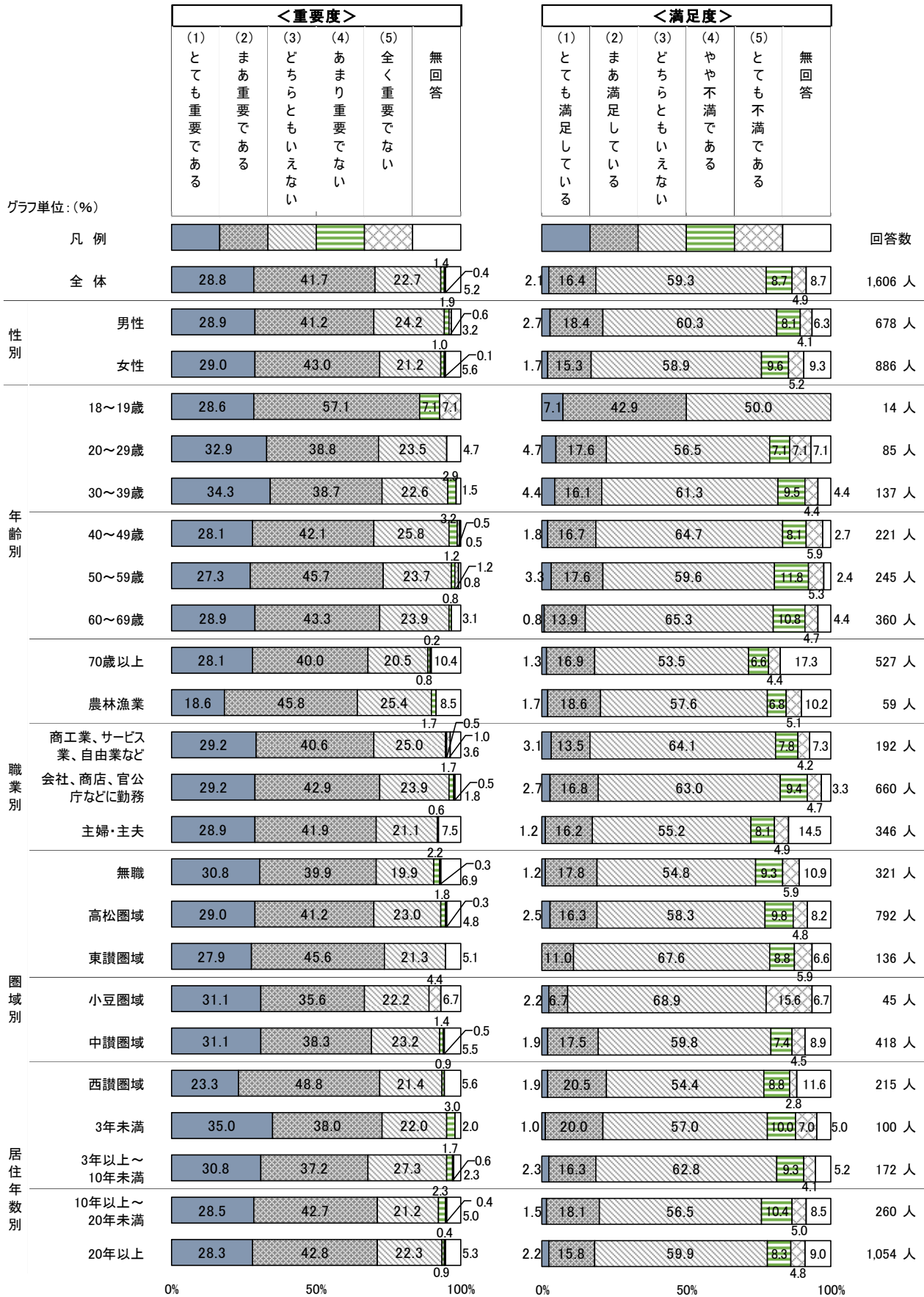
年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(17)【交通ネットワークの整備】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.8%、『女性』83.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『30～39歳』において91.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において87.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『高松圏域』において84.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において87.8%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.5%、『女性』30.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.1%、『女性』8.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

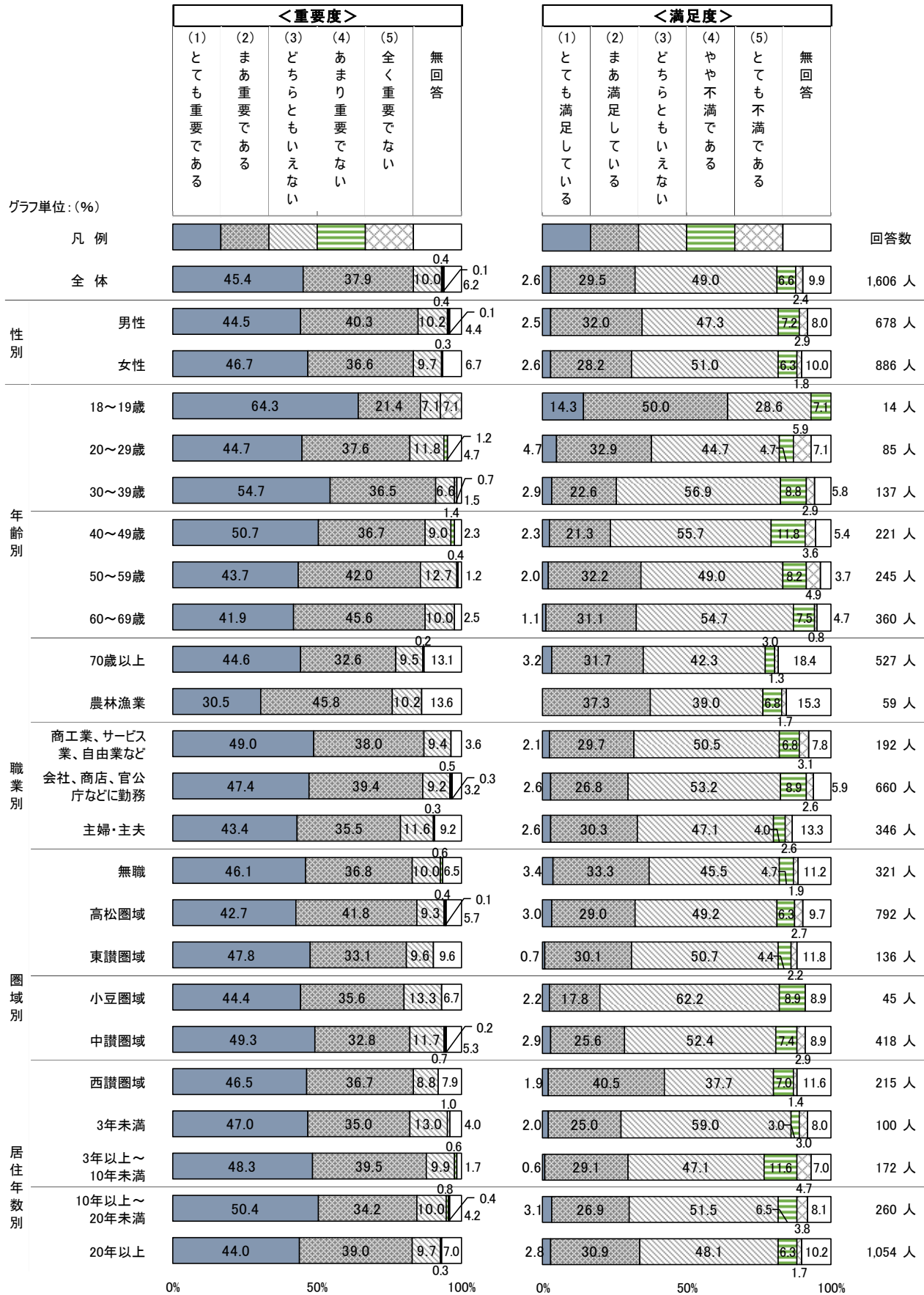
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(18)【教育の充実】



男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』65.0%、『女性』70.8%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『30～39歳』において74.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において72.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において73.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において71.0%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.7%、『女性』20.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.3%、『女性』7.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

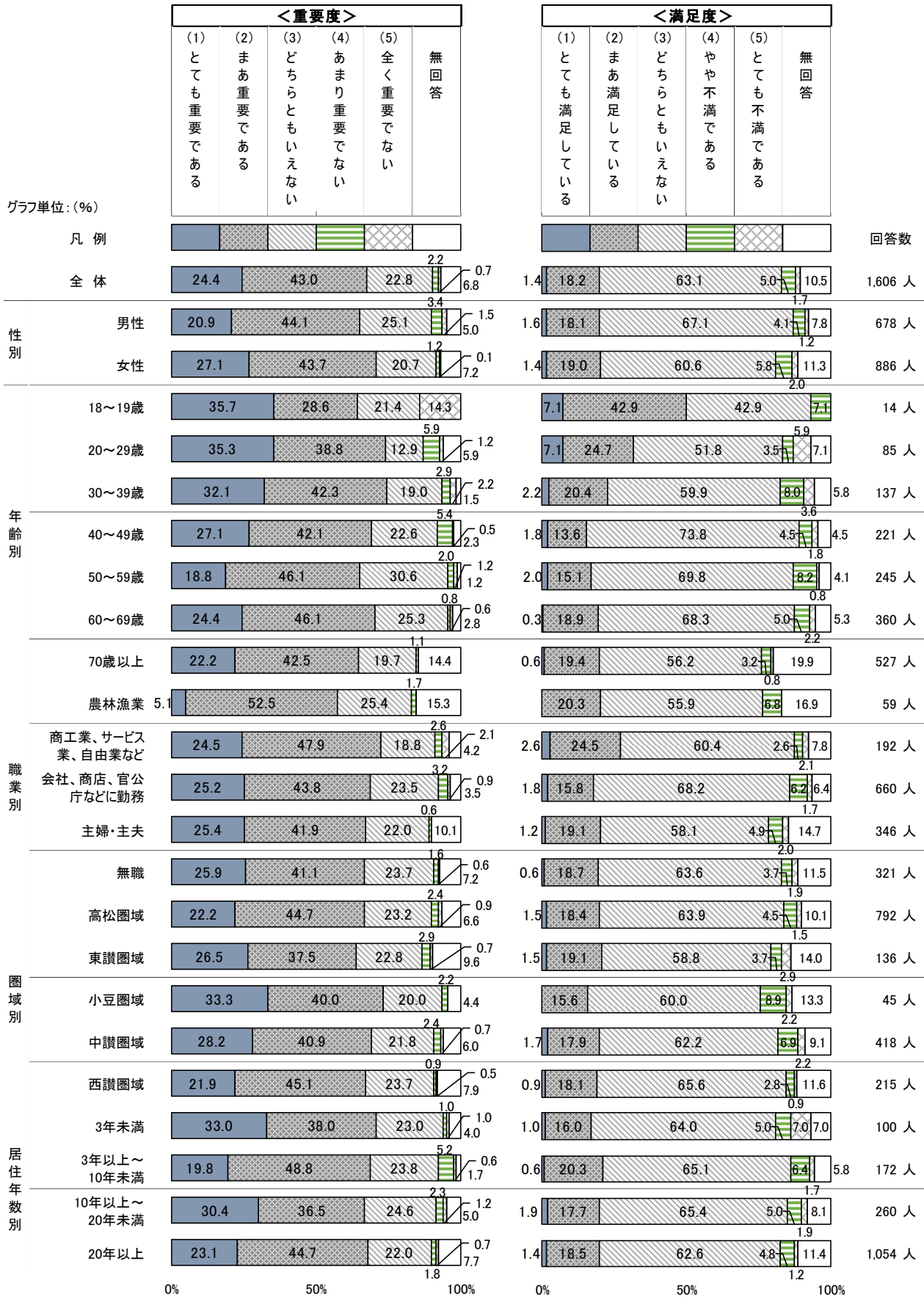
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(19)【男女共同参画社会の実現】



青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.8%、『女性』63.4%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『70歳以上』において66.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『無職』において66.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において68.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20年以上』において64.3%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.9%、『女性』16.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.2%、『女性』3.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

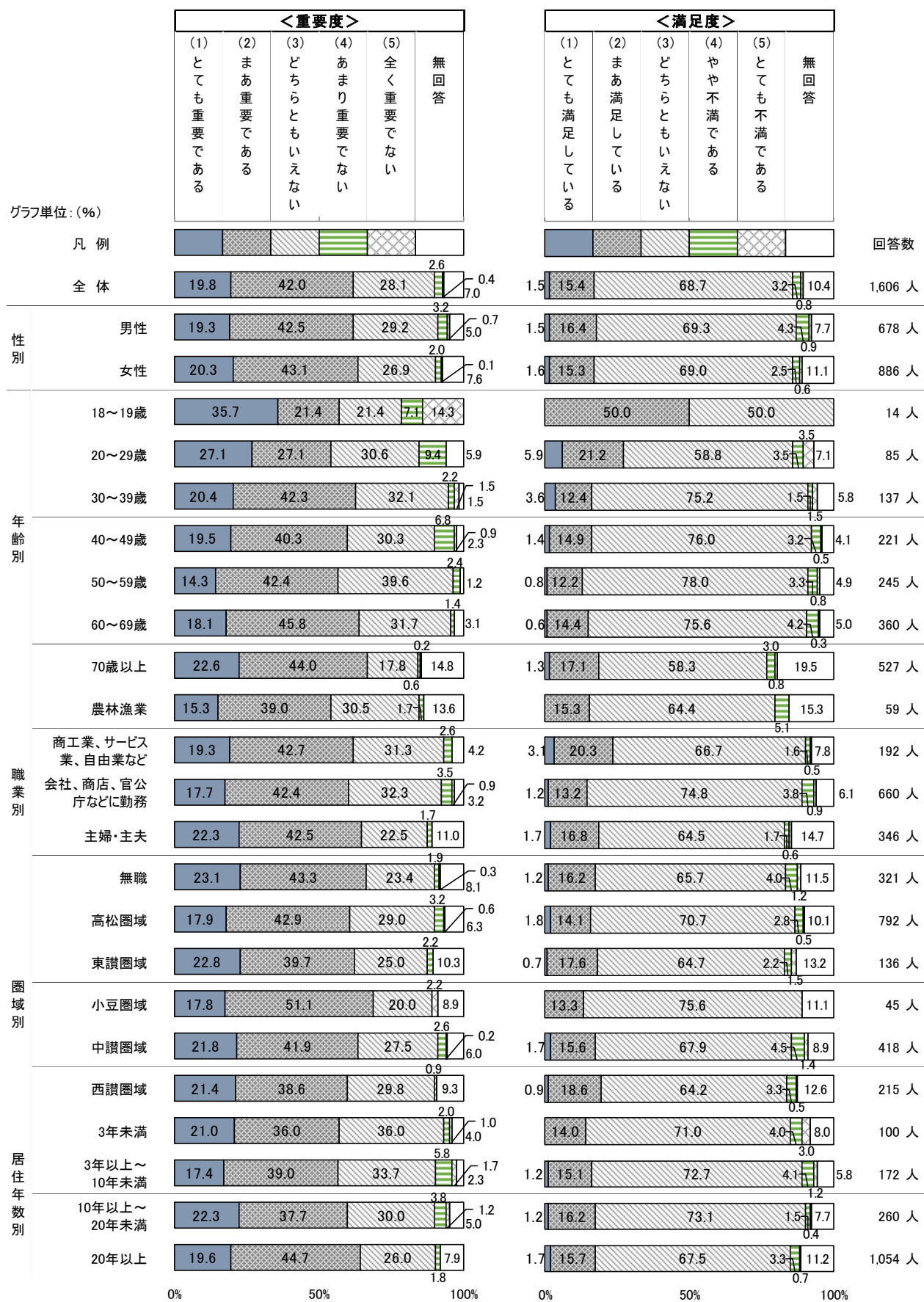
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(20)【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』53.2%、『女性』58.3%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において78.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『無職』において60.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『東讃圏域』において58.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において58.9%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.5%、『女性』14.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.7%、『女性』6.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

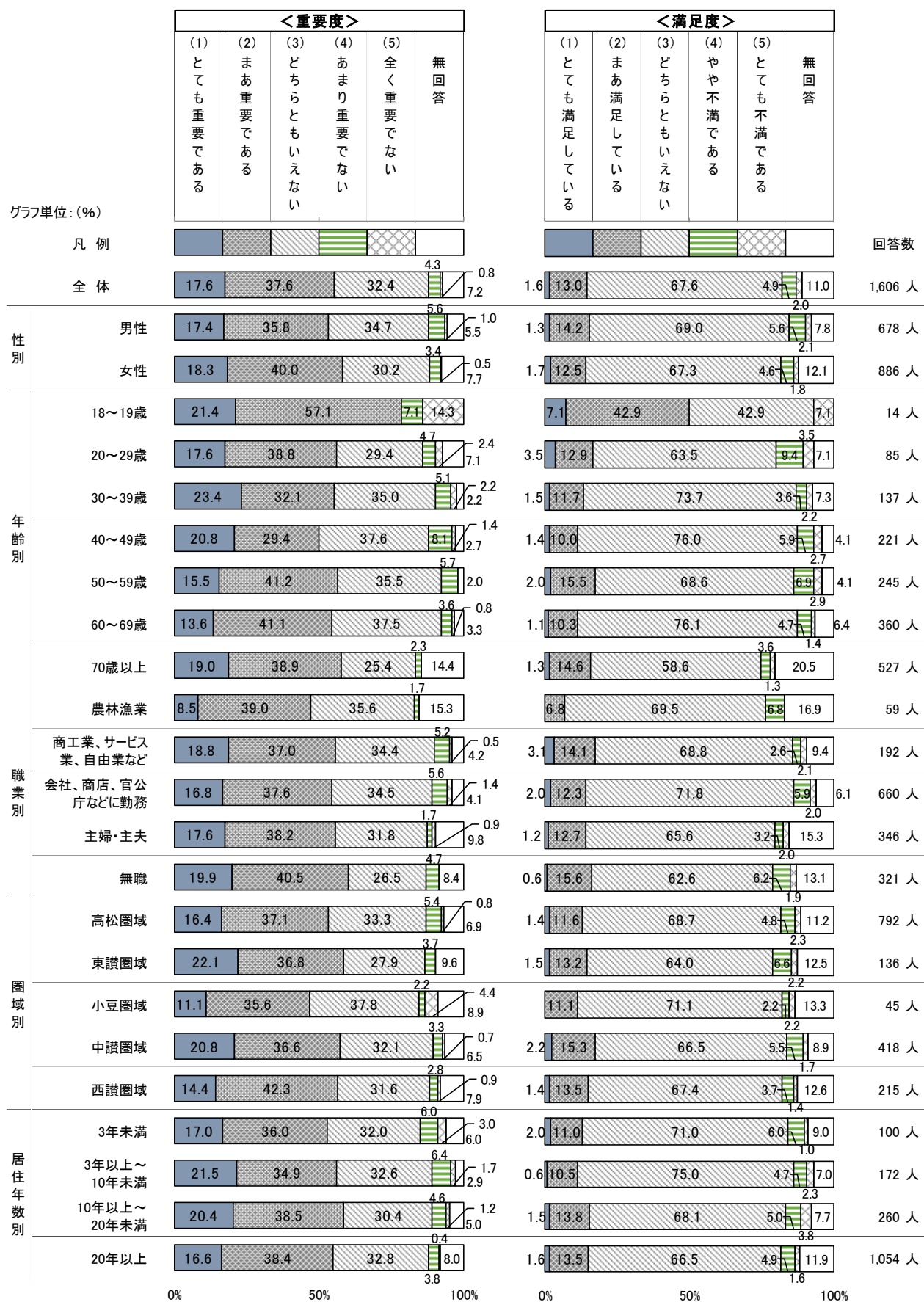
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の6.8%となっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(21)【魅力ある大学づくり】



環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.8%、『女性』76.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『30～39歳』において80.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において76.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において77.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において77.3%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.2%、『女性』19.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.4%、『女性』6.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

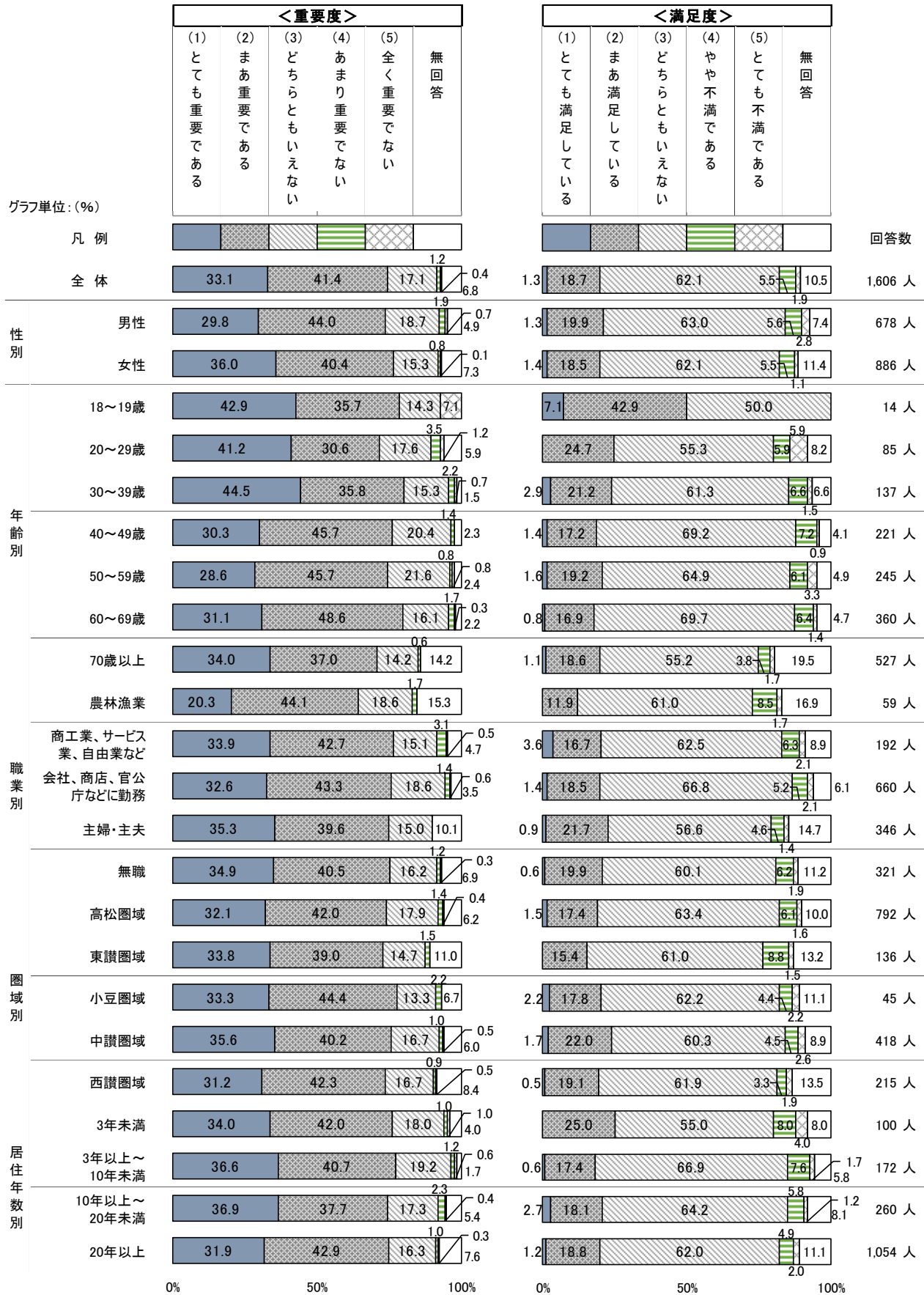
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(22)【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.6%、『女性』66.3%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『30～39歳』において73.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において69.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において66.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において73.0%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.3%、『女性』25.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.9%、『女性』4.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

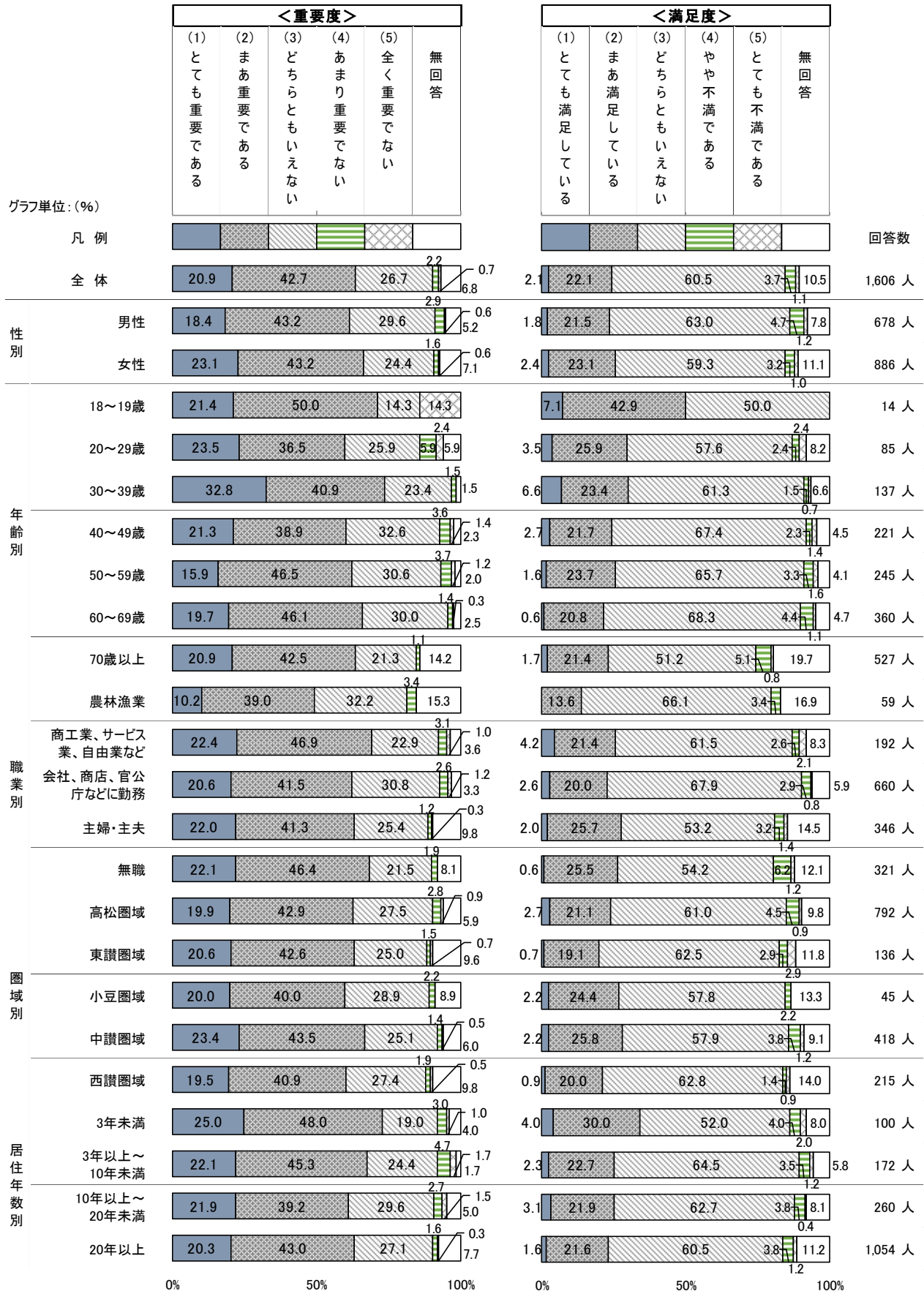
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(23)【みどり豊かな暮らしの創造】



活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』66.6%、『女性』68.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において72.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において70.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において80.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において68.6%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.6%、『女性』15.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.6%、『女性』7.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

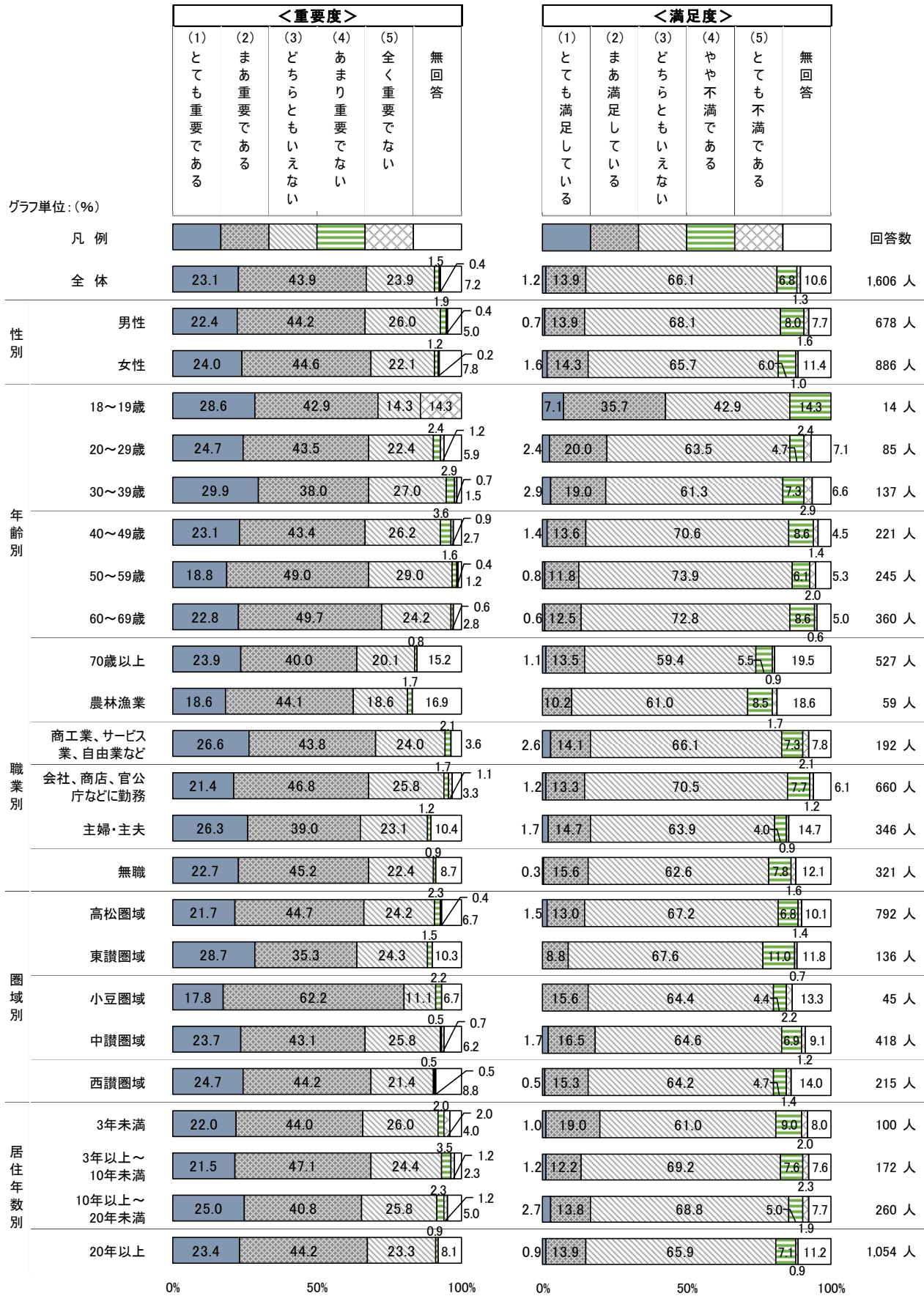
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の10.2%となっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(24)【活力ある地域づくり】



文化芸術による地域の活性化の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』51.9%、『女性』57.0%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『30～39歳』において57.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において62.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『西讃圏域』において54.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において57.0%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』24.9%、『女性』26.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』4.6%、『女性』2.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

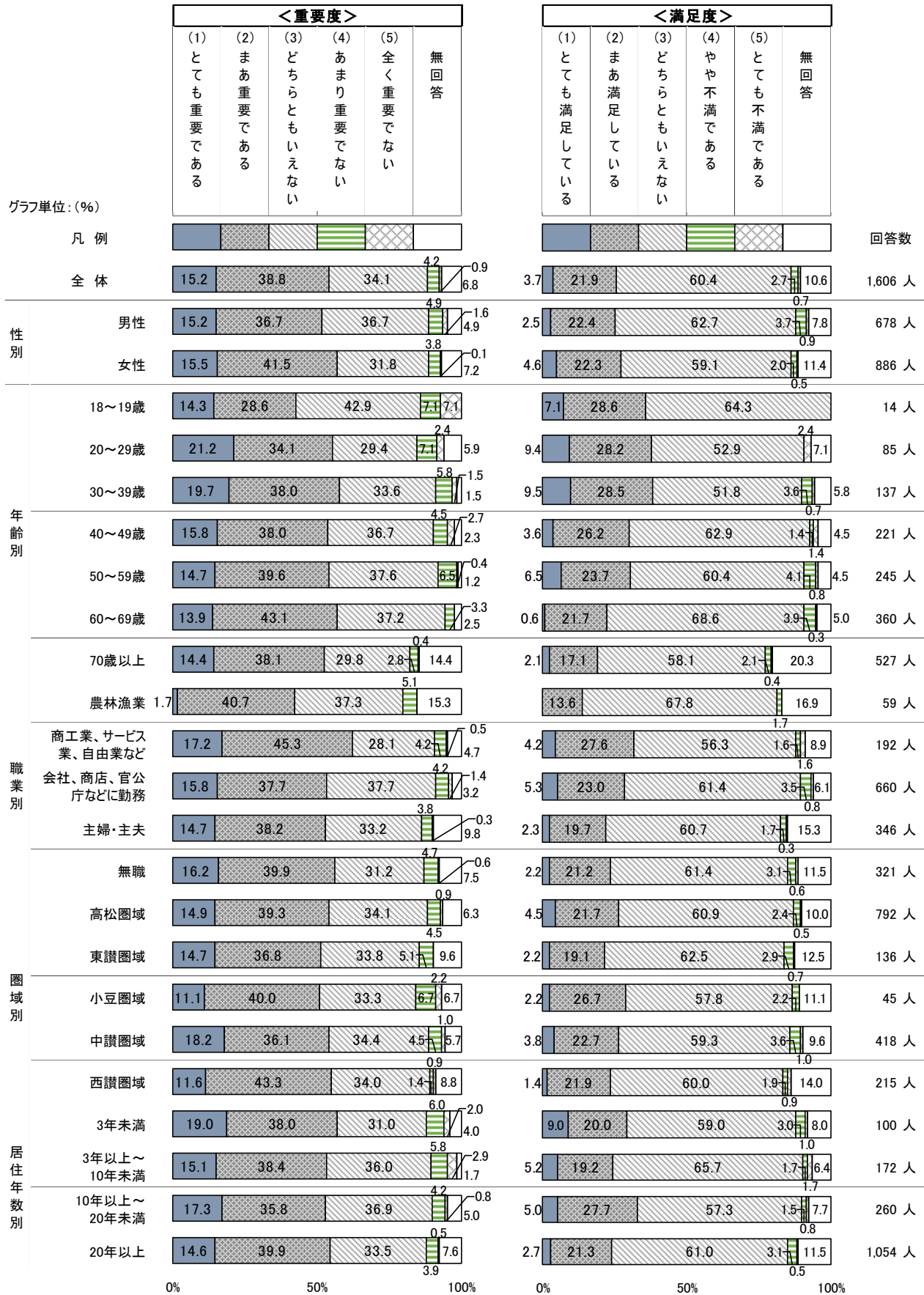
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(25)【文化芸術による地域の活性化】



スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』51.9%、『女性』52.1%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において57.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において56.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『東讃圏域』において57.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年未満』において57.0%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.4%、『女性』17.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.7%、『女性』3.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

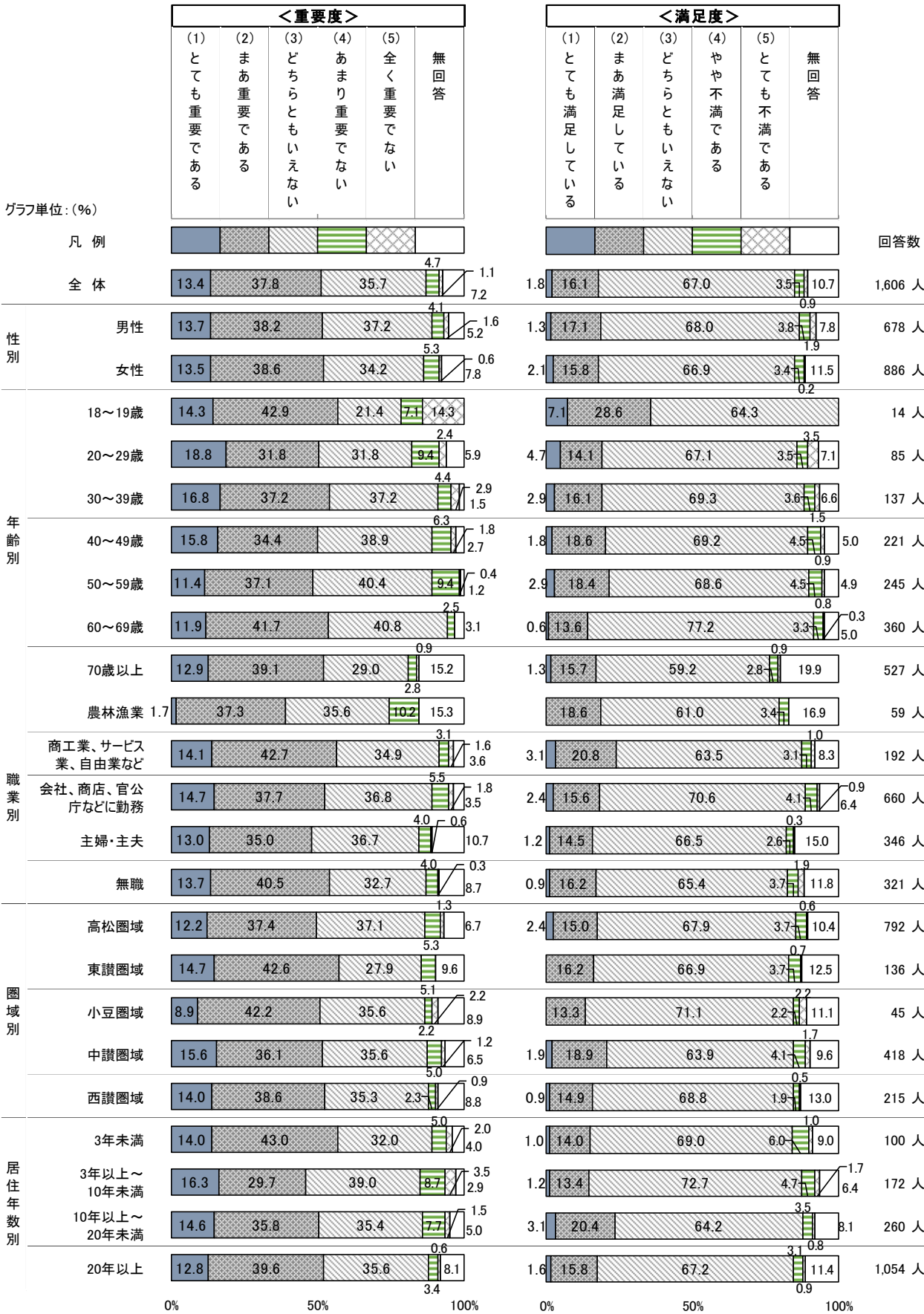
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(26)【スポーツの振興】



(7) 不満と思っている具体的な内容

付問19 問16で＜満足度＞が「やや不満である」又は「とても不満である」と答えた方は、よろしければ、不満と思っている具体的な内容と、どのような改善が必要であるとお考えかもお答えください。

※記載いただいた内容は、「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画で定めた施策体系（26 分野 83 施策）に沿った形に整理し、要約・抜粋した意見を記載しているため、回答の原文とは異なる場合があります。

【1. 防災・減災社会の構築】（88 件中意見を要約・抜粋）

○南海トラフ地震・津波対策の推進
いつ来るか分からない地震に対して、防災工事のスピード感がない。
地震が起きた際の河川による水害への対策をしてほしい。
避難先の耐震性が不安である。
シェルターのような場所がほしい。
津波などの水害の際に、すぐに避難できる高台がない（思いつかない）。
地震の際に住宅が安全か心配である。
防波堤が低い。
香川県は災害が少ないため、いざ地震が起こった際に対応できるか不安である。
地震や津波の影響の差だと思うが、高知県や徳島県等と比べると取組みが見えない。
港町に住んでいるので津波が不安である。
住宅の耐震化などの補助金と分かりやすい説明がほしい。
県立中央病院が海の近くにあるのは不安である。
○大規模な風水害に強いまちづくりの推進
海岸や河川周辺の対策が不十分である。
川の氾濫や土砂災害など様々な事態を想定し、対策をお願いしたい。
ハザードマップの作成が十分でない。
河川があふれないように、川の底を掃除してほしい。
風水害に強いまちづくりができているとは思えない。
台風時の水害の対策をしてほしい。
河川の法面や堤防の整備ができていない所がある。
風水害が少ないせいか、土のうが手に入りにくい。
○危機管理体制の強化
もっと情報を知らせてほしい。
危機管理体制が目に見える形となっていない。
避難所が人でいっぱいである。
避難場所の確保、物資の備蓄、避難所のプライバシー確保や充電設備が必要である。
災害時の交通麻痺などから復旧するシステムづくりが必要である。
災害時にどこへ避難すれば良いか分からない。
居住地と勤務地が離れているため、介護施設でBCPを策定していても、即時に対応できない。
○防災意識の向上
香川県は災害が少なく、防災意識が低い。
地域での訓練が不十分である。
地震を体験できる機会を充実させてほしい。
食料等を常備しておくことが必要である。

県民に危機感が伝わっていない。
危機管理の意識付けや知恵・工夫をもっと広報してほしい。
防災について県民が理解しやすいものがほしい。
大規模災害が少ないため、実際の災害に対応できるか不安である。
高齢者に対して、防災対策を地区ごとに具体的に指導してほしい。
大規模災害への備えができていない家が多いと思う。
地震や津波の対策をもっと周知してほしい。
地震や津波の発生時の避難場所や避難経路が分からない。
南海トラフ地震に対して一人ひとりが準備不足である。
SNS を上手く活用して若者世代にももっと知らせるべき。
You Tube を利用して具体的な減災対策を周知すると良い。
○安心につながる社会資本の整備
具体的な制度や、社会資本の設備が不十分だと思う。

【2. 子育て支援社会の実現】(92 件中意見を要約・抜粋)

○結婚・妊娠期からの支援
妊婦検診、乳幼児健診を全て無料にしてほしい。
保育所の充実、出産費用の補助が必要である。
子を産みたい人が産みやすいように、経済的な面でもっと補助が必要。もっと積極的に支援策を出してほしい。
小児科、産婦人科のある病院が少ない。
出産できる婦人科が少なく、待っている時間が長く、体調が悪くなる時があった。
子どもが欲しくてもできない人へのフォローが必要。
不妊治療の医療費が高すぎる。
○子ども・子育て支援の充実
保育所の待機児童が多い。希望の保育所に入所できず遠方で不便を感じている。
長期休校（夏休み等）の際、子どもが1人になってしまう。
急用があるときなど預け先がない。
第二子、第三子が生まれたら、上の子どもは保育所へ通えないと聞いた。お母さんを少しでも助けるために上の子どもをこども園等で預かってあげてほしい。
保育士や施設がまだまだ足りていない。保育所の充実や保育士の処遇改善が必要。
学童保育が不足していて、子どもが希望通り入れなかった。
離婚後、養育費が確実に入金されるよう法整備をしてほしい。
子育て支援社会の文言は提唱されて20年以上になるが、親の教育が必要。もっと根本的な教育に問題があるのでは。
子育て支援や若い夫婦に関しての待遇は十分と思っている。重要視しすぎる感じがした。
子育て支援といっても事業所・公的機関の連携が必要であり、国・県・市などの掛け声だけではダメ。
○子どもや子育て家庭にやさしい環境の整備
今は少子化対策よりも高齢者の保健福祉に力を入れているように感じる。子育てのための経済的負担を軽くしていけば、子どもが増え、労働者が増え、税収が増え、最終的に高齢者の保健福祉も充実していくので、もっと子育て世代を経済面で支えていくべきだと思う。
日本は全体的に賃金が少なく、特に若年層が結婚や子を持つことにポジティブになれるだけの所得がない。
出生率が減っているという割に子育てに対しての対策が全然充実していない。
収入が少なく、子育てが不可能な家庭でも子育てが出来るように給付金等の制度を増やすことが必要。
出産後の支援も大事だが、結婚した夫婦の支援からしていかないと子どもを作ろうという気にはならない。経済的支援はとても大切。給与があまり高くない夫婦は今の時代とても多いと思う。

子どもの遊び場不足。子育て支援サービスが充実しているところが少ない。
社会的インフラの整備が必要。
産休・育休のある企業が少ない。産休の手続き（企業側・個人）がすごいややこしく、税金などは自動で引きおとしになるのに不公平だと思う。
妊娠期の相談があっても上司が男性で相談しにくい。
子育てと仕事が両立できる環境に乏しい。
子育てしながら女性が働き続けていける方法をもっと考える必要がある。
子育て施策の拡充が必要。
子育て中のお母さんは不安がいっぱいなので、ストレスをなくすために助言が必要。
市民、現場からの訴えは全く耳を貸してもらえないという実感がある。
児童手当の所得制限をなくしてほしい。安心して子どもも産めない。2人目、3人目をどうするかとても悩む。
年収によって奨学金の有無が判定されること。他に加味すべきものはないのか。
高松市の保育料が高額である。病児保育の施設が少ない。利用方法と利用時間の見直しが必要である。9：00～18：00勤務の場合、通勤時間を考えると利用できない。
子育て支援があまりない。保育料が高すぎる。2人分の給料ではギリギリ。
高所得世帯（～1000万円/年）に対する保育料等の負担が大きい。保育料減、手当の増額、子育て全世帯対象のオムツ・ミルクなどに使えるクーポン等を作ってほしい。
お金がある人の子どもは教育に通わせていて、お金のない人は習い事をさせてあげられない。
教育費や給食費が高すぎて支払うのが毎月大変なので、就学支援制度を利用しやすくしてほしい。
中学までは病院代はいらないので助かる。大学の費用は高い。
子育てにかかる費用、特に医療費助成を高校卒業まで充実してほしい。
一番お金のかかる大学生をもつ親への支援はほとんどない。
○児童虐待防止対策・社会的養育の充実
児童虐待対応件数が高い水準で推移している。行政が積極的に介入することが必要。
虐待を受けている子どもの受け皿がない（とても少ない）。
児童虐待について、まだまだ減らず、すぐに子どもを保護できるように国で法をしっかりと作るべきではないか。
児童虐待が起り続けている。親を孤独にしないことが必要。
地域のみinnで守る体制が弱い気がする。
保育所・こども園・小学校など職員の意識向上（虐待を感じたら通報）と児童相談所の充実（職員を増やす、県をまたいでの連携充実）。相談窓口の認知度を上げる取組が必要。児童相談所虐待対応ダイヤル「189」もあまり認知されていないのではないか。

【3. 健康長寿の推進】（20件中意見を要約・抜粋）

○健康づくりの推進
健康診断をしているが項目が少ないので意味があまりないと思う。検査内容を統一してほしい。
誰でも老後が健康で安心して暮らせるよう、身近で参加しやすい場を提供してほしい。
地域の体育館などももう少し自由に借りられるといいと思う。
家庭でできるストレッチなどを広報してほしい。
高齢者の場合、社会参加したくても交通の便が悪く車に乗らない人は参加できず引きこもってしまう。有料でもいいので（少ない負担で）自宅近くに公共の車を配車してほしい。
健康だけでなく老化による衰えについても考えなければ、高齢者を家族だけで見るのは大変である。
やっていることを知らない。誰に聞いたらよいかも分からない。
○社会参加の促進と生きがいの推進
定年後の社会参加について広く広報しなければ知らない人が多い。
社会に貢献していくこれからの若者を大事にほしい。

【4. 安心できる医療・介護の充実確保】(108件中意見を要約・抜粋)

○新型コロナウイルス等の感染症対策の強化
感染者の数が減っていないため、もっと対策の強化をしてほしい。
PCR検査をしてくれる病院が少ない。場所がよく分からない。
コロナ・クラスターが発生した場所、集団等を発表していないのは不安が残る。
ワクチン接種はWEBサイト予約ではなく、順番制がよかったのではないかな。
必要のない書類や、それに関する人員や作業時間等、コロナに関する事で無駄が多いと思う。
新型コロナウイルスが長期間となり心のゆらみが出ていて怖い。
県民の問題意識が低い。
学校などで感染者が発生したときは、クラス全員検査をしてほしい。
コロナ対策と経済の両立が不十分である。
コロナ対策が、後手に回らないよう早めに対策してほしい。
施設で働くスタッフは制限があり、コロナ患者を施設で見る大変さを理解してほしい。
コロナは若い人に広まっているのに、高齢者優先の対策が多い。
○安全で質の高い医療の確保
医療の充実度が地域により異なる。農村部や島嶼部はどうしても手薄。
離島では専門医が少なく、高度医療を受ける場合、交通費などの負担が大きい。
訪問診療ができる医療機関を増やしてほしい。
開業医のレベル向上を図ってほしい。
病院によっては患者が頼っているのに話を聞いてもらえないところもある。
公的医療機関への初診時、かかりつけ医がおらず、紹介状がもらえなかったため、特別料金を支払った。
県内の救急病院の中には、対応できる医師がいないことを理由に救急の受入れを断っている病院がある。救急病院の質の向上を図ってほしい。
健康なうちから健康を作る医療体制の確保・構築(予防医学の推進)を図ってほしい。
医療機関同士の円滑なデータの共有ができればよいのではないかな。
○医師・看護職員の確保
人手不足で忙しいのか、病院での待ち時間が長く対応も雑。
優秀な医師の確保が出来ていない。
病気が治らないことが多く、経験豊富な優秀な医師を採用し、医療を充実させてほしい。
医師や看護職員の給与増や保育施設の充実など待遇を改善するとともに、人数を増やして負担を減らすことが必要。
島嶼部で週4日それぞれ(火、金)午前1.5時間、(月、木)午後3時間だけの診療なので、医師か看護師どちらかに常駐してもらいたい。
小児科や産婦人科が少ない。
かかりつけ医に後継者がいない。医療機関の後継者問題を解決してほしい。
○介護サービス等の充実
介護サービスの費用が高い。
介護サービスの内容についての周知が不足している。
認知症や精神疾患の患者専門支援の施設が少ない。
介護職員の育成・確保に力を入れるべきである。

【5. 地域福祉の推進】(45件中意見を要約・抜粋)

○ともに支え合う社会づくりの推進
地域社会の人的交流が不足している。
地域コミュニティの活性化があまりない。
地域での協力が不足している。
ひきこもりの家族がいるが、相談先が見つからない。

施策が見えない。
○障害者の自立と社会参加の促進
高齢となった障害者に対する対応が不十分である。
視覚障害者が安全にウォーキングや外出ができるように手すりなどを充実させてほしい。
障害者の自立のために障害に応じた活動の場や仕事があれば良い。
街中で障害者を見ることがほとんど無い。不便を感じて外出できないのではないか。
障害を持つ子どもの親として、親の死後の将来が不安である。
障害者手帳所持者への対応はしているが、そうでない障害のある人への対応が無い。
障害者が働きやすい環境が整っていない。
障害者の自立と社会参加が遅れている。
障害者が働ける場所・業務内容は、まだまだ限られている。
認知症の人、障害者の支援・協力をすべき家族が無視している。
○高齢者の安全の確保
信号のない横断歩道で車が停止するのは稀である。交通安全の啓発活動や、人通りの多い時間には「横断中」の旗を揚げた人物を配備させる等してほしい。
高齢者の交通事故死がまだ多い。
高齢者など社会的弱者への施策がみえてこない。

【6. 人権尊重社会の実現】(27件中意見を要約・抜粋)

○人権啓発の推進
世代や生活環境によって、人権感覚の低い人や偏見を持つ人が多い場合がある。
職場での人権問題について対応してほしい。
○人権・同和教育の推進
同性婚やジェンダー等の内容は、正しい理解が必要であり、子どもたちが混乱しないよう慎重に対応してほしい。
同和教育が行われていなかったと思われる高齢者の中には根強い偏見が見られる。
いじめや差別をなくすよう学校で適切な人権教育をしてほしい。
YouTube に人権軽視の動画を載せることに対策が必要ではないか。
○人権擁護活動の充実
現場の声を聴いてもらえない感じがする。
相談に迅速・的確に対応できるよう内容をよく聴いてほしい。

【7. 安心して暮らせる水循環社会の確立】(40件中意見を要約・抜粋)

○水の安定供給の確保
水不足への迅速な対応をしてほしい。
早明浦ダムに頼りすぎている。
他県の水源に頼らず、香川県独自の水源を確保してほしい。
水道管が老朽化しており、災害時などでも水が供給されるか不安である。
安全でおいしい水を供給してほしい。
○水循環の促進
子どもの頃から水の大切さを教育してほしい。

【8 安全で安心できる暮らしの形成】(64件中意見を要約・抜粋)

○安全な交通社会の実現
交通事故が多い。
交通マナーが悪い。
交通ルールが守られていない。黄色信号で止まっていない者が多い。

高齢者の運転免許返納促進とあわせて返納後の生活支援が必要。
交通取締りを強化してほしい。
交通マナー向上のためテレビCMなどで広報啓発をしてほしい。
高齢者や子どもに優しい交通社会であってほしい。
交通安全教育を進めてほしい。
○犯罪に強い社会の実現
もっとパトロールをしてほしい。
安心感のある生活を送りたい。
防犯カメラをもっと充実させてほしい。
○暮らしにおける安全確保
悪質な訪問販売が多い。
一人暮らしの高齢者が安心して生活できるよう、もっと何かできないか。
○セーフティネットの充実
その場しのぎ的な対応が多い。
相談を受けた後、迅速・的確に対応してほしい。
○人と動物との調和のとれた共生社会の実現
飼い犬による糞害がひどい。飼い主のモラル向上が必要。
以前より良くなったが、まだ動物虐待と思われる行為がある。周知が足りない。
動物が嫌いな者への配慮も必要ではないか。
野犬が多く生息しており危険を感じる。他県ではほとんど見ることはなかった。
犬猫の殺処分が多い。犬猫の保護や譲渡に力をいれる、又は保護団体に支援金を出すなどして、殺処分の多い香川のイメージを払しょくしてほしい。

【9. 定住人口の拡大】(38件中意見を要約・抜粋)

○移住の促進
移住者の受入れ体制ができておらず、空き家対策もできていない。行政と地元のコミュニティの協力ができていない。
気候が温暖で、地震も少なく暮らしやすい環境を強くアピールすべき。
○若者の定住促進
Uターン就職したいが、希望する仕事がない。
若者の働く場の確保が難しい。
県外で就職する人が多く、県内の若者が減っている。

【10. 商工・サービス業の振興】(32件中意見を要約・抜粋)

○成長産業の育成・集積
活性化している地域や分野が限られている。
地域の魅力を高める必要がある。
地域産業の活性化・町おこしが必要である。
成長産業の育成及び研究には予算をもっとつけてもらいたい。
商業やサービスの促進が必要である。
大企業がない。国際的にも知られるほどの企業に育たない。知られていない。
香川県すべての産業に元気がない。
○創業や新事業展開の促進
香川ならではの強みを持つ企業、香川といえばこの製品と言えるモノを創出・育成すべき。
○産業の成長を支える人材の育成
県外からも積極的に人材を確保すべき。
セミナーを広く実施するなど、個人事業主育成に力を入れてほしい。

観光地なのに接客態度が悪いので、リピーターが増えない。
○中小企業の経営支援
もっと中小企業や零細企業を支える助成金や政策を考えてほしい。
大阪の町工場みたいな元気な中小企業がない。
何の情報も入ってこない。どこに聞いたらいいかもわからない。
中小企業の過度な支援は不要の延命であり、淘汰されるべきである。
○企業立地の促進と産業基盤の強化
企業誘致活動が弱い。
工業団地の充実が必要である。
立地や交通の便が都会と比べて悪い。他県と共同した産業の導入が必要である。
未だに都会の大学に通った子の地方就職が少ない。
産・官・学、地元の資金面・技術・人的に活用すべきリソースのまとめができていない。

【11. 雇用対策の推進】(47件中意見を要約・抜粋)

○安定した雇用の創出と就労支援
若者の働く場所の確保と充実を図ってほしい。
住んでいる場所の近くにライフスタイルに合った働く場を確保してほしい。
就職氷河期世代等の無業者が安定した職に就けるよう応援してほしい。
人手が足りない。
行政の活動内容が分からず、PR不足である。
○働き方改革の推進
みなし残業を禁止してほしい。
働き方改革、デジタル化とはいずれも名ばかりで、今のところ全く恩恵を受けられていない。
やりたい仕事、働き方ができる風土ではない。
安定した雇用ができていない。働き方改革をもう少し推進してほしい。
若者の入社不足など、働き手の不足により残業時間が多く、休みたいときに休めない。
男性の育児は必要だが、共働きと専業主婦との場面では関わり方が異なると思うので、一律に考えるのはよくないと思う。

【12. 外国人材の受入れ支援・共生推進】(25件中意見を要約・抜粋)

○外国人材の受入れ支援
受入れ企業が少ない。理解不足。
○外国人との共生推進
外国人によっては、生活ルールやマナーの理解に差があるため、生活ルールやマナーの教育をしてほしい。
外国人の中には、喧嘩やトラブルを起こす人もいるため、治安が悪くなるのではないかと不安になる。
言葉の壁がある。

【13 交流人口の回復・拡大】(12件中意見を要約・抜粋)

○観光かがわの推進
観光かがわにつき、もっと発信すべき。
香川の良い面のアピール不足。テレビ等で注目を受けることが必要である。
あまり観光する場所がない。
購入意欲が出る商品がない。
コロナ禍では国内誘客施策とマイクロツーリズム(街歩き等)が必要である。

○地域の活性化につながる交流の推進
民間の力等による町おこしをすべき。
交流人口は魅力があれば自然に広がる。魅力的な人づくりが必要である。
人口が増えていない。ゼロサムゲームである。

【14. 農林水産業の振興】（48件中意見を要約・抜粋）

○農業の担い手の確保・育成
農業の担い手が不足しているため、担い手の確保・育成・支援をしてほしい
耕作放棄地が多く、自給率が高いとは思えない。農業法人を積極的に活用する必要があるのではないかな。
農業体験など、学校の授業で農業を取り上げてほしい。
定年後就農など幅広い年齢層に就農支援をしてほしい。
農業に関する正しい知識教えてくれる場が必要。
農業の担い手に、地区慣例など農業経営・技術以外の部分についても指導してほしい。
○農産物の安定供給
若手の担い手は少ない気がする。収益に波もあり、安定がないのも原因ではないかな？
○農産物の需要拡大
米生産は手間の割に価格が安い。麦を作れば補助金がでるが、単独農家では割に合わない。何か消費改善につながる対策はないかな？
○生産性を高める農業の基盤整備
農業の担い手不足や高齢化のため、耕作放棄や宅地化により農地が減少し、管理の難しい農地も増えているため、農地の維持・確保・活用対策が必要である
国土保全の意味からも農業経済に支援が必要。
県内での大規模な農業企業の育成が必要。
高収益化に向けたデジタル化支援をしてほしい。
耕作放棄地の原因ともなっている鳥獣害について対策が必要。
○森林整備と森林資源循環利用の推進
林業の担い手の育成が出来ていない。
林業の後継者不足。もっと若い人に魅力をアピールする必要がある。
○水産物の安定供給と需要拡大
魚がとれない。海が温暖化で変わっている。調査すべき。
○漁業の担い手の確保・育成と生産性を高める基盤整備
担い手が不足しているため、担い手の確保対策をしてほしい

【15 県産品の振興】（20件中意見を要約・抜粋）

○県産品の販路開拓
県外への出荷が多いため、県内での販売が少なく価格も高い。
特色ある県産品を生産・製造する必要がある。
うどん以外の新たな県産品の発掘が必要である。
県産品のアピール度を高め、持続可能な生産消費を図る必要がある。
○県産品の認知度上昇
県外のみならず、県内の人にも知られていない。
もっとうどん以外の物を積極的にアピールした方が良いと思う。
もっとうどんを広めるべき。
すごく良いと思われる県産品が少ない。

○アンテナショップの充実・強化
アンテナショップの場所、数を増加してほしい。
県内にも県民が楽しめる道の駅のようなショップがあってもいいかもしれない。

【16. デジタル化の推進】(55件中意見を要約・抜粋)

○デジタルトランスフォーメーションを支えるデジタル人材の育成
高齢者などには分かりにくく、ついていけない。
情報の格差(デジタルデバイド)が大きい。
高齢者などがとり残されないよう、デジタルについて学べる場所が必要。
デジタル人材が不足しているため育成が必要。
○生産性の向上のための産業のデジタル化の加速
デジタル化、進んでいる感じがしない。進めるべき。
オフィス至上主義の古い考え方が多すぎる。
人材の給与面の増額が必要。
能力ある人を育て、確保する
○行政のデジタル化の推進
国全体の課題ではあるが、県としても特色ある施策が必要。
全体的底上げが必要。県の主導的役割に期待する。
行政手続など、マイナンバーカードを有効活用してほしい。
自治体での届出(手続き、証明書、アンケートなど)が書面であることなど、デジタル化が進んでいない。
色々な課題や問題があるが、選挙の投票方法にWEBを加えてほしい。
行政のデジタル化は、人の心がなくなる冷たい対応になる。
成果が見えないため、なにが変わっているのかわからず、実感できない。

【17. 交通ネットワークの整備】(79件中意見を要約・抜粋)

○広域交通ネットワークの充実・強化
公共交通網が不足している。車がなければ通学先も限定される。
公共交通機関の利便性の向上をおろそかにして、マイカー増加につながる事業に注力している。
新幹線の整備が必要である。
四国に新幹線導入など過度の投資は不要である。
○地域公共交通ネットワークの整備
公共交通ネットワークが整備されていない。
高齢者の移動手段が不足しており、免許返納後の生活が不安である。
山間部や過疎地、離島の公共交通が不便であり、充実させてほしい。
鉄道駅やバス停まで遠く、また運行回数が少ない。
鉄道やバス、タクシーの運賃が高い。

【18. 教育の充実】(58件中意見を要約・抜粋)

○学校教育の充実
1クラスの人数が多すぎる。少人数にしてほしい。
地域によって選択できる進学先が限られる。
教育者の質・量が圧倒的に不足している。人を創る重要性の再認識と待遇向上が必要。
香川県内に住んでいる孫の宿題はプリント、県外にいる孫の宿題は全てタブレットでの提出であった。
学校の設立が必要。人数が多すぎて運動する運動場もないのは悲しい。
地域に入っていく教員が少ない。時間余裕を教員にも与えるべき。

県立高校の質が低下している。私学に負けている。
小学校区の区割りを見直してほしい。(マンモス校と小規模校との差)
子どもの学力が低下している。英語教育が遅れている。
地方と都市の教育格差が酷い。地元以外の土地で働かせる気はないのか。
教育にお金がかかりすぎている。
子どもたちの自己肯定感が低く、香川県へ誇りが持てていない。
学校の先生の実力不足である。大学卒業→「先生」ではなく、広く社会人経験者から。
施策に対する具体的な効果を感じられない。
全体的な学力向上、進学率の増加が必要。
学校統合により子どもの通学が不便になっている。
学校は知識ではなく、生きる力を学ぶ場であってほしい。
教科担任制のニュースを聞くが、実際は出来ていない。県政がもっと介入して先生の負担を減らす取り組みをしてもらいたい。
勉強もそうであるが、マナー・モラル・政治・歴史の価値観の相違。国や地方の負債と税金、道徳、犯罪予防、個人情報、お金の仕組み(生活とお金、運用や金利、リスク管理)、健康管理(生活習慣病)、権利と義務、連帯保証人の意味等、社会にでて必要なことが学べていない。
学校教育が昔から変わっていない。子どもが自由に発言できる環境がない。
教育する側の立場の方が弱くなっている。
学校に行っていない人がいる。ソーシャルワーカーが必要。
学校へ行けない場合、家でも学習できる体制をつくってほしい。
学校・家庭・地域だけでは、学校の授業についていけない。塾が必要な現状。
○家庭や地域の教育力の向上
地域でのかわりがない。
家庭・地域次第となっている。

【19. 男女共同参画社会の実現】(27件中意見を要約・抜粋)

○男女共同参画社会の実現に向けた基盤づくりの推進
男女共同参画の意識と現実に乖離がある。
経営者、議員が少ない。交流会等の開催が必要ではないか。
まだまだ男女のものの考え方、運営等に偏見を感じるところがあるように思う。
女性が活躍できる環境が増えるといいが、男女関係無く、能力のある者が活躍できることが適切。
各市町の首長などまだまだ男性優位と感じる。
日本は男社会である。
男尊女卑の考えがまだあるように感じる。
職場の女性地位の確保、性別による職業の違いを解消する必要がある。
子供の頃から学校でしっかり教育すべき。
○あらゆる分野における女性の活躍の推進
女性の議員や管理職が少ない。女性のリーダーに対する風土が育っていないと思う。
企業によってはまだまだ男性優位。女性が安心して働き続けられる仕組みが必要。
女性管理職を増やすべきです。香川県は遅れていると感じる。
少子化が進む原因になっていると思う。
女性が活躍していると感じていない。
もっと女性が目立ってもよいと思う。
女性の活躍というが、国際社会と違うからというだけで、推し進める必要はない。
○安全・安心に暮らせる社会の実現
子育てをしながらでも、安心して働ける社会になってほしい。
安全に安心して暮らせる社会とはまだ言えない。

【20. 青少年の育成と県民の社会参画の推進】(8件中意見を要約・抜粋)

○青少年の健全育成
青少年の育成にどのような施策が取られているのか、見えてこない。
○NPO・ボランティア活動の促進
ボランティアの広報(予定・内容等)をしてほしい。
一部にしか情報が伝わっていない。普段の生活の中で気軽に参加できる活動がもっとあれば、子どもも一緒に楽しめ、良いのではないか。
○生涯学習の促進
一部にしか情報が伝わっていない。普段の生活の中で気軽に参加できる活動がもっとあれば、子どもも一緒に楽しめ、良いのではないか。

【21. 魅力ある大学づくり】(25件中意見を要約・抜粋)

○県内大学の充実強化
他県へ若者が流出している。
自分が高校生の時、県内大学の魅力的なところが伝わってこなかった。もう少し魅力をアピールするために出前授業などを充実させてもよいのではないか。
各大学の特色を詳しく知りたい。
○県内大学等との連携強化
大学と民間の共同研究や大学と高校等の連携をもっと行うべき。

【22. 環境の保全】(28件中意見を要約・抜粋)

○環境を守り育てる地域づくりの推進
これからの時代は環境の保全が一番大切なので、自分も含めて環境にやさしい生活をしていきたい。
毎年ボランティア活動で海岸の清掃活動をしているが、特にペットボトルが多い。
十分な広報ができていない。
田舎には何もなし、人もいないので、自治体が頑張るとしても限界がある。
○脱炭素社会の実現に向けて地域とともに取り組む地球環境の保全
脱炭素社会のキャンペーンは特定の企業、産業のためであり、一方的に国民を脱炭素社会に向かわせているように思う。
脱炭素社会の実現等、聞こえの良い言葉が先行している。太陽光、風力等、自然に依存する電力を増やしてどうするのか。国のエネルギー政策は完全に倫理破綻している。
水素社会、水素都市を掲げることが必要。
現実的に考えた場合、原発は必要。安全対策を何重にも施した上で運用してほしい。
○持続可能な循環型社会の形成
なぜ1990年代に紙や木からプラスチックへ転換したのか疑問である。
スーパーで働いたことがあるが、まだ食べられる食品の廃棄(フードロス)の量がすごかった。何らかの形で循環利用できる仕組みづくりを進めてほしい。
ファストフード店よりも喫茶店のような店を増やすことで、使い捨て容器を減らすべきと考える。
香川県が全国のリーダーとして持続可能な循環型社会形成の行動をしていない。
修理や修繕ができるようにすれば、使い捨てを止めることができるが、修繕してほしいとしても、そもそも対応できるサービス窓口がなく、金額的にも買い替えた方が安いので、実際にはかなり難しい気がする。
○自然とともに生きる地域づくりの推進
雑草防止のためか、自宅の敷地をコンクリートやアスファルトで固めている人がいるのに驚いた。
自然を守ると言いながら、山を拓いてソーラーパネルが設置されている。自然が破壊されている。
どんどん農地が住宅地になっている。規制が必要ではないだろうか。
特定外来種が増えていて自然が変わってきている。
自然の大切さを守ってほしい。

○生活環境の保全

合併浄化槽でない家もあり、水路が汚れている。自治会全戸での水路掃除をしてはどうか。
 ごみが道路や水路に不法投棄されているのが目立つため、厳罰化をする必要があるのではないか。

【23. みどり豊かな暮らしの創造】(13件中意見を要約・抜粋)

○暮らしを支えるみどりの充実

耕作放棄地は増えているように見える。
 公園設備の充実が必要。
 空き家や放棄されている田・畑・山に雑草や雑木が生え野山化してきている。

○県民総参加のみどりづくり

ふるさとの里山を見て、守る活動をもっと実施すべきである。
 地域のリーダーが不足している。
 花を植えるだけでなく、空き農地の活用、支援も必要。
 街路樹・植え込みの放置が多い。県道のグリーンベルトは県の管轄ではないか？
 みどり豊かな公園が大小いくつか近場にほしい。
 木を植え、災害になったときの助けの備えをしたい。

【24. 活力ある地域づくり】(29件中意見を要約・抜粋)

○都市・集落機能の向上

商店街が寂しい。百貨店が1つだけ。
 都市計画等、長い目で見ないで、目先のことだけにこだわっている。
 地域の高齢化が進み、若者は県外へ進学すると帰って戻って来ない。都会の様に魅力ある若者の気を引くような町づくりをしてほしい。

○活力あふれる農山漁村の振興

失われつつある農山漁村の集落機能の維持・向上のために、地域振興・農村漁村における人材の育成などの活性化対策が必要。
 都市部と農山漁村のバランスを考えた地域振興が必要。
 地元の農水産物を幅広く購入できる場所が必要。

○地域を支える活動の促進

若年層の参加が少ないと感じる。教育機関の介入を大幅に増やすことが必要。
 コロナの影響もあると思うが、地域のつながりが希薄になっている。
 転居してきたことから特に、地域でどのような活動をしているのかわからない。

○国際化の推進

国際化の進展があまり感じられない。
 活力ある地域づくりについては、地元の人だけでなく、地元外の人や外国人を含めてよい方法を考えてほしい。

【25. 文化芸術による地域の活性化】(14件中意見を要約・抜粋)

○文化芸術の振興

他県のようなアーツカウンシル組織を導入すべきである。
 演劇などを、県外に行かなくても地元で観たり聞いたりすることができるとうよい。
 ミュージアムやホールなど、文化面の施設を充実してほしい。
 会場が限られ行きにくい。バランスが取れていない。手入れが続いていない。
 どうしても芸術という分野は後回しにされがちに思われる。
 路上ライブなど、もっと規制を緩和すべきである。
 文化芸術で生計を立てていける環境にない。
 具体策が見えない。

○文化芸術による地域づくりの推進

瀬戸内国際芸術祭の対象地域が本土内にあってもよいのではないか。各市町にスポットがあると面白いし、アーティストや学生の作品は広域に展示するとよいのではないか。
地域での取り組みに不満がある。

【26. スポーツの振興】(17件中意見を要約・抜粋)

○スポーツ参画人口の拡大

高齢者の健康は医療費の減額につながる。スポーツに参加する機会を増やし、健康寿命を延ばすことが必要。

元気である為の老後づくりには、若い時からの健康のためのスポーツ指導とともに、交流できる場所が必要。

人口減少により、参画人口に限界がある。

色々なスポーツで香川県は全国よりレベルが低い。

部活動がなくなるとスポーツ機会が減少する。地域の人材などを積極的に活用してほしい。

気軽にスポーツに触れ合える機会をもっと充実させてほしい。勝利至上主義からの脱却。

○競技力の向上

野球、マラソンは、四国3県に劣っている。

指導者の向上に力を入れてほしい。

プロスポーツが3～4つあるが、どれか一つに力を入れ、全国区にしてみたい。

岡山県と比べるとレベルが低すぎる。組織の見直しや現場主義の徹底を図ってほしい。

施設などが不十分。

競技場等もっと充実させてほしい。

各種大会の誘致、競技経験者の採用を活用することが必要。

(8)「節水」について

問19 あなたは、普段の生活で節水をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

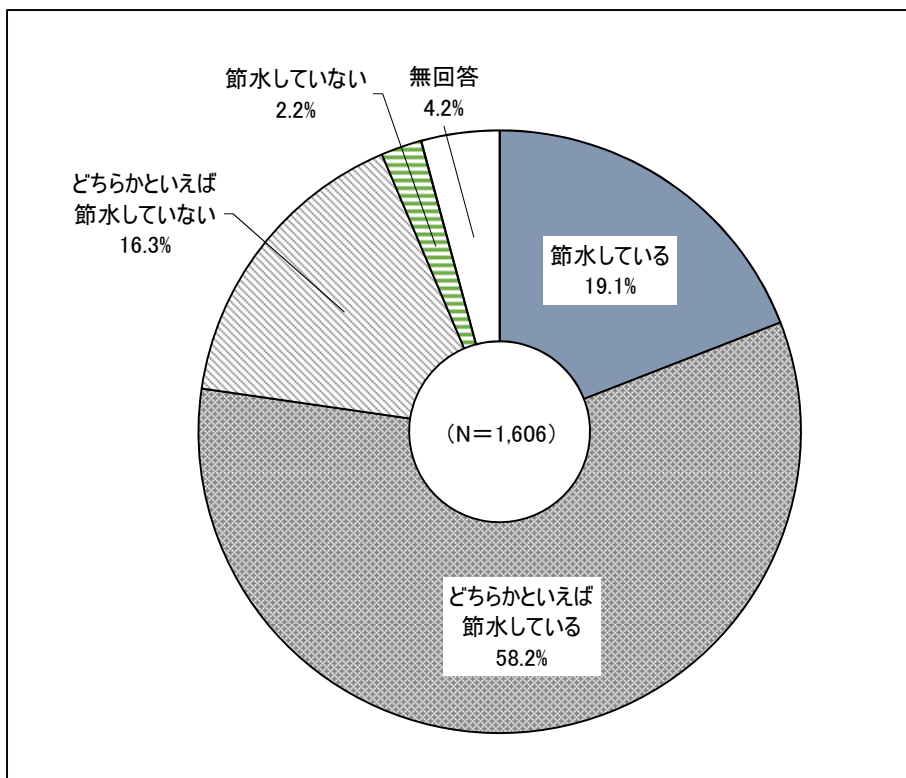
【回答者数=1,606】

1 節水している	19.1%(18.5%)
2 どちらかといえば節水している	58.2%(57.6%)
3 どちらかといえば節水していない	16.3%(17.3%)
4 節水していない	2.2%(2.6%)
(無回答)	4.2%(4.0%)

「節水」について、「どちらかといえば節水している」58.2%が最も高く、次いで「節水している」19.1%、「どちらかといえば節水していない」16.3%、「節水していない」2.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば節水している」57.6%が最も高く、次いで「節水している」18.5%、「どちらかといえば節水していない」17.3%、「節水していない」2.6%となっている。

図表 7-(1)-1 「節水」について



「節水」について、性別にみると、男女とも「どちらかといえば節水している」が最も高く、『男性』56.6%、『女性』59.8%で、これに男女とも「節水している」が『男性』20.1%、『女性』19.1%と続いている。

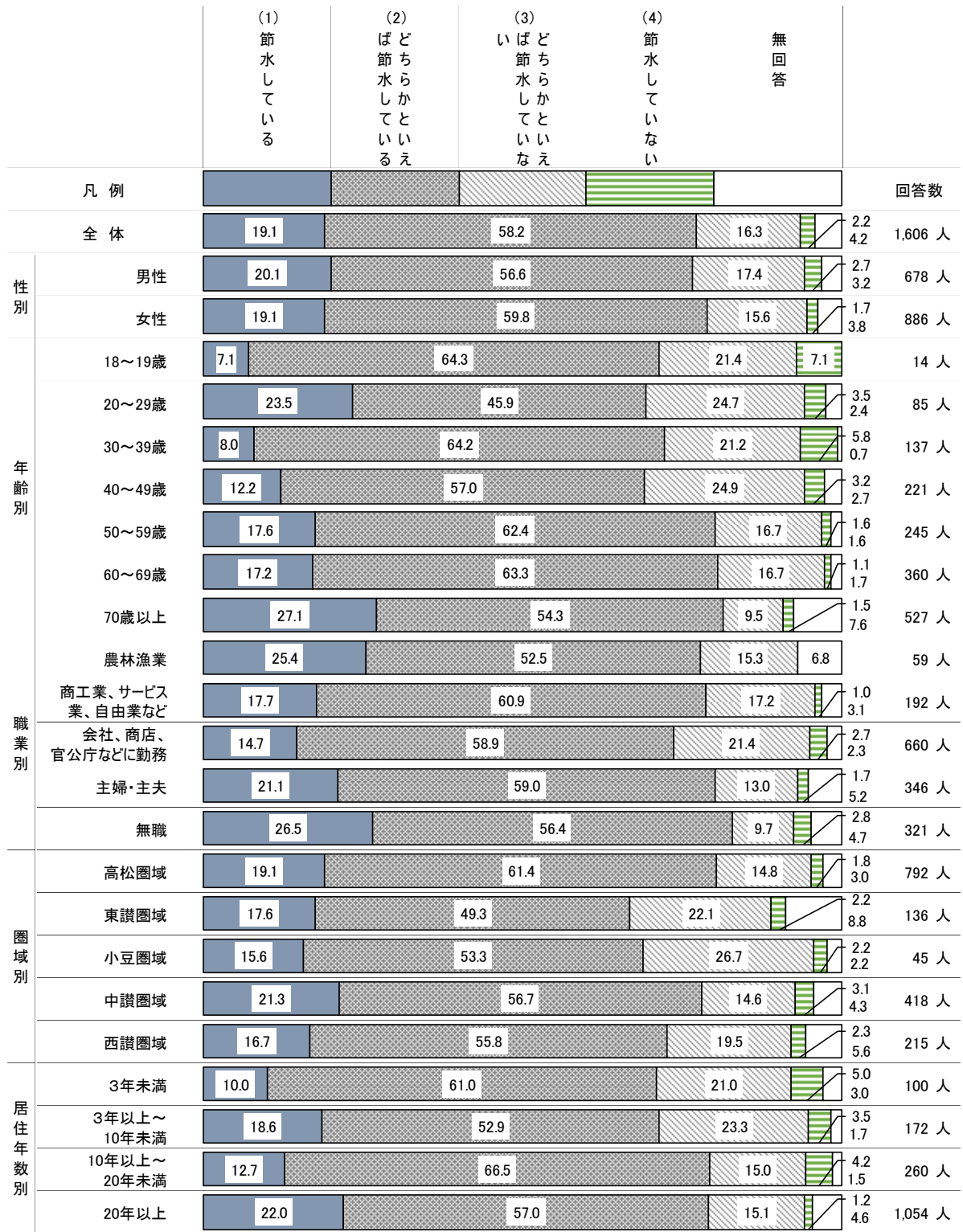
年齢別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が4～6割台と最も高く、『18～19歳』では64.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が5～6割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では60.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が4～6割台と最も高く、『高松圏域』では61.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が5～6割台と最も高く、『10年以上～20年未満』では66.5%と最も高くなっている。

図表 7-(1)-2 【「節水」について】



グラフ単位：(%)

(9)「男女共同参画」について

問20 あなたは、社会全体における男女の地位について、平等になっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

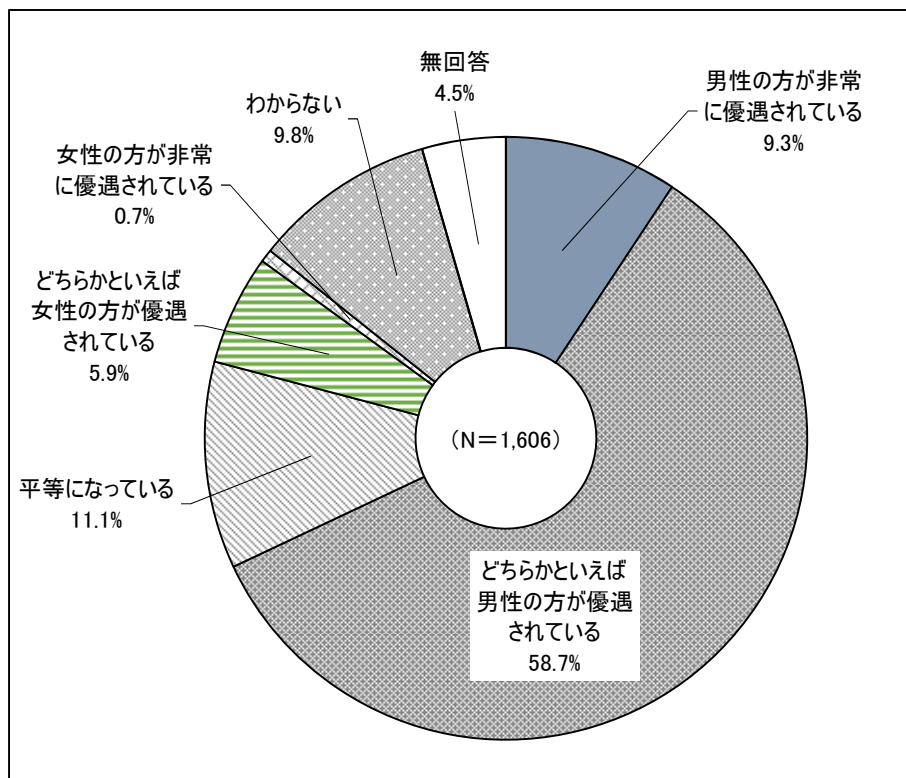
【回答者数=1,606】

1 男性の方が非常に優遇されている	9.3%(10.0%)
2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	58.7%(57.2%)
3 平等になっている	11.1%(10.9%)
4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.9%(6.2%)
5 女性の方が非常に優遇されている	0.7%(0.8%)
6 わからない	9.8%(10.7%)
(無回答)	4.5%(4.2%)

「男女共同参画」について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」58.7%が最も高く、次いで「平等になっている」11.1%、「わからない」9.8%、「男性の方が非常に優遇されている」9.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」57.2%が最も高く、次いで「平等になっている」10.9%、「わからない」10.7%、「男性の方が非常に優遇されている」10.0%などとなっている。

図表 7-(2)-1 「男女共同参画」について



「男女共同参画」について、性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性』54.6%、『女性』62.6%で、これに『男性』は「平等になっている」14.3%、『女性』は「男性の方が非常に優遇されている」10.5%が続いている。

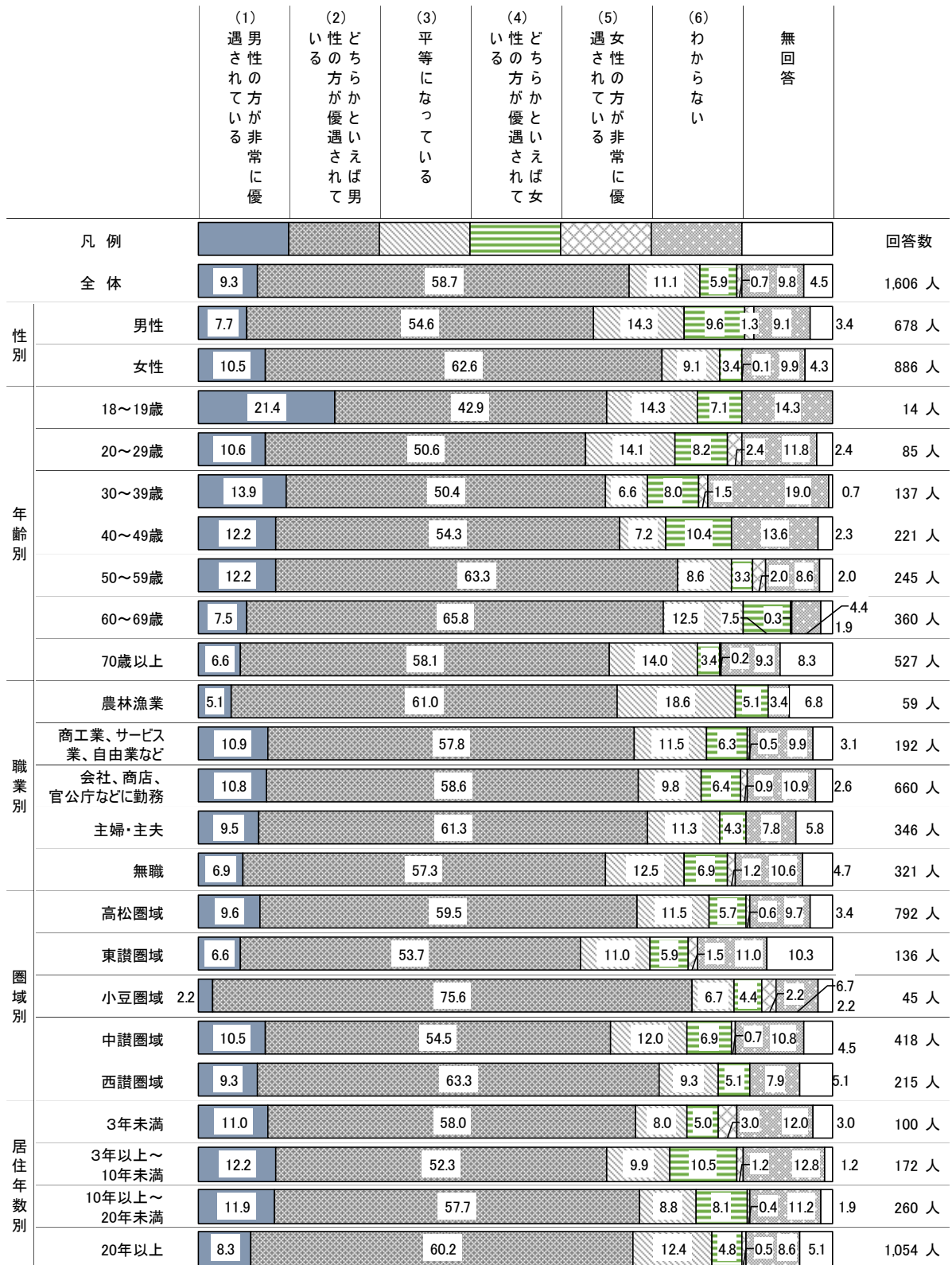
年齢別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4～6割台と最も高く、『60～69歳』では65.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』では61.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5～7割台と最も高く、『小豆圏域』では75.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5～6割台と最も高く、『20年以上』では60.2%と最も高くなっている。

図表 7-(2)-2 【「男女共同参画」について】



グラフ単位：(%)

(10)「配偶者等からの暴力」について

【事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠を共にしている交際相手などを含む配偶者等からの暴力（身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力）を受けた経験のある方にお聞きします】

問21 あなたは、あなたの配偶者等から暴力を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,606】※回答数の多い順に並び替え

1 身近な人に相談した	7.9%(7.9%)
2 どこ(だれ)にも相談しなかった	4.9%(4.6%)
3 公的な相談機関等に相談した	1.7%(1.9%)
4 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0%(1.1%)
5 医療関係者に相談した	1.0%(1.0%)
6 学校関係者に相談した	0.4%(0.5%)
7 その他(具体的に: _____)	1.9%(1.8%)
(無回答)	83.8%(84.2%)

「配偶者等からの暴力」について、「身近な人に相談した」7.9%が最も高く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」4.9%、「公的な相談機関等に相談した」1.7%、「民間の専門家や専門機関に相談した」、「医療関係者に相談した」(ともに1.0%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「身近な人に相談した」7.9%が最も高く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」4.6%、「公的な相談機関等に相談した」1.9%、「民間の専門家や専門機関に相談した」1.1%などとなっている。

図表 7-(3)-1 「配偶者等からの暴力」について

		回答数
全体	100.0	1,606 人
(1) 身近な人に相談した	7.9	127 人
(2) どこ(だれ)にも相談しなかった	4.9	79 人
(3) 公的な相談機関等に相談した	1.7	28 人
(4) 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0	16 人
(5) 医療関係者に相談した	1.0	16 人
(6) 学校関係者に相談した	0.4	7 人
(7) その他	1.9	30 人
無回答	83.8	1,346 人

グラフ単位:(%)

「配偶者等からの暴力」について、性別にみると、男女とも「身近な人に相談した」が最も高く、『男性』5.2%、『女性』10.4%で、これに男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が『男性』5.0%、『女性』4.9%と続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』を除くすべての年齢で「身近な人に相談した」が最も高く、『40～49歳』では10.4%と最も高くなっている。『70歳以上』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が8.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「身近な人に相談した」が最も高く、『農林漁業』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」10.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「身近な人に相談した」が最も高く、『小豆圏域』では17.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「身近な人に相談した」が最も高く、『3年未満』では9.0%と最も高くなっている。

図表 7-(3)-2 【「配偶者等からの暴力」について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
		全体 (人)	身近な人に相談した (家族、友人、知人、職場の同僚など)	どこ(だれ)にも相談しなかった	公的な相談機関等に相談した(子ども女性相談センター、性暴力被害者支援センター、オリブかがわ、かがわ男女共同参画相談プラザ、警察、市・町役場、県福祉事務所など)	民間の専門家や専門機関に相談した(弁護士、カウンセラーなど)	医療関係者に相談した(医師、看護師など)	学校関係者に相談した(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)										
全体		1,606	7.9	4.9	1.7	1.0	1.0	0.4	1.9	83.8
性別	男性	678	5.2	5.0	2.4	0.7	1.2	0.7	1.2	87.2
	女性	886	10.4	4.9	1.4	1.1	0.8	0.2	2.3	81.2
年齢別	18～19歳	14	7.1	-	-	-	-	-	7.1	85.7
	20～29歳	85	8.2	3.5	2.4	2.4	2.4	2.4	1.2	85.9
	30～39歳	137	5.8	2.2	2.9	0.7	0.7	-	0.7	89.8
	40～49歳	221	10.4	1.4	2.7	1.4	0.5	0.5	1.4	86.0
	50～59歳	245	10.2	5.7	2.0	0.8	1.2	-	0.8	80.8
	60～69歳	360	8.1	3.6	0.6	0.6	0.8	0.6	2.8	84.2
	70歳以上	527	6.5	8.0	1.7	0.9	1.1	0.4	2.3	82.0
職業別	農林漁業	59	3.4	10.2	-	-	-	-	-	86.4
	商工業、サービス業、自由業など	192	5.7	3.6	3.1	1.6	1.0	1.0	3.6	85.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	660	8.6	3.6	1.7	0.8	0.9	0.2	0.9	85.5
	主婦・主夫	346	9.5	5.2	1.4	1.2	0.9	0.6	3.2	79.8
	無職	321	7.5	6.9	1.9	0.9	1.6	0.6	1.9	82.6
圏域別	高松圏域	792	6.9	4.5	2.4	1.0	1.1	0.5	2.0	84.7
	東讃圏域	136	9.6	6.6	2.9	2.9	1.5	1.5	0.7	80.9
	小豆圏域	45	17.8	4.4	2.2	-	-	-	2.2	73.3
	中讃圏域	418	9.3	5.0	0.7	0.5	0.7	-	2.2	82.5
	西讃圏域	215	5.6	5.1	0.5	0.9	0.9	0.5	1.4	87.0
居住年数別	3年未満	100	9.0	1.0	2.0	1.0	2.0	-	1.0	88.0
	3年以上～10年未満	172	6.4	3.5	1.7	-	0.6	-	2.3	86.6
	10年以上～20年未満	260	8.1	5.8	1.9	1.2	-	-	1.5	83.1
	20年以上	1,054	8.1	5.3	1.7	1.0	1.2	0.7	2.0	83.1

(11)「運動・スポーツ」について

問22 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

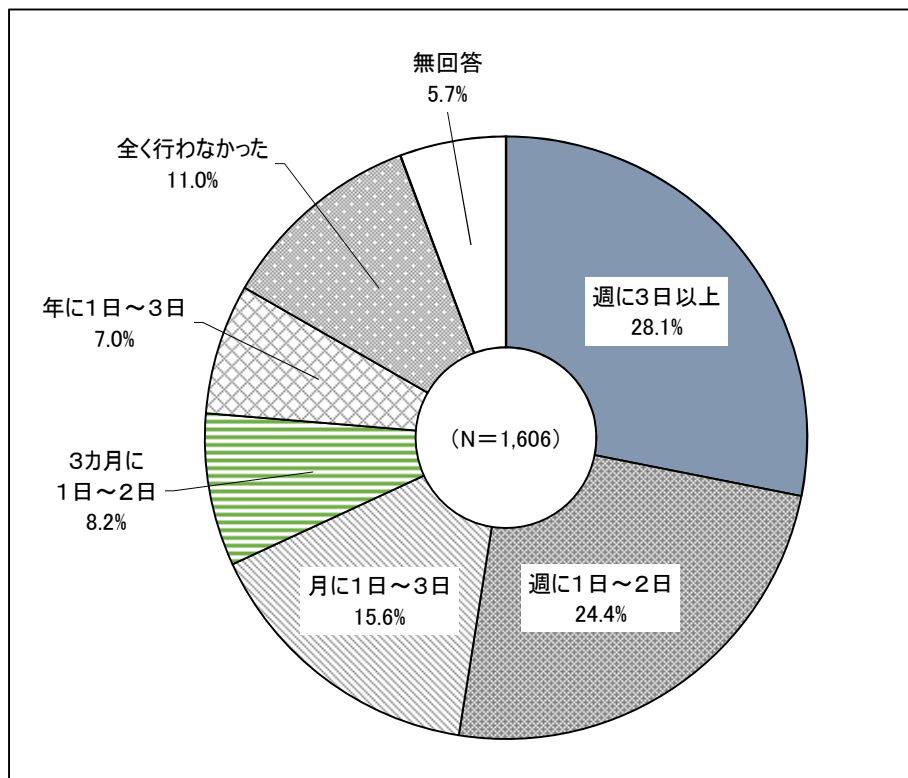
【回答者数=1,606】

1 週に3日以上	28.1%(27.5%)
2 週に1日～2日	24.4%(24.1%)
3 月に1日～3日	15.6%(16.3%)
4 3カ月に1日～2日	8.2%(8.6%)
5 年に1日～3日	7.0%(7.3%)
6 全く行わなかった	11.0%(10.6%)
(無回答)	5.7%(5.8%)

「運動・スポーツ」について、「週に3日以上」28.1%が最も高く、次いで「週に1日～2日」24.4%、「月に1日～3日」15.6%、「全く行わなかった」11.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「週に3日以上」27.5%が最も高く、次いで「週に1日～2日」24.1%、「月に1日～3日」16.3%、「全く行わなかった」10.6%となっている。

図表 7-(4)-1 「運動・スポーツ」について



「運動・スポーツ」について、性別にみると、男女とも「週に3日以上」が最も高く、『男性』30.1%、『女性』26.9%で、これに男女とも「週に1日～2日」が『男性』24.8%、『女性』24.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「週に3日以上」が最も高く、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「月に1日～3日」28.8%が最も高くなっており、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「週に3日以上」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「週に3日以上」が最も高く、『小豆圏域』では「月に1日～3日」24.4%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「週に1日～2日」が最も高く、『20年以上』では「週に3日以上」30.0%が最も高くなっている。

図表 7-(4)-2 【「運動・スポーツ」について】

		(1) 週に 3日 以上	(2) 週に 1日 と 2日	(3) 月に 1日 と 3日	(4) 3 カ 月 に 1 日 と 2日	(5) 年 に 1日 と 3日	(6) 全 く 行 わ な か っ た	無 回 答		
凡 例									回答数	
全 体		28.1		24.4	15.6	8.2	7.0	11.0	5.7	1,606 人
性別	男性	30.1		24.8	16.5	7.7	6.0	9.9	5.0	678 人
	女性	26.9		24.7	15.2	8.8	7.7	11.5	5.2	886 人
年齢別	18～19歳	50.0			14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	14 人
	20～29歳	22.4		23.5	22.4	8.2	7.1	7.1	9.4	85 人
	30～39歳	24.1		21.9	19.7	13.1	12.4	6.6	2.2	137 人
	40～49歳	20.4		25.3	21.7	9.5	6.8	12.2	4.1	221 人
	50～59歳	20.4		26.9	20.0	9.4	9.4	11.4	2.4	245 人
	60～69歳	31.1		26.1	15.3	8.1	5.6	11.7	2.2	360 人
	70歳以上	35.1		23.3	9.9	5.9	5.1	11.6	9.1	527 人
職業別	農林漁業	11.9	13.6	28.8	11.9	13.6	13.6	6.8		59 人
	商工業、サービス業、自由業など	26.0		20.3	13.0	14.6	8.9	13.0	4.2	192 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	23.5		25.0	20.6	9.7	8.0	9.2	3.9	660 人
	主婦・主夫	30.6		30.9	11.8	4.6	4.9	10.1	6.9	346 人
	無職	39.9		21.8	9.3	5.0	4.7	13.4	5.9	321 人
圏域別	高松圏域	27.7		26.3	15.8	8.3	6.7	10.2	5.1	792 人
	東讃圏域	31.6		22.8	11.8	7.4	4.4	11.8	10.3	136 人
	小豆圏域	22.2		17.8	24.4	6.7	6.7	17.8	4.4	45 人
	中讃圏域	28.7		24.9	15.8	6.2	7.2	11.7	5.5	418 人
	西讃圏域	27.9		19.1	15.3	12.6	9.3	10.2	5.6	215 人
居住年数別	3年未満	22.0		27.0	21.0	8.0	6.0	11.0	5.0	100 人
	3年以上～10年未満	25.6		27.3	19.8	10.5	5.2	9.3	2.3	172 人
	10年以上～20年未満	26.2		26.5	14.2	6.9	8.5	13.5	4.2	260 人
	20年以上	30.0		23.5	15.0	8.2	6.9	10.5	5.9	1,054 人

グラフ単位：(%)